

令和8年度 講義案内

仏教学部 宗学科 仏教学科

RISSHO UNIVERSITY
2026 Guidebook of Lecture

Faculty of Buddhist Studies
Department of Nichiren Buddhism
Department of Buddhist Studies

令和8（2026）年度
講義案内

仏教学部

目 次

1. 仏教学部専門科目履修案内	1
2. 科目履修上の基礎用語	2
3. 履修に関する全般的注意事項	4
4. 開設科目とその履修方法 【令和7(2025)～令和8(2026)年度入学】	9
5. 開設科目とその履修方法 【令和2(2020)～令和6(2024)年度入学】	21
6. 開設科目とその履修方法 【平成31(2019)年度入学】 宗 学 科	31
7. 開設科目とその履修方法 【平成29(2017)～平成31(2019)年度入学】 仏教学科	39
8. 僧階講座開設科目とその履修方法	49
9. 仏教学部開設一般教育科目について	53
10. キャリア開発関連科目について	57
11. クラス担任 他	63
12. 令和8年度オフィスアワー（学生生活相談）の実施について	65
《資料》仏教学部生の9月卒業のための卒業論文提出に関する要領	67
13. 仏教学部講義概要（シラバス）	69

1. 仏教学部専門科目履修案内

仏教学部には宗学科と仏教学科の2学科があり、専門科目のカリキュラム編成と履修方法は、それぞれの学科ならびに入学年度による大きな相違がある。原則として入学時に配付された『学生要覧』の規定が卒業まで適用される。ただし、変更が加えられる場合もあるので、(年度末～)毎年度初めに行われるガイダンス・掲示等に充分注意する必要がある。

本書『講義案内 仏教学部』では、令和7～8年度入学生・令和2～6年度入学生・平成31年度入学宗学科生・平成29～31年度入学仏教学科生の開設専門科目とその履修方法、ならびに僧階講座の履修方法について説明をする。学科・コース・入学年度により、開設科目・履修方法が異なるので、必ず下記の表に従って各自の該当する箇所の説明・指示を見ること。

令和7 (2025)～8 (2026) 年度入学

仏教学部	11～19頁
------	--------

令和2 (2020)～6 (2024) 年度入学

仏教学部	23～30頁
------	--------

平成31 (2019) 年度入学 宗学科

宗 学 科	法華仏教コース及び日本仏教コース	33～38頁
-------	------------------	--------

平成29 (2017)～31 (2019) 年度入学 仏教学科

仏教学科	思想・歴史コース及び文化・芸術コース	41～47頁
------	--------------------	--------

2. 科目履修上の基礎用語

仏教学部生は新年度早々に年間の受講計画を立て、所定の期日に「履修登録」を行わなければならない。登録方法については仏教学部事務室及び、所属する学科の指示に従って情報環境基盤センターの端末機や学外（自宅等）のパソコン等からwebを利用し、各自が入力することになる。そこでまず、本書で頻繁に使用する基礎用語を簡単に解説しておく。

1 単 位

授業を受講して認定される受講基準数のことである。大学設置基準では、1単位につき「45時間の学修を必要とする」と定めている。したがって、2単位の授業を修得するためには90時間の学修が必要である。授業として30時間（1コマ約2時間換算）を受講し、授業外学修として60時間（90時間－30時間）学修したうえで、試験やレポート等の成績が合格点に達した場合、2単位を修得できる（4単位の場合、それぞれ2倍の時間数が必要）。ただし、演習、実習、外国語、体育実技では、単位の算定方法が異なる場合があるので、本書の各自が該当する入学年度の「開設科目とその履修方法」で単位数を確認すること。

2 開設科目

仏教学部の各学科・コースに在籍する学生が受講できる科目のことである。他学部・他学科・他コースに設けられた科目は、受講できなかつたり、受講しても単位が認定されなかつたり、特別な手続きが必要となる。

3 履 修

授業を受講し単位を認定されるまでの一連のながれをいう。1年間の受講計画を立て、所定の期日までに「履修登録」をする必要がある。履修登録をしないと、たとえ受講しても単位は認定されないので、充分留意しなければならない。

4 卒業基準単位数

卒業要件として最少限修得しておかなければならない単位数のことである。卒業に必要な最少限度の単位数であるから、できるだけ余裕をもって単位修得に努めること。

5 履修登録単位数の上限

各学年において1年間および各学期で履修登録できる単位数には上限がある。単位数の上限は、入学年度・学年・学期によって異なるので、各自所定の表を確認する必要がある。

6 必修科目

卒業要件として必ず単位を修得しなければならない各分野の基本科目のことである。これを全て修得しないと卒業できない。

7 選択必修科目

必修科目に準ずるもので、各分野の基幹科目のことである。このうち所定の科目数・単位数以上を修得しないと卒業できない。

8 選択科目

必修科目・選択必修科目以外で、各分野の専門知識を広く修得するための科目のことである。年次指定等に従って選択履修することになる。必修科目・選択必修科目だけでは卒業基準単位に達しないので、不足分をこれで補うことになる。

9 関連領域科目

専門分野と関連する領域の知識を広く修得するための科目のことである。なお、このカテゴリーは、入学した学科・年度により設けられていない場合がある。

10 自由科目

修得単位数が卒業基準単位には算入されないが、単位自体は認定される科目のことである。各種の資格取得、もしくは個々の学的関心に従って履修できる科目をいう。

11 セメスター制度

多様な専門知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。

12 資格講座

仏教学部生は在学中に各種の資格を取得するための科目を受講することができる。ただし、卒業基準単位数には含まれない。

3. 履修に関する全般的注意事項

1 必修科目・選択科目の区分とその履修年次の指定

仏教学部では専門的知識の修得と同時に、学生の自らの研究能力の開発育成をめざしている。専門科目のうち、必修科目・選択必修科目は、各学科及びコースに在籍する学生がそれぞれの専門分野を研究するうえで、不可欠の科目とみなされるものである。選択科目はできるだけ学生の自由な選択ができるよう配慮してある。また履修年次の指定に従って各科目を履修する必要がある。なお、科目名・学年の指定などが入学年度によって変更されることもあるが、原則として各自の入学年度の規定が適用されるので、入学時に配付された『学生要覧』に十分に留意し、履修計画を検討することが必要である。

2 科目履修上の規定

- (1) 科目を履修するには、年度初めの所定の期間中に、各自が情報環境基盤センターの端末パソコンもしくは、学外（自宅等）のパソコン等から web を利用して「履修登録」の入力をしなければならない。未登録の場合は、受講し試験を受けても単位修得が認められない。さらに授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を担当教員へ提出すること。
- (2) セメスター制における第2期（後期）開講の科目についても、履修登録は原則として年度初めの所定の期間に行うこと。ただし、第2期開講科目については、年間履修登録単位数の上限以内で、第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、注意すること。
- (3) 一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り履修中止を申し出ることができる。ただし、以下の点について十分に注意のうえ、手続きを行わなければならない。
 - ①卒業年次では、履修を中止しても卒業要件を満たしているか、また2年次では、履修を中止しても3年次への進級要件を満たしているか、各自が必ず確認をすること。
 - ②履修中止を申請した科目はGPA算出の対象から除外される（履修中止の手続きをしないまま未受講・未受験となると、その科目は0点として換算され、GPAを大幅に下げることになる）。ただし、履修中止をしても登録可能な単位数を回復させることはできない（したがって、他の科目に変更することはできない）。
 - ③通年科目の履修中止は、**第1期履修中止申請期間にのみ受け付ける**。
 - ④科目により履修中止申請ができない場合がある。
 - ⑤履修中止をした科目を、次年度以降に再履修することは可能である。
 - ⑥履修中止を希望する者は、ポータルサイトより申請すること。ただし、履修中止申請期間以外では一切受け付けない。

3 単位の修得

- (1) 所定の期日に履修登録をした科目について、試験その他の指定された方法により一定の評価基準以上に達した場合にのみ、所定の単位が認定される。
- (2) 試験は原則として筆記試験が行われるが、レポート等その他の方法をもって代えられることもある。
- (3) 試験は所定の試験日時及び所定の場所で受けなければならない。ただし、止むを得ない事情によって受験できなかった場合に限り、追試験が許可されることもある。追試験を受けようとする場合は、定期試験を受験できなかったことを証明する書類（医師の診断書など）を添えて、大学の指定する日時までに学事課に願出しなければならない。

- (4) レポート等は、学部または、担当教員の指示する期日までに指定された場所に直接提出しなければならない。郵送及び期日に遅れて提出されたものは、原則として受理されない。
- (5) 他の大学を卒業、または中途退学し、新たに本学部の1年次に入学した学生については、他の大学での既修得単位を認定する制度があるので、入学後すみやかに仏教学部事務室へ申し出ること。

4 卒業論文

- (1) 卒業論文題目は、卒業年度（宗学科は卒業前年度）の所定の期日までに指導教員の承認を得て、仏教学部長宛に提出することになっている。それに先立って、当該学科及びコースにおいて、卒業論文指導会が開かれる予定であるが、この指導会以前に指導を希望する教員（1名）の選択（宗学科のみ）、研究分野の選択、研究方針並びに研究内容を十分に検討しておくべきである。

なお、留年者で、当該年度に論文を提出しようとする場合も、その年度の初めに改めて論文題目を提出しなければならない。当該年度に卒業論文題目届が提出されていない論文は受理されないので、特に注意を要する。

なお、「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

仏教学科の文化遺産・芸術コース生は、選考を経て、卒業論文に換えて卒業制作を選択することができる。

- (2) 提出された論文題目の変更は原則として認められない。止むを得ず変更を希望する場合は、所定の期日までに指導教員の承認を得て、論文題目変更届（指導教員の捺印が必要）を仏教学部長宛に提出しなければならない。
- (3) 卒業論文は、原則として手書きの場合は400字詰原稿用紙（宗学科はB4、仏教学科はA4）を使用し、50枚以上の枚数がなければならない。パソコンを使用する場合は20000字以上の文字数を必要とする。指定の枚数・文字数に達しないものは受理されない。卒業論文の書式等の体裁については各学科の指示に従うこと。
- (4) 卒業論文の表紙は厚紙を使用し、論題・所属する学部学科コース名・学籍番号・氏名・指導教員名を必ず明記すること。別冊を添付する場合も同様の表紙をつけること（次頁の図参照）。
- (5) 表紙と同一内容を原稿用紙に記入（パソコンの場合は白紙に印刷）し、内表紙として挿入すること。
- (6) 卒業論文は指定された期間中〔2026年度は12月1日（火）～12月23日（水）（土日祝日除く）（最終日は午後5時まで）の予定〕に仏教学部事務室窓口に直接提出する。日時に遅れた場合は受理されない。なお、論文提出に際して、不測の事故が起きて、提出が困難となった場合には、すみやかに指導教員に申し出て相談すること。
- (7) 提出された論文について、口頭試問が行われる。止むを得ず欠席する場合は、指導教員の指示を受け、事前に試問を受けることもできる。

〔宗学科〕

タテ書き

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生	論文題目	仏教学部宗学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇
--------------------------	------	-------------------------------

ヨコ書き

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生	論文題目	仏教学部宗学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇
--------------------------	------	-------------------------------

〔仏教学科〕

タテ書き

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生	論文題目	仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇
--------------------------	------	--------------------------------

ヨコ書き (1)

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生	論文題目	仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇
--------------------------	------	--------------------------------

5 卒業論文（卒業制作含む）の成績判定基準

1、宗学科

- (1) 宗学についての基本的理解と識見を修得しているか。
- (2) 先行研究の確認と参照は充分になされているか。
- (3) 資料の十分な検討がなされているか。引用は妥当であるか。
- (4) 十分な考察がなされているか。
- (5) 矛盾なく着実に論理が展開されているか。
- (6) 文章に誤字・脱字などはないか。
- (7) 文章表現は妥当であるか。
- (8) 記号の使い方は妥当であるか。
- (9) 注記の記載は妥当であるか。
- (10) 自律的に取り組んだか。
- (11) 口頭試問の成績。

ヨコ書き (2)

令和〇〇年度卒業論文 指導教員〇〇〇〇先生	論文題目	仏教学部仏教学科〇〇〇〇コース 学籍番号 氏名〇〇〇〇
--------------------------	------	--------------------------------

2、仏教学科

- (1) 仏教学およびその関連領域における基礎的理解をふまえ、専門分野に応じた適切な研究テーマの設定と調査・考察・表現の方法が修得されているか。
- (2) 各自の問題意識に対する調査と考察にあたって、主体的積極的な取り組みがなされ、論理的思考が行われているか。
- (3) 卒業制作においては、仏教美術作品の創作もしくは模作を通じて仏教精神を体感的に理解し、それが造形表現および論文に示されているか。
- (4) 矛盾なく着実に論理的記述が展開されているか。
- (5) 主題についての主要な研究書・研究論文が参照されているか。
- (6) 他者の文章や見解を引用・活用する際に典拠を明示しているか。
- (7) 文章表現や記号の使い方は妥当であるか。
- (8) 注記の記載は妥当であるか。
- (9) 口頭試問の成績。

6 卒業論文（卒業制作含む）の作成・提出・審査の流れ

- 1、学科・コースにおいて指導会が開催される。
- 2、卒業論文の分野・テーマを指定の期日までに提出する。
- 3、テーマに添って指導教員が決定される。
- 4、宗学科生は4年次の指定された期日までに中間報告書を提出する。
- 5、仏教学科生は4年次のゼミナールにおいて中間発表を行う。
- 6、卒業論文は指定された期間中に提出する。
- 7、卒業論文提出者は指定された期日に口頭試問を受ける。
- 8、指導教員による成績評価。
- 9、仏教学科では、全教員で審査し評価を確定する。

※上記の「5 卒業論文（卒業制作含む）の成績判定基準」「6 卒業論文（卒業制作含む）の作成・提出・審査の流れ」については、年度によって変更されることがあるので、毎年度配付される『講義案内 仏教学部』（シラバス）の該当箇所を必ず参照し、確認すること。

7 ポータルサイト・掲示による通知

仏教学部から学生への通知する事項が生じた場合、履修上の事項に限らず、すべてポータルサイトに通知する。ポータルサイトを確認するよう留意すること。

4. 開設科目とその履修方法

【令和7（2025）～令和8（2026）年度入学】

宗 学 科	法華仏教コース 日本宗教・文化コース
仏教学科	歴史・思想コース 文化遺産・芸術コース

4 仏教学部〔令和7(2025)～令和8(2026)年度入学〕

1 卒業基準単位

仏教学部生〔令和7(2025)～令和8(2026)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次の通りである。

仏教学部の卒業基準単位

教養的 科目	一般教育科目	20単位以上	
	発展教養科目		
	外国語科目	4単位以上	
専 門 科 目	必 修 科 目	法華仏教コース	54単位
		日本宗教・文化コース	46単位
		歴史・思想コース	46単位
		文化遺産・芸術コース	46単位
		必修・選択必修・選択をあわせて84単位以上	
	選択必修科目	20単位以上	
	選 択 科 目		
合 計		124単位以上	

〈教養的科目〉は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上を修得。〈専門科目〉は、必修科目（卒業論文8単位を含む）、選択必修科目、選択科目あわせて84単位以上を修得。さらに〈教養的科目〉と〈専門科目〉のいずれかの科目を加えて、合計124単位以上とすることが必要である。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の必修科目のうち、「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

2 受講時間帯

仏教学部生の受講時間帯は、品川キャンパス1～6時限（9時～20時50分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。なお、年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限以内で、所定の第2期追加履修登録期間中に第2期開講科目を追加履修登録することも可能となっているが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出る

ことができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は、「文献読解基礎演習〔英語〕1」・「文献読解基礎演習〔英語〕2」・「文献読解基礎演習〔古文漢文〕1」・「文献読解基礎演習〔古文漢文〕2」の4科目から2科目以上を含め、**10科目20単位以上**を修得しなければならない。

5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

また、令和5（2023）年度以降入学生について、1年次終了時においてGPA3.5以上の者は2年次の履修登録年間単位数の上限を46単位とする。

学 年	年間履修登録単位数の上限	第1期履修登録単位数の上限	第2期履修登録単位数の上限	備 考
1年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2年	42	24	24	
3年	42	24	24	
4年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学演習基礎1、仏教学演習基礎2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

7 在籍する学科・コース

在籍する学科・コースは3年次に進級する時に最終確定する。本学を卒業するためには、総単位数を満たすだけでなく、それぞれ学科・コースごとに設定されている必修・選択必修の科目指定や必要単位数等の卒業要件を満たす必要がある。

学科・コースの3年次からの所属については、次の①～③を基準にして総合的に判定される。

① 2年次の所定の時期における各自の志望コース申請（第1志望～第3志望）

② 1・2年次における学業の成績（累積GPA）

③ 教員免許状の取得を志す者は、希望する免許の種類（「中学社会」「中学宗教」「高校公民」「高校地歴」「高校宗教」）の別と、それに向けた資格科目の2年次までの修得状況および成績

入学時に考えている志望コースや卒業後の進路が、大学で学びを重ねるうちに自分の中で変化していくことも十分にあり得ることであるから、1・2年次の間は各コースの重点科目も幅広く学び、自己の可能性を広げていくように、学びの計画を立てていくことが大切である。そして、自らの進路を切り拓

くことができるものは、日頃からの積み重ねだけであることを深く自覚し、目標に向かって邁進してほしい。

8 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学部生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を仏教学部の専門科目（選択科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画を立てること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

[令和7(2025)～令和8(2026)年度入学生] 必修科目◆ 選択必修科目□ 選択科目は空欄 ーは履修不可 自由は自由科目

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備考
				法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
統括	卒業論文	8	4	◆	◆	◆	◆			年間履修制限外科目
基幹系	ゼミナール1	2	3	◆	◆	◆	◆			
	ゼミナール2	2	3	◆	◆	◆	◆			
	ゼミナール3	2	4	◆	◆	◆	◆			
	ゼミナール4	2	4	◆	◆	◆	◆			
基礎系	仏教学演習基礎1	2	1	◆	◆	◆	◆			4科目のうち2科目以上 選択必修 同言語連続履修を推奨
	仏教学演習基礎2	2	1	◆	◆	◆	◆			
	日本語表現基礎	2	1							
	古文漢文表現基礎	2	1							
	文献読解基礎演習[古文漢文]1	2	2	□	□	□	□			
	文献読解基礎演習[英語]1	2	2	□	□	□	□			
	文献読解基礎演習[古文漢文]2	2	2	□	□	□	□			
	文献読解基礎演習[英語]2	2	2	□	□	□	□			
	法華仏教研究入門	2	1	◆	◆	◆	◆			
	日本宗教・文化研究入門	2	1	◆	◆	◆	◆			
	歴史・思想研究入門	2	1	◆	◆	◆	◆			
	文化遺産・芸術研究入門	2	1	◆	◆	◆	◆			
ゼミナール基礎	2	2	◆	◆	◆	◆				
仏教研究基礎1	2	2	◆	◆	◆	◆				
仏教研究基礎2	2	2	◆	◆	◆	◆				
人文科学とコンピュータ	2	2・3					休			
総合系	海外仏教文化研修1	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	海外仏教文化研修2	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	海外仏教文化研修3	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	海外仏教文化研修4	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目*
	国内仏教文化研修1	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	国内仏教文化研修2	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	国内仏教文化研修3	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目
	国内仏教文化研修4	2	1・2・3・4					休		年間履修制限外科目*
総合演習	2	4								
言語系	サンスクリット語初級Ⅰ	2	2			□				
	サンスクリット語初級Ⅱ	2	2			□				
	世界の言語と文化[中国語]	2	1・2					休		
	世界の言語と文化[ドイツ語]	2	1・2					休		
	世界の言語と文化[フランス語]	2	1・2					休		
	世界の言語と文化[ハングル語]	2	1・2					休		
	サンスクリット語中級	2	3・4			□				
	仏教聖典語1	2	3・4	-	-					
仏教聖典語2	2	3・4	-	-						
思想系	仏教学概論1	2	2	◆	◆	◆	◆			
	仏教学概論2	2	2	◆	◆	◆	◆			
	インド仏教思想概論	2	2			◆	□			
	中国仏教思想概論	2	2			◆	□			
	法華思想史1	2	3・4			□		休		
	法華思想史2	2	3・4			□		休		
	仏教思想特講1	2	2・3			□				
	仏教思想特講2	2	2・3			□				
仏教思想特講3	2	3・4	-	-						
仏教思想特講4	2	3・4	-	-						

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備考
				法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
日本宗教系	禅学概論	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>			休		
	浄土学概論	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>			休		
	真言学概論	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>			休		
	神道学概論	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>			休		
	日本宗教概論	2	2	<input type="checkbox"/>	◆					
	日本宗教思想特講1	2	2・3		<input type="checkbox"/>					
日本宗教思想特講2	2	2・3		<input type="checkbox"/>						
歴史系	インド仏教史概論	2	2			◆	<input type="checkbox"/>			
	仏教史特講1	2	2・3			<input type="checkbox"/>				
	仏教史特講2	2	2・3			<input type="checkbox"/>				
	仏教史特講3	2	3・4					休		
	仏教史特講4	2	3・4					休		
	中国仏教史概論	2	2			◆	<input type="checkbox"/>			
	日本仏教史概論	2	2	<input type="checkbox"/>	◆					メディア授業
	日本仏教史特講1	2	2・3		<input type="checkbox"/>					
	日本仏教史特講2	2	2・3		<input type="checkbox"/>					
	日本仏教文献演習	2	3・4	<input type="checkbox"/>		-	-			
	仏教書誌学研究	2	3・4	<input type="checkbox"/>		-	-			
	仏教古文書演習	2	3・4	<input type="checkbox"/>		-	-			
日本宗教史	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>						
文化系	文化遺産概論	2	2			<input type="checkbox"/>	◆			
	文化遺産特講1	2	2・3				<input type="checkbox"/>			
	文化遺産特講2	2	3・4				<input type="checkbox"/>		休	
	世界遺産研究1	2	2・3・4						休	
	世界遺産研究2	2	2・3・4						休	
	インド文化概論	2	2			<input type="checkbox"/>	◆			
	東南アジア文化概論	2	2			<input type="checkbox"/>	◆			
	中国文化概論	2	2			<input type="checkbox"/>	◆			
	日本文化概論	2	2		◆					
	仏教文化特講1	2	2・3						休	
	仏教文化特講2	2	2・3						休	
	仏教文化特講3	2	3・4	-	-				休	
	仏教文化特講4	2	3・4	-	-				休	
	仏教考古学研究1	2	2・3・4						休	
	仏教考古学研究2	2	2・3・4						休	
	日本文化特講1	2	3・4		<input type="checkbox"/>	-	-			
日本文化特講2	2	3・4		<input type="checkbox"/>	-	-				
伝統文化研究1	2	2・3・4								
伝統文化研究2	2	2・3・4						休		
芸術系	アジア美術史1	2	2・3				<input type="checkbox"/>			
	アジア美術史2	2	2・3				<input type="checkbox"/>			
	日本美術史1	2	2・3				<input type="checkbox"/>			
	日本美術史2	2	2・3				<input type="checkbox"/>			
	芸術研究1	2	2・3・4							
	芸術研究2	2	2・3・4							
	芸術実習基礎A～B	4	1				<input type="checkbox"/>			2時限連続授業
	芸術実習[仏像Ⅰ]A～B	4	2・3・4				<input type="checkbox"/>			2時限連続授業(芸術実習基礎を修得後の履修を推奨)
	芸術実習[仏画Ⅰ]	4	2・3・4				<input type="checkbox"/>			
	芸術実習[仏像Ⅱ]A～B	4	4	-	-					2時限連続授業(卒業制作指導)
芸術実習[仏画Ⅱ]	4	4	-	-						

系統	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	宗 学 科 : 区 分		仏 教 学 科 : 区 分		開 講 有 無 (休 講 は「休」表示)	講 義 概 要 参 照 方 法	備 考
				法 華 仏 教	日 本 宗 教 ・ 文 化	歴 史 ・ 思 想	文 化 遺 産 ・ 芸 術			
現 代 宗 教 系	宗 教 学	2	2・3		<input type="checkbox"/>					
	宗 教 史	2	2・3		<input type="checkbox"/>					
	現 代 宗 教 研 究	2	2	<input type="checkbox"/>	◆					メディア授業
	現 代 宗 教 特 講 1	2	2・3		<input type="checkbox"/>					
	現 代 宗 教 特 講 2	2	2・3		<input type="checkbox"/>				休 休	
	現 代 宗 教 特 講 3	2	3・4		<input type="checkbox"/>	-	-			
	現 代 宗 教 特 講 4	2	3・4		<input type="checkbox"/>	-	-			
	仏 教 カ ウ ン セ リ ン グ	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>						
仏 教 デ ス ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>						メディア授業	
宗 教 法 人 法	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>							
日 蓮 教 学 系	日 蓮 聖 人 伝 1	2	2	◆	<input type="checkbox"/>					
	日 蓮 聖 人 伝 2	2	2	◆	<input type="checkbox"/>					
	立 正 安 国 論 講 義 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>						
	立 正 安 国 論 講 義 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>						
	宗 学 概 論 1	2	2	◆	<input type="checkbox"/>					
	宗 学 概 論 2	2	2	◆	<input type="checkbox"/>					
	宗 史 概 論 1	2	2・3	◆	<input type="checkbox"/>					
	宗 史 概 論 2	2	2・3	◆	<input type="checkbox"/>					
	天 台 学 概 論 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>						メディア授業
	天 台 学 概 論 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>						メディア授業
	法 華 経 概 論 1	2	3	◆	<input type="checkbox"/>					
	法 華 経 概 論 2	2	3	◆	<input type="checkbox"/>					
	宗 学 史 概 論 1	2	3	<input type="checkbox"/>		自 由	自 由			
	宗 学 史 概 論 2	2	3	<input type="checkbox"/>		自 由	自 由			
開 目 抄 講 義 1	2	3	<input type="checkbox"/>		自 由	自 由				
開 目 抄 講 義 2	2	3	<input type="checkbox"/>		自 由	自 由				
観 心 本 尊 抄 講 義 1	2	4	<input type="checkbox"/>		自 由	自 由				
観 心 本 尊 抄 講 義 2	2	4	<input type="checkbox"/>		自 由	自 由				
他 学 部 開 講	哲 学 と は 何 か A ~ B	2	2							
	倫 理 学 と は 何 か A ~ B	2	2							

※「海外仏教文化研修4」「国内仏教文化研修4」は、事前・事後学習会を行います。ポータルサイト等で発表される開催日に注意すること。

学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。

区分	授 業 科 目	単 位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備考
				法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
相 互 履 修 専 門 科 目	Introduction to Cultures of the World 1(世界の文明1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 2(世界の文明2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 3(東アジア文化1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 4(東アジア文化2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 5(世界遺産1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 6(世界遺産2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 7(日本文化1)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 8(日本文化2)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 9(日本の歴史1)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 10(日本の歴史2)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 11(日本文化3)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 12(日本文化4)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 13(日本の歴史3)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 14(日本の歴史4)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
中 国 語 I	1	2・3・4						Web	メディア授業	
中 国 語 II	1	2・3・4						Web		
中 国 語 III	1	2・3・4						Web		
中 国 語 IV	1	2・3・4						Web		
ド イ ツ 語 I	1	2・3・4						Web		
ド イ ツ 語 II	1	2・3・4						Web		
ド イ ツ 語 III	1	2・3・4						Web		
ド イ ツ 語 IV	1	2・3・4						Web		
フ ラ ン ス 語 I	1	2・3・4						Web		
フ ラ ン ス 語 II	1	2・3・4						Web		
フ ラ ン ス 語 III	1	2・3・4						Web		
フ ラ ン ス 語 IV	1	2・3・4						Web		
ハ ン グ ル 語 I	1	2・3・4						Web		
ハ ン グ ル 語 II	1	2・3・4						Web		
ハ ン グ ル 語 III	1	2・3・4						Web		
ハ ン グ ル 語 IV	1	2・3・4						Web		
哲学の基本諸問題	2	2						Web	文学部開設	
倫理学の基本諸問題A～B	2	2						Web	文学部開設	
キリスト教思想1	2	3・4						Web	文学部開設	
キリスト教思想2	2	3・4						Web	文学部開設	
民 俗 学 1	2	3・4						Web	文学部開設	
民 俗 学 2	2	3・4						Web	文学部開設	

区分	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備考
				法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術			
相互履修自由科目	家 族 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*
	政 治 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	文学部開設*
	都 市 社 会 学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	文学部開設*
	憲 法	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	経済学部開設*
	民 法	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	経済学部開設*
	ミクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	経済学部開設*
	マクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由		Web	経済学部開設*

※自由科目は卒業単位数に含まれないので注意すること。

令和7(2025)年度以降仏教学部入学生

3年生進級時にコースによって区分が変わる科目一覧(1・2年で修得しても下記の通り変わるので注意)

科目名	1・2年次	法華仏教	日本宗教・文化	歴史・思想	文化遺産・芸術
サンسكريット語初級Ⅰ	選択	選択	選択	選択必修	選択
サンسكريット語初級Ⅱ	選択	選択	選択	選択必修	選択
インド仏教思想概論	選択	選択	選択	必修	選択必修
中国仏教思想概論	選択	選択	選択	必修	選択必修
仏教思想特講1	選択	選択	選択	選択必修	選択
仏教思想特講2	選択	選択	選択	選択必修	選択
禅学概論	選択	選択	選択必修	選択	選択
浄土学概論	選択	選択	選択必修	選択	選択
真言学概論	選択	選択	選択必修	選択	選択
神道学概論	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本宗教概論	選択	選択必修	必修	選択	選択
日本宗教思想特講1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本宗教思想特講2	選択	選択	選択必修	選択	選択
インド仏教史概論	選択	選択	選択	必修	選択必修
中国仏教史概論	選択	選択	選択	必修	選択必修
日本仏教史概論	選択	選択必修	必修	選択	選択
日本仏教史特講1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史特講2	選択	選択	選択必修	選択	選択
仏教史特講1	選択	選択	選択	選択必修	選択
仏教史特講2	選択	選択	選択	選択必修	選択
日本宗教史	選択	選択	選択必修	選択	選択
文化遺産概論	選択	選択	選択	選択必修	必修
文化遺産特講1	選択	選択	選択	選択	選択必修
インド文化概論	選択	選択	選択	選択必修	必修
東南アジア文化概論	選択	選択	選択	選択必修	必修
中国文化概論	選択	選択	選択	選択必修	必修
日本文化概論	選択	選択	必修	選択	選択
アジア美術史1	選択	選択	選択	選択	選択必修
アジア美術史2	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本美術史1	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本美術史2	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習基礎	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習[仏像Ⅰ]	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習[仏画Ⅰ]	選択	選択	選択	選択	選択必修
宗教学	選択	選択	選択必修	選択	選択
宗教史	選択	選択	選択必修	選択	選択
現代宗教研究	選択	選択必修	必修	選択	選択
現代宗教特講1	選択	選択	選択必修	選択	選択
現代宗教特講2	選択	選択	選択必修	選択	選択
仏教カウンセリング	選択	選択必修	選択	選択	選択
仏教デス・エデュケーション	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗教法人法	選択	選択必修	選択	選択	選択
日蓮聖人伝1	選択	必修	選択必修	選択	選択
日蓮聖人伝2	選択	必修	選択必修	選択	選択
立正安国論講義1	選択	選択必修	選択	選択	選択
立正安国論講義2	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗学概論1	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗学概論2	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗史概論1	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗史概論2	選択	必修	選択必修	選択	選択
天台学概論1	選択	選択必修	選択	選択	選択
天台学概論2	選択	選択必修	選択	選択	選択

※各学科、コース毎の区分の違いなどは『学生要覧』や『仏教学部講義案内』(本書)にて各自きちんと確認すること。

5. 開設科目とその履修方法

【令和2（2020）～令和6（2024）年度入学】

宗 学 科 法華仏教コース

日本仏教コース

仏教学科 思想・歴史コース

文化・芸術コース

5 仏教学部〔令和2(2020)～6(2024)年度入学〕

1 卒業基準単位

仏教学部生〔令和2(2020)年度入学～6(2024)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

仏教学部の卒業基準単位

教養的 科 目	一般教育科目	20単位以上		
	発展教養科目			
	外国語科目	4単位以上		
専 門 科 目	必 修 科 目	法華仏教コース	32単位	必修・選択必修・選択をあわせて84単位以上
		日本仏教コース	28単位	
		思想・歴史コース	24単位	
		文化・芸術コース	24単位	
	選択必修科目	24単位以上		
	選 択 科 目			
合 計		124単位以上		

〈教養的科目〉は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上を修得。〈専門科目〉は、必修科目（卒業論文8単位を含む）、選択必修科目、選択科目あわせて84単位以上を修得。さらに〈教養的科目〉と〈専門科目〉のいずれかの科目を加えて、合計124単位以上とすることが必要である。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の必修科目のうち、「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

2 受講時間帯

仏教学部生の受講時間帯は、品川キャンパス1～6時限（9時～20時50分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。なお、年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限以内で、所定の第2期追加履修登録期間中に第2期開講科目を追加履修登録することも可能となっているが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出る

ことができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は、「法華仏教研究入門」・「日本仏教研究入門」・「思想・歴史研究入門」・「文化・芸術研究入門」の4科目から2科目以上を含め、**12科目24単位以上**を修得しなければならない。

5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

また、令和5（2023）年度以降入学生について、1年次終了時においてGPA3.5以上の者は2年次の履修登録年間単位数の上限を46単位とする。

学 年	年間履修登録単位数の上限	第1期履修登録単位数の上限	第2期履修登録単位数の上限	備 考
1年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2年	42	24	24	
3年	42	24	24	
4年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学演習基礎1、仏教学演習基礎2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

7 在籍する学科・コース

在籍する学科・コースは3年次に進級する時に最終確定する。本学を卒業するためには、総単位数を満たすだけでなく、それぞれ学科・コースごとに設定されている必修・選択必修の科目指定や必要単位数等の卒業要件を満たす必要がある。

学科・コースの3年次からの所属については、次の①～③を基準にして総合的に判定される。

①2年次の所定の時期における各自の志望コース申請（第1志望～第3志望）

②1・2年次における学業の成績（累積GPA）

③教員免許状の取得を志す者は、希望する免許の種類（「中学社会」「中学宗教」「高校公民」「高校地歴」「高校宗教」）の別と、それに向けた資格科目の2年次までの修得状況および成績

入学時に考えている志望コースや卒業後の進路が、大学で学びを重ねるうちに自分の中で変化していくことも十分にあり得ることであるから、1・2年次の間は各コースの重点科目も幅広く学び、自己の可能性を広げていくように、学びの計画を立てていくことが大切である。そして、自らの進路を切り拓くことができるものは、日頃からの積み重ねだけであることを深く自覚し、目標に向かって邁進してほ

しい。

8 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学部生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を仏教学部の専門科目（選択科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画を立てること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

[令和2(2020)～令和6(2024)年度入学生] 必修科目◆ 選択必修科目□ 選択科目は空欄 ーは履修不可 自由は自由科目

系統	授 業 科 目	単位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術			
基礎・演習系	仏教学演習基礎1	2	1	◆	◆	◆	◆			4科目のうち2科目以上 選択必修
	仏教学演習基礎2	2	1	◆	◆	◆	◆			
	文献読解基礎演習1 A～C	2	2	◆	◆	◆	◆			
	文献読解基礎演習2 A～C	2	2	◆	◆	◆	◆			
	法華仏教研究入門	2	1	□	□	□	□			
	日本仏教研究入門	2	1	□	□	□	□			
	思想・歴史研究入門	2	1	□	□	□	□			
	文化・芸術研究入門	2	1	□	□	□	□			
	文献学演習1	2	2・3	□	□	□	□			
	文献学演習2	2	2・3	□	□	□	□			
	文献学演習3	2	2・3	□	□	□	□			
	文献学演習4	2	2・3	□	□	□	□			
	海外仏教文化研修1	2	1・2・3・4					休	年間履修制限外科目 2025年度より	
	海外仏教文化研修2	2	1・2・3・4					休	年間履修制限外科目 2025年度より	
	海外仏教文化研修3	2	1・2・3・4					休	年間履修制限外科目 2025年度より	
	海外仏教文化研修4	2	1・2・3・4					休	年間履修制限外科目* 2025年度より	
国内仏教文化研修1	2	1・2・3・4					休	年間履修制限外科目 2025年度より		
国内仏教文化研修2	2	1・2・3・4					休	年間履修制限外科目 2025年度より		
国内仏教文化研修3	2	1・2・3・4					休	年間履修制限外科目 2025年度より		
国内仏教文化研修4	2	1・2・3・4					休	年間履修制限外科目* 2025年度より		
基幹・演習系	ゼミナール1	2	3	◆	◆	◆	◆			
	ゼミナール2	2	3	◆	◆	◆	◆			
	ゼミナール3	2	4	◆	◆	◆	◆			
	ゼミナール4	2	4	◆	◆	◆	◆			
	卒業論文	8	4	◆	◆	◆	◆			
言語・スキル系	サンスクリット語初級Ⅰ	2	1・2			□	□			
	サンスクリット語初級Ⅱ	2	1・2			□	□			
	サンスクリット語中級Ⅰ	2	2・3			□	□			
	サンスクリット語中級Ⅱ	2	2・3			□	□			
	世界の言語と文化[英語Ⅰ]	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化[英語Ⅱ]	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化[中国語Ⅰ]	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化[中国語Ⅱ]	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]	2	1・2・3・4					休		
	世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]	2	1・2・3・4					休		
	世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]	2	1・2・3・4							
	世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]	2	1・2・3・4					休		
	世界の言語と文化[ハンガール]	2	1・2・3・4					休		
	世界の言語と文化[ヒンディー語]	2	1・2・3・4					休		
	人文科学とコンピュータ	2	2・3					休		
	日本仏教文献演習1	2	3・4		□	-	-			
	日本仏教文献演習2	2	3・4		□	-	-			
	仏教書誌学研究	2	3・4	□		-	-			
	仏教古文書演習	2	3・4	□		-	-			
パーリ語入門	2	3・4	-	-	□		休			
チベット語入門	2	3・4	-	-	□					
思想・思想史系	仏教学概論1	2	2・3	□	□	□	□			
	仏教学概論2	2	2・3	□	□	□	□			
	法華思想史1	2	2・3・4			□	□	休		
	法華思想史2	2	2・3・4			□	□	休		
	インド哲学仏教学特講1	2	2・3・4			□				
	インド哲学仏教学特講2	2	2・3・4			□				

系統	授 業 科 目	単 位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備考	
				法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術				
思想・思想史系	インド哲学仏教学特講3	2	3・4	-	-	<input type="checkbox"/>					
	インド哲学仏教学特講4	2	3・4	-	-	<input type="checkbox"/>					
	インド思想史1	2	3・4	-	-	<input type="checkbox"/>					
	インド思想史2	2	3・4	-	-	<input type="checkbox"/>					
	天台学概論1	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				メディア授業	
	天台学概論2	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				メディア授業	
	禅学概論1	2	2・3・4					休			
	禅学概論2	2	2・3・4					休			
	浄土学概論1	2	2・3・4								
	浄土学概論2	2	2・3・4								
	真言学概論1	2	2・3・4					休			
	真言学概論2	2	2・3・4					休			
	日本仏教思想概論	2	2・3	<input type="checkbox"/>	◆	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	日本仏教思想特講1	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>						
日本仏教思想特講2	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>							
日本仏教思想特講3	2	3・4		<input type="checkbox"/>	-	-					
日本仏教思想特講4	2	3・4		<input type="checkbox"/>	-	-					
仏教史系	インド仏教史1	2	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	インド仏教史2	2	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	中国仏教史1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	中国仏教史2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	日本仏教史概論	2	2・3	<input type="checkbox"/>	◆	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			メディア授業	
	仏教史特講1	2	2・3・4			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	休			
	仏教史特講2	2	2・3・4			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	休			
	仏教史特講3	2	3・4	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	日本仏教史特論1	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>						
	日本仏教史特論2	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>						
日本仏教史特論3	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>			休				
日本仏教史特論4	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>			休				
文化・文化史系	アジア文化史1	2	1・2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	アジア文化史2	2	1・2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	東洋文化史1	2	1・2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	東洋文化史2	2	1・2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	日本文化史概論	2	1・2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	世界の宗教地理1	2	2・3・4			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	休			
	世界の宗教地理2	2	2・3・4			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	休			
	仏教文化史特講1	2	2・3・4				<input type="checkbox"/>	休			
	仏教文化史特講2	2	2・3・4				<input type="checkbox"/>	休			
	仏教文化史特講3	2	3・4	-	-		<input type="checkbox"/>				
	仏教考古学研究1	2	2・3・4						休		
	仏教考古学研究2	2	2・3・4						休		
	日本文化特講1	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>						
日本文化特講2	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>							
日本文化史特講1	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>							
日本文化史特講2	2	2・3・4		<input type="checkbox"/>				休			
美術史・文化財・伝統文化系	アジア美術史1	2	2・3				<input type="checkbox"/>				
	アジア美術史2	2	2・3				<input type="checkbox"/>				
	日本美術史1	2	2・3				<input type="checkbox"/>				
	日本美術史2	2	2・3				<input type="checkbox"/>				
	文化財論1	2	2・3・4				<input type="checkbox"/>				
	文化財論2	2	2・3・4				<input type="checkbox"/>				
	文化財論3	2	3・4	-	-		<input type="checkbox"/>	休			
芸術研究	1	2・3・4									

系統	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	宗 学 科 : 区 分		仏 教 学 科 : 区 分		開 講 有 無 (休 講 は「休」表示)	講 義 概 要 参 照 方 法	備 考
				法 華 仏 教	日 本 仏 教	思 想 ・ 歴 史	文 化 ・ 芸 術			
美術史・文化財・ 伝統文化系	芸 術 研 究 2	2	2・3・4							
	芸 術 研 究 3	2	2・3・4					休 休		
	芸 術 研 究 4	2	2・3・4							
	芸 術 研 究 5	2	2・3・4							
芸術実習系	芸術実習基礎 A～B	4	1・2				<input type="checkbox"/>			2時限連続授業
	芸術実習[仏像Ⅰ] A～B	4	2・3	自由	自由					2時限連続授業(芸術実習基礎を修得してからの履修を推奨)
	芸術実習[仏画Ⅰ]	4	2・3	自由	自由					
	芸術実習[仏像Ⅱ] A～B	4	4	-	-					2時限連続授業(卒業制作指導)
	芸術実習[仏画Ⅱ]	4	4	-	-					
比較文化系	比較思想論	2	3・4	-	-	<input type="checkbox"/>		休 休		
	比較文化特講	2	3・4	-	-		<input type="checkbox"/>			
	比較宗教文化論	2	3・4	-	-		<input type="checkbox"/>			
宗教学・現代宗教系	宗教とは何か	2	2・3・4							
	宗教の史的展開	2	2・3・4							
	宗教哲学	2	2・3・4							
	現代宗教研究	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					メディア授業
	宗教社会学	2	2・3・4					休 休		
	宗教心理学	2	2・3・4							
	仏教カウンセリング	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>						メディア授業
	仏教デス・エデュケーション	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>						メディア授業
宗教法人法	2	2・3・4	<input type="checkbox"/>						メディア授業	
日本社会と宗教	2	3・4		<input type="checkbox"/>	-	-				
日蓮教学系	日蓮聖人伝 1	2	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
	日蓮聖人伝 2	2	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
	立正安国論講義 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>						
	立正安国論講義 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>						
	宗学概論 1	2	2	◆	<input type="checkbox"/>					
	宗学概論 2	2	2	◆	<input type="checkbox"/>					
	宗史概論 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>						
	宗史概論 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>						
	法華経概論 1	2	3	◆	<input type="checkbox"/>					
	法華経概論 2	2	3	◆	<input type="checkbox"/>					
	宗学史概論 1	2	3	<input type="checkbox"/>		自由	自由			
	宗学史概論 2	2	3	<input type="checkbox"/>		自由	自由			
	開目抄講義 1	2	3	<input type="checkbox"/>		自由	自由			
	開目抄講義 2	2	3	<input type="checkbox"/>		自由	自由			
観心本尊抄講義 1	2	4	<input type="checkbox"/>		自由	自由				
観心本尊抄講義 2	2	4	<input type="checkbox"/>		自由	自由				
学際領域系	哲学とは何か A～B	2	2							
	倫理学とは何か A～B	2	2							
	心理学概論Ⅰ	2	3・4							メディア授業
	心理学概論Ⅱ	2	3・4							

※「海外仏教文化研修4」「国内仏教文化研修4」は、事前・事後学習会を行います。ポータルサイト等で発表される開催日に注意すること。

学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。

区分	授 業 科 目	単 位	履修年次	宗学科：区分		仏教学科：区分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備考
				法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術			
	Introduction to Cultures of the World 1(世界の文明1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 2(世界の文明2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 3(東アジア文化1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 4(東アジア文化2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 5(世界遺産1)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 6(世界遺産2)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 7(日本文化1)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 8(日本文化2)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 9(日本の歴史1)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 10(日本の歴史2)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 11(日本文化3)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 12(日本文化4)	2	1・2・3・4						Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 13(日本の歴史3)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	Introduction to Cultures of the World 14(日本の歴史4)	2	1・2・3・4					休	Web	文学部開設
	哲学の基本諸問題	2	2						Web	文学部開設
	倫理学の基本諸問題A	2	2						Web	文学部開設
	倫理学の基本諸問題B	2	2						Web	文学部開設
	キリスト教思想1	2	3・4						Web	文学部開設
	キリスト教思想2	2	3・4						Web	文学部開設
	民俗学1	2	3・4						Web	文学部開設
	民俗学2	2	3・4						Web	文学部開設
	家族社会学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*
	政治社会学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*
	都市社会学	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	文学部開設*
	憲法	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	経済学部開設*
	民法	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	経済学部開設*
	ミクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	経済学部開設*
	マクロ経済学基礎A	2	2・3・4	自由	自由	自由	自由	休	Web	経済学部開設*

メディア授業

令和2(2020)～令和6(2024)年度入学

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

令和2（2020）年度から令和6（2024）年度仏教学部入学生

3年生進級時にコースによって区分が変わる科目一覧（1・2年で修得しても下記の通り変わるので注意）

科目名	1・2年次	法華仏教	日本仏教	思想・歴史	文化・芸術
サンスクリット語初級Ⅰ	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
サンスクリット語初級Ⅱ	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
サンスクリット語中級Ⅰ	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
サンスクリット語中級Ⅱ	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
法華思想史 1	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
法華思想史 2	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
インド哲学仏教学特講 1	選択	選択	選択	選択必修	選択
インド哲学仏教学特講 2	選択	選択	選択	選択必修	選択
天台学概論 1	選択	選択必修	選択必修	選択必修	選択
天台学概論 2	選択	選択必修	選択必修	選択必修	選択
日本仏教思想概論	選択必修	選択必修	必修	選択必修	選択必修
日本仏教思想特講 1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教思想特講 2	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史概論	選択必修	選択必修	必修	選択必修	選択必修
仏教史特講 1	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
仏教史特講 2	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
日本仏教史特論 1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史特論 2	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史特論 3	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本仏教史特論 4	選択	選択	選択必修	選択	選択
世界の宗教地理 1	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
世界の宗教地理 2	選択	選択	選択	選択必修	選択必修
仏教文化史特講 1	選択	選択	選択	選択	選択必修
仏教文化史特講 2	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本文化特講 1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本文化特講 2	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本文化史特講 1	選択	選択	選択必修	選択	選択
日本文化史特講 2	選択	選択	選択必修	選択	選択
アジア美術史 1	選択	選択	選択	選択	選択必修
アジア美術史 2	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本美術史 1	選択	選択	選択	選択	選択必修
日本美術史 2	選択	選択	選択	選択	選択必修
文化財論 1	選択	選択	選択	選択	選択必修
文化財論 2	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習基礎	選択	選択	選択	選択	選択必修
芸術実習〔仏像Ⅰ〕	自由科目	自由科目	自由科目	選択	選択
芸術実習〔仏画Ⅰ〕	自由科目	自由科目	自由科目	選択	選択
現代宗教研究	選択	選択必修	選択必修	選択	選択
仏教カウンセリング	選択	選択必修	選択	選択	選択
仏教デス・エデュケーション	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗教法人法	選択	選択必修	選択	選択	選択
日蓮聖人伝 1	選択	選択必修	選択必修	選択	選択
日蓮聖人伝 2	選択	選択必修	選択必修	選択	選択
立正安国論講義 1	選択	選択必修	選択	選択	選択
立正安国論講義 2	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗学概論 1	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗学概論 2	選択	必修	選択必修	選択	選択
宗史概論 1	選択	選択必修	選択	選択	選択
宗史概論 2	選択	選択必修	選択	選択	選択

※各学科、コース毎の区分の違いなどは『学生要覧』や『仏教学部講義案内』（本書）にて各自きちんと確認すること。

6. 開設科目とその履修方法

【平成31（2019）年度入学】

宗 学 科 法華仏教コース

日本仏教コース

6 宗学科〔平成31(2019)年度入学生〕

1 卒業基準単位

宗学科生〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

宗学科の卒業基準単位

教養的 科 目	一般教育科目	20単位以上	
	発展教養科目		
	外国語科目	4単位以上	
専 門 科 目	必修科目	28単位	必修・選択必修・選択をあわせて84単位以上
	選択必修科目	24単位以上	
	選択科目		
合 計		124単位以上	

教養的科目は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上、専門科目は、卒業論文8単位を含め、必修科目（28単位）、選択必修科目（24単位以上）、選択科目あわせて84単位以上、合計124単位以上である。

例えば、一般教育科目24単位、外国語科目4単位、専門科目の必修科目28単位（卒業論文含む）、選択必修科目42単位、選択科目26単位を修得すれば、合計124単位となり卒業要件を満たす。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

一般教育科目の「キャリア開発基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目中、1科目2単位以上が**選択必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

2 受講時間帯

宗学科生の受講時間帯は、品川キャンパス1～6時限（9時～20時50分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養的科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、半期開講であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。なお、年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限以内で、所定の第2期追加履修登録期間中に第2期開講科目を追加履修登録することも可能となっているが、履修を希望する第2期の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出ることができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を

行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は12科目24単位以上を修得しなければならない。

5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

学 年	年間履修登録単位数の上限	第1期履修登録単位数の上限	第2期履修登録単位数の上限	備 考
1年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2年	42	24	24	
3年	42	24	24	
4年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 宗学基礎演習1、宗学基礎演習2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

7 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。宗学科生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を宗学科の専門科目（選択科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画を立てること。
- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

[平成31(2019)年度入学生] 宗学科《法華仏教コース及び日本仏教コース》

必修科目◆ 選択必修科目□ 選択科目は空欄 ーは履修不可 自由は自由科目

授業科目	単位	履修年次	区分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備考
			法華仏教	日本仏教			
宗学基礎演習1 A ~ B	2	1	◆	◆	休		
宗学基礎演習2 A ~ B	2	1	◆	◆	休		
宗学概論	1	2	◆	□	休		
宗学概論	2	2	◆	□	休		
法華経概論	1	2	◆	◆			
法華経概論	2	2	◆	◆			
ゼミナール	1	2	◆	◆	休		
ゼミナール	2	2	◆	◆	休		
ゼミナール	3	2	◆	◆	休		
ゼミナール	4	2	◆	◆	休		
卒業論文	文8	4	◆	◆	休		
日蓮聖人伝	1	2	□	□	休		
日蓮聖人伝	2	2	□	□	休		
立正安国論講義	1	2	□				
立正安国論講義	2	2	□		休		
開目抄講義	1	2	□		休		
開目抄講義	2	2	□		休		
観心本尊抄講義	1	2	□				
観心本尊抄講義	2	2	□				
仏教概論	1	2	□	□	休		
仏教概論	2	2	□	□	休		
宗史概論	1	2	□		休		
宗史概論	2	2	□		休		
宗学史概論	1	2	□		休		
宗学史概論	2	2	□		休		
天台学概論	1	2	□	□	休		メディア授業
天台学概論	2	2	□	□	休		メディア授業
日本本仏教史	1	2	□	◆			メディア授業
日本本仏教史	2	2	□	◆	休		
日蓮遺文研究	1	2	□		休		
日蓮遺文研究	2	2	□				
史料演習	1	2	□	□			
史料演習	2	2	□	□			
史料演習	3	2	□	□			
史料演習	4	2	□	□			
日本本仏教思想特講	1	2	□	□			
日本本仏教思想特講	2	2	□	□			
日本本仏教思想特講	1	2	□	□			
日本本仏教思想特講	2	2	□	□	休		
禅学概論	1	2			休		
禅学概論	2	2			休		
浄土学概論	1	2					
浄土学概論	2	2			休		
真言学概論	1	2			休		
真言学概論	2	2			休		
インド仏教史	1	2			休		
インド仏教史	2	2			休		
中国仏教史	1	2			休		
中国仏教史	2	2			休		
中国仏教史	1	2		□	休		
中国仏教史	2	2		□	休		

平成31(2019)年度入学生 宗学科

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		開 講 有 無 (休 講 は「休」表示)	講 義 概 要 参 照 方 法	備 考
			法 華 仏 教	日 本 仏 教			
仏 教 史 特 講	3	2	2・3・4				
仏 教 史 特 講	4	2	2・3・4				
法 華 思 想 史	1	2	2・3・4				
法 華 思 想 史	2	2	2・3・4				
サンスクリット語初級Ⅰ(宗学科)	2	2	1				
サンスクリット語初級Ⅱ(宗学科)	2	2	1				
サンスクリット語中級Ⅰ	2	2	2				
サンスクリット語中級Ⅱ	2	2	2				
インド哲学仏教学特講	1	2	3・4				
インド哲学仏教学特講	2	2	3・4				
インド哲学仏教学特講	3	2	3・4				
インド哲学仏教学特講	4	2	3・4				
世界の宗教地理	1	2	2				
世界の宗教地理	2	2	2				
日本文化史	1	2	1・2				
日本文化史	2	2	1・2				
東洋文化史	1	2	1・2				
東洋文化史	2	2	1・2				
アジア文化史	1	2	1・2				
アジア文化史	2	2	1・2				
仏教文化史特講	1	2	2				
仏教文化史特講	2	2	2				
仏教文化史特講	3	2	2				
仏教文化史特講	4	2	2				
アジア美術史	1	2	2				
アジア美術史	2	2	2				
日本美術史	1	2	2				
日本美術史	2	2	2				
芸術研究	1	2	2・3・4				
芸術研究	2	2	2・3・4				
芸術研究	3	2	2・3・4				
芸術研究	4	2	2・3・4				
芸術研究	5	2	2・3・4				
芸術実習基礎A～B	4	4	1・2				
文化財論	1	2	2・3・4				
文化財論	2	2	2・3・4				
文化財修復概説	2	2	2・3・4				
海外仏教文化研修	1	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目 2025年度より
海外仏教文化研修	2	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目 2025年度より
海外仏教文化研修	3	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目* 2025年度より
海外仏教文化研修	4	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目 2025年度より
国内仏教文化研修	1	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目 2025年度より
国内仏教文化研修	2	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目 2025年度より
国内仏教文化研修	3	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目* 2025年度より
国内仏教文化研修	4	2	1・2・3・4				年間履修制限外科目 2025年度より
世界の言語と文化[英語Ⅰ]	2	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[英語Ⅱ]	2	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[中国語Ⅰ]	2	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[中国語Ⅱ]	2	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]	2	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]	2	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]	2	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]	2	2	1・2・3・4				
世界の言語と文化[ハンガール]	2	2	1・2・3・4				

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		開 講 有 無 (休 講 は「休」表示)	講 義 概 要 参 照 方 法	備 考
			法 華 仏 教	日 本 仏 教			
世界の言語と文化[ヒンディー語]	2	1・2・3・4			休		
人文科学とコンピュータ	2	2			休		
仏教カウンセリング	2	2・3・4					メディア授業
仏教デス・エデュケーション	2	2・3・4					メディア授業
現代宗教研究	2	2・3・4					メディア授業
宗教法人法	2	2・3・4			休		メディア授業
社会と宗教1	2	2・3・4					
社会と宗教2	2	2・3・4			休		
宗教とは何か	2	2・3・4					
宗教の文化	2	2・3・4					
宗教の史的展開	2	2・3・4					
宗教文化史概論	2	2・3・4			休		
宗教社会学	2	2・3・4			休		
宗教哲学	2	2・3・4			休		
宗教心理学	2	2・3・4			休		
哲学とは何かA～B	2	2					他学部開講科目
倫理学とは何かA～B	2	2					他学部開講科目
心理学概論I	2	3・4					他学部開講科目 メディア授業
心理学概論II	2	3・4					他学部開講科目

※「海外仏教文化研修4」「国内仏教文化研修4」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。

授 業 科 目	単位	履修年次	区 分		開講有無(休講は「休」表示)	講義概要参照方法	備 考
			法華仏教	日本仏教			
Introduction to Cultures of the World 1〈世界の文明 1〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 2〈世界の文明 2〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 3〈東アジア文化 1〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 4〈東アジア文化 2〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 5〈世界遺産 1〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 6〈世界遺産 2〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 7〈日本文化 1〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 8〈日本文化 2〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 9〈日本の歴史 1〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 10〈日本の歴史 2〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 11〈日本文化 3〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 12〈日本文化 4〉	2	1・2・3・4				Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 13〈日本の歴史 3〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 14〈日本の歴史 4〉	2	1・2・3・4			休	Web	文学部開設
哲学の基本諸問題	2	2				Web	文学部開設
倫理学の基本諸問題 A	2	2				Web	
倫理学の基本諸問題 B	2	2				Web	文学部開設
キリスト教思想 1	2	3・4				Web	文学部開設
キリスト教思想 2	2	3・4				Web	文学部開設
民俗学 1	2	3・4				Web	文学部開設
民俗学 2	2	3・4				Web	文学部開設
家族社会学	2	2・3・4	自由	自由		Web	文学部開設*
政治社会学	2	2・3・4	自由	自由	休	Web	文学部開設*
都市社会学	2	2・3・4	自由	自由		Web	文学部開設*
憲法	2	2・3・4	自由	自由		Web	経済学部開設*
民法	2	2・3・4	自由	自由		Web	経済学部開設*
ミクロ経済学基礎 A	2	2・3・4	自由	自由		Web	経済学部開設*
マクロ経済学基礎 A	2	2・3・4	自由	自由		Web	経済学部開設*

メディア授業

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

7. 開設科目とその履修方法

【平成29（2017）～平成31（2019）年度入学】

仏教学科 思想・歴史コース

文化・芸術コース

7 仏教学科〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕

1 卒業基準単位

仏教学科生〔平成29(2017)～31(2019)年度入学〕が卒業資格を得るために必要な最少修得単位数は次のとおりである。

仏教学科の卒業基準単位

教養的 科目	一般教育科目	20単位以上	
	発展教養科目		
	外国語科目	4単位以上	
専門 科目	必修科目	24単位	必修・選択必修1群・ 選択必修2群・選択・ 関連領域をあわせて 84単位以上
	選択必修科目1群	24単位以上	
	選択必修科目2群	8単位以上（2018、2019年度入学生） 16単位以上（2017年度入学生）	
	選択科目		
	関連領域科目		
合計		124単位以上	

教養の科目は、一般教育科目、発展教養科目あわせて20単位以上、外国語科目4単位以上、専門科目は、卒業論文8単位を含め、必修科目（24単位）、選択必修科目1群（24単位以上）、選択必修科目2群（2017年度入学生は16単位以上。2018、2019年度入学生は8単位以上）、選択科目、関連領域科目あわせて84単位以上、合計124単位以上である。

例えば、一般教育科目24単位、外国語科目4単位、専門科目の必修科目24単位（卒論含む）、選択必修科目44単位、選択科目28単位を修得すれば、合計124単位となり卒業要件を満たす。

一般教育科目の「学修の基礎Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位は**必修**である。

一般教育科目の「キャリア開発基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目中、1科目2単位以上が**選択必修**である。

外国語科目の「英語1・2・3・4」の4科目4単位は**必修**である。

専門科目の「ゼミナール3・4」を履修しないと、「卒業論文」を履修することはできない。

第1期に「ゼミナール3」を修得できなかった場合、その年度で登録されている「卒業論文」の履修は削除される。

「卒業論文」の提出が必要な留年生において、「ゼミナール3」をすでに修得済で、第1期休学を検討している学生は、休学前に必ず仏教学部事務室か仏教学部懇談室に相談すること。

2 受講時間帯

仏教学科生の受講時間帯は、品川キャンパス1～6時限（9時～20時50分）である。なお、科目によっては時間帯が異なったり、特殊な形態で開講されたりする場合があるので、ガイダンス等に必ず出席し、その指示に留意することが必要である。

3 セメスター制

教養の科目・専門科目（一部科目を除く）は、多様な知識修得のニーズに対応するため、セメスター制が導入されている。セメスター制の特色は、年度の半期で開講される形態であり、第1期（前期）・第2期（後期）においてそれぞれ単位が認定される。第2期開講の科目についても、履修登録は原則として各年度初めの所定の期間に行うこと。なお、年間履修登録単位数の上限以内で第2期開講科目を所定の第2期追加履修登録期間中に追加履修登録することも可能となつてはいるが、履修を希望する第2期

の科目の登録者数が第1期の履修登録の時点で当該科目教室の席数を満たしてしまった等の場合には、第2期での追加履修登録を受け付けないことがあるので、留意すること。

また、一度登録した科目は、第1期・第2期各1回の履修中止申請期間に限り、履修中止を申し出ることができる。ただし、「3. 履修に関する全般的注意事項」を必ず参照し、十分に注意のうえ、中止を行わなければならない。

4 選択必修科目

選択必修科目は1群と2群に分かれる。各コースの必要単位数は次表のとおりである。

コース	選択必修1群	選択必修2群 (2017年度入学生)	選択必修2群 (2018、2019年度入学生)
思想・歴史 コース	20科目40単位中	18科目36単位中 8科目16単位以上	15科目30単位中 8単位以上
文化・芸術 コース	12科目24単位以上	19科目40単位中 8科目16単位以上	15科目32単位中 8単位以上

5 年間履修登録単位数・学期履修登録単位数の上限

各学年において1年間で履修することのできる単位数の上限、および各学期の単位数の上限は次の通りである。ただし、一部の指定科目並びに4年次の卒業論文8単位は、この上限には含まれない。

学年	年間 履修登録単位数の上限	第1期 履修登録単位数の上限	第2期 履修登録単位数の上限	備考
1年	46	24	24	年間履修登録単位数と学期履修登録単位数の、いずれの上限も超えてはならない。*
2年	42	24	24	
3年	42	24	24	
4年	42	24	24	

※例えば、1年次の第1期に24単位を履修登録した場合、第2期は22単位まで、となる。

6 進級要件制度

2年次から3年次へ進級するには、次表の①、②の2つの要件を満たしていなければならない。

進級要件

①修得単位数	44単位以上（自由科目・資格科目、海外語学留学、海外語学研修は含まない）
②進級必要科目	学修の基礎Ⅰ、学修の基礎Ⅱ 英語1、英語2、英語3、英語4 仏教学基礎演習1、仏教学基礎演習2 上記の8科目より6科目以上（※いずれも1年次の必修科目である）

7 相互履修科目（学部間相互履修制度に基づく授業）

仏教学部においては、平成27（2015）年度入学生より学部間相互履修制度に基づく授業を設けている。仏教学科生は、相互履修科目として指定されている他学部開設の科目を履修し、その一部を仏教学科の専門科目（関連領域科目）・教養的科目（一般教育科目）として卒業基準単位数に含めることができる。

履修上の注意

- ① 履修にあたっては、仏教学部必修科目を優先し、履修計画をたてること。

- ② 相互履修科目は、開講学部が受け入れ人数を設定しており、抽選科目となる事が多い。履修を希望する場合は、履修登録期間（抽選科目を含む）に所定の登録を行い、抽選登録（含、事前）結果を確認すること。
- ③ 本年度の開講授業は、本書の「学部間相互履修制度に基づく開講科目」を確認すること。
- ④ 講義内容は、Web シラバスにて確認すること。

[平成29(2017)～31(2019)年度入学] 仏教学科《思想・歴史コース及び文化・芸術コース》

必修科目◆ 選択必修科目□ 選択科目は空欄 ーは履修不可 自由は自由科目

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		開講有無(休講は「休」表示)	備 考
				思想・歴史	文化・芸術		
両 コ ー ス 共 通 基 礎 科 目	●統括科目 卒 業 論 文	8	4	◆	◆		
	●基礎・演習系						
	仏 教 学 基 礎 演 習 1	2	1	◆	◆		
	仏 教 学 基 礎 演 習 2	2	1	◆	◆		
	仏 教 学 基 礎 演 習 3 A ~ C	2	2	◆	◆		
	仏 教 学 基 礎 演 習 4 A ~ D	2	2	◆	◆		
	ゼ ミ ナ ー ル 1	2	3	◆	◆		
	ゼ ミ ナ ー ル 2	2	3	◆	◆		
	ゼ ミ ナ ー ル 3	2	4	◆	◆		
	ゼ ミ ナ ー ル 4	2	3	◆	◆		
	海 外 仏 教 文 化 研 修 1	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
	海 外 仏 教 文 化 研 修 2	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
	海 外 仏 教 文 化 研 修 3	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
	海 外 仏 教 文 化 研 修 4	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目* 2025年度より
	国 内 仏 教 文 化 研 修 1	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
	国 内 仏 教 文 化 研 修 2	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
	国 内 仏 教 文 化 研 修 3	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目 2025年度より
	国 内 仏 教 文 化 研 修 4	2	1・2・3・4			休	年間履修制限外科目* 2025年度より
	●言語・スキル系						
サンスクリット語初級Ⅰ(仏教学科)	2	1	□1群	□1群			
サンスクリット語初級Ⅱ(仏教学科)	2	1	□1群	□1群			
サンスクリット語中級Ⅰ	2	2	□1群	□1群			
サンスクリット語中級Ⅱ	2	2	□1群	□1群			
世界の言語と文化[英語Ⅰ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[英語Ⅱ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[中国語Ⅰ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[中国語Ⅱ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅰ]	2	1・2・3・4			休		
世界の言語と文化[ドイツ語Ⅱ]	2	1・2・3・4			休		
世界の言語と文化[フランス語Ⅰ]	2	1・2・3・4					
世界の言語と文化[フランス語Ⅱ]	2	1・2・3・4			休		
世界の言語と文化[ハンガール]	2	1・2・3・4			休		
世界の言語と文化[ヒンディー語]	2	1・2・3・4			休		
人文科学とコンピュータ	2	2・3			休		
●基礎・基幹系							
ア ジ ア 文 化 史 1	2	1	□1群	□1群			
ア ジ ア 文 化 史 2	2	1	□1群	□1群			
東 洋 文 化 史 1	2	1	□1群	□1群			
東 洋 文 化 史 2	2	1	□1群	□1群			
日 本 文 化 史 1	2	1	□1群	□1群	休		
日 本 文 化 史 2	2	1	□1群	□1群			
イ ン ド 仏 教 史 1	2	1	□1群	□1群			
イ ン ド 仏 教 史 2	2	2	□1群	□1群			
中 国 仏 教 史 1	2	2	□1群	□1群			
中 国 仏 教 史 2	2	2	□1群	□1群			
日 本 仏 教 史 1	2	2	□1群	□1群			
日 本 仏 教 史 2	2	2	□1群	□1群	休	メディア授業	
仏 教 学 概 論 1	2	2	□1群	□1群			
仏 教 学 概 論 2	2	2	□1群	□1群			
法 華 思 想 史 1	2	2	□1群	□1群	休		
法 華 思 想 史 2	2	2	□1群	□1群	休		

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	区 分		開 講 有 無 (休 講 は「休」表示)	備 考
			思 想 ・ 歴 史	文 化 ・ 芸 術		
●言語系						
バ ー リ 語 入 門	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
チ ベ ッ ト 語 入 門	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
●思想・思想史系						
イ ン ド 思 想 史 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
イ ン ド 思 想 史 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 3	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 4	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 5	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
イ ン ド 哲 学 仏 教 学 特 講 6	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
仏 教 史 特 講 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
仏 教 史 特 講 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
仏 教 史 特 講 3	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
仏 教 史 特 講 4	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
天 台 学 概 論 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		メディア授業
天 台 学 概 論 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		メディア授業
比 較 思 想 論 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生は履修不可
比 較 思 想 論 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
比 較 思 想 論 3	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
●各宗派教学・教団史系						
禅 学 概 論 1	2	2・3・4			休	
禅 学 概 論 2	2	2・3・4			休	
浄 土 学 概 論 1	2	2・3・4				
浄 土 学 概 論 2	2	2・3・4				
真 言 学 概 論 1	2	2・3・4			休	
真 言 学 概 論 2	2	2・3・4			休	
日 本 仏 教 思 想 特 講 1	2	3・4				
日 本 仏 教 思 想 特 講 2	2	3・4				
日 本 仏 教 史 特 講 1	2	3・4				
日 本 仏 教 史 特 講 2	2	3・4			休	
●文化史・文化財系						
ア ジ ア 美 術 史 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
ア ジ ア 美 術 史 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
日 本 美 術 史 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
日 本 美 術 史 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
世 界 の 宗 教 地 理 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
世 界 の 宗 教 地 理 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
仏 教 文 化 史 特 講 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
仏 教 文 化 史 特 講 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
仏 教 文 化 史 特 講 3	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
仏 教 文 化 史 特 講 4	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	
仏 教 文 化 史 特 講 5	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
仏 教 文 化 史 特 講 6	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
比 較 文 化 特 講 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生は履修不可
比 較 文 化 特 講 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
比 較 宗 教 文 化 論 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生は履修不可
比 較 宗 教 文 化 論 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群	休	2017年度入学生のみ履修可能
文 化 財 論 1	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
文 化 財 論 2	2	2・3	<input type="checkbox"/>	2 群		
仏 教 考 古 学 研 究 1	2	2・3・4				
仏 教 考 古 学 研 究 2	2	2・3・4			休	

授業科目	単位	履修年次	区分		開講有無(休講は「休」表示)	備考
			思想・歴史	文化・芸術		
文化財修復概説	2	2・3・4			休	2017年度入学生は履修不可
文化財修復概説 1	2	2・3・4			休	2017年度入学生のみ履修可能
文化財修復概説 2	2	2・3・4			休	2017年度入学生のみ履修可能
●芸術実習系						
芸術実習基礎 A～B	4	1・2		□2群		2時限連続授業
芸術実習[仏像Ⅰ] A～B	4	2・3				2時限連続授業(芸術実習基礎を修得してからの履修を推奨)
芸術実習[仏画Ⅰ]	4	2・3				
芸術実習[仏像Ⅱ] A～B	4	4				2時限連続授業(卒業制作指導)
芸術実習[仏画Ⅱ]	4	4				
●宗教学系						
宗教とは何か	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
宗教の文化	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
宗教の史的展開	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
宗教文化史概論	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
宗教哲学	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
●現代宗教系						
宗教社会学	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
宗教心理学	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
社会と宗教 1	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
社会と宗教 2	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
仏教カウンセリング	2	2・3・4	関連領域	関連領域		メディア授業
仏教デス・エデュケーション	2	2・3・4	関連領域	関連領域		メディア授業
●伝統文化系						
芸術研究 1	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
芸術研究 2	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
芸術研究 3	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
芸術研究 4	2	2・3・4	関連領域	関連領域	休	
芸術研究 5	2	2・3・4	関連領域	関連領域		
●日蓮教学系						
日蓮聖人伝 1	2	2	関連領域	関連領域		
日蓮聖人伝 2	2	2	関連領域	関連領域		
宗学概論 1	2	2	関連領域	関連領域		
宗学概論 2	2	2	関連領域	関連領域		
宗史概論 1	2	2	関連領域	関連領域		
宗史概論 2	2	2	関連領域	関連領域		
法華経概論 1	2	3	関連領域	関連領域		
法華経概論 2	2	3	関連領域	関連領域		
宗学史概論 1	2	3	関連領域	関連領域		
宗学史概論 2	2	3	関連領域	関連領域		
立正安国論講義 1	2	2	関連領域	関連領域		
立正安国論講義 2	2	2	関連領域	関連領域		
開目抄講義 1	2	3	関連領域	関連領域		
開目抄講義 2	2	3	関連領域	関連領域		
観心本尊抄講義 1	2	4	関連領域	関連領域		
観心本尊抄講義 2	2	4	関連領域	関連領域		
現代宗教研究	2	2	関連領域	関連領域		メディア授業
●他学部開講科目						
哲学とは何か A～B	2	2	関連領域	関連領域		他学部開講科目
倫理学とは何か A～B	2	2	関連領域	関連領域		他学部開講科目
心理学概論 I	2	3・4	関連領域	関連領域		他学部開講科目 メディア授業
心理学概論 II	2	3・4	関連領域	関連領域		他学部開講科目

※「海外仏教文化研修4」「国内仏教文化研修4」は、事前・事後学習会を行います。掲示等で発表される開催日に注意すること。

学部間相互履修制度に基づく開講科目

仏教学部仏教学科の学生は、他学部で開設されている表内の科目を専門科目として履修することができる。
なお、講義概要は Web シラバス検索にて確認すること。

授 業 科 目	単位	履修年次	区 分		開講有無(休講は「休」表示)	備 考
			思想・歴史	文化・芸術		
Introduction to Cultures of the World 1〈世界の文明 1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 2〈世界の文明 2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 3〈東アジア文化 1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 4〈東アジア文化 2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 5〈世界遺産 1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 6〈世界遺産 2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 7〈日本文化 1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 8〈日本文化 2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 9〈日本の歴史 1〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 10〈日本の歴史 2〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 11〈日本文化 3〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 12〈日本文化 4〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
Introduction to Cultures of the World 13〈日本の歴史 3〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
Introduction to Cultures of the World 14〈日本の歴史 4〉	2	1・2・3・4	関連領域	関連領域	休	文学部開設
哲学の基本諸問題	2	2	関連領域	関連領域		文学部開設
倫理学の基本諸問題 A～B	2	2	関連領域	関連領域		文学部開設
キリスト教思想 1	2	3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
キリスト教思想 2	2	3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
民俗学 1	2	3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
民俗学 2	2	3・4	関連領域	関連領域		文学部開設
家族社会学	2	2・3・4	自由	自由	休	文学部開設*
政治社会学	2	2・3・4	自由	自由	休	文学部開設*
都市社会学	2	2・3・4	自由	自由	休	文学部開設*
憲法	2	2・3・4	自由	自由		経済学部開設*
民法	2	2・3・4	自由	自由		経済学部開設*
ミクロ経済学基礎 A	2	2・3・4	自由	自由		経済学部開設*
マクロ経済学基礎 A	2	2・3・4	自由	自由		経済学部開設*

メディア授業

※自由科目は卒業基準単位数に含まれないので注意すること。

8. 僧階講座開設科目とその履修方法

8-1 僧階講座開設表〔令和2(2020)年度以降入学生〕

区分	講義コード	授 業 科 目	単位	学年	備 考	
1	11A0103200	開 目 抄 講 義 1	2	3	「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としています	
2	11A0103300	開 目 抄 講 義 2	2	3		
3	11A0103400	観 心 本 尊 抄 講 義 1	2	4		
4	11A0103500	観 心 本 尊 抄 講 義 2	2	4		
5	11A0102400	宗 学 概 論 1	2	2	仏教学部開設科目と共通	
6	11A0102500	宗 学 概 論 2	2	2		
7	11A0102800	日 蓮 聖 人 伝 1	2	2		
8	11A0102900	日 蓮 聖 人 伝 2	2	2		
9	11A0103800	宗 史 概 論 1	2	2・3		
10	11A0103900	宗 史 概 論 2	2	2・3		
11	11A0104000	宗 学 史 概 論 1	2	3		
12	11A0104100	宗 学 史 概 論 2	2	3		
13	11A0102600	法 華 経 概 論 1	2	3		
14	11A0102700	法 華 経 概 論 2	2	3		
15	11A0104400	日 本 仏 教 史 概 論	2	2		メディア授業
16	11A0103600	仏 教 学 概 論 1	2	2		
17	11A0104200	天 台 学 概 論 1	2	2・3		メディア授業
18	11A0104300	天 台 学 概 論 2	2	2・3		メディア授業
19	11A0114400	現 代 宗 教 研 究	2	2		メディア授業
20	11A0114500	宗 教 法 人 法	2	2・3・4		メディア授業
21	11A0114200	仏 教 カ ウ ン セ リ ン グ	2	2・3・4		メディア授業
22	11A0114300	仏 教 デ ス ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン	2	2・3・4		メディア授業
23	16A0170300	教 化 学 1	2	2・3・4		メディア授業
24	16A0170400	教 化 学 2	2	2・3・4		メディア授業
25	16A0170001	法 要 実 習 1	1	2		
26	16A0170101	法 要 実 習 2	1	2		

- ・ 1～26の26科目50単位を修得すること。
- ・ 学年指定に注意すること。
- ・ 2年次編転入学生は、令和3年度の編転入学者より適用する。
- ・ 3年次編転入学生は、令和4年度の編転入学者より適用する。
- ・ 科目等履修生は、令和3年度受講開始者より適用する。
- ・ 大学院に在学し、新たに僧階講座を履修するものは、令和3年度入学者より適用する。

8-2 僧階講座開設表〔平成27(2015)～平成31(2019)年度入学生〕

区分	講義コード	授 業 科 目	単位	学年	備 考	
1	11A0103200	開 目 抄 講 義 1	2	3	「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としています 「法華経概論1・2」が履修済であることを前提としています	
2	11A0103300	開 目 抄 講 義 2	2	3		
3	11A0103400	観 心 本 尊 抄 講 義 1	2	4		
4	11A0103500	観 心 本 尊 抄 講 義 2	2	4		
5	11A0102400	宗 学 概 論 1	2	2	仏教学部開設科目と共通	
6	11A0102500	宗 学 概 論 2	2	2		
7	11A0102800	日 蓮 聖 人 伝 1	2	2		
8	11A0102900	日 蓮 聖 人 伝 2	2	2		
9	11A0103800	宗 史 概 論 1	2	2		
10	11A0103900	宗 史 概 論 2	2	2		
11	11A0104000	宗 学 史 概 論 1	2	3		
12	11A0104100	宗 学 史 概 論 2	2	3		
13	11A0102600	法 華 経 概 論 1	2	3		
14	11A0102700	法 華 経 概 論 2	2	3		
15	11A0104400	日 本 仏 教 史 1	2	2		メディア授業
16	11A0103600	仏 教 学 概 論 1	2	2		
17	11A0104200	天 台 学 概 論 1	2	2・3		メディア授業
18	11A0104300	天 台 学 概 論 2	2	2・3		メディア授業
19	11A0114400	現 代 宗 教 研 究 1	2	2・3・4		メディア授業
20	11A0114500	宗 教 法 人 法 1	2	2・3・4		メディア授業
21	11A0114200	仏 教 カ ウ ン セ リ ン グ 1	2	2・3・4		メディア授業
22	11A0114300	仏 教 デ ス ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン 1	2	2・3・4		メディア授業
23	16A0170300	教 化 学 1	2	2・3・4		メディア授業
24	16A0170400	教 化 学 2	2	2・3・4		メディア授業
25	16A0170001	法 要 実 習 1	1	2		
26	16A0170101	法 要 実 習 2	1	2		

- ・ 1～26の26科目50単位を修得すること。
- ・ 学年指定に注意すること。
- ・ 2年次編転入学生は、平成28年度の編転入学者より適用する。
- ・ 3年次編転入学生は、平成29年度の編転入学者より適用する。
- ・ 科目等履修生は、平成28年度受講開始者より適用する。
- ・ 大学院に在学し、新たに僧階講座を履修するものは、平成28年度入学者より適用する。

9. 仏教学部開設一般教育科目について

凡 例

- ① 科目名が同一であっても、担当者などにより、講義内容が異なることもあるので、注意すること。
- ② 入学年度により履修可能科目が異なるので、十分に注意をすること。

9 一般教育科目

一般教育科目（仏教学部生のクラスとして指定されている授業）

授 業 科 目	開 講 形 態	単 位	備 考
英語 1 A、B	1 期	1	
英語 2 A、B	2 期	1	
英語 3 A、B	1 期	1	
英語 4 A、B	2 期	1	
学修の基礎 I A～C	1 期	2	
学修の基礎 II A～C	2 期	2	
データサイエンス入門（仏教・経済・経営・法）	1 期集中	2	令和 5 年度以降入学生のみ

※一部の科目は『令和 8 年度 講義案内 教養的科目』冊子と重複掲載されています。

一般教育科目：講義概要（シラバス）は『令和 8 年度 講義案内 教養的科目』または Web シラバスを参照

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
仏教入門	2	社会学概説	2	統計学序説	2
仏教と人間	2	社会学の基礎	2	統計学概説	2
教養基礎	2	心理学	2	数学の世界	2
教養総合	2	心理学理論と心理的支援	2	環境科学	2
文学入門	2	法学入門	2	ライフ・キャリア概論	2
文学の世界	2	法律学概説	2	キャリア・デザイン入門	2
歴史と文化	2	政治学概説	2	データサイエンス入門	2
歴史の世界	2	現代日本の政治と社会	2		
哲学入門	2	経済学概説	2		
哲学概論	2	経済学と社会	2		

《学部間相互履修科目》

※以下の 3 科目（データサイエンス学部開設）は、令和 8 年度以降入学生のみ適用する。

授 業 科 目	単 位	備 考
データサイエンス応用基礎・AIの世界	2	メディア授業
ドローン講義	2	メディア授業 自由科目
ドローン実習	2	自由科目

発展教養科目：講義概要（シラバス）は『令和 8 年度 講義案内 教職課程・各種資格課程』または Web シラバスを参照

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
日本史概説	2	地理学概論	2	人文地理学概論	2
外国史概説	2	自然地理学概論	2	地誌学概論	2

10. キャリア開発関連科目について

10-1. キャリア開発関連科目とその履修方法 〔令和7(2025)年度以降入学生〕(一般教育科目)

大学卒業後の就職に向けた支援プログラムを、キャリア開発関連科目として開設する。

「ライフ・キャリア概論」「キャリア・デザイン入門」「キャリア実習 [大学提携型就業体験]」「インターンシップ」は、一般教育科目であり卒業単位として認定される。(下表の備考欄を参照)。

(1) キャリア開発基礎講座とその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
ライフ・キャリア概論	2	1	メディア授業
キャリア・デザイン入門	2	1	

一般教育科目・専門科目等と同様、年度初めの所定の期間に、各自がポータルサイト等で「履修登録」のための科目入力を行わなければならない。未登録の場合には、講義・試験を受けても単位修得が認められない。また、授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を講義担当者に提出しなければならない。

(2) インターンシップとその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
インターンシップ	4	3	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。
キャリア実習 [大学提携型就業体験]	2	2・3	同一年度で両方の科目を履修できない。

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。成績評価は事前ガイダンスへの出席、実習状況、実習先からの評価ならびに、事後学習、課題文評価などを総合してキャリアサポート運営委員会で成績評価を行う。

募集時期やその他諸連絡等については、ポータルサイト上の「キャリア支援」やキャリアサポートセンター掲示板等にて各自で確認すること。

10-2. キャリア開発関連科目とその履修方法 〔令和2(2020)年度～令和6(2024)年度入学生〕(一般教育科目)

大学卒業後の就職に向けた支援プログラムを、キャリア開発関連科目として開設する。

「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」「インターンシップ」は、一般教育科目であり卒業単位として認定される。(下表の備考欄を参照)。また「スキル開発」受講にあたっては、講座別に登録料等が必要となる。

(1) キャリア開発基礎講座とその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
キャリア開発基礎講座Ⅰ	2	1・2	
キャリア開発基礎講座Ⅱ	2	1・2・3	
キャリア開発基礎講座Ⅲ	2	3	

一般教育科目・専門科目等と同様、年度初めの所定の期間に、各自がポータルサイト等で「履修登録」のための科目入力を行わなければならない。未登録の場合には、講義・試験を受けても単位修得が認められない。また、授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を講義担当者に提出しなければならない。

(2) インターンシップとその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
インターンシップ	2	2・3	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。成績評価は事前ガイダンスへの出席、実習状況、実習先からの評価ならびに、事後学習、課題文評価などを総合してキャリアサポート運営委員会で成績評価を行う。

募集時期やその他諸連絡等については、ポータルサイト上の「キャリア支援」やキャリアサポートセンター掲示板等にて各自で確認すること。

(3) スキル開発とその履修方法〔自由科目〕

開設科目	単位	学年	備考
スキル開発〔情報系1〕	2	1～4	MOS講座(Word・Excel)など
スキル開発〔情報系2〕	2	1～4	
スキル開発〔情報系3〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系1〕	2	1～4	簿記検定2級講座 秘書技能検定2級講座など
スキル開発〔ビジネス系2〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系3〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系1〕	2	1～4	TOEIC®講座など
スキル開発〔語学系2〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系3〕	2	1～4	

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。このスキル開発講座はキャリアサポートセンターが主催する講座で、登録料が必要であるが、外部の各種学校における受講料より低廉である。成績評価は所定の試験合格実績、講座への出席状況、受講態度等をキャリアサポート運営委員会で総合的に判定する。どの講座も開講時期は不定期につき、募集時期等についてはキャリアサポートセンターの掲示・お知らせに注意すること。

10-3. キャリア開発関連科目とその履修方法 〔平成29(2017)～平成31(2019)年度入学生〕(一般教育科目)

大学卒業後の就職に向けた支援プログラムを、キャリア開発関連科目として開設する。

「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」「インターンシップ」は、一般教育科目であり卒業単位として認定される。なお「キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲ」の3科目より1科目以上を修得することが必要である。(下表の備考欄を参照)。また「スキル開発」受講にあたっては、講座別に登録料等が必要となる。

(1) キャリア開発基礎講座とその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
キャリア開発基礎講座Ⅰ	2	1・2	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。 3科目中、1科目以上を選択必修。
キャリア開発基礎講座Ⅱ	2	1・2・3	
キャリア開発基礎講座Ⅲ	2	3	

一般教育科目・専門科目等と同様、年度初めの所定の期間に、各自がポータルサイト等で「履修登録」のための科目入力を行わなければならない。未登録の場合には、講義・試験を受けても単位修得が認められない。また、授業開始後、所定の期日までに「聴講カード」を講義担当者に提出しなければならない。

(2) インターンシップとその履修方法〔卒業単位〕

開設科目	単位	学年	備考
インターンシップ	2	2・3	年間・学期の履修登録単位数の上限に含まれない。

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。成績評価は事前ガイダンスへの出席、実習状況、実習先からの評価ならびに、事後学習、課題文評価などを総合してキャリアサポート運営委員会で成績評価を行う。

募集時期やその他諸連絡等については、ポータルサイト上の「キャリア支援」やキャリアサポートセンター掲示板等にて各自で確認すること。

(3) スキル開発とその履修方法〔自由科目〕

開設科目	単位	学年	備考
スキル開発〔情報系1〕	2	1～4	MOS講座(Word・Excel)など
スキル開発〔情報系2〕	2	1～4	
スキル開発〔情報系3〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系1〕	2	1～4	簿記検定2級講座 秘書技能検定2級講座など
スキル開発〔ビジネス系2〕	2	1～4	
スキル開発〔ビジネス系3〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系1〕	2	1～4	TOEIC®講座など
スキル開発〔語学系2〕	2	1～4	
スキル開発〔語学系3〕	2	1～4	

学年初めの履修登録の必要はなく、受講者は、事後の履修登録となる。このスキル開発講座はキャリアサポートセンターが主催する講座で、登録料が必要であるが、外部の各種学校における受講料より低廉である。成績評価は所定の試験合格実績、講座への出席状況、受講態度等をキャリアサポート運営委員会で総合的に判定する。どの講座も開講時期は不定期につき、募集時期等についてはキャリアサポートセンターの掲示・お知らせに注意すること。

11. クラス担任 他

12. 令和8年度オフィスアワー (学生生活相談) の実施について

令和8年度オフィスアワー（学生生活相談）の実施について

1. 専任教員へのメールによる相談

仏教学部では、学生生活全般にわたる相談について各専任教員が受け付けています（オフィスアワー）。令和8年度は、相談をメールでも随時受け付けます。各教員のメールアドレス一覧は次のとおり、立正大学ポータルサイト内に格納しています。

「ポータルサイト」→「My ツール→キャビネット」→「99.その他授業に関すること」
→「令和8（2026）年度 仏教学部教員メールアドレス一覧（キャビネット掲示用）」

メールを送信する際は、

- ① メール《件名（タイトル）欄》に、用件を簡明に記す。
（例、○月△日の授業「◇◇入門」での疑問点について質問します）
- ② メール《本文欄》には宛名（例、○○先生）や用件の内容のほかに、自分自身に関して【学部（学科／コース）・学年・学籍番号・氏名（必要ならば連絡先メールアドレス等も）】を記す。簡潔なあいさつ文もある方がよい。
- ③ 半角カタカナ・機種依存文字は、メールが正しく送達されない原因となるので、使用しない。

といった、基本的なマナーに十分留意してください。

本学の学生には Microsoft365 の使用権が賦与されますので、その中の Outlook を利用してメールを送受信することができます。またこれに付随して学生個々に与えられるメールアドレス（xxxxxxx@rissho-univ.jp）には、大学から重要な案件が送信される場合がありますので、このメールアドレスを常用のスマートフォンのメールソフトに登録するなどして、着信には日常的に注意してください。

2. 履修指導担当教員および仏教学部事務室への相談

上記の専任教員による相談受付のほか、仏教学部懇談室に駐在する履修指導担当教員、また仏教学部事務室も相談を受け付けています。対応曜日・時間について留意の上、ご相談ください。

(1) 履修指導担当教員への電話による相談

仏教学部懇談室（2号館7階）では、11:00～18:00（土日祝除く）履修指導担当教員やチューター（教務補助員）が相談に応じています。〔授業や会議等で不在となることもあります。〕

Tel. 03-5487-3108

(2) 仏教学部事務室への電話による相談

仏教学部事務室（1号館1階）では、10:00～17:00（日祝除く）相談に応じています。〔他の問い合わせ対応中等で電話にでられない時もあります。〕

Tel. 03-3492-8528

**《資料》 仏教学部生の9月卒業のための
卒業論文提出に関する要領**

仏教学部生の9月卒業のための卒業論文提出に関する要領

- 1 本要領は、9月卒業のための卒業論文受理に関する事項を定める。
- 2 本要領の適用審査対象となる学生は、次のように定める。

卒業論文作成に向けた研究法について、4年生として第1期・第2期を合して1年間分の指導を受けて修得済み、もしくは修得見込みであることを前提として、9月卒業の意志を有し、その申請が可能な者（9月卒業のための要件については、学事課備付け「9月卒業申請書」を参照）。
- 3 2に定める条項の適用対象の審査は、学生の在籍する学科が行う。審査結果の学生への告知と履修指導は、各学科が行う。
- 4 本要領に定める卒業論文の提出には、3の学科の審査による承認（在籍5年目以降の第1期での卒業見込みの確認と、卒業論文提出予定時期の確認を含む）と、学生による「卒業論文」の履修登録および所定の9月卒業申請を必要条件とする。
- 5 卒業論文題目の届け出期限、卒業論文の提出期間、口頭試問の期日その他については、次のように定める。
 - 5-1 学生が9月卒業（予定）の当該年度第1期における卒業論文提出を希望する場合は、次のとおりとする。
 - ① 卒業論文題目の届け出期限は、5月末日（土日祝の場合は、直前の平日）17時まで（提出先は仏教学部懇談室）とする。
 - ② 卒業論文の提出期間は、おおよそ6月下旬～7月上旬（土日祝除く）の10時～17時00分（提出先は仏教学部事務室）とし、詳細は6月上旬に掲示にて告知する。
 - ③ 卒業論文の口頭試問の期日は、あらかじめ担当教員が当該学生に指示するとともに、担当教員は仏教学部事務室に伝達する。また、学生が急病等の止むを得ない事情により口頭試問を受けられず追試験を希望する場合は1回まで認め、7月下旬を目途に行うものとする。
 - ④ 卒業論文の判定結果が不合格の場合、必要な指導を受けて論文を改稿の上、通常第2期における卒業論文提出期間にあらためて提出することができるものとする。
 - 5-2 学生が9月卒業（予定）の前年度第2期における卒業論文提出を希望する場合、いずれも通常の場合に準ずる。

附則 平成27年3月24日仏教学部臨時教授会決定、平成27年4月1日施行
平成27年12月16日仏教学部定例教授会改正、平成28年4月1日施行

13. 仏教学部講義概要(シラバス)

凡 例

- ①科目名が同一であっても、担当者などにより、講義内容が異なることもあるので、注意すること。
- ②抽選の有無については、仏教学部生用の2026年度時間割表で確認すること。

講義コード	11A0110600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第1期
科目名	アジア美術史 1								
履修前条件					備考				
授業の目的	東南アジア各地では、インドから伝来した仏教やヒンドゥー教と土着の祖先崇拜や精霊信仰とが結びつき、固有の宗教文化が発展した。その様相は、各地に残る寺院建築や建築に施された装飾浮彫、あるいは寺院内に祀られた彫像からうかがえる。この講義では、カンボジアを中心とする地域に9～15世紀に繁栄したアンコール朝の美術を中心に、寺院建築に施された多様な浮彫をテーマ別に詳しく観察する。								
到達目標	東南アジアの寺院建築や彫刻を題材に、仏教・ヒンドゥー教美術の主題や図像表現を理解し、説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 東南アジアにおける「インド化」と「地域化」 【第2回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (1) ヒンドゥー教美術、シヴァ、ヴィシュヌ、ブラフマーの図像 【第3回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (2) ヒンドゥー教の神像表現のまとめ 【第4回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (3) ヒンドゥー教美術、『ラーマーヤナ』の図像 【第5回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (4) ヒンドゥー教美術、『マハーバーラタ』の図像 【第6回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (5) ヒンドゥー教叙事詩の図像表現のまとめ 【第7回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (6) 仏教美術、仏伝図 【第8回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (7) 仏教美術、ジャータカ図 【第9回】 東南アジア美術に表現された宗教世界 (8) 仏教美術のまとめ 【第10回】 東南アジア美術に表現された世俗世界、庶民の日常風景図、王の肖像、戦闘図 【第11回】 東南アジア美術に表現された装飾文様 【第12回】 東南アジア美術史研究の流れ 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (40%)、課題の提出状況と内容 (20%)、期末試験 (40%) を総合して、成績を評価する。								
フィードバックの内容	毎回の授業に対する感想や課題を課す。提出された内容に基づき、その後の授業で補足説明する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『東南アジア史〈1〉大陸部 (新版 世界各国史)』石井米雄・桜井由躬雄編 (山川出版社) 1999、『東南アジア史〈2〉島嶼部 (世界各国史)』池端雪穂編 (山川出版社) 1999、『インド・東南アジアの文様 (世界の文様)』石澤良昭他編 (小学館) 1991、『アンコールワットの彫刻』伊東照司 (雄山閣) 2009、『世界美術大全集 東洋編 12 東南アジア』肥塚隆責任編集 (小学館) 2001、『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』千原大五郎 (鹿島出版会) 1982、『アンコールワットとクメール美術の1000年展』東京国立博物館他編 (朝日新聞社他) 1997、『美術を書く』バーネット・シルヴァン (東京美術) 2014、『オリエンタリストの憂鬱-植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学-』藤原貞朗 (めこん) 2008、『アジア仏教美術論集 (全12巻)』宮治昭・肥田路美・板倉聖哲監修 (中央公論美術出版)								
教員からのお知らせ	東南アジアの美術・歴史・文化に関心があり、意欲的に学ぶ受講生を歓迎する。また、受講生に作品鑑賞文を書いてもらい、その次の講義で紹介する機会を複数回設ける。講義はパワーポイントのスライドを中心に進め、テキストは使用しない。毎回、ハンドアウトや図版などの資料を配布するので、適宜参照すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0110700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	アジア美術史2				久保 真紀子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、アジアの文化遺産について多様な観点から学ぶ。前半は、アジア各地に残る寺院建築や美術に着目し、その歴史的背景や造形的特徴、およびそれらを取り巻く環境や諸問題について理解を深める。後半は、東南アジアの文化遺産を毎回採り上げ、その建築や美術の鑑賞を通して、各地に残る文化的多様性を理解する。								
到達目標	アジアの寺院建築や美術の特徴を理解し説明できるようになる。文化遺産を歴史的な視点だけでなく、現代的な視点からもとらえられるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】アジアの石造建築と技術 【第2回】アジアの青銅彫刻 【第3回】現代の石彫・木彫技術と職人をめぐる課題 【第4回】アジアの文化遺産と保存修復活動（1）遺跡現場での取り組み 【第5回】アジアの文化遺産と保存修復活動（2）博物館の取り組み 【第6回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（1）ベトナム 【第7回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（2）タイ〈先タイ期〉 【第8回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（3）タイ〈純タイ期〉 【第9回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（4）ミャンマー 【第10回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（5）インドネシア〈建築史・美術史の概説〉 【第11回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（6）インドネシア〈ボロブドゥールとプランバナン〉の彫刻 【第12回】東南アジアの文化遺産・建築・彫刻（7）インドネシア美術のまとめ 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、授業時間内に指示する課題の提出状況と内容（20%）、期末試験（40%）を総合して、成績を評価する。								
フィードバックの内容	毎回の授業に対する感想や課題を課す。提出された内容に基づき、その後の授業で補足説明する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『東南アジア史〈1〉大陸部（新版 世界各国史）』石井米雄・桜井由躬雄編（山川出版社）1999、『東南アジア史〈2〉島嶼部（世界各国史）』池端雪穂編（山川出版社）1999、『インド・東南アジアの文様（世界の文様）』石澤良昭他編（小学館）1991、『アンコールワットの彫刻』伊東照司（雄山閣）2009、『世界美術大全集 東洋編 12 東南アジア』肥塚隆責任編集（小学館）2001、『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』千原大五郎（鹿島出版会）1982、『アンコールワットとクメール美術の1000年展』東京国立博物館他編（朝日新聞社他）1997、『美術を書く』バーネット・シルヴァン（東京美術）2014、『オリエンタリストの憂鬱－植民地主義時代のフランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学－』藤原貞朗（めこん）2008、『アジア仏教美術論集（全12巻）』宮治昭・肥田路美・板倉聖哲監修（中央公論美術出版）								
教員からのお知らせ	東南アジアの美術・歴史・文化に関心があり、意欲的に学ぶ受講生を歓迎する。また、受講生には数回にわたって作品鑑賞文の課題を課し、それを次の授業で紹介する機会を設ける。講義はパワーポイントのスライドを中心に進め、テキストは使用しない。毎回、ハンドアウトや図版などの資料を配布するので、適宜参照すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	17Y0105901	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	松井 広美	開講期	集中
科目名	インターンシップB(課題解決型)				松井 広美			集中	
履修前条件					備考				
授業の目的	本授業は、三省による合意「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」に基づき、産学協議会基準に準拠した3年生以上を限定とした本格的なインターンシップである。実習を通して、企業が直面している問題を理解し、社員と共に解決策を見出すことで、問題解決能力を養う。また、事前学習・実習・事後学習を通じ、インターンシップでの一連の流れや意識すべきことを学び、希望のキャリアに沿った就職活動の実現を目的とする。								
到達目標	企業から出された課題(例:地域貢献の具体的な方法やSNS等での企業アピール方法、企業内施設のリノベーション提案など)に対し、社員とのディベートや会議を通して、プレゼンテーション能力を養う。実習での学びを発表する「報告会」などを通して、自己理解、表現の重要性を理解・実践できるようになることを目標とする。								
授業外学習内容・授業外学習時間数	与えられた課題に取り組み、解決策を見出し、プレゼンテーションの準備を行うなど、60時間以上の授業外学習時間が必要となる。								
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション・ESの書き方・インターンシップの心構え・ビジネスマナー</p> <p>【第2回】実習準備(1)企業・業界研究の方法</p> <p>【第3回】実習準備(2)課題解決の手法・課題設定・検証 他</p> <p>【第4回】実習準備(3)グループワーク・役割の重要性/グループディスカッション体験</p> <p>【第5回】実習準備(4)ケーススタディ(企業講師による課題解決)</p> <p>【実習】インターンシップ(課題解決型実習)※夏期休業期間中に原則5日以上</p> <p>【第6回】事後学習(1)実習で得たものの把握・自己已評価</p> <p>【第7回】事後学習(2)プレゼンテーションの見せ方・話し方</p> <p>【第8回】事後学習(3)報告会準備・リハーサル</p> <p>【第9回】報告会(1)</p> <p>【第10回】報告会(2)まとめ</p> <p>※本科目は選考を通過した学生が履修することができる。履修を希望する学生は、ガイダンス期間に行われる「インターンシップガイダンス」に出席すること。通常の履修登録期間での登録は不要。</p>								
成績評価の方法	実習準備・事後学習の取り組み姿勢(30%)、実習生評価表(10%)、実習・報告会の取り組み(20%)、課題(40%)								
フィードバックの内容	リアクションペーパーで寄せられた意見は全体共有を行うときもある。								
教科書	『CAREER COMPASS 2028』立正大学キャリアサポートセンター2026年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学外の講師による講演が授業計画の一部に含まれるため、授業計画は変更されることがあります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	実習、意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、問題解決学習(PBL)、発見学習・体験学習、グループワーク、プレゼンテーションなど								
実践的な教育内容	実務を学ぶため、企業によるゲスト講師の回もある。								
その他									

講義コード	11A0108000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	木村 紫	開講期	第1期
科目名	インド哲学仏教学特講1				木村 紫			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	アビダルマは経・律・論の三蔵のうちの論であり、経をどのように理解するかということから始まっています。世親が書いた『俱舍論』は、説一切有部のアビダルマだけではなく、大乘仏教を理解する上でも基礎となる、とても重要な論書です。この授業では『俱舍論』で説かれている基本的な項目を幾つか採り上げ、そこに出てくる用語や概念について説明します。								
到達目標	『俱舍論』で提示されている、サンスクリットと漢訳で表記された基本的な語を理解できます。『俱舍論』で提示される有部の考え方と瑜伽行派に繋がる世親の考え方を通じて、仏教論書を分析する道筋を身につけます。								
授業外学習内容・授業外学習時間数	授業で扱ったこと、紹介した資料などをもとに、『俱舍論』の和訳研究や漢訳も参考にして、60時間以上の授業外学修を行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】『俱舍論』と有部アビダルマ</p> <p>【第2回】世界と有情</p> <p>【第3回】五蘊・十二処・十八界</p> <p>【第4回】物質的な存在</p> <p>【第5回】心と心作用(1)</p> <p>【第6回】心と心作用(2)</p> <p>【第7回】小さいまとめと補足</p> <p>【第8回】心と相応しない法</p> <p>【第9回】原因と結果(1)</p> <p>【第10回】原因と結果(2)</p> <p>【第11回】意業・語業・身業</p> <p>【第12回】涅槃に至る道</p> <p>【第13回】全体のまとめ</p>								
成績評価の方法	期末試験(35%)、授業への取り組み姿勢(授業内容に関する質問等を毎回授業時間内に簡単に記入提出して頂きます)(35%)及び課題の提出2回(30%)を基に総合的に評価します。								
フィードバックの内容	頂いた授業内容に関する質問等を授業に反映させて講義を進めます。また、課題の講評は授業時間内に行います。								
教科書	授業内容に関するプリントを配布し、教科書は特には定めません。								
指定図書	『存在の分析「アビダルマ」』櫻部建・上山春平(角川書店)1996、『俱舍論の研究【界・根品】』櫻部建(法蔵館)2011、『俱舍論の原典解明【世間品】』山口益・舟橋一哉(法蔵館)2012、『俱舍論の原典解明 業品』舟橋一哉(法蔵館)2011、『俱舍論の原典研究 随眠品』櫻部建・小谷信千代(大蔵出版)2007、『俱舍論の原典解明 賢聖品』櫻部建・小谷信千代・本庄良文(大蔵出版)1999、『俱舍論の原典研究 智品・定品』櫻部建・小谷信千代・本庄良文(大蔵出版)2005、『破我品の研究』櫻部建(『大谷大学研究年報』12号)1959、『俱舍-絶ゆることなき法の流れ』青原令知編(自照社出版)2015、『佛典講座 俱舍論』櫻部建(大蔵出版)2002								
参考書	『俱舍論註ウパーイカーの研究 上』本庄良文(大蔵出版)2014、『俱舍論註ウパーイカーの研究 下』本庄良文(大蔵出版)2014、『国訳一切経印度撰述部二十五』西義雄訳(大東出版社)1990、『国訳一切経印度撰述部二十六上』西義雄訳(大東出版社)1990、『国訳一切経印度撰述部二十六下』西義雄訳(大東出版社)1989、『アビダルマディーバの研究』三友健彦(平楽寺書店)2007								
教員からのお知らせ	聞き慣れない言葉が沢山並ぶ、入り組んだジャングルのようなのですが、私たち自身を観察し、分析し、涅槃に至る道を論じています。疑問に思うことを質問したり、調べたりして探検する楽しさも感じてみましょう。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習、教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0108100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	インド哲学仏教学特講2				庄司 史生		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	この授業では、仏教思想史の観点から、特にインドにおける大乘仏教の展開の中で欠かすことのできない「龍樹の思想と中観派の歴史的展開」(アビダルマ仏教→龍樹『中論』→瑜伽行派→中観派)について学ぶことを目的とする。						
到達目標	仏教思想史上における「龍樹の思想と中観派の歴史的展開」の意義とその役割について説明することができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義の受講にあたっては、テキストを事前に読み、読み方や意味の分からない用語について、辞書などであらかじめ調べておくこと。 講義後は復習を重ね、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	<p>[1] 中道の哲学</p> <p>【第1回】(1)「無記と四諦」「無記と六十二見」「『中論』の課題」(pp.270-292)</p> <p>【第2回】(2)「縁起と空観」「八不」(pp.293-322)</p> <p>【第3回】(3)「中道」「空観と批判」(pp.323-342)</p> <p>[2] 空の思想</p> <p>【第4回】(1)龍樹の人と年代・『般若経』の思想家たち (pp.18-43)</p> <p>【第5回】(2)アビダルマの思想家たち (pp.44-66)</p> <p>[3] 龍樹の思想</p> <p>【第6回】(1)「根本的立場」(pp.67-80)</p> <p>【第7回】(2)空の論理①「依存性」(pp.80-93)</p> <p>【第8回】(3)空の論理②「本体の否定」「原因と結果の否定」「運動と変化の否定」(pp.93-108)</p> <p>【第9回】(4)空の論理③「主体とその作用の否定」「主体と客体の否定」(pp.108-122)</p> <p>【第10回】(5)空の論理④「ことばと対象の関係の否定」(pp.123-131)</p> <p>【第11回】(6)空の論理⑤「本体の論理と現象の論理」(pp.131-145)</p> <p>【第12回】(7)龍樹の宗教 (pp.145-163)</p> <p>[4] 中観派の形成とその後の展開</p> <p>【第13回】中期中観派と後期中観派 (pp.164-187, pp.188-228)</p> <p>※(カッコ内)はテキストのページ数。</p>						
成績評価の方法	平常点60%(授業への取り組み姿勢30%+毎回の課題提出30%)と学期末の課題提出40%により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書	『空の論理「中観』』梶山雄一, 上山春平(角川書店)1997						
指定図書							
参考書	『般若経大全』小峰彌彦, 勝崎裕彦, 渡辺章悟編(春秋社)2015、『空と中観』桂紹隆[ほか](春秋社)2012、『中観思想』梶山雄一(春秋社)1982、『龍樹『根本中頌』を読む』桂紹隆, 五島清(春秋社)2016、『仏教・インド思想辞典(新装版)』高崎直道編集代表(春秋社)2013						
教員からのお知らせ	必要に応じて、授業内にて参考文献を追加で紹介いたします。 過剰な私語など、授業のさまたげとなる行為は控えてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2108200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	伊藤 瑞康	開講期	第1期
科目名	インド哲学仏教学特講3					伊藤 瑞康		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	インド哲学・仏教学の基本概説書ならびに原典に基づいて、インド仏教学の基礎ならびに唯識教学の基本的教理を学ぶ。重要な教理については可能な限りテキストを解説し、文献学的方法論に基づいた研究も視野に入れた講義とする。また、唯識教学の基礎を理解するとともに、それに基づいて仏教の認識論や存在論についての考察まですすみたい。								
到達目標	唯識教学について、その基本的な教義を理解・習得することを到達目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの予習をして、意味の分からない用語や重要な成語については、あらかじめ辞書や事典などでその意味・概念を可能な限り確認しておくこと。 また、講義後には入念に復習をして習得したことがらを確認し、もって次回の講義の準備とすることが望ましい。以上の授業外学修時間は60時間を目安とする。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・唯識思想の成立と背景 【第2回】 唯識思想の展開、唯識思想の諸文献について 【第3回】 唯識思想における基本教理の概説（1） 【第4回】 唯識思想における基本教理の概説（2） 【第5回】 法相宗について 【第6回】 三乗と五性について 【第7回】 五位百法説・八識説（1） 【第8回】 五位百法説・八識説（2） 【第9回】 三性三無生説 【第10回】 唯識思想における修道論 【第11回】 アーラヤ識についての考察（1） 【第12回】 アーラヤ識についての考察（2） 【第13回】 「唯識」とはなにか。第1期のまとめ								
成績評価の方法	レポート60%、授業への取り組み40%、として評価します。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『認識と超越〈唯識〉－仏教の思想〈4〉』服部正明他（角川書店）1997、『講座・大乘仏教 第8巻 唯識思想』平川彰他編（春秋社）1995、『シリーズ大乘仏教（7）唯識と瑜伽行』桂紹隆編（春秋社）2012								
教員からのお知らせ	教科書として、テキストならびに資料のコピーを配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有や議論など、積極的に講義に参加する姿勢を望みます。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2108300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	伊藤 瑞康	開講期	第2期
科目名	インド哲学仏教学特講4					伊藤 瑞康		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	インド哲学・仏教学の基本概説書ならびに原典に基づいて、華厳教学の基本的教理を学ぶ。重要な教理については可能な限りテキストを解説し、文献学的方法論に基づいた研究も視野に入れた講義とする。本講義においては、インドにおける華厳思想の展開について概観した上で、中国仏教の華厳教学の基礎を学ぶ。また進捗に応じて、実際に原典にあたって重要な教理を学び、最新の研究成果を紹介する。								
到達目標	華厳思想ならびに華厳教学について、その基本的な教義を理解・習得することを到達目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	テキストの予習をして、意味の分からない用語や重要な成語については、あらかじめ辞書や事典などでその意味・概念を可能な限り確認しておくこと。 また、講義後には入念に復習をして習得したことがらを確認し、もって次回の講義の準備とすることが望ましい。以上の授業外学修時間は60時間を目安とする。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション・華厳経について 【第2回】 インド仏教における華厳経の思想について 【第3回】 華厳宗の成立と背景 【第4回】 華厳宗の歴史と祖師・華厳宗の展開 【第5回】 五教十宗の教判（小乗教・大乘始教） 【第6回】 五教十宗の教判（大乘終教） 【第7回】 五教十宗の教判（大乘終教・頓教） 【第8回】 五教十宗の教判（円教） 【第9回】 十玄縁起 【第10回】 六相円融・事事無礙法界（1） 【第11回】 六相円融・事事無礙法界（2） 【第12回】 四種法界・仏身と仏土 【第13回】 第2期のまとめ								
成績評価の方法	レポート60%、授業への取り組み40%、として評価します。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書	『無限の世界観〈華厳〉 仏教の思想〈6〉』鎌田茂雄他（角川書店）1996、『講座・大乘仏教 第3巻 華厳思想』平川彰他編（春秋社）1995、『華厳の思想』鎌田茂雄（講談社）1988								
教員からのお知らせ	教科書として、テキストならびに資料のコピーを配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有や議論など、積極的に講義に参加する姿勢を望みます。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0106000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	袁 輪 顕 量	開講期	第1期
科目名	インド仏教史概論／インド仏教史1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>佛教はインドに生まれ、インドにおいて展開した。そこには歴史的な展開が存在した。その展開を初期、中期、後期の三つに分けながら概観し、インドにおける仏教の展開を理解できるようにする。</p>								
到達目標	<p>インドにおける仏教の展開が、他の宗教との関係も含めて理解できるようになることを目指す。思想的な展開と歴史的な展開と二つにわけて理解でき、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>参考書を指定するので、目を通すこと。この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 総論 【第2回】 仏教誕生の背景 【第3回】 ゴータマシッダールタの目指したもの 【第4回】 瞑想の展開 【第5回】 部派への展開 【第6回】 大乘仏教の興起 【第7回】 般若経と中観派 【第8回】 瑜伽師地論と瑜伽行派 【第9回】 新しい思想 如来蔵 【第10回】 密教の興起 【第11回】 初期密教の展開 【第12回】 中・後期密教の特徴 【第13回】 密教に見る修行道</p>								
成績評価の方法	<p>期末に課するレポート試験で判定する</p>								
フィードバックの内容	<p>質問はLMSにて受け付けるので、疑問があったら聞いてほしい。それに返信をする形でフィードバックとする。</p>								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	<p>出席を重視します</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。</p>								
アクティブラーニングの内容	<p>意見共有、能動的な授業外学習など</p>								
実践的な教育内容	<p>瞑想指導の経験があり、時折その経験を交えて講義をする予定である。</p>								
その他									

講義コード	11A0117700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	庄 司 史 生	開講期	第1期
科目名	インド仏教思想概論								
履修前提条件					備考				
授業の目的	<p>インドの仏教思想の発展とその歴史的展開について講義する。仏教思想が有する普遍性とその歴史にみる仏教の多様性について理解することを目的とする。</p>								
到達目標	<p>インドの仏教思想がいかに発展し、それがどのように歴史的に展開したかを理解し、説明することができる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】 はじめに 【第2回】 ブッダの生涯 【第3回】 拡散していた仏説の集約、教団内における共有化 【第4回】 教団の分裂と諸法の体系化、アビダルマ仏説論の展開 【第5回】 新たな「経」の出現と浸透（初期大乘経典） 1 【第6回】 “ ” 2 【第7回】 伝統的教説に基づく空思想の理論化と「大乘」の擁護 【第8回】 大乘非仏説・仏説論の展開（中期大乘経典） 【第9回】 上座部大寺派教学の大成 【第10回】 瑜伽行派と中観派の興隆と仏教論理学の勃興（後期大乘経典） 【第11回】 部派からの大乘批判、そして大乘から密教へ 【第12回】 後期インド仏教の発展と衰退 【第13回】 まとめ</p>								
成績評価の方法	<p>平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価します。</p>								
フィードバックの内容	<p>フィードバックは授業内にて行います。</p>								
教科書									
指定図書									
参考書	<p>『仏教史研究ハンドブック』 佛教史学会編（法蔵館）2017、『仏典解題事典（第三版）』 斎藤明【ほか】編（春秋社）2020、『岩波仏教辞典（第三版）』 中村元【ほか】編集（岩波書店）2023</p>								
教員からのお知らせ	<p>使用する資料等は毎回授業内で配布します。</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。</p>								
アクティブラーニングの内容	<p>課題解決型学習</p>								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0109400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	インド文化概論／アジア文化史 1				久保 真紀子		第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	仏教やヒンドゥー教を生み出した古代インド文明の成立と発展について、政治的、経済的、社会的な展開を軸に学ぶ。						
到達目標	南アジア世界の多様性を、周辺諸地域との影響関係を踏まえながら歴史的に理解する。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書および指定図書に基づき講義を行うので、それらの書籍を使って各自60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 インド亜大陸 【第2回】 インダス文明の謎 【第3回】 アーリヤ人と先住民 【第4回】 農耕社会の成立 【第5回】 古代王国の成立 【第6回】 非正統派思想の興起 【第7回】 古代インドの統一帝国 【第8回】 外来民族と土着勢力 【第9回】 流動期の亜大陸 【第10回】 古典文化の繁栄 【第11回】 有力国家の分立と抗争 【第12回】 転換期の社会と宗教 【第13回】 総括 						
成績評価の方法	期末試験（40％）、および授業への取り組み姿勢（60％）により評価する。						
フィードバックの内容	毎回の授業の最後に、その回の内容を振り返る課題に取り組んでもらい、次回授業冒頭でフィードバックを行う。						
教科書	『世界の歴史3 古代インドの文明と社会』山崎元一（中央公論社（中央文庫））2009						
指定図書	『古代インド』中村元（講談社（講談社学術文庫））2004						
参考書							
教員からのお知らせ	講義は教科書の内容をまとめたパワーポイントのスライドを中心に進める。毎回の配布資料は、授業時に教室で配布する。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。						
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
その他							

講義コード	11A0151001	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	英語 1A				戸田 裕久		第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさと文化的背景を理解し心情に触れる。						
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うのが望ましい。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 Chapter 2. The Buddha (introduction) 【第2回】 The Life of the Buddha (outline) 【第3回】 Chapter 1. Buddhism and elephants (intro.) 【第4回】 Is Buddhism a religion ? 【第5回】 The seven dimensions of religion 【第6回】 The practical and ritual dimension 【第7回】 The experiential and emotional dimension 【第8回】 The narrative and mythic dimension 【第9回】 The doctrinal and philosophical dimension 【第10回】 The ethical and legal dimension 【第11回】 The social and institutional dimension 【第12回】 The material dimension 【第13回】 第1期講読内容総括 						
成績評価の方法	レポート2回（60％）、当番発表2回（30％）、授業への取り組み姿勢（10％）。						
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。						
教科書	『BUDDHISM: A Very Short Introduction』Damien Keown (Oxford University Press) 2013						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を適宜複写して配布します（各自で購入する必要はありません）。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	反転授業、演習、プレゼンテーション						
その他	授業には必ず出席すること。遅刻しないこと。スマートフォン等で遊ばないこと。受講生同士互いに尊重し合い、学友の発表の折には特に静粛に傾聴するよう心がけてください。						

講義コード	11A0151002	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期	
科目名	英語1B				戸田 裕久			第1期		
履修前提条件					備考					
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさや文化的背景を理解し心情に触れる。									
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うのが望ましい。									
授業計画	【第1回】 Chapter 2. The Buddha (introduction) 【第2回】 The Life of the Buddha (outline) 【第3回】 Chapter 1. Buddhism and elephants (intro.) 【第4回】 Is Buddhism a religion ? 【第5回】 The seven dimensions of religion 【第6回】 The practical and ritual dimension 【第7回】 The experiential and emotional dimension 【第8回】 The narrative and mythic dimension 【第9回】 The doctrinal and philosophical dimension 【第10回】 The ethical and legal dimension 【第11回】 The social and institutional dimension 【第12回】 The material dimension 【第13回】 第1期講読内容総括									
成績評価の方法	レポート2回(60%)、当番発表2回(30%)、授業への取り組み姿勢(10%)。									
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。									
教科書	『<教科書> BUDDHISM : A Very Short Introduction』 Damien Keown (Oxford University Press) 2013									
指定図書										
参考書										
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を適宜複写して配布します(各自で購入する必要はありません)。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。									
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション									
実践的な教育内容										
その他	授業には必ず出席すること。遅刻しないこと。スマートフォン等で遊ばないこと。受講生同士互いに尊重し合い、学友の発表の折には特に静粛に傾聴するよう心がけてください。									

講義コード	11A0151101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期	
科目名	英語2A				戸田 裕久			第2期		
履修前提条件					備考					
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさや文化的背景を理解し心情に触れる。									
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うのが望ましい。									
授業計画	【第1回】 Chapter 8. Ethics (introduction) 【第8回】 Rights 【第2回】 Dharma 【第9回】 Human rights 【第3回】 Ahimsa, or the inviolability of life 【第10回】 War and terrorism (1) 【第4回】 Buddhist precepts 【第11回】 War and terrorism (2) 【第5回】 Virtues 【第12回】 War and terrorism (3) 【第6回】 Monastic ethics 【第13回】 第2期講読内容総括 【第7回】 Skillful means									
成績評価の方法	レポート2回(60%)、当番発表2回(30%)、授業への取り組み姿勢(10%)。									
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。									
教科書	『BUDDHISM : A Very Short Introduction』 Damien Keown (Oxford University Press) 2013									
指定図書										
参考書										
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を複写して配布します。なお、毎回授業で紹介する歌は、成績には直接関わりませんが、世の中、数字で表わされないものに本当の価値があったりするもの。そこにこそ皆さんに伝えたいことがあるのです。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。									
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション									
実践的な教育内容										
その他	いつまで続くんか、この苦役苦行は。と思っていた英語の授業も、振り返ってみれば、あつという間だった気がするでしょう。必修の授業は1年足らずで済みますが、外国語との付き合いはずっと続きます。一生勉強です。									

講義コード	11A0151102	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期
科目名	英語2B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	異文化理解、それは異なる文化圏の人々の物の見方や考え方に触れ多少の違和感を覚えつつも受容し共感しようとする試み。異言語により築かれた文化を他者が理解するのは容易ではない。この授業では、西洋の研究者が東洋の思想や文化を研究し理解した成果を英語で記した文献を精読することを通して、異文化理解を体験的に学修する。また、歌詞と旋律と編曲に優れた名曲を鑑賞し、英語表現の豊かさや文化的背景を理解し心情に触れる。								
到達目標	学術的な英語文献を精読し内容を正確に把握することができる。教材の叙述方法を手本として、自分の見解を英語で論理的に述べることができる。英米語のネイティブスピーカーの発音が聞き取れる。欧米人の物の見方・考え方・言語感覚および心性を知ることができる。自分の見解や心情を正確に活き活きと英語で表現できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読される英語論説文の次回予定箇所を各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正すること。特に翻訳当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】 Chapter 8. Ethics (introduction) 【第2回】 Dharma 【第3回】 Ahimsa, or the inviolability of life 【第4回】 Buddhist precepts 【第5回】 Virtues 【第6回】 Monastic ethics 【第7回】 Skillful means			【第8回】 Rights 【第9回】 Human rights 【第10回】 War and terrorism (1) 【第11回】 War and terrorism (2) 【第12回】 War and terrorism (3) 【第13回】 第2期講読内容総括					
成績評価の方法	レポート2回 (60%)、当番発表2回 (30%)、授業への取り組み姿勢 (10%)。								
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教材は必要箇所を複写して配布します。なお、毎回授業で紹介する歌は、成績には直接関係ありませんが、世の中、数字で表わされないものに本当の価値があったりするもの。そこにこそ皆さんに伝えたいことがあるのです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他	いつまで続くんか、この苦役苦行は。と思っていた英語の授業も、振り返ってみれば、あつという間だった気がするでしょう。必修の授業は1年足らずで済みますが、外国語との付き合いはずっと続きます。一生勉強です。								

講義コード	11A0151203	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	高橋 堯英	開講期	第1期
科目名	英語3(再履修)								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、日本の仏教学者が仏教と日本の仏教文化を解説する英文を精読し翻訳することを通して、英語の基礎力を高めることを目的とする。								
到達目標	基本的な英語の文法を再確認し、語彙力を伸ばすことが出来る。仏教についての基礎知識を再確認し、日本の仏教文化について理解を深めることが出来る。そして、それらを英語により発信するための基礎知識を身につけることが出来る。また、リスニングの練習を通じ、英語の音に慣れることで、その能力向上を図ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読する英文を事前に各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正する。翻訳担当の当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をしてください。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねてください。また、折に触れ行われるリスニング学習により、その能力開発に努めることができる。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】 前期オリエンテーション & General Outline of the Religious Consciousness of the Japanese People 【第2回】 What Japanese Buddhism is (1) 【第3回】 What Japanese Buddhism is (2) 【第4回】 Relationship between Buddhism and Japanese Culture (1) 【第5回】 Relationship between Buddhism and Japanese Culture (2) 【第6回】 Basic Doctrines of Buddhism (1) 【第7回】 Basic Doctrines of Buddhism (2) 【第8回】 Basic Doctrines of Buddhism (3) 【第9回】 Buddhist Denominations and Schools in Japan (1) 【第10回】 Buddhist Denominations and Schools in Japan (2) 【第11回】 "Do" or the Way of Activities, Differences between Buddhism and Chritinanity 【第12回】 Buddhist Customs and Traditions in Everyday Life (1) 【第13回】 Buddhist Customs and Traditions in Everyday Life (2)								
成績評価の方法	授業参加 (30%)、毎回の復習のための課題提出 (20%)、当番発表2回 (20%)、学期末レポート (30%)。								
フィードバックの内容	復習のための課題や当番翻訳についての講評を翌週以降の授業内において行う。								
教科書	『Interoducing Japanese Buddhism』 Shoyu Hanayama (Daizo Shuppan Col.Ltd.) 1983								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教材は必要箇所の PDF を配布する (各自で購入する必要はない)。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他	授業への出席は必須とする。遅刻はしないように注意すること。スマートフォン等で遊ばないこと。受講生同士互いに尊重し合い、学友の発表の折には特に静粛に傾聴するように心がけてほしい。								

講義コード	11A0151201	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	英語3A				太田 美智子		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	英語の基礎力を固めることを目的とします。 テキストはトルコやブラジルなど世界の国々を扱っており、そこから様々な文化に触れることができます。 そして英語の4技能を伸ばせるように配慮されています。 親しみ深い内容を通して学べると思います。						
到達目標	基本的な文法を理解し、語彙力を増やし、英語の基礎力向上をはかることが目標です。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	丁寧に辞書を引き予習をし、かつ必ず復習をすること。 最低60時間以上の授業外学習時間を確保して下さい。						
授業計画	【第1回】前期オリエンテーション 【第2回】Chapter 1 Meeting New People 前半 【第3回】Chapter 1 Meeting New People 後半 【第4回】Chapter 2 Exploring the Town 前半 【第5回】Chapter 2 Exploring the Town 後半 【第6回】Chapter 3 Going to a Festival 前半 【第7回】Chapter 3 Going to a Festival 後半 【第8回】Chapter 4 Food 前半 【第9回】Chapter 4 Food 後半 【第10回】Chapter 5 Marriage 前半 【第11回】Chapter 5 Marriage 後半 【第12回】Chapter 6 Traditional Clothes 【第13回】前期のまとめ						
成績評価の方法	授業中の小テスト (40%)、予習の有無および発表姿勢 (30%)、授業への取り組み姿勢 (30%)						
フィードバックの内容	こまめに確認テストを実施します。発表や小テストへのフィードバックは授業内に行います。						
教科書	『Our Fascinating World』 Aliise Donnere 他 (朝日出版社) 2025						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業中は原則スマホは使わず、真摯に取り組んで下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	積極的に授業に参加してください。そのためには率先して挙手したり、調べたことを発言する等の姿勢を示してください。 また、場合によってはディスカッションやディベートも行いましょう。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0151202	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	英語3B				太田 美智子		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	英語の基礎力を固めることを目標とします。 特にリスニング力の向上を目的とします。日常的なシチュエーションで相手の話している内容を理解できることを指標とします。						
到達目標	基本的な文法を理解し、語彙力を増やし、英語の基礎力向上をはかることが目標です。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	丁寧に辞書を引き予習をし、かつ必ず復習をすること。 最低60時間以上の授業外学習時間を確保して下さい。						
授業計画	【第1回】後期オリエンテーション 【第2回】Chapter 1 Let Me Introduce My Hometown 前半 【第3回】Chapter 1 Let Me Introduce My Hometown 後半 【第4回】Chapter 2 And Here Is Today's News 前半 【第5回】Chapter 2 And Here Is Today's News 後半 【第6回】Chapter 3 Support Us! 前半 【第7回】Chapter 3 Support Us! 後半 【第8回】Chapter 4 I'm Honored to Be Here 前半 【第9回】Chapter 4 I'm Honored to Be Here 後半 【第10回】Chapter 5 Thank You for Flying with Us Today 前半 【第11回】Chapter 5 Thank You for Flying with Us Today 後半 【第12回】Chapter 6 【第13回】前期のまとめ						
成績評価の方法	授業中の小テスト (40%)、予習の有無および発表姿勢 (30%)、授業への取り組み姿勢 (30%)						
フィードバックの内容	こまめに確認テストを実施します。発表や小テストへのフィードバックは当日授業内に行います。						
教科書	『English Sound Box』 大塚朝美他 (金星堂) 2014						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0151303	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	英語4(再履修)				高橋 堯英		第2期
履修前条件					備考		
授業の目的	この授業では、インソップ物語の原型ともいわれる機知に富むサンスクリット語の説話 Pancatantra の英訳をもとにする作品を精読し翻訳することを通して、英語の語彙を増やし、基礎的な英語力を高めることを目的とする。						
到達目標	基本的な英文法を再確認することができる。また、英語の語彙力を伸ばすことができる。英語による作品を講読することを通じインドの説話文学に触れ、古代インド人の思惟に触れることができる。そして、その知識を英語により発信する基礎力を身につけることができる。また、リスニングの練習を通じ、英語の音に慣れ、その能力向上を図ることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	講読する英文を事前に各自和訳し、事後は既習箇所を再読して各自の和訳を修正する。翻訳担当の当番に指名されている者は入念に事前準備と事後修正をすること。教材の既習箇所を再読して内容を把握した上で音読練習を重ねること。これら予習・復習を各回1時間、計15時間以上行うのが望ましい。						
授業計画	【第1回】前期オリエンテーション：Pancatantra について 【第2回】Book 1 The Loss of Friends: Story 1～Story 3 【第3回】Story 4～Story 6 【第4回】Story 7～Story11 【第5回】Story 12～Story 14 【第6回】Story 15～Story 17 【第7回】Story 18～Story 20 【第8回】Book 2：Winning Friends Stories 26、27、28 【第9回】Book 3：Crows and Owls Stories 29,30,31 【第10回】Stories 32,33,34, 【第11回】Stories 35,36,37, 【第12回】Book 4：Stories 41,42,43,44,45 【第13回】Book 5：Story 46、47,48,49						
成績評価の方法	授業参加（30%）、復習のための課題提出（20%）、当番発表2回（20%）、学期末レポート（30%）。						
フィードバックの内容	当番翻訳のレポート等の講評を翌週以降の授業内において行う。						
教科書	『The Panchatantra』Sunita Prasuraman (Jaico Publishing Huse) 2011						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	用いる教材は毎回事前に必要箇所を OpenLMS 上でアップロードするので、各自でわからぬ単語を調べるなど予習をして授業に臨んでほしい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業、演習、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
その他	授業への出席は必須とする。遅刻はしないように注意すること。スマートフォン等で遊ばないこと。受講生同士互いに尊重し合い、学友の発表の折には特に静粛に傾聴するように心がけてほしい。						

講義コード	11A0151301	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	英語4A				太田 美智子		第2期
履修前条件					備考		
授業の目的	英語の基礎力を固めることを目的とします。テキストはトルコやブラジルなど世界の国々を扱っており、そこから様々な文化に触れることができます。そして英語の4技能を伸ばせるように配慮されています。親しみ深い内容を通して学べると思います。						
到達目標	基本的な文法を理解し、語彙力を増やし、英語の基礎力向上をはかることが目的です。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	丁寧に辞書を引き予習をし、かつ必ず復習をすること。最低60時間以上の授業外学習時間を確保して下さい。						
授業計画	【第1回】後期オリエンテーション 【第2回】Chapter 7 Superstitions 前半 【第3回】Chapter 7 Superstitions 後半 【第4回】Chapter 8 Public Speech 前半 【第5回】Chapter 8 Public Speech 後半 【第6回】Chapter 9 Music 前半 【第7回】Chapter 9 Music 後半 【第8回】Chapter 10 Modern Folklore 前半 【第9回】Chapter 10 Modern Folklore 後半 【第10回】Chapter 11 Gender Identity 前半 【第11回】Chapter 11 Gender Identity 後半 【第12回】Chapter 12 Problems of Our Times 【第13回】後期のまとめ						
成績評価の方法	授業中の小テスト（40%）、予習の有無および発表姿勢（30%）、授業への取り組み姿勢（30%）						
フィードバックの内容	こまめに確認テストを実施します。発表や小テストへのフィードバックは当日授業内に行います。						
教科書	『Our Fascinating World』Alize Donnere 他（朝日出版社）2025						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業中は原則スマホは使わず、真摯に取り組んで下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	積極的に授業に参加してください。そのためには率先して挙手したり、調べたことを発言する等の姿勢を示してください。また、場合によってはディスカッションやディベートも行いましょう。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0151302	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	英語4B				太田 美智子		第2期
履修前提条件					備考		
授業の目的	英語の基礎力を固めることを目標とします。 特にリスニング力の向上を目的とします。 日常的なシチュエーションで相手の話している内容を理解できることを指標とします。						
到達目標	基本的な文法を理解し、語彙力を増やし、英語の基礎力向上をはかることが目的です。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	丁寧な辞書を引き予習をし、かつ必ず復習をすること。 最低60時間以上の授業外学習時間を確保して下さい。						
授業計画	【第1回】 後期オリエンテーション 【第2回】 Chapter 6 Thank You for Calling 前半 【第3回】 Chapter 6 Thank You for Calling 後半 【第4回】 Chapter 7 Enjoy the Rhythm and Rhyme 前半 【第5回】 Chapter 7 Enjoy the Rhythm and Rhyme 後半 【第6回】 Chapter 8 Swing the Music 前半 【第7回】 Chapter 8 Swing the Music 後半 【第8回】 Chapter 9 Stay Tuned! 前半 【第9回】 Chapter 9 Stay Tuned! 後半 【第10回】 Chapter 10 You'll Love It 前半 【第11回】 Chapter 10 You'll Love It 後半 【第12回】 Chapter 11 Nice to Meet you 【第13回】 後期のまとめ						
成績評価の方法	授業中の小テスト (40%)、予習の有無および発表姿勢 (30%)、授業への取り組み姿勢 (30%)						
フィードバックの内容	こまめに確認テストを実施します。発表や小テストへのフィードバックは当日授業内に行います。						
教科書	『English Sound Box』大塚朝美他 (金星堂) 2014						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業中は原則スマホは使わず、真摯に取り組んで下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。						
アクティブラーニングの内容	積極的に授業に参加してください。そのためには率先して挙手したり、調べたことを発言する等の姿勢を示してください。また、場合によってはディスカッションやディベートも行いましょう。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0112500	授業形態	大崎受信遠隔	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	海外仏教文化研修4				兼輪頭量・田村亘禰		集中
履修前条件					備考		
授業の目的	本授業は、実地の見学・研修と事前事後の学習を併せて行うことによって、海外における仏教文化とその周辺について体験的に学習することを目的とします。 本年度はタイ王国を研修地（現地研修は5泊6日）とし、タイ仏教の歴史と現状について学習します。						
到達目標	研修で訪れた史跡や寺院、大学、研究所などの特色と歴史的背景・意義等に関して説明できる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	見学先となる史跡・寺院等の歴史・背景等の予習に40時間以上、事前学習会および現地での発表の準備に20時間以上、合計60時間以上の学修を行うこと。						
授業計画	<p>事前学習会を4回開催し、各史跡・寺院等の特色や、その歴史的背景についてあらかじめ知識を蓄えてもらいます。研修への参加を希望する（あるいは、考えている）学生は、必ず第1回の事前学習会に出席すること。それをふまえて、履修登録変更期間に履修登録を行ってください。</p> <p>【第1回】事前学習 4月18日（土）4限 【第2回】事前学習 5月23日（土）4限 【第3回】事前学習 6月27日（土）4限 【第4回】事前学習 7月25日（土）4限 【第5回】事後学習 10月 3日（土）4限（レポート提出）</p> <p>※事前学習会・事後学習会は以上の日程で行う予定。教室等の変更、日程変更があった場合は、仏教学部掲示板に掲示、もしくはポータルサイトで伝達します。登校時には必ずポータルサイトや仏教学部掲示板（2号館・4号館間の地下1階外廊下）を見るようにしてください。</p> <p>現地研修期間：9月9日（水）～9月15日（火）の7日間（予定） ※現地では、各自（もしくは班）の調査に基づく発表をしてもらう予定です。</p> <p>主な研修先： ○タマサート大学（バンコク） ○マハーチュラロンコン大学（バンコク） ○ダンマカーイ研究所（クロンルアン） ○ワットマハーダーツ（バンコク） ○プラムヴィレッジ（ナコンラッチャシーマ） ○ワットパースカトー（チャイヤプーム） ○ワットマヘヨン（アユタヤ） ○ワットラッチャンシータラム（バンコク）</p> <p>※日程・見学地いずれも予定であり、事情によって変更する場合があります。</p>						
成績評価の方法	事前学習・現地研修の平常点60%、研修レポート40%で成績を評価する。						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは、授業時に指示します。						
教科書	各種プリントを配布します。						
指定図書	授業中に適宜指示を出します。						
参考書	授業中に適宜指示を出します。						
教員からのお知らせ	事前・事後学習会には必ず参加し、新たな知見や必要な情報の修得に自ら努めること、また異なる文化圏における安全の確保や、集団での行動に対応出来るよう、健康を含め平素より自己管理を心がけることを求めます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応するほか、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、フィールドワークなど						
実践的な教育内容	仏教瞑想の指導の経験あり。						
その他	日本ならびに研修国等の法令に違反する行為、団体を乱し行動の妨げとなる行為、注意事項を怠る行為等を行った者は、参加中止・即刻帰国に処す場合があります。厳に自制し、実り多い研修となることを期待します。						

講義コード	11A0103200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第1期
科目名	開目抄講義1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	『開目抄』は、日蓮聖人の三大部の中に含まれる重要な書である。本書は、日蓮聖人流罪の地・佐渡において執筆され、その内容は、仏教を布教・実践する宗教者としての自覚を表明された書といわれている。大著である『開目抄』をじっくりと拝読し、日蓮聖人の仏教の特質と、自覚という心理的動向について理解していく。								
到達目標	『開目抄』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション～『開目抄』解題1 【第2回】『開目抄』解題2 【第3回】『開目抄』解題3 【第4回】『開目抄』講読1 【第5回】『開目抄』講読2 【第6回】『開目抄』講読3 【第7回】『開目抄』講読4 【第8回】『開目抄』講読5 【第9回】『開目抄』講読6 【第10回】『開目抄』講読7 【第11回】『開目抄』講読8 【第12回】『開目抄』講読9 【第13回】『開目抄』講読10-第1期まとめ								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント（事前学習の有無を判断）、最終試験70パーセント（事後学修の有無を判断）で評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行う。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年								
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第二巻』渡辺宝陽・関戸堯海（春秋社）2011年、『日本の仏典 9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年								
参考書	『開目抄講讀 上下』茂田井教亨（山喜房佛書林）1988年、『傍訳日蓮聖人御遺文 開目抄 上下』庵谷行亨・高森大乘（四季社）2001年、『日蓮聖人御遺文講義 第二巻』石川海典（日本仏書刊行会）1964年								
教員からのお知らせ	開目抄講義2をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』（日蓮宗寺院にはあると思います）は、授業に必ず持参するようにしてください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他、メールで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の重要な書である「開目抄」を解説し理解させる。								
その他									

講義コード	11A0103300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第2期
科目名	開目抄講義2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	『開目抄』は、日蓮聖人の三大部の中に含まれる重要な書である。本書は、日蓮聖人流罪の地・佐渡において執筆され、その内容は、仏教を布教・実践する宗教者としての自覚を表明された書といわれている。大著である『開目抄』をじっくりと拝読し、日蓮聖人の仏教の特質と、自覚という心理的動向について理解していく。								
到達目標	『開目抄』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】第1期復習・『開目抄』講読1 【第2回】『開目抄』講読2 【第3回】『開目抄』講読3 【第4回】『開目抄』講読4 【第5回】『開目抄』講読5 【第6回】『開目抄』講読6 【第7回】『開目抄』講読7 【第8回】『開目抄』講読8 【第9回】『開目抄』講読9 【第10回】『開目抄』講読10 【第11回】『開目抄』講読11 【第12回】『開目抄』講読12 【第13回】『開目抄』講読13-総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント（事前学習の有無を判断）、最終試験70パーセント（事後学修の有無を判断）で評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行っていく。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年								
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第二巻』渡辺宝陽・関戸堯海（春秋社）2011年、『日本の仏典 9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰（筑摩書房）1988年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年								
参考書	『開目抄講讀 上下』茂田井教亨（山喜房佛書林）1988年、『傍訳日蓮聖人御遺文 開目抄 上下』庵谷行亨・高森大乘（四季社）2001年、『日蓮聖人御遺文講義 第二巻』石川海典（日本仏書刊行会）1964年								
教員からのお知らせ	開目抄講義1をあわせて履修してください。その他、参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』（日蓮宗寺院にはあると思います）は、授業に必ず持参するようにしてください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他、メールで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して対話を行う。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の重要な書である「開目抄」を解説し理解させる。								
その他									

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義・演習	抽選の有無	—	担当教員	開講期
科目名	学修の基礎Ⅰ(A～C)					丹治 恭子	第1期
履修前条件		備考	講義コード [A] 11A0152003 [B] 11A0152004 [C] 11A0152005				
授業の目的	<p>本科目は、立正大学仏教学部入学者を対象に、高等学校までの生活から学問探究の場としての大学生活へとスムーズに移行し、学修に積極的に取り組めるよう、①仏教精神に由来する立正大学・仏教学部での学びの動機づけ、②充実した大学生活を送るために必要となる事項の理解、③大学生として求められる基礎的なコミュニケーションの方法ならびにアカデミック・スキルの修得、を主な目的としている。</p> <p>本授業では複数クラスを編成し、少人数制を導入する。①については、仏教学等を専門分野とする教員が「立正大学を知る」をテーマに講義を行い、②については、障害や命といった身近なテーマを専門とする講師を招いて特別講義を行う。なお、①②は講義内容に応じて全クラス合同での対面授業またはオンライン授業を実施する。③については、大学での研究・学修と関連づけながら、「話す」「聞く」「読む」「書く」といったコミュニケーション活動を用いて講義・演習を行う。なお、演習では、受講者同士のグループ・ワークを行い、実践的な理解を図る。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 立正大学仏教学部の一員としての誇りを持ち、学修に積極的に取り組むことができる。 大学生に求められる基礎的なアカデミック・スキルズについて理解することができる。 大学生活に必要なコミュニケーションの方法を理解し、実践することができる。 						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の講義で扱う項目について、授業内で提示する課題ならびに図書館及びインターネットを活用した予習・復習に取り組むこと。						
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション</p> <p>【第2回】文献読解基礎能力テスト / スタディ・スキル (1) —— メールを書く</p> <p>【第3回】スタディ・スキル (2) —— ノートをとる / 学生生活の留意点 (1) —— 大学生とカルト</p> <p>【第4回】スタディ・スキル (3) —— レポートとは何か、調べる際の方法</p> <p>【第5回】学生生活の留意点 (2) —— 命を考える ※オンライン授業で実施</p> <p>【第6回】スタディ・スキル (4) —— 図書館・学内情報サービスの使い方</p> <p>【第7回】学生生活の留意点 (3) —— 障害を考える (合同授業)</p> <p>【第8回】スタディ・スキル (5) —— 論理的文章とは</p> <p>【第9回】スタディ・スキル (6) —— 論理的文章と論理的でない文章、レポートの形式</p> <p>【第10回】学生生活の留意点 (4) —— キャリアを考える (合同授業)</p> <p>【第11回】学生生活の留意点 (5) —— キャリアを考える (合同授業)</p> <p>【第12回】立正大学を知る (1) —— 建学の精神 ※オンライン授業で実施</p> <p>【第13回】立正大学を知る (2) —— 立正大学の歴史 ※オンライン授業で実施</p>						
成績評価の方法	課題またはレポート (25%)、各回の授業外学修課題 (45%) および授業への取り組み姿勢 (30%) で評価する。						
フィードバックの内容	レスポンスカードに対するフィードバックは次回以降の授業内にて、レポートのフィードバックはLMSにて行う。						
教科書	『START 学修の基礎2026』立正大学教育開発センター運営委員会編 (立正大学) 2026						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	授業計画に示した各回の内容は、合同授業の日程等によって前後することがある。また、合同授業の実施方法については内容に応じて変更される場合がある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、メール（アドレスは授業内で提示）でも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、グループ・ワーク、反転授業						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	備考欄参照	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	学修の基礎Ⅱ(A～C)					丹治 恭子	第2期
履修前提条件		備考	講義コード [A] 11A0152103 [B] 11A0152104 [C] 11A0152105				
授業の目的	<p>本科目は、仏教学の専門的学修への導入を図るとともに、学問探求の場としての大学での学修・生活に取り組むための基礎として、①仏教学部での学びの動機づけ、②充実した学生生活を送るために必要となる事項の理解、③大学における学修・研究活動に必須となるアカデミック・スキルズ、ならびにそこで用いられるコミュニケーション技能の習得、を主な目的とする。</p> <p>本授業も「学修の基礎Ⅰ」と同様、複数クラス編成の少人数制を導入する。①については、仏教学を専門分野とする教員が案内役となり、宗教・仏教に関連する施設を見学する機会を2～3回程度設け、履修者はいずれかの回に参加する（行先・日程等の詳細については、授業内で提示する）。②は、アルバイト等の学生生活に関するテーマを取り上げ、必要に応じて全クラス合同またはオンラインで授業を実施する。③については、クラス別に、「話す」「聞く」「読む」「書く」といったコミュニケーション活動について、大学での研究・学修と関連づけながら講義・演習を行う。なお、演習では、受講者同士のペアワークやグループワークを行い、実践的な理解を図る。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教学に対する関心をもち、学修に積極的に取り組むことができる。 2. 大学生として求められる基礎的なアカデミック・スキルズを理解し、実践することができる。 3. 大学生生活に必要なコミュニケーションの方法を理解し、実践することができる。 						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、各回の講義で扱う項目について、授業内で提示する課題ならびに図書館及びインターネットを活用した予習・復習に取り組むこと。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】オリエンテーション 【第2回】学生生活の留意点(1) — ソーシャルメディアと情報倫理 【第3回】論理的な文章(1) — 論理的文章の構造・論証とは何か 【第4回】論理的な文章(2) — 事実と意見 【第5回】論理的な文章(3) — 資料の読取 【第6回】論理的な文章(4) — 構成 ※オンライン授業で実施 【第7回】学生生活の留意点(2) — キャリアを考える(合同授業) 【第8回】論理的な文章(5) — レポートの作成 / 学生生活の留意点(3) — アルバイトを考える 【第9回】学生生活の留意点(4) — 学生生活とアルバイト(合同授業) 【第10回】学生生活の留意点(5) — キャリアを考える(合同授業) 【第11回】文献読解基礎能力テスト(合同授業) 【第12回】宗教・仏教関連施設の見学(1)(合同授業) 【第13回】宗教・仏教関連施設の見学(2)(合同授業) 						
成績評価の方法	課題またはレポート(25%)、各回の授業外学修課題(45%)および授業への取り組み姿勢(30%)で評価する。						
フィードバックの内容	レスポンスカードに対するフィードバックは次回以降の授業内にて、レポートのフィードバックはLMSにて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『START 学修の基礎2026』立正大学教育開発センター運営委員会編(立正大学)2026						
教員からのお知らせ	授業計画に示した各回の内容は、合同授業の日程等によって前後することがある。また、合同授業の実施方法については内容に応じて変更される場合がある。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、メール(アドレスは授業内で提示)でも受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、調査学習、グループワーク、反転授業						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0103400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期														
科目名	観心本尊抄講義 1					原 慎定		第1期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	『観心本尊抄』には、日蓮聖人みづから「当身の大事」と記されているように、最重要の教えが開陳されている。すなわち、聖人が幾多の法難を克服して「法華經の行者」としての自覚を深められ、さらに久遠の釈尊の勅命に応じて、末法に応現した地涌の菩薩としての自覚に立って執筆されたのが『観心本尊抄』である。そこで本抄の講読を通して、聖人独自の法華經信仰の世界を探求し、末代凡夫の救済のあり方についてたずねてみたい。																						
到達目標	『観心本尊抄』がどのような意図で著され、いかなる宗教的意義をもつかを理解できるようになる。また本抄の概要を説明できるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では計60時間以上の授業外学修を行うこと。まず予習としてテキストの該当箇所を読み、専門用語等について予め調べる。授業中は、日蓮聖人の遺文の中でも最重要の『観心本尊抄』を拝読するので真摯な学修が要請される。さらに毎回の復習として、使用するシステム (Teams) を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 イントロダクション</td> <td>【第8回】 第1章 第2節：天台大師を歎じて後世を誡しむ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 日蓮聖人の五大部について</td> <td>【第9回】 第2章「観門の意義」第1節：教門の難信難解、第2節：観門の難信難解</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 『開目抄』と『観心本尊抄』の関連性</td> <td>【第10回】 第3章「法華經の十界互具」第1節：観心と向鏡</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 『観心本尊抄副状』について</td> <td>【第11回】 第3章 第2節：法華經における十界互具の明文</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 『観心本尊抄』の解題・構成と大綱、撰述の由来、題号釈</td> <td>【第12回】 第3章 第3節：十界互具の事実</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 『摩訶止観』の引用</td> <td>【第13回】 第3章 第4節：人界具界の難信難解</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 〈序分〉第1章「天台教学における一念三千の位置」第1節：一念三千名称の出处</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 イントロダクション	【第8回】 第1章 第2節：天台大師を歎じて後世を誡しむ	【第2回】 日蓮聖人の五大部について	【第9回】 第2章「観門の意義」第1節：教門の難信難解、第2節：観門の難信難解	【第3回】 『開目抄』と『観心本尊抄』の関連性	【第10回】 第3章「法華經の十界互具」第1節：観心と向鏡	【第4回】 『観心本尊抄副状』について	【第11回】 第3章 第2節：法華經における十界互具の明文	【第5回】 『観心本尊抄』の解題・構成と大綱、撰述の由来、題号釈	【第12回】 第3章 第3節：十界互具の事実	【第6回】 『摩訶止観』の引用	【第13回】 第3章 第4節：人界具界の難信難解	【第7回】 〈序分〉第1章「天台教学における一念三千の位置」第1節：一念三千名称の出处	
【第1回】 イントロダクション	【第8回】 第1章 第2節：天台大師を歎じて後世を誡しむ																						
【第2回】 日蓮聖人の五大部について	【第9回】 第2章「観門の意義」第1節：教門の難信難解、第2節：観門の難信難解																						
【第3回】 『開目抄』と『観心本尊抄』の関連性	【第10回】 第3章「法華經の十界互具」第1節：観心と向鏡																						
【第4回】 『観心本尊抄副状』について	【第11回】 第3章 第2節：法華經における十界互具の明文																						
【第5回】 『観心本尊抄』の解題・構成と大綱、撰述の由来、題号釈	【第12回】 第3章 第3節：十界互具の事実																						
【第6回】 『摩訶止観』の引用	【第13回】 第3章 第4節：人界具界の難信難解																						
【第7回】 〈序分〉第1章「天台教学における一念三千の位置」第1節：一念三千名称の出处																							
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (毎回のリアクションペーパー提出など) 50%、期末試験 (50%) を基準として総合的に評価します。																						
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業内で行います。																						
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編 (身延山久遠寺) 2008年、『日蓮聖人『観心本尊抄』を読む』北川前肇 (大法輪閣) 2008年																						
指定図書	『本尊抄講讀 (上・中・下)』茂田井教亨述 (山喜房佛書林) 1983~7年、『日本の仏典 9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰著 (筑摩書房) 1988年																						
参考書	『日蓮聖人御遺文講義第3巻』望月敏厚著 (日蓮聖人遺文研究会) 1957年復刊、『仏典講座38 観心本尊抄』浅井圓道著 (大蔵出版) 1982年、『傍訳 観心本尊抄』小松邦彰・田村完爾編著 (四季社) 2002年、『國寶『観心本尊抄』讃仰』渡邊寶陽著 (山喜房佛書林) 2013年																						
教員からのお知らせ	本講義受講の必須条件として、「法華經概論 1・2」が履修済であることを前提としますので、あらかじめご承知おき下さい。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステムの質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。																						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11A0103500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第2期														
科目名	観心本尊抄講義 2					原 慎定		第2期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	『観心本尊抄』には、日蓮聖人みづから「当身の大事」と記されているように、最重要の教えが開陳されている。すなわち、聖人が幾多の法難を克服して「法華經の行者」としての自覚を深められ、さらに久遠の釈尊の勅命に応じて、末法に現した地涌の菩薩としての自覚に立って執筆されたのが『観心本尊抄』である。そこで本抄の講読を通して、聖人独自の法華經信仰の世界を探求し、末代凡夫の救済のあり方についてたずねてみたい。																						
到達目標	『観心本尊抄』がどのような意図で著され、いかなる宗教的意義をもつかを理解できるようになる。また聖人独自の法門は、三十三字段、四十五字段、五十一字段に帰結していることを説明できるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では計60時間以上の授業外学修を行うこと。まず予習としてテキストの該当箇所を読み、専門用語等について予め調べる。授業中は、日蓮聖人の遺文の中でも最重要の『観心本尊抄』を拝読するので真摯な学修が要請される。さらに毎回の復習として、使用するシステム (Teams) を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 〈正宗分〉第4章「受持の成仏」第1節：七大難問</td> <td>【第8回】 〈流通分〉第6章「末法の法華經」第1節：五重三段</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 第4章第2節：爾前經の真理性と天台の僻見</td> <td>【第9回】 第6章第2節：末法為正と種脱対判</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 第4章第3節：難信難解と覚知の三師</td> <td>【第10回】 第6章第3節：起顕竟と下種の必然</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 第4章第4節：一念三千の仏種</td> <td>【第11回】 第7章「末法の依師」第1節：四種の四依、第2節：遣使還告と神力別付</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 第4章第5節：受持と譲与</td> <td>【第12回】 第8章「五義の闡明」第1節：誘法と五字と地涌</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 第5章「本尊の相貌」第1節：不常住の依正、第2節：三千常住と本門の肝心</td> <td>【第13回】 第8章第2節：仏記と現証</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 第5章第3節：本尊の相貌</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 〈正宗分〉第4章「受持の成仏」第1節：七大難問	【第8回】 〈流通分〉第6章「末法の法華經」第1節：五重三段	【第2回】 第4章第2節：爾前經の真理性と天台の僻見	【第9回】 第6章第2節：末法為正と種脱対判	【第3回】 第4章第3節：難信難解と覚知の三師	【第10回】 第6章第3節：起顕竟と下種の必然	【第4回】 第4章第4節：一念三千の仏種	【第11回】 第7章「末法の依師」第1節：四種の四依、第2節：遣使還告と神力別付	【第5回】 第4章第5節：受持と譲与	【第12回】 第8章「五義の闡明」第1節：誘法と五字と地涌	【第6回】 第5章「本尊の相貌」第1節：不常住の依正、第2節：三千常住と本門の肝心	【第13回】 第8章第2節：仏記と現証	【第7回】 第5章第3節：本尊の相貌	
【第1回】 〈正宗分〉第4章「受持の成仏」第1節：七大難問	【第8回】 〈流通分〉第6章「末法の法華經」第1節：五重三段																						
【第2回】 第4章第2節：爾前經の真理性と天台の僻見	【第9回】 第6章第2節：末法為正と種脱対判																						
【第3回】 第4章第3節：難信難解と覚知の三師	【第10回】 第6章第3節：起顕竟と下種の必然																						
【第4回】 第4章第4節：一念三千の仏種	【第11回】 第7章「末法の依師」第1節：四種の四依、第2節：遣使還告と神力別付																						
【第5回】 第4章第5節：受持と譲与	【第12回】 第8章「五義の闡明」第1節：誘法と五字と地涌																						
【第6回】 第5章「本尊の相貌」第1節：不常住の依正、第2節：三千常住と本門の肝心	【第13回】 第8章第2節：仏記と現証																						
【第7回】 第5章第3節：本尊の相貌																							
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (毎回のリアクションペーパー提出など) 50%、期末試験 (50%) を基準として総合的に評価します。																						
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業内で行います。																						
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編 (身延山久遠寺) 2008年、『日蓮聖人『観心本尊抄』を読む』北川前肇著 (大法輪閣) 2008年																						
指定図書	『本尊抄講讀 (上・中・下)』茂田井教亨述 (山喜房佛書林) 1983~7年、『日本の仏典 9 日蓮』渡辺宝陽・小松邦彰著 (筑摩書房) 1988年																						
参考書	『日蓮聖人御遺文講義第3巻』望月敏厚著 (日蓮聖人遺文研究会) 1957年復刊、『仏典講座38 観心本尊抄』浅井圓道著 (大蔵出版) 1982年、『傍訳 観心本尊抄』小松邦彰・田村完爾編著 (四季社) 2002年、『國寶『観心本尊抄』讃仰』渡邊寶陽著 (山喜房佛書林) 2013年、『法華經の信心〜久遠釈尊からの要請に生きる〜』原 慎定著 (日蓮宗福岡県布教師会) 2020年																						
教員からのお知らせ	本講義の受講の必須条件として、「法華經概論 1・2」および「観心本尊抄講義 1」が履修済であることを前提としますので、あらかじめご承知おき下さい。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステムの質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。																						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102114	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	木村 了子	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門N																						
履修前提条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102115	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	木村 了子	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門O																						
履修前提条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102116	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	田中 聖華	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門P				田中 聖華			第2期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） 期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	リアクションペーパーの内容から、共有する必要のあるもの、継続議論が必要な視点のもの、および参考情報や資料を取り上げ、翌週の授業で採り上げて共有、解説する。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	提出物は期限厳守のこと。期限後は受付を締め切るので注意すること。																						
オフィスアワー	質問は、指定メールアドレスへのメッセージで受け付ける。 指定メールアドレスはOpenLMSに掲載するので、必ず指定されたメールアドレスに連絡すること。指定メールアドレス以外のメールには回答できないことがあるので注意すること。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102117	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	田中 聖華	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門Q				田中 聖華			第2期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） 期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	リアクションペーパーの内容から、共有する必要のあるもの、継続議論が必要な視点のもの、および参考情報や資料を取り上げ、翌週の授業で採り上げて共有、解説する。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	提出物は期限厳守のこと。期限後は受付を締め切るので注意すること。																						
オフィスアワー	質問は、指定メールアドレスへのメッセージで受け付ける。 指定メールアドレスはOpenLMSに掲載するので、必ず指定されたメールアドレスに連絡すること。指定メールアドレス以外のメールには回答できないことがあるので注意すること。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102118	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	田中 聖華	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門R				田中 聖華			第2期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） 期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	リアクションペーパーの内容から、共有する必要のあるもの、継続議論が必要な視点のもの、および参考情報や資料を取り上げ、翌週の授業で採り上げて共有、解説する。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	提出物は期限厳守のこと。期限後は受付を締め切るので注意すること。																						
オフィスアワー	質問は、指定メールアドレスへのメッセージで受け付ける。 指定メールアドレスはOpenLMSに掲載するので、必ず指定されたメールアドレスに連絡すること。指定メールアドレス以外のメールには回答できないことがあるので注意すること。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102109	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	佐藤 一義	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門Ⅰ				佐藤 一義			第2期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） 期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー																							
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102105	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	勝又 あずさ	開講期	第2期
科目名	キャリア・デザイン入門E				勝又 あずさ			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。								
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的なかつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向 【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画								
成績評価の方法	・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする）								
フィードバックの内容	授業レポートには授業での学びや解釈について記述を求めるが、翌回以降の授業時間内にその授業レポートに対するフィードバックを、教員からあるいはクラスメイトと相互に行う。 ラーニング・マネジメント・システム（OpenLMS）を活用することもある。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	1. 授業の教室での座席について、毎回ランダムに配付する座席票の番号に座っていただき毎回異なるクラスメイトとペアワーク・グループワークを行っていただく予定です。 2. 授業終了後には毎回、授業レポートをオンラインで提出していただきます（〇字以上といったように毎回文字数を指定する予定）。所定のとおり、OpenLMS上で提出期限までに提出したもののみを受理します。期日を過ぎた場合は受理をしません。提出したレポートは自身でOpenLMSで確認ができます。確認方法が解らない場合には学内のOpenLMS担当職員さんへお問合せください。 その他、所定の形式で提出がなされていない場合には減点対象となるため注意をすること。 上記を認識の上で、履修を検討してください。 3. 授業は、アイスブレイク・講義・演習・ふりかえりで構成され、対話・グループワーク・ちいさな発表を行う予定です。 4. 授業ではグランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容するクラスを全員でつくっていきましょう。上記4つの項目を認識の上で、履修を検討してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 OpenLMSのメッセージ機能、または、メールでの問い合わせにも対応する。 メールアドレス：katsumata@seijo.ac.jp								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。								
実践的な教育内容									
その他	1. 授業の教室での座席について、毎回ランダムに配付する座席票の番号に座っていただき毎回異なるクラスメイトとペアワーク・グループワークを行っていただく予定です。 2. 授業終了後には毎回、授業レポートをオンラインで提出していただきます（〇字以上といったように毎回文字数を指定する予定）。所定のとおり、OpenLMS上で提出期限までに提出したもののみを受理します。期日を過ぎた場合は受理をしません。提出したレポートは自身でOpenLMSで確認ができます。確認方法が解らない場合には学内のOpenLMS担当職員さんへお問合せください。 その他、所定の形式で提出がなされていない場合には減点対象となるため注意をすること。 上記を認識の上で、履修を検討してください。 3. 授業は、アイスブレイク・講義・演習・ふりかえりで構成され、対話・グループワーク・ちいさな発表を行う予定です。 4. 授業ではグランドルールを守り、一人ひとりの生き方を尊重し多様性を受容するクラスを全員でつくっていきましょう。上記4つの項目を認識の上で、履修を検討してください。 科目担当教員はソニー株式会社（現；ソニーグループ）にて24年間、主に広報・PRとキャリア支援・人材育成を担当し、独立後には株式会社（教育事業）を設立した。 これまでの実務経験と、現在の本務校でのライフ・キャリア教育を活かし、「個人が他者や社会と関わりながら自律的にキャリアを構築していく」、その重要性について事例を紹介しながら授業を展開する。								

講義コード	14Z0102108	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	木村 了子	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門H																						
履修前提条件						備考																	
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102101	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	野条 美貴	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門A																						
履修前提条件						備考																	
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102106	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	木村 了子	開講期	第2期
科目名	キャリア・デザイン入門F								
履修前条件					備考				
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。								
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組みむ為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向				【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きがいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画				
成績評価の方法	・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする）								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	14Z0102113	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	坪田 まり子	開講期	第2期
科目名	キャリア・デザイン入門M				坪田 まり子			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。								
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向				【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画				
成績評価の方法	・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする）								
フィードバックの内容	原則、各回の授業冒頭で前回分のフィードバックを行います。								
教科書	個人からの質問に応じて、個別にOpenLmsやメールにてフィードバックをする場合もあります。								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	毎回グループワークを取り入れますので、他の学生と良好な関係を築くことができるように意識して、積極的に授業にのぞんでください。								
オフィスアワー	原則、授業終了後に、教室内で個別の質問に回答するようにします。 メールやOpenLmsからの連絡はその都度、個別に回答します。 坪田まり子のメールアドレス：uf05559ma@rissho-univ.jp								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。								
実践的な教育内容	就職活動全般（自己分析、ESなどの書類作成、面接対策まで）とキャリア・デザインに関する実務経験のある教員が、これらの経験を活かして授業を展開していきます。								
その他	授業内の居眠りや授業に関係のない私語は避けましょう。 また就職活動を意識した授業ですので、社会通念上、帽子を着用している学生は、授業中は脱いで（とって）ください。								

講義コード	14Z0102112	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	徳山 誠	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門L					徳山 誠		第2期															
履修前条件						備考																	
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） 期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題やリアクションペーパーに対するフィードバックは、翌週の授業冒頭でおこないます。その際、できるだけ共通するポイントを取り上げて共有します。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	授業では毎回グループワークやペアワークをおこないます。人前で話すのが苦手な人、コミュニケーションが下手だと思っている学生はこの授業で克服しましょう。積極的に授業に参画してください。																						
オフィスアワー	授業でわからないこと、疑問なことは放置せず、授業終了後に相談を受けます。また、学生生活に関する不安などあれば遠慮なく相談にきてください。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102111	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	佐藤 一義	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門K					佐藤 一義		第2期															
履修前条件						備考																	
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） 期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題やリアクションペーパーに対するフィードバックは、翌週の授業冒頭でおこないます。その際、できるだけ共通するポイントを取り上げて共有します。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	授業では毎回グループワークやペアワークをおこないます。人前で話すのが苦手な人、コミュニケーションが下手だと思っている学生はこの授業で克服しましょう。積極的に授業に参画してください。																						
オフィスアワー	授業でわからないこと、疑問なことは放置せず、授業終了後に相談を受けます。また、学生生活に関する不安などあれば遠慮なく相談にきてください。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102103	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	野条 美貴	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門C																						
履修前条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102107	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	佐藤 一義	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門G																						
履修前条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102110	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	木村 了子	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門J					木村 了子		第2期															
履修前条件						備考																	
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	14Z0102104	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	坪田 まり子	開講期	第2期														
科目名	キャリア・デザイン入門D				坪田 まり子			第2期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。																						
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは</td> <td>【第8回】ワークルール：雇用されるということ</td> </tr> <tr> <td>【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論</td> <td>【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題</td> </tr> <tr> <td>【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方</td> <td>【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る</td> <td>【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る</td> <td>【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味</td> </tr> <tr> <td>【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る</td> <td>【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ワークルール：日本の雇用動向</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ	【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題	【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ	【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ	【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味	【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画	【第7回】ワークルール：日本の雇用動向	
【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは	【第8回】ワークルール：雇用されるということ																						
【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論	【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題																						
【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方	【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ																						
【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る	【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ																						
【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る	【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味																						
【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る	【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画																						
【第7回】ワークルール：日本の雇用動向																							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする） 																						
フィードバックの内容	原則、各回の授業冒頭で前回分のフィードバックを行います。																						
教科書	個人からの質問に応じて、個別にOpenLmsやメールにてフィードバックをする場合もあります。																						
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	毎回グループワークを取り入れますので、他の学生と良好な関係を築くことができるように意識して、積極的に授業にのぞんでください。																						
オフィスアワー	原則、授業終了後に、教室内で個別の質問に回答するようにします。 メールやOpenLmsからの連絡はその都度、個別に回答します。 坪田まり子のメールアドレス：uf05559ma@rissho-univ.jp																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。																						
実践的な教育内容	就職活動全般（自己分析、ESなどの書類作成、面接対策まで）とキャリア・デザインに関する実務経験のある教員が、これらの経験を活かして授業を展開していきます。																						
その他	授業内の居眠りや授業に関係のない私語は避けましょう。 また就職活動を意識した授業ですので、社会通念上、帽子を着用している学生は、授業中は脱いで（とって）ください。																						

講義コード	14Z0102102	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	野条 美貴	開講期	第2期
科目名	キャリア・デザイン入門B								
履修前条件					備考				
授業の目的	働くイメージを形成し、働くことの義務と喜びの両立を目指して、具体的な行動計画を立案することを目的とする。そのために、職業選択の考え方について解説をする。次に、自己の興味・関心、価値観、強みなど特性についてワークを通じて理解を深める。また、働く上での守るべきルールと権利、働く姿を解説する。これらを総合して、将来ビジョンと学生時代の行動を立案する。								
到達目標	職業選択や自己の特性、働くことについて、自分の言葉で表現できるようになる。 将来社会人になった際の、「自分らしく働いている姿（ビジョン）」を具体的かつ肯定的に表現できるようになる。さらに、ビジョンを実現する為に学生時代のうち取るべき学習や経験など、具体的な行動計画を立てることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス：キャリアとは働くとは 【第2回】職業選択の考え方：職業選択理論・キャリア理論 【第3回】職業選択の考え方：就職活動の進め方 【第4回】自己の特性を知る：自分の興味・関心を知る 【第5回】自己の特性を知る：自分の強み・能力を知る 【第6回】自己の特性を知る：自分の価値観を知る 【第7回】ワークルール：日本の雇用動向				【第8回】ワークルール：雇用されるということ 【第9回】ワークルール：労働環境と労働問題 【第10回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅰ 【第11回】「働く」をイメージする：社会人の講話Ⅱ 【第12回】働く意味を理解する：働きたいや働く意味 【第13回】復習とまとめ：近未来のビジョンと行動計画				
成績評価の方法	・各回の課題提出・平常点：65%（ワークへの取り組み態度、また、各回の課題や自己成長チェックシートなど、教員が指示した課題・アンケートの提出状況） ・期末レポート：35%（キャリアプランシートの提出。一般論ではなく自分事として現実的に、現実的・肯定的・論理的に表現することを評価基準とする）								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌週授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	グループワークでは、対話や傾聴を大切にしながら、他者の視点に触れ、自分の考えを深めていくことが出来ますので積極的な姿勢で参加してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、OpenLMSのメッセージ機能でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション、ロールプレイングなど各回のテーマに応じて適宜行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	17Y0105101	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田中 聖華	開講期	第1期
科目名	キャリア開発基礎講座ⅠA								
履修前条件					備考				
授業の目的	本科目では、社会・組織における自己の役割や仕事への動機付けといった自己理解の深化や、主体的に職業を選択するために自己の適性や生き方を考える態度など、社会人としての資質能力を形成するために必要とされる要素を明確化することが目的である。自己管理能力やキャリア・プランニング能力を高めることで、大学から社会・職業への円滑な移行を図ることを目的とする。								
到達目標	生涯を通じた持続的かつ自律的なキャリア形成が促進されることで、環境の変化に対応しながら自分らしい生き方を実現することが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度の育成が期待される。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス：本科目の主旨と授業の進め方、履修上の注意等 キャリアについて考えるⅠ：キャリアとは、なぜキャリア開発が必要なのか</p> <p>【第2回】コミュニケーション力をつけるⅠ：グループディスカッションとプレゼンテーション</p> <p>【第3回】社会を知るⅠ：進路の考え方</p> <p>【第4回】自分を知るⅠ：過去のふり振り返りからやる気を分析する（過去）</p> <p>【第5回】自分を知るⅡ：職業についての価値観を確かめる（現在）</p> <p>【第6回】自分を知るⅢ：職業についての興味を確認する（現在）</p> <p>【第7回】自分を知るⅣ：キャリアステージを広げる（現在～未来）</p> <p>【第8回】社会を知るⅡ：社会から求められる能力とは</p> <p>【第9回】社会を知るⅢ：多様性とアンコンシャスバイアス</p> <p>【第10回】自分を知るⅤ：これからの生き方についての考え方を知る（過去～現在～未来）</p> <p>【第11回】自分を知るⅥ：上手くいかないときは？（現在～将来）</p> <p>【第12回】コミュニケーション力をつけるⅡ：プレゼンテーション</p> <p>【第13回】プレゼンテーション／まとめ</p> <p>*クラスサイズにより、授業計画の進捗や順序が異なることがある。</p>								
成績評価の方法	授業中およびリアクションペーパーによる授業取り組み姿勢40%、授業中ワークに基づく課題20%、期末課題20%、指定プレゼンテーション20%の合計点を評価点とする。期限を過ぎた提出物はいかなる理由であっても受け付けないので、期限を厳守すること。 *注意事項* 授業に出席すれば単位取得できる、という授業ではない。授業中のワークや授業外の課題に積極的に取り組み、自身を深く洞察し、社会と結び付けられるようになっているかどうかを評価するので、受講姿勢・態度に注意すること。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	資料およびワークシート配布、連絡はOpenLMSを使用する。確認を欠かさないこと。事前学習指示がある場合は指示内容を行ってから受講すること。 履修者の状況に合わせて適宜授業内容を変更する場合がある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。指定アドレスへのメールにも適宜対応する。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、グループディスカッション、ペアワークなど *クラスサイズにより、実施できない内容もある。								
実践的な教育内容	企業人（総合商社やコンサルティングファーム）としての社会人経験や国家資格キャリアコンサルタントの知識および経験を生かした授業を行う。								
その他	自身のキャリア開発に関心を持ち積極的に取り組む受講者を歓迎する。								

講義コード	17Y0105102	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	キャリア開発基礎講座 I B					木村 了子		第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	本科目では、社会・組織における自己の役割や仕事への動機付けといった自己理解の深化や、主体的に職業を選択するために自己の適性や生き方を考える態度など、社会人としての資質能力を形成するために必要とされる要素を明確化することが目的である。自己管理能力やキャリアプランニング能力を高めることで、大学から社会・職業への円滑な移行を図ることを目的とする。								
到達目標	生涯を通じた持続的かつ自律的なキャリア形成が促進されることで、環境の変化に対応しながら自分らしい生き方を実現することが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的、自立のために必要な基盤となる能力や態度の育成が期待される。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学習を行う必要がある。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方、キャリアとは</p> <p>【第2回】仕事と人生：「仕事とは何か」「働くことの意味」について考える。</p> <p>【第3回】私たちが生きている社会と未来（1）：社会の変化とキャリアへの影響</p> <p>【第4回】私たちが生きている社会と未来（2）：不確実な時代にどう生きるか</p> <p>【第5回】自己理解（1）：自身の興味・関心</p> <p>【第6回】自己理解（2）：自身の強み・能力</p> <p>【第7回】自己理解（3）：自身の価値観</p> <p>【第8回】働くこと（1）：働く環境と選択肢</p> <p>【第9回】働くこと（2）：ワークルール</p> <p>【第10回】働くこと（3）：ウェルビーイングとキャリア</p> <p>【第11回】キャリア・ビジョンの検討：〇年後の自分をイメージする</p> <p>【第12回】社会に出る前に意識しておくこと</p> <p>【第13回】まとめ</p> <p>※ 状況により、授業計画の内容や順序は変更されることがある。</p>								
成績評価の方法	<p>期末授業内レポート（40%）、中間レポート（20%）、リアクション・ペーパー（小レポート）に基づく授業に対する取り組み姿勢（40%）</p> <p>※ 到達目標に向けて、各レポート、リアクションペーパー等において、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。</p>								
フィードバックの内容	授業で扱った内容の振り返りを記述するためのリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーに対する講評を次回以降の授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業の資料は、紙での配布、及び授業終了後に指定のアプリに掲載する。 他者の意見を聞くことで視野広く考えられるようにするため、毎回グループワークを取り入れます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、LMSからも受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習や、授業内でグループ・ワークおよびグループ・ディスカッションを実施する。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	17Y0105201	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	キャリア開発基礎講座ⅡA				佐藤 一義		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本科目の目的は、労働者としての権利・義務、就業規則といった雇用にかかわる基本的知識、税金・社会保険・年金の仕組みなどのキャリアを積み上げていく上で必要な知識を習得することに加えて、多様な雇用形態の在り方、男女共同参画社会の意義や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の重要性などについて学ぶことである。								
到達目標	社会人・職業人として必要な知識を習得することで、大学から社会・職業への円滑な移行・将来のキャリア形成の場における様々な課題への柔軟な対応が可能になることが期待される。産業構造や就業構造が変化する中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度が育成される。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス：本科目の趣旨と授業の進め方 【第2回】雇用環境と諸問題（1）：日本経済の動向、雇用動向 【第3回】雇用環境と諸問題（2）：新規卒者の離職状況 【第4回】労働条件・職場環境に関するルール（1）：賃金に関する基準 【第5回】労働条件・職場環境に関するルール（2）：労働時間・休日に関する主な制度 【第6回】労働条件・職場環境に関するルール（3）：保険や年金に関する主な制度 【第7回】雇用システムの在り方：長期雇用・年功賃金、成果主義 【第8回】職場における教育・人材育成 【第9回】多様な働き方：派遣労働者、契約社員、パートタイム労働者などの雇用形態 【第10回】雇用における男女の均等な機会と待遇 【第11回】定年、退職及び解雇 【第12回】定年・退職後の働き方 【第13回】就職・採用活動に関する基礎知識								
成績評価の方法	定期試験の結果で評価する（100%）								
フィードバックの内容	ポータルサイトの本授業の「掲示板」で質問を受け付ける。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	授業後に対応します								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	経済的ニュース・情報を入手した場合や社会人と接した場合、授業で学んだ知識を積極的に確認する授業外学習。								
その他									

講義コード	17Y0105202	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	キャリア開発基礎講座ⅡB				徳山 誠		第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本科目では、「大学生にとってのキャリア」について考え、「大学で学ぶ意味」と「社会で働く意義」について理解を深めていく。その際、社会で起きている各種変化、先行き不透明な状況を認識するとともにキャリア・オーナーシップの考え方を踏まえ主体的に行動できるようにする。						
到達目標	授業を通じて、キャリアの基本概念を理解し、社会環境の変化と自らの将来の働き方との関係を説明できるようになる。また、自己理解を深め、主体的に行動しながら、自身のキャリアを中長期的視点で考える力を身につける。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組むために、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。						
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション。大学で学ぶ意味、大学生の「キャリア」とは？、大学教育の意味、大学は先行投資、大学教育はどのように役に立っているのか、</p> <p>【第2回】キャリアについて理解を深める。ワークキャリア・ライフキャリア、外的キャリア・内的キャリアなど。</p> <p>【第3回】日本社会の現状、社会環境の変化に関し、VUCA時代・人生100年時代到来による働き方への影響を考える。</p> <p>【第4回】労働の連鎖（企業内外はじめ国境を越える労働の連鎖、労働連鎖と職業選択）について将来のキャリアを考えるうえでのヒントを得る。</p> <p>【第5回】アルバイトは就業経験になるか？の視点で、自分が望む働き方を考える。（労働法超初級編、ブラックバイト、非正社員と正社員の違い）</p> <p>【第6回】働くことの意義とやりがいに関し、働く目的（「仕事」とは？）など、社会人インタビュー結果を共有。やりがいはどこから生まれるか？、ブランドハップンスタンス理論を用い目指す働き方を考える。</p> <p>【第7回】グローバル化の中、ダイバーシティー&インクルージョン、ジェンダーレス時代を「働く」視点で考える。グローバル人材とは？を掘り下げる。</p> <p>【第8回】少子高齢化、人手不足、AI推進の流れで仕事の未来を考える。労働供給制約社会の到来の一方で、昔の仕事、これから残る仕事、大きく変わる働き方、10年先の仕事を考える。</p> <p>【第9回】日本の労使関係を知る。労働組合の仕組み、存在意義を「経営ガバナンス」と「従業員のキャリア支援」の視点から考える。</p> <p>【第10回】働き方改革の下で起きる職場内の各種の課題①。ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用。ベテラン社員と若手社員のギャップ。各種ハラスメント対策を考えレジリエンスを高める。</p> <p>【第11回】働き方改革の下で起きる職場内の各種の課題②。企業倫理・コンプライアンスの視点で考える職場の変化。</p> <p>【第12回】主体性と行動力を高めるために自己理解を深め改善を図る。自己分析ツール等の活用により自己のキャリア観を深掘り下げる。</p> <p>【第13回】まとめ</p>						
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題（中間）30% ・最終試験（対面）またはレポート（リモートの場合）30% ・出席状況、授業への取組姿勢（グループワークなど含む）、リアクション・ペーパー評価 40% 						
フィードバックの内容	リアクションペーパーは毎回提出を求め、それぞれにフィードバックをおこなう。また、その内容に応じ必要であれば次の授業で共有し、前回授業の理解深化に役立てる。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	大学は、いろいろなことにチャレンジできる場であり、失敗が許される場所です。授業では毎回グループワークを実施します。コミュニケーションが苦手な人ほど大歓迎です。授業を通じて成長しましょう。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。どんな相談でも受け付けます。遠慮なく声をかけてください。						
アクティブラーニングの内容	授業では、授業の振り返り、教員からのフィードバックはじめ毎回のグループワークによる意見共有など交流し、社会人へのインタビュー取材など能動的な授業外学習をおこないます。						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	17Y0105301	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	野条 美貴	開講期	第1期
科目名	キャリア開発基礎講座Ⅲ								
履修前条件					備考				
授業の目的	本科目では、自己分析や業界研究・企業研究を行うことで、産業構造・企業構造の変化に伴う職業人として求められる資質能力の多様化を踏まえた、具体的な業種・職種を意識した職業観・勤労観を育成することが目的である。加えて、実際の現場で活躍する実務家などを外部講師として招聘し、業界や企業の最新動向を学ぶことを目的とする。								
到達目標	様々な業種・職種と学生の適性や興味・関心がすり合わされることで、自己実現に向けた主体的なキャリアデザインが期待される。産業構造や就業構造が変化の中で、勤労観・職業観にとどまらず、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力や態度が育成されることを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス：コミュニケーションとマナー 【第2回】自分を知る（1）：自己分析 【第3回】社会を知る（1）：社会人基礎力とは 【第4回】社会を知る（2）：多様な働き方 【第5回】自分を知る（2）：筆記試験の種類と傾向 【第6回】自分を知る（3）：適職を見つける・考える 【第7回】自分を知る（4）：ストレスとの向き合い方 【第8回】社会を知る（3）：業界研究 【第9回】社会を知る（4）：業界研究 【第10回】仕事を知る（1）：企業研究・職種研究 【第11回】仕事を知る（2）：企業研究・職種研究 【第12回】仕事を知る（3）：企業研究・職種研究 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	期末授業内レポート（50%）、リアクション・ペーパー（小レポート）に基づく授業に対する取り組み姿勢（50%） 到達目標の記載内容について、自分の言葉で具体的かつ肯定的、現実的に説明できることを評価基準とする。								
フィードバックの内容	授業で扱った内容の振り返りを記述するためのリアクションペーパーの記入を求める。リアクションペーパーに対する講評を次回以降の授業内で行う。								
教科書	『会社四季報業界地図 2026年版』（東洋経済新報社）2025年								
指定図書									
参考書	『CAREER COMPASS 2028』（立正大学キャリアサポートセンター）2026年								
教員からのお知らせ	上記の授業計画に基づいて授業を進める。但し、学外の講師による講演が授業計画の一部に含まれるため、授業計画は変更されることがある。また、学外講師の講演は動画視聴となることがある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。また、LMSからも受け付ける。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、能動的な授業外学習や、授業内でグループ・ワークおよびグループ・ディスカッションを実施する。								
その他	参考書は、新年度に実施のキャリアサポートセンター主催「就職ガイダンス」で配布します。								

講義コード	17Y0105801	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	松井 広美	開講期	集中
科目名	キャリア実習[大学提携型就業体験]／インターンシップA(就業体験型)								
履修前条件					備考				
授業の目的	本授業は、実際の現場で社員の方の指導のもと、就業体験をおこない、「社会人基礎力の向上」、「自己理解」、「業界・企業の理解」を目指す。事前学習・実習・事後学習を通じ、自分の適職・適性や自己PR方法を考え、スムーズな就職活動への移行を目的とする。								
到達目標	職場や社会の中で仕事をしていくために必要な能力を把握し、社会人として必要な能力を身につけるとともに、自身の今後の課題を認識する。自己理解、業界・企業の理解を深めることで、就職活動で使える自己PRの作成、主体的な職業選択を目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	座学後のリアクションペーパーやレポートの提出、実習期間中の実習日誌作成、実習後の実習報告フォーム提出や報告会の準備など、60時間以上の授業外学修時間が必要となる。								
授業計画	【第1回】実習準備（1）業界・企業・職種研究の基礎知識 グループワークの手法 【第2回】模擬実習（1）模擬企業説明会 【第3回】模擬実習（2）模擬企業説明会 【第4回】実習準備（2）実習目標の設定と発表資料の作成準備ワーク 【実習】就業体験型実習（夏期休業期間中に原則5日以上） 【第5回】インターンシップ振り返り 【第6回】報告会 【第7回】事後学習（1）選考対策・模擬面接準備 【第8回】模擬面接 【第9回】事後学習（2）まとめ								
	※本科目は選考を通過した学生が履修することができる。履修を希望する学生は、ガイダンス期間に行われる「インターンシップガイダンス」に出席すること。通常の履修登録期間での登録は不要。								
成績評価の方法	実習準備・事後学習の取り組み姿勢（30%）、実習生評価表（10%）、実習・報告会の取り組み（20%）、課題（40%）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーで寄せられた意見は全体共有を行うときもある。								
教科書	『CAREER COMPASS 2028』立正大学キャリアサポートセンター2026年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	学外の講師による講演が授業計画の一部に含まれるため、授業計画は変更されることがあります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	実習、意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、問題解決学習（PBL）、発見学習・体験学習、グループ・ワーク、プレゼンテーションなど								
その他									

講義コード	16A0170300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	宮崎 英朋	開講期	第1期														
科目名	教化学1				宮崎 英朋			第1期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	<p>本学の名称は、日蓮聖人の『立正安国論』に由来すると大学紹介にあるように、日蓮宗教師を目指す学生が入学する大学でもあります。僧階単位となる本授業は、日蓮宗教師を目指す履修生の一助として、日蓮宗の教師（僧侶）になるにはどのようなことが必要なのか。また、教師（僧侶）とは何を以て教師（僧侶）なのかを探究していくことが目的です。</p>																						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業を受けることにより、日蓮宗教師（僧侶）になる心構えを養う。 ・宗定日蓮宗法要式を読めるようになる。 ・様々な教化の方法を作り上げることが出来る。 																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、テキストの該当箇所を読み、予習、実践を行う（30時間）。 最終的にレポート提出となり、それに費やす時間も含めてよろしい（30時間）。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】本講義の目的</td> <td>【第8回】宗定日蓮宗法要式③</td> </tr> <tr> <td>【第2回】日蓮宗の組織</td> <td>【第9回】宗定日蓮宗法要式④</td> </tr> <tr> <td>【第3回】日蓮宗の修行・教育機関</td> <td>【第10回】宗定日蓮宗法要式⑤</td> </tr> <tr> <td>【第4回】日蓮宗教師（僧侶）</td> <td>【第11回】宗定日蓮宗法要式⑥</td> </tr> <tr> <td>【第5回】教化の手段</td> <td>【第12回】宗定日蓮宗法要式⑦</td> </tr> <tr> <td>【第6回】宗定日蓮宗法要式①</td> <td>【第13回】まとめ 教化と実践</td> </tr> <tr> <td>【第7回】宗定日蓮宗法要式②</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】本講義の目的	【第8回】宗定日蓮宗法要式③	【第2回】日蓮宗の組織	【第9回】宗定日蓮宗法要式④	【第3回】日蓮宗の修行・教育機関	【第10回】宗定日蓮宗法要式⑤	【第4回】日蓮宗教師（僧侶）	【第11回】宗定日蓮宗法要式⑥	【第5回】教化の手段	【第12回】宗定日蓮宗法要式⑦	【第6回】宗定日蓮宗法要式①	【第13回】まとめ 教化と実践	【第7回】宗定日蓮宗法要式②	
【第1回】本講義の目的	【第8回】宗定日蓮宗法要式③																						
【第2回】日蓮宗の組織	【第9回】宗定日蓮宗法要式④																						
【第3回】日蓮宗の修行・教育機関	【第10回】宗定日蓮宗法要式⑤																						
【第4回】日蓮宗教師（僧侶）	【第11回】宗定日蓮宗法要式⑥																						
【第5回】教化の手段	【第12回】宗定日蓮宗法要式⑦																						
【第6回】宗定日蓮宗法要式①	【第13回】まとめ 教化と実践																						
【第7回】宗定日蓮宗法要式②																							
成績評価の方法	<p>授業に対する姿勢・出席確認（30%）、最終レポート1回（70%）で評価する。 到達目標の内容について、自分自身の言葉で具体例を示し、記述できることをレポートの評価基準とします。</p>																						
フィードバックの内容	質問等があれば、個別で答える。																						
教科書																							
指定図書	『宗定日蓮宗法要式平成版』宗定法要式平成版編集委員会（日蓮宗）																						
参考書																							
教員からのお知らせ	<p>教科書については、持っている受講者は、そのまま使用可。 購入希望者は日蓮宗新聞社（TEL 03-3755-5271、営業時間は平日9：45-16：45）へ各自注文して購入してください。最新版を用意して下さい。</p>																						
オフィスアワー	<p>メールにて質問を受け付けます。 E-mail : h1del10mo@nike.eonet.ne.jp</p>																						
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容 その他	<p>教員により、所作の実践、読経・声明の実唱など。</p>																						

講義コード	16A0170400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	平井 智親	開講期	第2期													
科目名	教化学2				平井 智親			第2期														
履修前条件					備考																	
授業の目的	<p>日蓮宗の教化というと無意識に国内での活動を思い浮かべる。しかし、交通網の発達及びインターネットの普及などにより、日本国外との接触は過去に例をみないほど活発である。海外布教（国際布教）を通して教化の諸相を学び、異文化における教化の重要性と困難さ、諸宗教との交流対話の重要性と怖さを理解する。</p>																					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①日蓮宗の国際布教を理解する ②国際布教を通して、教化に対する本質的理解を深める。 																					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>授業前に関連書籍や資料、またインターネット等による情報収集により、理解をより深めることができる。そのための授業外学修は60時間以上は必要と考えられる。</p>																					
授業計画	<table border="0"> <tr><td>【第1回】ガイダンス</td></tr> <tr><td>【第2回】海外における日蓮宗の教化の歴史</td></tr> <tr><td>【第3回】ハワイにおける教化1</td></tr> <tr><td>【第4回】ハワイにおける教化2</td></tr> <tr><td>【第5回】ハワイにおける教化3</td></tr> <tr><td>【第6回】北米における教化</td></tr> <tr><td>【第7回】南米における教化</td></tr> <tr><td>【第8回】ヨーロッパにおける教化</td></tr> <tr><td>【第9回】東南アジアにおける教化</td></tr> <tr><td>【第10回】他宗派の教化</td></tr> <tr><td>【第11回】日本仏教以外の仏教の教化</td></tr> <tr><td>【第12回】キリスト教とイスラム教の教化</td></tr> <tr><td>【第13回】まとめ</td></tr> </table>									【第1回】ガイダンス	【第2回】海外における日蓮宗の教化の歴史	【第3回】ハワイにおける教化1	【第4回】ハワイにおける教化2	【第5回】ハワイにおける教化3	【第6回】北米における教化	【第7回】南米における教化	【第8回】ヨーロッパにおける教化	【第9回】東南アジアにおける教化	【第10回】他宗派の教化	【第11回】日本仏教以外の仏教の教化	【第12回】キリスト教とイスラム教の教化	【第13回】まとめ
【第1回】ガイダンス																						
【第2回】海外における日蓮宗の教化の歴史																						
【第3回】ハワイにおける教化1																						
【第4回】ハワイにおける教化2																						
【第5回】ハワイにおける教化3																						
【第6回】北米における教化																						
【第7回】南米における教化																						
【第8回】ヨーロッパにおける教化																						
【第9回】東南アジアにおける教化																						
【第10回】他宗派の教化																						
【第11回】日本仏教以外の仏教の教化																						
【第12回】キリスト教とイスラム教の教化																						
【第13回】まとめ																						
成績評価の方法	授業への取り組み（45%）、中間レポート（10%）、期末レポート（45%）による。																					
フィードバックの内容	中間レポート等は授業内で講評します。																					
教科書																						
指定図書																						
参考書	『開教日誌』村野宣忠（日蓮宗新聞社）																					
教員からのお知らせ	<p>教科書や指定図書はありませんが、必要に応じてその都度資料等を用意する。 日蓮宗の国際布教を通して教化とは何かを学びましょう。</p>																					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談はメールで対応します。メールアドレスは最初の授業でお知らせします。																					
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容 その他	授業の中で中間レポートの講評を通して、教員からのフィードバックをする予定です。																					

講義コード	11A0111100	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	渡辺 貴彦	開講期	第1期														
科目名	芸術研究1					渡辺 貴彦		第1期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	古典法帖の臨書を中心とした毛筆実習により、書道の基礎技能を習得する。 楷書行書をはじめ、草書隷書篆書の練習もして、漢字書道技法を広く学修する。 文字の起源から始まる中国書道史などの解説から「美術としての書」への理解を深める。 ペン習字課題練習により日頃の書写姿勢の改善を図る。																						
到達目標	毛筆書に慣れ、各法帖に応じた用筆法を理解し書き分けられる。 ペン習字課題を通じ普段の書写が美しくなる。 書道史等の解説を学習し、書美への関心を深める。																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 法帖の理解を深めるように予習し、実習後も反復練習する。 毎回のペン習字課題を欠かさず練習する。 書道史も講義を聴くだけでなく、キーワードを検索して理解を深めること。 美術館で開催される書道展や美術展などにも積極的に出かけてほしい。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス 筆順・部首名確認</td> <td>【第8回】 ♪「蘭亭序」法帖解説</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 永字八法練習 文房四宝と拓本解説</td> <td>【第9回】 ♪「風信帖」唐書王書と日本の書解説</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 楷書臨書「孔子廟堂碑」法帖と唐代書道史解説</td> <td>【第10回】 草書臨書「真草千字文」中国書道史「宋代の書」</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 ♪「九成宮醴泉銘」中国書道史「文字の起源」</td> <td>【第11回】 隷書篆書臨書 筆法解説と中国書道史「明清の書」</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 ♪「雁塔聖教序」中国書道史「書体の変遷」</td> <td>【第12回】 清書提出 創作作品制作説明</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 ♪「牛楓造像記」「鄭義下碑」・楷書復習</td> <td>【第13回】 創作作品制作 総括</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 行書臨書「集王聖教序」中国書道史「書聖王羲之」</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス 筆順・部首名確認	【第8回】 ♪「蘭亭序」法帖解説	【第2回】 永字八法練習 文房四宝と拓本解説	【第9回】 ♪「風信帖」唐書王書と日本の書解説	【第3回】 楷書臨書「孔子廟堂碑」法帖と唐代書道史解説	【第10回】 草書臨書「真草千字文」中国書道史「宋代の書」	【第4回】 ♪「九成宮醴泉銘」中国書道史「文字の起源」	【第11回】 隷書篆書臨書 筆法解説と中国書道史「明清の書」	【第5回】 ♪「雁塔聖教序」中国書道史「書体の変遷」	【第12回】 清書提出 創作作品制作説明	【第6回】 ♪「牛楓造像記」「鄭義下碑」・楷書復習	【第13回】 創作作品制作 総括	【第7回】 行書臨書「集王聖教序」中国書道史「書聖王羲之」	
【第1回】 ガイダンス 筆順・部首名確認	【第8回】 ♪「蘭亭序」法帖解説																						
【第2回】 永字八法練習 文房四宝と拓本解説	【第9回】 ♪「風信帖」唐書王書と日本の書解説																						
【第3回】 楷書臨書「孔子廟堂碑」法帖と唐代書道史解説	【第10回】 草書臨書「真草千字文」中国書道史「宋代の書」																						
【第4回】 ♪「九成宮醴泉銘」中国書道史「文字の起源」	【第11回】 隷書篆書臨書 筆法解説と中国書道史「明清の書」																						
【第5回】 ♪「雁塔聖教序」中国書道史「書体の変遷」	【第12回】 清書提出 創作作品制作説明																						
【第6回】 ♪「牛楓造像記」「鄭義下碑」・楷書復習	【第13回】 創作作品制作 総括																						
【第7回】 行書臨書「集王聖教序」中国書道史「書聖王羲之」																							
成績評価の方法	清書提出40% ペン習字課題提出30% 授業への取り組み30%を基準に評価する。 毛筆習字未経験者でも、習熟度、達成度を重視する。																						
フィードバックの内容	毎時間の実習で添削指導する。 ペン習字は提出後に添削指導し返却する。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	手本と解説資料となる教科書は授業内に配布する。 第1回講義では毛筆実習は行わない。 道具は2回目の講義までに各自準備すること。 道具についても初回講義で説明する。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																						
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、能動的な授業外学習など																						
その他																							

講義コード	11A0111200	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	渡辺 貴彦	開講期	第2期														
科目名	芸術研究2					渡辺 貴彦		第2期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	日本書道における古典の中心は平安時代の上代仮名である。 本講座では細筆を使用した用筆練習から、仮名古典臨書・実用書道・写経などの実技習得を目指す。 加えて、日本書道史や文房四宝の解説を通して、「日本美術としての書」を理解する。 ペン習字課題の練習で、日常の筆者活動の改善にも役立てる。 授業後半では、「書は美術か?」「書かない時代の書のありかた」を考えてみたい。																						
到達目標	毎時間の課題を練習し、細筆による仮名の用筆に慣れる。 古典法帖臨書・写経練習を重ねることにより、法帖を理解し、書けるようになる。 最終的に創作課題が書けるように学修を進める。 ペン習字課題の練習で、日常の筆者姿勢も改善させる。																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業ごとの古典法帖の予習に20時間、ペン習字課題筆写に40時間、合計60時間の学修を行う。 また、授業中に紹介する各種書道展や美術展などを鑑賞することも望ましい。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 かな書の説明 かな用道具の説明</td> <td>【第8回】 日蓮上人和歌散らし書き考案 日本書道史「鎌倉から江戸期まで」</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 いろは単体・用筆練習 日本書道史「文字の伝来」</td> <td>【第9回】 ♪ 清書 日本書道史「現代書」</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 変体仮名・連綿体練習 日本書道史「仮名文字の変遷」</td> <td>【第10回】 写経練習 写経解説</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 「高野切」拡大臨書 高野切解説</td> <td>【第11回】 ♪</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 「高野切」臨書 日本書道史「平安朝の書」</td> <td>【第12回】 写経清書 かな創作説明</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 「高野切」臨書清書</td> <td>【第13回】 創作作品制作 総括</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 「寸松庵色紙・樹色紙」臨書 散らし書き解説</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 かな書の説明 かな用道具の説明	【第8回】 日蓮上人和歌散らし書き考案 日本書道史「鎌倉から江戸期まで」	【第2回】 いろは単体・用筆練習 日本書道史「文字の伝来」	【第9回】 ♪ 清書 日本書道史「現代書」	【第3回】 変体仮名・連綿体練習 日本書道史「仮名文字の変遷」	【第10回】 写経練習 写経解説	【第4回】 「高野切」拡大臨書 高野切解説	【第11回】 ♪	【第5回】 「高野切」臨書 日本書道史「平安朝の書」	【第12回】 写経清書 かな創作説明	【第6回】 「高野切」臨書清書	【第13回】 創作作品制作 総括	【第7回】 「寸松庵色紙・樹色紙」臨書 散らし書き解説	
【第1回】 かな書の説明 かな用道具の説明	【第8回】 日蓮上人和歌散らし書き考案 日本書道史「鎌倉から江戸期まで」																						
【第2回】 いろは単体・用筆練習 日本書道史「文字の伝来」	【第9回】 ♪ 清書 日本書道史「現代書」																						
【第3回】 変体仮名・連綿体練習 日本書道史「仮名文字の変遷」	【第10回】 写経練習 写経解説																						
【第4回】 「高野切」拡大臨書 高野切解説	【第11回】 ♪																						
【第5回】 「高野切」臨書 日本書道史「平安朝の書」	【第12回】 写経清書 かな創作説明																						
【第6回】 「高野切」臨書清書	【第13回】 創作作品制作 総括																						
【第7回】 「寸松庵色紙・樹色紙」臨書 散らし書き解説																							
成績評価の方法	毛筆清書提出40% ペン習字課題提出30% 授業への取り組み30% を基準に評価する。 実習を積んでの上達度を考慮する。																						
フィードバックの内容	毎回の実習ではその場で添削指導する。 ペン習字課題は提出ごとに添削し返却する。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書																							
教員からのお知らせ	手本と解説の教科書は第1期と同じものを使用する。第2期からの受講生には授業中に配布する。 1回目の授業では毛筆実習は行わない。 書道具は第2回講義までに各自準備してもらおうが、ガイダンスを聞いてからでもよい。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																						
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、能動的な授業外学習など																						
その他																							

講義コード	11A2118700	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	橋岡 昭男	開講期	通年																										
科目名	芸術実習【仏画Ⅰ】					橋岡 昭男		通年																											
履修前提条件						備考																													
授業の目的	本講義では、古典により多く接しながら、模写の製作手順など仏画における基礎知識を身につけることを目的とします。																																		
到達目標	物の見方、考え方、感じ方の参考になることをなるべく簡単に、かつ理論的に理解して、頭の中で理解したものを実践し、使いこなせる。線の引き方（明度の差・強弱・太い細い）で、立体の表現ができる。展覧会を見た時に色々な事柄（明度・明暗・構図・絵の考え方）に興味をもてる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	鳥獣戯画の背景となる関連事項や、鎌倉時代後期から平安時代前期にどのような絵巻物があるか、展覧会に行くなど、授業外に計120時間以上の学修を行うこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 導入・授業全体の見直し 鳥獣戯画の説明</td> <td>【第14回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）①</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 新聞紙で模写棒を作る</td> <td>【第15回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）②</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方①</td> <td>【第16回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）③</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方②</td> <td>【第17回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）④</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方③</td> <td>【第18回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑤</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方④</td> <td>【第19回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑥</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方①</td> <td>【第20回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑦</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方②</td> <td>【第21回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑧</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方③</td> <td>【第22回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑨</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 本紙制作 擦れの表現の仕方①</td> <td>【第23回】 本紙制作 毛羽立ちの表現①</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 本紙制作 擦れの表現の仕方②</td> <td>【第24回】 本紙制作 毛羽立ちの表現②</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 本紙制作 擦れの表現の仕方③</td> <td>【第25回】 朱で印を表現する 裏打①</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 本紙制作 擦れの表現の仕方④</td> <td>【第26回】 朱で印を表現する 裏打②</td> </tr> </table>									【第1回】 導入・授業全体の見直し 鳥獣戯画の説明	【第14回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）①	【第2回】 新聞紙で模写棒を作る	【第15回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）②	【第3回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方①	【第16回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）③	【第4回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方②	【第17回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）④	【第5回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方③	【第18回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑤	【第6回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方④	【第19回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑥	【第7回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方①	【第20回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑦	【第8回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方②	【第21回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑧	【第9回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方③	【第22回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑨	【第10回】 本紙制作 擦れの表現の仕方①	【第23回】 本紙制作 毛羽立ちの表現①	【第11回】 本紙制作 擦れの表現の仕方②	【第24回】 本紙制作 毛羽立ちの表現②	【第12回】 本紙制作 擦れの表現の仕方③	【第25回】 朱で印を表現する 裏打①	【第13回】 本紙制作 擦れの表現の仕方④	【第26回】 朱で印を表現する 裏打②
【第1回】 導入・授業全体の見直し 鳥獣戯画の説明	【第14回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）①																																		
【第2回】 新聞紙で模写棒を作る	【第15回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）②																																		
【第3回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方①	【第16回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）③																																		
【第4回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方②	【第17回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）④																																		
【第5回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方③	【第18回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑤																																		
【第6回】 試し描き 筆・墨・道具の使い方④	【第19回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑥																																		
【第7回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方①	【第20回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑦																																		
【第8回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方②	【第21回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑧																																		
【第9回】 本紙制作 筆・墨・道具の使い方③	【第22回】 本紙制作 空間の意識（明度による立体）⑨																																		
【第10回】 本紙制作 擦れの表現の仕方①	【第23回】 本紙制作 毛羽立ちの表現①																																		
【第11回】 本紙制作 擦れの表現の仕方②	【第24回】 本紙制作 毛羽立ちの表現②																																		
【第12回】 本紙制作 擦れの表現の仕方③	【第25回】 朱で印を表現する 裏打①																																		
【第13回】 本紙制作 擦れの表現の仕方④	【第26回】 朱で印を表現する 裏打②																																		
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢70% 作品の仕上がり30%																																		
フィードバックの内容	制作課題を授業期間内に返却する。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ	実践的な模写をするにあたって薄美濃紙、面相筆を購入して頂きます。																																		
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																																		
アクティブラーニングの内容	実習／実技／調査研究（調査学習）																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11A2118990	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	橋岡 昭男	開講期	通年																										
科目名	芸術実習【仏画Ⅱ】					橋岡 昭男		通年																											
履修前提条件						備考																													
授業の目的	古典により多く接し、実践的な模写を通して、優れた美術・文化を身近なものとしてゆくことを目的とする。又、卒業制作（仏画関係）を希望する者がいる場合は、その指導も行う。																																		
到達目標	物の見方、考え方、感じ方の参考になることをなるべく簡単に、かつ理論的に理解して、頭の中で理解したものを実践して使いこなせる。芸術実習Ⅰにあわせて、薄墨の明暗明度のとり方も身につける。構図の在り方が理解できる。																																		
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	平安・鎌倉時代の絵画に興味をもち関連事項を調べた上で、日本画とはどういうものか理解し、授業外に計120時間以上の学修を行い、積極的に色々な展覧会へ足を運んで下さい。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 導入・授業全体の見直し 制作における作品探し</td> <td>【第14回】 本紙制作 空間の意識④</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 作品探し コピー 模写棒作り</td> <td>【第15回】 本紙制作 空間の意識⑤</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）①</td> <td>【第16回】 本紙制作 空間の意識⑥</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）②</td> <td>【第17回】 本紙制作 全体感をよく見る①</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）③</td> <td>【第18回】 本紙制作 全体感をよく見る②</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）④</td> <td>【第19回】 本紙制作 全体感をよく見る③</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）①</td> <td>【第20回】 本紙制作 全体感をよく見る④</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）②</td> <td>【第21回】 本紙制作 全体感をよく見る⑤</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）③</td> <td>【第22回】 本紙制作 全体感をよく見る⑥</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）④</td> <td>【第23回】 本紙制作 全体感をよく見る⑦</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）⑤</td> <td>【第24回】 裏打の仕方</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 本紙制作 空間の意識①</td> <td>【第25回】 裏打①</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 本紙制作 空間の意識②</td> <td>【第26回】 裏打②</td> </tr> </table>									【第1回】 導入・授業全体の見直し 制作における作品探し	【第14回】 本紙制作 空間の意識④	【第2回】 作品探し コピー 模写棒作り	【第15回】 本紙制作 空間の意識⑤	【第3回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）①	【第16回】 本紙制作 空間の意識⑥	【第4回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）②	【第17回】 本紙制作 全体感をよく見る①	【第5回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）③	【第18回】 本紙制作 全体感をよく見る②	【第6回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）④	【第19回】 本紙制作 全体感をよく見る③	【第7回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）①	【第20回】 本紙制作 全体感をよく見る④	【第8回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）②	【第21回】 本紙制作 全体感をよく見る⑤	【第9回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）③	【第22回】 本紙制作 全体感をよく見る⑥	【第10回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）④	【第23回】 本紙制作 全体感をよく見る⑦	【第11回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）⑤	【第24回】 裏打の仕方	【第12回】 本紙制作 空間の意識①	【第25回】 裏打①	【第13回】 本紙制作 空間の意識②	【第26回】 裏打②
【第1回】 導入・授業全体の見直し 制作における作品探し	【第14回】 本紙制作 空間の意識④																																		
【第2回】 作品探し コピー 模写棒作り	【第15回】 本紙制作 空間の意識⑤																																		
【第3回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）①	【第16回】 本紙制作 空間の意識⑥																																		
【第4回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）②	【第17回】 本紙制作 全体感をよく見る①																																		
【第5回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）③	【第18回】 本紙制作 全体感をよく見る②																																		
【第6回】 試し描き 立体の意識（明暗明度の捉え方）④	【第19回】 本紙制作 全体感をよく見る③																																		
【第7回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）①	【第20回】 本紙制作 全体感をよく見る④																																		
【第8回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）②	【第21回】 本紙制作 全体感をよく見る⑤																																		
【第9回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）③	【第22回】 本紙制作 全体感をよく見る⑥																																		
【第10回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）④	【第23回】 本紙制作 全体感をよく見る⑦																																		
【第11回】 本紙制作 立体の意識（明暗明度の捉え方）⑤	【第24回】 裏打の仕方																																		
【第12回】 本紙制作 空間の意識①	【第25回】 裏打①																																		
【第13回】 本紙制作 空間の意識②	【第26回】 裏打②																																		
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢70% 作品の仕上がり30%																																		
フィードバックの内容	制作課題を授業期間内に返却する。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書																																			
教員からのお知らせ	芸術実習Ⅰを履修した生徒は道具類そのまま使用可、初めての生徒は薄美濃紙、面相筆を購入して頂きます。																																		
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																																		
アクティブラーニングの内容	実習／実技／調査研究（調査学習）																																		
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11A2118601	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期
科目名	芸術実習〔仏像Ⅰ〕A								
履修前条件					備考				
授業の目的	当実習では実際に小仏像を制作する。1人に1体立体資料（仏像作品）を与えて、それを横に置いて制作する（模刻）。制作行為をとおして、観念的理解では掴みきれない、文化としての仏像彫刻が有する存在意義を体験する。								
到達目標	一つの作品を制作、完成させる。 彫刻制作は通常の視覚的なものの捉え方のみでは成しえず、普段は意識することのない触覚的感性を用いなければならない。このような感性領域に潜行する行為をとおして、彫刻芸術に対する新たな視点を獲得し、その存在意義を実感できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各時代の仏像彫刻の様式について、授業時間の前に確認する（60時間以上）。 事前に美術館・博物館・寺院等にて実物の仏像を鑑賞し、その印象を書きとめておくことが望ましい（60時間以上）。 ※当実習は2時限連続授業なので、下の表記は2時限を「1回」に換算している。								
授業計画	<p>【第1回】授業全体の流れと、「彫刻芸術」に関する講義／〈仏像制作〉のための下絵を作成</p> <p>【第2回】丸棒状の材料（特殊粘土）を四角形に整える</p> <p>【第3回】正面および側面に「下絵」の外枠の線を移し、余分な箇所を削る</p> <p>【第4回】正面および側面から、少し細かい面を捉えて成形する</p> <p>【第5回】断面の形状として「斜め」の面をとりはじめる</p> <p>【第6回】各部の「斜め」の面を捉えて成形する</p> <p>—ここまでは外側からのアプローチ ⇒ ここからは内側から「かたち」をつかむ試み—</p> <p>【第7回】身体感覚を意識する試みを行って、自らの身体感覚を投影して「かたち」を捉える</p> <p>【第8回】人が「立つ」ときの力の流れを身体の内側で捉えながら、その緊張感を捉える</p> <p>【第9回】「かたち」の中に力が流れる感触と、彫刻的生命感の関係性を理解し、成形していく</p> <p>【第10回】量塊性と生命感を意識し、それが「ひとまとまりの調和」として主張することを目指す</p> <p>【第11回】部分の変化が即全体の「調和」に影響するため、「部分と全体」の両方を意識して「かたち」を整える</p> <p>【第12回】〃</p> <p>【第13回】全体が「ひとまとまりの調和」として感じられることを指標として、「かたち」をまとめてフィニッシュ</p>								
成績評価の方法	実習への取り組み姿勢50%、作品の内容50%。								
フィードバックの内容	授業時間内において、各学生の作品に対する講評を行うとともに、取り組みの方向性を指示する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	芸術実習〔仏像Ⅰ〕のA・Bクラスは同科目。最初の授業時にクラス分けを行うので必ず出席のこと。完成作品は専門家に依頼して铸造する。材料費と铸造費（\17,000-）が別途必要となる。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談がある場合は、教員にメールを送って尋ねてください。								
アクティブラーニングの内容	実技・実習。造形行為は自分の内面世界との対話であり、内省と出力を繰り返して行う思考としての意味をもつ。当事者はその「思考」の結果として生み出した作品によって、自分の中に潜在していたイメージを発見する。								
実践的な教育内容 その他	実務経験に基づいた指導によって小仏像を制作することで、その行為は学生が彫刻芸術を体験的に理解する機会となる。								

講義コード	11A2118602	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	伊加利 庄平	開講期	第1期
科目名	芸術実習〔仏像Ⅰ〕B								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講座では、特殊な粘土を用いて高さ14cmの小仏像を制作する。小仏像とはいえ、授業時間内で作品をある程度の完成度まで持つていくのは大変な作業である。完成を目標に粘り強く取り組んでほしい。同時に、触覚芸術ともいわれる彫刻の立体的造形感覚の世界を体験することにより、彫刻芸術に対する理解を深めることを目的とする。完成作品は業者に依頼して铸造します。								
到達目標	各自なりに一つの仏像を作り上げる。 彫刻芸術に対して、自分の感覚を通した新たな視点を獲得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 美術書等で日本の古典の仏像、またアジア各地に遺された仏像美術に親しみ、仏像や仏教美術に対する見識を高める。特に日本の仏像に関しては、時代ごとの表現の違いに着目して観るとよい。 また、美術館、博物館などで実物の仏像に触れる機会をできるだけ多く持つてほしい。								
授業計画	<p>【第1回】導入、授業全体の見通し。〈仏像制作〉下絵作成</p> <p>【第2回】材の調整</p> <p>【第3回】粗造り（あらづくり）①</p> <p>【第4回】粗造り②</p> <p>【第5回】粗造り③</p> <p>【第6回】中作り（なかづくり）①</p> <p>【第7回】中作り②</p> <p>【第8回】中作り③</p> <p>【第9回】中作り④</p> <p>【第10回】小作り（こづくり）①</p> <p>【第11回】小作り②</p> <p>【第12回】小作り・仕上げ①</p> <p>【第13回】小作り・仕上げ②</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、作品の内容50%								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	芸術実習〔仏像Ⅰ〕のA、Bは同科目です。最初の授業時にクラスの振り分けをするので必ず出席のこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間中、または授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	実技授業、能動的な授業外学習、体験学習、発見学習など								
実践的な教育内容 その他	実習に用いるモチーフ・材料・道具・資料などは授業中に指示します。完成作品は専門家に依頼して铸造します。なお、材料費と铸造費が別途必要（17000円）となります。								

講義コード	11A2118891	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第2期
科目名	芸術実習【仏像Ⅱ】A								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業は卒業制作を選択する学生に対して開講する。卒業制作において、模刻や模写作品の内容をそれに見合うレベルに引き上げていくためには、限られた時間の中で造形の本質をできる限り深く理解すると同時に、それを感覚として自分のものにし、制作に応用していかなければならない。そのために必要とされる実際的な指導を行う。								
到達目標	彫刻作品を対象とする場合は、触覚的感性に感応する彫刻芸術の本質を捉えるために「量塊」や「面」についての理解を深めつつ、古典彫刻の特殊な存在感の秘密に触れる。絵画作品を対象とする場合は、線描や彩色技法を習得しつつ、古代の優れた表現形式を体得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	美術館や寺院に遺されている仏像彫刻の優品を定期的に拝観する（60時間以上）。そしてそれぞれの時代の造形様式の違いを確認しつつ、造形様式が形成される必然性を考察し、レポートを作成する（60時間以上）。								
授業計画	当授業は連続授業なので、同日の2時限を1回に換算して記す。 【第1回】造形という行為をとおして、仏像彫刻や仏画にアプローチする意義を考える 【第2回】各時代様式の在り方と必然について探る 【第3回】各自の制作テーマ・素材・大きさ等の検討1 【第4回】各自の制作テーマ・素材・表現等の検討2 【第5回】各自の制作テーマ・素材・表現等の検討3 【第6回】各自の制作テーマ・素材・表現等の検討4 【第7回】制作指導・資料収集1 【第8回】制作指導・資料収集2 【第9回】制作指導・資料検証1 【第10回】制作指導・資料検証2 【第11回】～【第13回】各自で決定したテーマに基づいて作品制作								
成績評価の方法	対象の造形に迫る努力30% 造形密度40% 模刻・模写としての精度30%								
フィードバックの内容	授業時間内において、各学生の作品に対する講評を行うとともに、取り組みの方向性を指示する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この授業は、「卒業制作」を選択した学生を対象としています。他の学生が履修しても受講はできません。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談がある場合は、教員にメールを送って尋ねてください。								
アクティブラーニングの内容	造形行為は自分の内面世界との対話であり、内省と出力を繰り返して行う思考としての意味をもつ。当事者は自らの「思考」の結果として生み出した作品によって、自分の中に潜在していたイメージを確認する。								
実践的な教育内容	実務経験に基づいた指導を受けながら作品を制作することで、その行為は学生が「芸術」を体験的に理解する機会となる。								
その他									

講義コード	11A2118892	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	伊加利 庄平	開講期	第2期
科目名	芸術実習【仏像Ⅱ】B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講座は卒業制作において彫刻模刻を選択する学生に対して開講するものである。卒業制作において、模刻作品の内容をそれに見合うレベルのものにするためには、限られた時間の中で、彫刻造形の本質をできる限り深く理解すると同時に、それを感覚として自分のものにし、制作に応用していかなければならない。そのために必要とされる実際的な指導を行う。								
到達目標	高いレベルの造形的探求に基づいた模刻制作を行うことができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。美術館、博物館などで実物の美術作品（仏像や仏教美術を主とするが、それだけに限らない）に触れる機会を多く持つ。仏像に関しては、美術書などにも当たり、自分が模刻する仏像だけでなく、より多くの仏像を鑑賞し、特に各時代の特色に関する見識を深める。								
授業計画	【第1回】模刻制作の現時点での到達点と課題を明確にし、後半の制作の進め方についての見通しを立てる。 【第2回】彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導① 【第3回】彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導② 【第4回】彫刻造形の本質の理解と体得及び各自の課題に沿った指導③ 【第5回】模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導① 【第6回】模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導② 【第7回】模刻対象の形態の持つ造形的必然性についての理解及び作品の密度を上げていくための指導③ 【第8回】時間的な制約と完成密度の兼ね合いを見極め、最終的な完成イメージを想定する。 【第9回】完成イメージに向けての具体的な指導① 【第10回】完成イメージに向けての具体的な指導② 【第11回】完成イメージに向けての具体的な指導③ 【第12回】完成イメージに向けての具体的な指導④ 【第13回】完成イメージに向けての具体的な指導⑤								
成績評価の方法	授業及び制約全体への取り組み姿勢50%、完成作品の内容50%。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	卒業制作において模刻制作を行う4年生のみ履修すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業時間内に受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	卒業研究、実技実習、能動的な授業外学習、発見学習、体験学習、意見共有など。								
実践的な教育内容									
その他	当授業は制作中の作品に対する指導のための授業なので、授業時間の他に各自制作のための時間をできる限り多く捻出する努力をすること。								

講義コード	11A0111702	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	芸術実習基礎B				金路	第1期	
履修前条件	備考						
授業の目的	<p>仏像彫刻が存在する意味について、特に触覚的感性に関わる彫刻芸術としての観点から考察する。 前半部（7回までを予定）で「仏顔絵」、後半部で「仏頭」を制作する。実際に制作し表現することで「想像」から「創造」へのプロセスを体感し、「仏像」の文化的必然性に迫る</p>						
到達目標	<p>○日本の仏像彫刻の種類・形状などの基礎知識を習得。 ○仏像彫刻を「様式」の観点から捉えて古代の「美の形式」を学ぶ。 ○触覚芸術と呼ばれる彫刻の本質を捉える。 ○彫刻が「仏像」として成立した理由を体験的に把握する。</p>						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	<p>各時代の仏像彫刻の様式について、毎回の授業時間前に確認する（60時間）。 本実習授業で仏頭を模刻するにあたり、美術館・博物館・寺院などにて尊名・制作年代に注意しながら、実物の仏像を見る。 それが難しい場合は、写真集などで確認する（60時間）。</p>						
授業計画	<p>当授業は2時限連続授業なので、下の表記は2時限を「1回」と換算している。 【第1回】講義 文化としての仏像、実習の意味の説明。仏像の種類・特徴・各部名称、素材・制作技法など 【第2回】実習課題1（仏顔絵制作） 自分の顔をトレースし自分の顔の絵として一旦描く。 【第3回】 〃 自分の顔の絵に仏像の要素加えていき、仏顔絵として仕上げる（線描） 【第4回】 〃 各部分を着色 【第5回】 〃 各部分を着色 【第6回】 〃 各部分を着色 【第7回】 〃 全体を着色して仕上げる 【第8回】実習課題2（仏頭制作） 触覚芸術としての彫刻の本質について解説した上で、油粘土を用いた仏頭制作1 【第9回】 〃 油粘土を用いた仏頭制作2 【第10回】 〃 油粘土を用いた仏頭制作3 【第11回】 〃 油粘土を用いた仏頭制作4 【第12回】 〃 油粘土を用いた仏頭制作5 【第13回】 〃 作品の石膏取り作業</p>						
成績評価の方法	実習への取り組み姿勢20%。「仏顔絵」実習40%。「仏頭」実習40%。						
フィードバックの内容	授業時間内において、各学生の作品に対する講評を行うとともに、取り組みの方向性を指示する。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	実習に必要なものは授業中に配布。※実習材料費（3,000円程度）が必要。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 また、教員にメールを送って尋ねてください。						
アクティブラーニングの内容	造形行為は自分の内面世界との対話であり、内省と出力を繰り返して行う思考としての意味をもつ。当事者はその「思考」の結果として生み出した作品によって、自分の中に潜在していたイメージを確認する。						
実践的な教育内容 その他	実務経験に基づいた指導を受けながら作品を制作することで、学生の行為は「芸術」を体験的に理解する機会となる。						

講義コード	11A0114400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	現代宗教研究				安中 尚史		第1期
履修前条件					備考		
授業の目的	現代社会のなかで、実に多様性をもっている宗教問題について、特に身近な宗教の具体的な事例を掲げて、本講義では考察を進めます。						
到達目標	現代社会における宗教状況について、その基本知識と理解の修得を目標とします。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、現代社会における宗教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】近代以降における日蓮系各宗派の動向1 【第2回】近代以降における日蓮系各宗派の動向2 【第3回】近代以降における日蓮系各宗派の動向3 【第4回】宗教制度の変遷1 【第5回】宗教制度の変遷2 【第6回】宗教制度の変遷3 【第7回】伝統宗教教団の過去・現在・未来1 【第8回】伝統宗教教団の過去・現在・未来2 【第9回】新宗教について1 【第10回】新宗教について2 【第11回】現代社会における宗教の意義1 【第12回】現代社会における宗教の意義2 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%（講義毎の課題等）、レポート70%で評価します						
フィードバックの内容	「Open LMS」を通して対応します。						
教科書	プリントを配布します						
指定図書							
参考書	講義の中で紹介します						
教員からのお知らせ	単に知識として現代における宗教問題を学習するのではなく、講義に対して問題意識をもち、主体的に意欲をもって下さい。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容							
実践的な教育内容	現役僧侶としての実務経験を活かし、現代の宗教情勢に関する基本知識を理解させる。						
その他							

講義コード	11A0115600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	松野 智章	開講期	第1期
科目名	現代宗教特講1 / 宗教哲学								
履修前条件					備考				
授業の目的	宗教哲学は、宗教に関して理性的でありさえすれば自由に宗教を考察することができる学問である。								
到達目標	宗教とは何か？神は実在するのか？無神論者の生の価値とは何か？最先端の科学の知見は宗教にどのような影響を与えるのか？神学でもなければ客観的な宗教社会学でもない哲学的に宗教を考察するのが本授業である。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	1、哲学者が宗教をどのように捉えてきたのか、その一部を理解できるようになる。 2、科学的知見によって、宗教を相対的にみることができるようになる。 3、哲学的な思考法の一部を理解できるようになる。 4、宗教について、自分で自由に考える力を養えるようになる。 5、宗教と文化の関係を理解できるようになる。								
授業計画	宗教哲学に関する本を1冊は手に取ってみてください。 特に、古典を読むとその面白さが分かります。 合計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
成績評価の方法	【第1回】 そもそも宗教って何？哲学って何？ 【第8回】 ナチとは何か？ 【第2回】 世界宗教と民族宗教の違いを理解する。 【第9回】 デイズニーにおける宗教の描写を理解する。 【第3回】 一神教と人権の関係を理解する。 【第10回】 第二バチカン公会議と言語哲学を理解する。 【第4回】 近代になって宗教が誕生した？ 【第11回】 ポストモダンと宗教について考える。 【第5回】 宗教と芸術の関係を通して近代を理解する。 【第12回】 宗教と物質主義について考える。 【第6回】 宗教と建築の関係を通して近代を理解する。 【第13回】 ディスカッション・試験 【第7回】 宗教における近代国家とは何か？								
フィードバックの内容	授業への取り組み姿勢60%								
教科書	試験40%								
指定図書	リアクションペーパーでの質問は匿名で翌週に回答する。								
参考書	『宗教哲学入門』量義治（講談社学術文庫）2008、『時と永遠』波多野精一（岩波文庫）2012、『宗教の哲学』ジョン・ヒック（勁草書房）1994、『ワイトゲンシュタインと宗教哲学——言語・宗教・コミットメント』星川啓慈（ヨルゲン社）1989、『善の研究』西田幾多郎（岩波文庫）1979、『解明される宗教』ダニエル・デネット（青土社）2010、『宗教を生み出す本能——進化論からみたヒトと信仰』ニコラス・ウェイド（エヌティティ出版）2011								
教員からのお知らせ	基本的に考える授業です。知識は無くてもやる気があれば十分です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、リアクションペーパー（フォーム）にご記入ください。								
アクティブラーニングの内容	授業内もしくは、個別に対応いたします。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0112900	授業形態	大崎受信遠隔	抽選の有無	-	担当教員	寺尾英智・岡田 愛	開講期	集中
科目名	国内仏教文化研修4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、実地の見学・研修と事前事後の学習を併せて行う。本年度は、「佐渡の仏教文化と世界文化遺産佐渡金山」と題し、古代・中世の仏教文化の様相を窺う史跡、および日蓮聖人佐渡流罪の史跡、そして世界文化遺産に指定された佐渡金山等について体験的に学習していく。具体的には、新潟県佐渡市の寺院・遺跡・博物館等を中心に研修を行う。								
到達目標	研修で訪れた史跡の特色と歴史的背景等に関して説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。見学先となる寺院等の歴史・成立背景等について、参考書や配布資料を用いて学習した上で、事前学習会ならびに研修に臨むこと。								
授業計画	《研修期間》令和8月9月28日（月）～30日（水）2泊3日（予定） 《研修地》 新潟県佐渡市 根本寺 妙宣寺 妙照寺 本行寺 妙法寺 長谷寺 蓮華峰寺 国分寺跡 佐渡金銀山 佐渡博物館 等（予定）								
	事前学習会を以下の通り4回開催し、各寺院・遺跡等の特色や、その歴史的背景等について予備知識を得る。研修への参加を希望する学生は、第1回事前学習会に必ず出席すること。 【第1回】事前学習会 4月18日（土）5時限（17:15～19:00） 【第2回】事前学習会 5月23日（土）5時限（17:15～19:00） 【第3回】事前学習会 6月20日（土）5時限（17:15～19:00） 【第4回】事前学習会 7月18日（土）5時限（17:15～19:00） ※連絡事項は、ガイダンス・ポータルサイト・仏教学部掲示板等で別途指示する。								
成績評価の方法	事前学習・現地研修の平常点60%、課題レポート40%で総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業時に行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	参考書等は、事前学習会各回において適宜指示する。 主体的な意欲をもって研修に臨むこと。 研修期間は団体行動となるので、全体の行動の妨げとなるような行為は厳に慎むこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付ける。								
アクティブラーニングの内容	調査学習								
実践的な教育内容									
その他	事前学習会には必ず参加すること。								

講義コード	11A0100261	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	有村 憲浩	開講期	第2期
科目名	古文漢文表現基礎A								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、仏教学部の学びの導入科目として、古文・漢文の基本的な文法について学び、仏教文献を読解する上での必要な基礎学力を養うことを目的とする。								
到達目標	古文・漢文の文法に関する基本的事項について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】古文基礎① 【第2回】古文基礎② 【第3回】古文基礎③ 【第4回】古文基礎④ 【第5回】古文基礎⑤ 【第6回】古文基礎⑥、小テスト 【第7回】漢文基礎① 【第8回】漢文基礎② 【第9回】漢文基礎③ 【第10回】漢文基礎④ 【第11回】漢文基礎⑤ 【第12回】漢文基礎⑥ 【第13回】漢文基礎⑦、小テスト								
成績評価の方法	小テスト（40%）、授業への取り組み姿勢（60%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内で行う。								
教科書	『[新版二訂] ニューエイジ 古典 基礎1』第一学習社編集部編（第一学習社）								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定の教科書に基づいて授業を行いますので、各自教科書を必ず用意して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0100262	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	有村 憲浩	開講期	第2期
科目名	古文漢文表現基礎B					有村 憲浩		第2期	
履修前条件						備考			
授業の目的	本授業は、仏教学部の学びの導入科目として、古文・漢文の基本的な文法について学び、仏教文献を読解する上での必要な基礎学力を養うことを目的とする。								
到達目標	古文・漢文の文法に関する基本的事項について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】古文基礎① 【第2回】古文基礎② 【第3回】古文基礎③ 【第4回】古文基礎④ 【第5回】古文基礎⑤ 【第6回】古文基礎⑥、小テスト 【第7回】漢文基礎① 【第8回】漢文基礎② 【第9回】漢文基礎③ 【第10回】漢文基礎④ 【第11回】漢文基礎⑤ 【第12回】漢文基礎⑥ 【第13回】漢文基礎⑦、小テスト								
成績評価の方法	小テスト（40%）、授業への取り組み姿勢（60%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内で行う。								
教科書	『[新版二訂] ニューエイジ 古典 基礎1』第一学習社編集部編（第一学習社）								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定の教科書に基づいて授業を行いますので、各自教科書を必ず用意して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0107600	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期
科目名	サンスクリット語初級Ⅰ／サンスクリット語初級Ⅰ(宗学科)(仏教学科)					戸田 裕久		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	サンスクリット語すなわち梵語は数千年前に端を発し紀元前4世紀頃に文法が確立された古典語であり印欧語族の最古層に位置づけられる。インド文化圏の共通語として宗教・哲学・文学・科学等あらゆる分野で用いられており、仏教等インドの思想・文化の研究にはその習得が必須である。本講では梵語の発音と文字、文法の概要を講じる。また、西欧諸語との関連性や東洋諸語に与えた影響、仏教用語の翻訳上の問題等にも言及する。								
到達目標	サンスクリット語の音韻に慣れ、聞き取り、発音することができる。名詞・形容詞・代名詞等の格変化形に慣れる。格の意味用法を理解し、文の構造を読み取ることができる。時制・態・法・人称・数に応じた動詞の活用が解る。簡単な文章が読める。デーヴァナーガリー文字を読むことができる。仏教用語の原語を知り原義が解る。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業前に、配布資料『梵語便覧』の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後に、資料を再読してj授業で扱われた内容を完全に理解するように努め、また語形変化表や例文を音読し発音練習を重ねる。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】サンスクリットとは／文字と発音（母音字母） 【第2回】文字と発音（子音字母、母音表示、子音結合） 【第3回】品詞、性・数・格、格の意味用法 【第4回】名詞・形容詞の格変化（母音語幹1） 【第5回】名詞・形容詞の格変化（母音語幹2） 【第6回】代名詞（人称・指示・関係・疑問・不定代名詞） 【第7回】動詞活用概要（人称、態、時制、法、構成要素） 【第8回】現在組織の動詞活用：第1種（直説法現在時制） 【第9回】同：第1種（直説法過去時制・願望法・命令法） 【第10回】比較級・最上級、数詞（基数詞の語幹） 【第11回】数詞（基数詞の格変化・用法、序数詞、分数） 【第12回】不変化辞（副詞、前置詞、接続詞、間投詞） 【第13回】連声1：外連声（語と語の間の音変化）								
成績評価の方法	小テストあるいは課題レポート4回（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。								
フィードバックの内容	小テスト終了後に解法のヒントまたは解答を示す。翌週以降の授業内に答案を返却し講評する。								
教科書	『梵語便覧 2026年度簡約版』戸田 裕久（私家版（随時印刷して配布します））								
指定図書									
参考書	『サンスクリット文法』辻直四郎（岩波書店）1974年、『サンスクリット入門——インドの思想を育んだ完全なる言語』赤松明彦（中央公論新社）2024年、『実習サンスクリット文法——荻原雲来『実習梵語学』新訂版』荻原雲来・吹田隆道（春秋社）2015年、『初心者のためのサンスクリット文法Ⅰ』平岡昇修（世界聖典刊行協会）2008年								
教員からのお知らせ	サンスクリット語はインド・ヨーロッパ語族に属しており、英語等の西洋諸言語の文法と対比すると理解し易い。大きな声で音読を繰り返し耳に慣れさせれば覚えられます。授業中はもちろん、復習する時も声を出して。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	語学の習得は基礎からの積み重ねです。今、何の話をしているのか、見失ってしまったときには、配布資料『梵語便覧』の最初の方と各章の始めの方を、落ち着いて読み返してみてください。必ずわかるようになります。								

講義コード	11A0107700	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期
科目名	サンスクリット語初級Ⅱ／サンスクリット語初級Ⅱ(宗学科)(仏教学科)				戸田 裕久			第2期	
履修前提条件	備考								
授業の目的	サンスクリット語すなわち梵語は数千年前に端を発し紀元前4世紀頃に文法が確立された古典語であり印欧語族の最古層に位置づけられる。インド文化圏の共通語として宗教・哲学・文学・科学等あらゆる分野で用いられており、仏教等インドの思想・文化の研究にはその習得が必須である。本講では梵語の発音と文字、文法の概要を講じる。また、西欧諸語との関連性や東洋諸語に与えた影響、仏教用語の翻訳上の問題等にも言及する								
到達目標	サンスクリット語の音韻に慣れ、聞き取り、発音することができる。名詞・形容詞・代名詞等の格変化形に慣れる。格の意味用法を理解し、文の構造を読み取ることができる。時制・態・法・人称・数に応じた動詞の活用が解る。簡単な文章が読める。デーヴァナーガリー文字を読むことができる。仏教用語の原語を知り原義が解る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前に、配布資料『梵語便覧』の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後に、資料を再読して授業で扱われた内容を完全に理解するように努め、また語形変化表や例文を音読し発音練習を重ねる。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】連声2：内連声(単語内部の音変化) 【第2回】名詞・形容詞の格変化(子音一語幹) 【第3回】名詞・形容詞の格変化(子音多語幹) 【第4回】現在組織の動詞活用：第2種(第5・8・9類) 【第5回】現在組織の動詞活用：第2種(第7・2・3類) 【第6回】未来組織の活用(単純未来、条件未来) 【第7回】アオリスト組織の活用(直説法7類型、祈願法)			【第8回】完了組織の活用(重複完了、複合完了) 【第9回】第二次活用(受動・使役・意欲・強意活用) 【第10回】準動詞(現在分詞、過去分詞、不定詞、等) 【第11回】複合語(種別と分析) 【第12回】派生語(造語法) 【第13回】文献読解の例示					
成績評価の方法	小テストあるいは課題レポート3～4回(80%)、授業への取り組み姿勢(20%)。								
フィードバックの内容	小テスト終了後に解法のヒントまたは解答を示す。翌週以降の授業内に答案を返却し講評する。								
教科書	『梵語便覧 2026年度簡約版』戸田 裕久(私家版(随時印刷して配布します))								
指定図書									
参考書	『サンスクリット文法』辻直四郎(岩波書店)1974年、『サンスクリット入門——インドの思想を育んだ完全なる言語』赤松明彦(中央公論新社)2024年、『実習サンスクリット文法——荻原雲来『実習梵語学』新訂版』荻原雲来・吹田隆道(春秋社)2015年、『ニューエクスプレス+サンスクリット語』石井裕(白水社)2021年								
教員からのお知らせ	「サンスクリット語初級Ⅱ」は「サンスクリット語初級Ⅰ」の内容を習得済みであることを前提として授業を進めます。夏期休暇中に第1期に習ったことを総復習しておきましょう。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	本講は単語の語形変化の説明が主となり、文については簡単な構文の短文に触れるに留まるでしょう。実際に色々な文章に親しむには次年度に「サンスクリット語中級」を受講してください。								

講義コード	11A0107800	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期
科目名	サンスクリット語中級Ⅰ				戸田 裕久			第1期	
履修前提条件	備考								
授業の目的	サンスクリットすなわち梵語は古来インド文化圏の共通語の役割を果たし、宗教・哲学・文学、法律・政治・経済、数学・医学・天文学等あらゆる分野で広く用いられている。各分野の基本的文献の講読を通して、文法事項の確認と語彙力の向上、および統語・構文・論理形式・定型句・慣用表現等の文献読解に必要な知識と技法の習得を図る。様々な文体と内容に触れることにより梵語の世界の広がりや奥行きを体感していただきたい。								
到達目標	サンスクリット語の音韻に馴れ、聞き取り、発音することができる。デーヴァナーガリー文字を読むことができる。文中の各語の語形と意味および構文を正確に把握できる。各種の文体、定型表現に馴れる。仏教を含む印度哲学の文献を解説することができる。文学作品の重層的な意味を解き明かし味読し鑑賞することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前に、教材の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、発音の練習をしておくこと。授業後には、授業時に教示された文法事項を確認し、教員による訳例をもとにして自分なりの訳文を作成しておく。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】サンスクリット語の文字と発音の復習 【第2回】サンスクリット語の基礎文法の復習と補習 【第3回】日常会話 【第4回】初等学習者向け読本 【第5回】説話集『ヒトールパデーシャ(有益な教え)』1 【第6回】説話集『ヒトールパデーシャ(有益な教え)』2 【第7回】説話集『カターサリットサーガラ(物語の海)』1			【第8回】説話集『カターサリットサーガラ(物語の海)』2 【第9回】仏教詩『一百五十讚』 【第10回】部派仏教論書：世親『阿毘達磨俱舍論』 【第11回】大乘仏教論書：龍樹『中論』 【第12回】大乘仏教論書：龍樹『宝行王正論』 【第13回】大乘仏教經典：『妙法蓮華経』					
成績評価の方法	課題レポート(80%)、授業への取り組み姿勢(20%)。								
フィードバックの内容	課題レポートの答案の中から優秀作を選定して講評する。								
教科書	教材として各種文献からの選文を適宜複製して配付します。『梵語便覧 簡約版』戸田 裕久(私家版(過年度「サンスクリット語初級」資料、配布済))								
指定図書									
参考書	『A Sanskrit Reader, Text and Vocabulary and Notes』Charles Rockwell Lanman (Harvard University Press) 1884、『Sanskrit Syntax』J. S. Speijer (E.J. Brill, Leiden) 1886、『Spoken Sanskrit』P. Shastri and S.K. Pandey (Neeta Prakashan, Delhi) 2000、『サンスクリット語の構文と語法』二宮 陸雄(平河出版社)1989年、『サンスクリット文法』辻直四郎(岩波書店)1974年								
教員からのお知らせ	「サンスクリット語中級」は「サンスクリット語初級」の内容を習得済みであることを前提として授業を進めます。文法事項の確認のため「初級」で配布した『梵語便覧』を毎回持参して受講してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	文献の解説はもっぱら教員によりなされるが、受講生が自ら予習して積極的に取り組むならば、力がつき、楽しくなることであろう。文意を読み解くことに主眼が置かれるが、音読にも力を入れ、朗読を楽しみたいと思う。								

講義コード	11A0107900	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期	
科目名	サンスクリット語中級Ⅱ				戸田 裕久			第2期		
履修前提条件					備考					
授業の目的	サンスクリットすなわち梵語は古来インド文化圏の共通語の役割を果たし、宗教・哲学・文学、法律・政治・経済、数学・医薬学・天文学等あらゆる分野で広く用いられている。各分野の基本的文献の講読を通して、文法事項の確認と語彙力の向上、および統語・構文・論理形式・定型句・慣用表現等の文献解読に必要な知識と技法の習得を図る。様々な文体と内容に触れることにより梵語の世界の広がりや奥行きを体感していただきたい									
到達目標	サンスクリット語の音韻に馴れ、聞き取り、発音することができる。デーヴァナーガリー文字を読むことができる。文中の各語の語形と意味および構文を正確に把握できる。各種の文体、定型的表现に馴れる。仏教を含む印度哲学の文献を解説することができる。文学作品の重層的な意味を解き明かし、味読し鑑賞することができる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業前に、教材の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、発音の練習をしておくこと。授業後には、授業時に教示された文法事項を確認し、教員による訳例をもとにして自分なりの訳文を作成しておく。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。									
授業計画	【第1回】 ヴェーダ聖典 【第2回】 ウパニシャッド聖典 【第3回】 叙事詩『マハーバーラタ』 【第4回】 ヒンドゥー教聖典『バガヴァッドギーター』 【第5回】 ヒンドゥー教論書『ヨーガスートラ』 【第6回】 法律論書『マヌスメリティ（マヌ法典）』 【第7回】 政治論書『アルタシャーストラ（実利論）』			【第8回】 医学論書（アーユルヴェーダ） 【第9回】 天文学・占星術論書（ジュヨーティシヤ） 【第10回】 文法論書（ヴィヤーカラナ） 【第11回】 抒情詩：カーリダーサ作『メーガドゥータ（雲の使い）』 【第12回】 戯曲：カーリダーサ作『シャクンタラー』 【第13回】 大乘仏教経典：『妙法蓮華経』						
成績評価の方法	課題レポート（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）。									
フィードバックの内容	課題レポートの答案の中から優秀作を選定して講評する。									
教科書	教材として各種文献からの選文を適宜複製して配付します。『梵語便覧 簡約版』戸田 裕久（私家版（過年度「サンスクリット語初級」資料、配布済））									
指定図書										
参考書	『インド文明の曙－ヴェーダとウパニシャッド』辻直四郎（岩波書店）1967年、『サンスクリット読本』辻直四郎（春秋社）1975年、『世界文学大系4インド集』田中 於克弥（筑摩書房）1959年、『パーニニ文法学講義』川村 悠人／アダム・アルバー・キャット Adam Alvah Catt（臨川書店）2024年、『インドの学術書』M. ヴィンテルニッツ（Moriz Winternitz）著、中野義照訳（日本印度学会）1964年、『Scholastic Sanskrit: A Handbook for Students』Gary A. Tubb and Emery R. Boose（American Institute of Buddhist Studies at Columbia University）2007									
教員からのお知らせ	語学の習得は基礎からの積み重ねです。今、何の話をしているのか見失ってしまったときには『梵語便覧』の該当する箇所を落ち着いて読み返してみてください。必ずわかるようになります。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーに教員研究室にて受付けます。									
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	教員からのフィードバックによる振り返り									
その他	なるべく色々なタイプの文献を扱いたいのですが、時間の都合で割愛せざるを得なくなった場合はご容赦ください。									

講義コード	11A0104000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期	
科目名	宗学史概論Ⅰ				田村 亘禰			第1期		
履修前提条件					備考					
授業の目的	①日蓮聖人滅後において、聖人の行動と思想の両面を、先師たちがどのように継承し、展開しようとしたかを考える。 ②日蓮聖人滅後から、江戸時代前期までの教学の歴史をたどる。									
到達目標	日蓮教団の思想史的展開の概要を説明することができる。 日蓮宗と日蓮系他教団との教理的な相違を概略、説明することができる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回取り扱う内容について、各自、自宅や図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。									
授業計画	【第1回】 宗学史という学問分野の特長・考慮すべき諸事項 【第2回】 鎌倉・南北朝時代における教団の展開と教学上の問題 【第3回】 室町時代の京都における教団の展開と諸門流教学 【第4回】 行学院日朝の行動と教学 【第5回】 玄妙阿闍梨日什の分立とその教学 【第6回】 円光房日陣の分立とその教学 【第7回】 円明院日澄の教学			【第8回】 慶林坊日隆の分立とその教学 【第9回】 本因妙・本果妙下種論の展開 【第10回】 常不軽房日真の分立とその教学 【第11回】 富士門流における両巻血脈の形成 【第12回】 広蔵院日辰の行動と教学 【第13回】 宗風一変 －折伏より摂受へ 仏心院日珽の行動と思想－						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト毎回および宿題（20%）、期末試験（60%）で評価する。									
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。									
教科書	『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）1952年									
指定図書	『日蓮宗学説史』望月敏厚（平楽寺書店）1968年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（東京堂出版）1981年									
参考書	『日蓮教学の研究』望月敏厚（平楽寺書店）1958年、『興門教学の研究』執行海秀（海秀舎）1984年、『日蓮宗信行論の研究』渡邊寶陽（平楽寺書店）1976年、『日蓮教学研究』北川前肇（平楽寺書店）1987年、『日興門流上代事典』大黒喜道 編著（興風談所）2000年									
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室より退場させる。 この授業は「宗学の総合科目」とも言え、特に専門的な内容を有する。できれば「宗学概論」「宗史概論」「天台学概論」等を修得した後に履修することが望ましい。 専門用語に慣れるよう努力してもらいたい。									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。									
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、能動的な授業外学習。									
その他	教科書を事前に読み、意味の分からない用語について、『日蓮宗事典』等で、あらかじめ調べておくこと。授業中に行う小テストを授業時間内で解答できない場合は宿題として持ち帰り、次回の授業時に提出すること。									

講義コード	11A0104100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	宗学史概論2				田村 亘禰		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	①日蓮聖人滅後において、聖人の行動と思想の両面を、先師たちがどのように継承し、展開しようとしたかを考える。 ②江戸時代前・後期における教学の歴史をたどる。								
到達目標	日蓮教団の思想史的展開の概要を説明することができる。 日蓮宗と日蓮系他教団との教理的な相違を概略、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回取り扱う内容について、各自、自宅や図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】江戸時代前期における教団の展開と教学上の諸問題 【第2回】一如院日重・寂照院日乾・心性院日遠の行動と教学 【第3回】仏性院日奥の行動と教学 【第4回】檀林教学の興隆と展開－常在院日深を中心に－ 【第5回】録内・録外遺文の注釈書－安国院日講を中心に－ 【第6回】書物を通じた論争－了義院日達・舜統院真迺等－ 【第7回】草山元政の法華律 【第8回】六牙院日潮の行動と教団史研究 【第9回】堅樹院日寛による富士大石寺教学の大成 【第10回】江戸時代後期における教団の展開と教学上の諸問題 【第11回】一妙院日導による教学の体系化 【第12回】優陀那院日輝の充花園設立と観心主義教学 【第13回】在家教学の隆盛－皆久論争と長松日扇等を中心に－								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト毎回および宿題（20%）、期末試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）1952年								
指定図書	『日蓮宗学説史』望月敏厚（平楽寺書店）1968年、『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会編（東京堂出版）1981年								
参考書	『日蓮教学の研究』望月敏厚（平楽寺書店）1958年、『興門教学の研究』執行海秀（海秀舎）1984年、『日蓮宗信行論の研究』渡邊寶陽（平楽寺書店）1976年、『日蓮教学研究』北川前肇（平楽寺書店）1987年、『日興門流上代事典』大黒喜道 編著（興風談所）2000年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室より退場させる。 この授業は「宗学の総合科目」とも言え、特に専門的な内容を有する。できれば「宗学概論」「宗史概論」「天台学概論」等を修得した後に履修することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブチャット内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習。								
実践的な教育内容									
その他	教科書を事前に読み、意味の分からない用語について、『日蓮宗事典』等で、あらかじめ調べておくこと。授業中に行う小テストを授業時間内で解答できない場合は宿題として持ち帰り、次の授業時に提出すること。								

講義コード	11A0115000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期
科目名	宗教学／宗教とは何か				戸田 裕久		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	宗教とは何か。世界には宗教の名で呼ばれる現象が無数にあり、種々異なる様相を呈している。それらをひとくくりに定義するのは難しい。この捉え所のない諸宗教現象を、先人たちは理解しようと努め、あるいはそれに身を投じてきた。本講義では、そのような宗教に関する研究と実践の諸相を価値中立的立場から俯瞰し、宗教の存在意義を考察する。また特に、人類に共通する宗教体験の機序を探究する。								
到達目標	宗教現象の多様性を概括的に認識することができる。諸宗教の実態状況を中立的立場から客観的に理解することができる。多様な宗教現象に共通する要素や性質等を探究考察することができる。諸宗教の存在意義を理解し、寛容に対応することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所あらかじめ目を通しておき、授業後も資料を再読して扱われた内容の理解に努める。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】 宗教研究の意義、宗教の定義の試み 【第2回】 宗教研究の方法論、宗教現象の分類法 【第3回】 宗教儀礼、宗教心理、神秘主義 【第4回】 神という概念の多様性、神話 【第5回】 宗教現象学的考察：自然崇拜、呪力観 【第6回】 アニミズム、祖先崇拜、トーテミズム 【第7回】 シャーマニズム 【第8回】 民俗学的考察 【第9回】 宗教社会学の基礎理論 【第10回】 宗教集団に関する諸理論 【第11回】 宗教社会学の周辺分野 【第12回】 神秘体験・臨死体験と脳科学 【第13回】 現代社会における宗教の意義								
成績評価の方法	学期末レポート（30%）、所見票（リアクションペーパー）13回（60%）、授業への取り組み姿勢（10%）								
フィードバックの内容	前回授業の所見票に対する講評および質問への回答を授業内において行う。								
教科書	適宜、資料を配布します。								
指定図書									
参考書	『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎監修（東京大学出版会）1973年、『宗教学』岸本英夫著（大明堂）1961年、『宗教現象学入門』G. v. d. レーウ著、田丸徳善／大竹みよ子訳（東京大学出版会）1979年、『宗教社会学を学ぶ人のために』井上順孝編（世界思想社）2016年、『宗教社会学 宗教と社会のダイナミクス』メレディス・B・マクガイア著、山中弘・伊藤雅之・岡本亮輔訳（明石書店）2008年、『シャーマンの世界』ピアース・ヴィテプスキー著、中沢新一監修、岩坂彰訳（創元社）1996年								
教員からのお知らせ	レポート作成に当たっては各種資料やノート等を披見してよいが、単なる感想文や資料の抜き書きだけでは評価に値しないので注意すること。各自の見解を率直に述べるのが得策である。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	反転授業、意見共有								
実践的な教育内容									
その他	宗教の存在意義を問いつつ、現在の世界の危機的状況の乗り越えて我々皆が生き延びることのできる道を、共に考えてまいります。でも最後に、ちゃぶ台返しがあるかも。								

講義コード	11A0115300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期														
科目名	宗教学／宗教の史的展開				戸田 裕久			第2期															
履修前提条件					備考																		
授業の目的	世界に続発する紛争の多くは宗教に起因するとよく耳にする。本当だろうか。聖戦の美名の裏には必ず生臭い利害対立があった。宣教は侵略と植民地支配の大義名分に過ぎなかった。それは歴史の物語る所である。本講では、世界の諸宗教の教義と実践の歴史的展開と現況を価値中立の立場から紹介する。そしてこれは、世界の諸宗教現象の源流を探る旅であり、また、宗教の未来を予測する試みでもある。																						
到達目標	世界の諸宗教の多様性を概括的に認識することができる。諸宗教の実態状況を中立的立場から客観的に理解することができる。多様な宗教現象に共通する要素や性質等を探究考察することができる。諸宗教の存在意義を理解し寛容な対応をすることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所にあらかじめ目を通しておき、授業後も資料を再読して扱われた内容の理解に努める。これら予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】世界の諸宗教の全体像、先史時代の宗教</td> <td>【第8回】キリスト教（原始キリスト教の教義）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】メソポタミア・エジプトの古代宗教</td> <td>【第9回】キリスト教（中世以降の展開、文化習俗）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】インド・イランの古代宗教</td> <td>【第10回】イスラーム教（コーラン、聖法）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】ギリシアの古代宗教（神話、密儀、哲学）</td> <td>【第11回】イスラーム教（共同体、神秘主義、聖戦）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】ユダヤ教（旧約聖書、律法書）</td> <td>【第12回】中国の宗教（原始的信仰、儒教、道教）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】ユダヤ教（預言者、諸書、信仰生活）</td> <td>【第13回】日本の宗教（神道、修験道、民間信仰）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】キリスト教（史的イエスの生涯と思想）</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】世界の諸宗教の全体像、先史時代の宗教	【第8回】キリスト教（原始キリスト教の教義）	【第2回】メソポタミア・エジプトの古代宗教	【第9回】キリスト教（中世以降の展開、文化習俗）	【第3回】インド・イランの古代宗教	【第10回】イスラーム教（コーラン、聖法）	【第4回】ギリシアの古代宗教（神話、密儀、哲学）	【第11回】イスラーム教（共同体、神秘主義、聖戦）	【第5回】ユダヤ教（旧約聖書、律法書）	【第12回】中国の宗教（原始的信仰、儒教、道教）	【第6回】ユダヤ教（預言者、諸書、信仰生活）	【第13回】日本の宗教（神道、修験道、民間信仰）	【第7回】キリスト教（史的イエスの生涯と思想）	
【第1回】世界の諸宗教の全体像、先史時代の宗教	【第8回】キリスト教（原始キリスト教の教義）																						
【第2回】メソポタミア・エジプトの古代宗教	【第9回】キリスト教（中世以降の展開、文化習俗）																						
【第3回】インド・イランの古代宗教	【第10回】イスラーム教（コーラン、聖法）																						
【第4回】ギリシアの古代宗教（神話、密儀、哲学）	【第11回】イスラーム教（共同体、神秘主義、聖戦）																						
【第5回】ユダヤ教（旧約聖書、律法書）	【第12回】中国の宗教（原始的信仰、儒教、道教）																						
【第6回】ユダヤ教（預言者、諸書、信仰生活）	【第13回】日本の宗教（神道、修験道、民間信仰）																						
【第7回】キリスト教（史的イエスの生涯と思想）																							
成績評価の方法	学期末レポート（30%）、所見票（リアクションペーパー）13回（60%）、授業への取り組み姿勢（10%）。																						
フィードバックの内容	前回授業の所見票に対する講評および質問への回答を授業内において行う。																						
教科書	適宜、資料を配布します。																						
指定図書																							
参考書	『エリアーデ世界宗教事典』ミルチャ・エリアーデ、ヨアン・P・クリアーノ著、奥山 倫明訳（せりか書房）1994年、『神の歴史－ユダヤ・キリスト・イスラーム教全史』カレン・アームストロング著、高尾利数訳（柏書房）1995年、『神の伝記』ジャック・マイルズ著、秦剛平訳（青土社）1996年、『知の教科書 キリスト教』竹下節子著（講談社）2002年、『世界の宗教と経典・総解説』（自由国民社）1998年																						
教員からのお知らせ	上記の授業計画に留まらず、実際に授業を進める中で色々な方向に話が広がり、配布資料が多くなるかもしれません。授業では全てを扱い切れなくとも資料には一応目を通した上でレポート作成に臨んでください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	反転授業、意見共有																						
実践的な教育内容																							
その他	世界の諸宗教について、お伝えすべきこと、お話したいことが山ほどありますので、数時間余分に授業（補講）するかもしれません。補講も含めて全ての授業を受講した上で学期末レポート作成に臨んでください。																						

講義コード	11A0114500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	山本 早和美	開講期	第2期														
科目名	宗教法人法				山本 早和美			第2期															
履修前提条件					備考																		
授業の目的	本講義では、宗教団体の制度上の位置づけについて考察する。現代の宗教団体は大半が宗教法人という法人格を有し、法人として活動している。法人格がなければ、宗教団体として財産を取得することも、銀行から借入を行うことも困難である。																						
到達目標	<p>このように、宗教団体は宗教法人法や税法などの法律とかわりながら活動しているのであるが、それらの法律を単に条文を読むというだけでなく、具体的な事例を挙げながら解説する。</p> <p>宗教法人の事務を、宗教法人法に則って適正に処理することができる。</p> <p>宗教法人の所得税法にかかる源泉徴収事務の基本を理解できる。</p> <p>宗教法人の収益事業にかかる法人税法や消費税法の取扱いの基本を理解できる。</p>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、宗教法人法は、文化庁のホームページ等を参考にし、同法条文と照らし合わせて学習すること。所得税・法人税・消費税については、国税庁のパンフレットが手頃で参考になるため、授業中に該当ホームページを紹介するので講義後に復習すること。																						
授業計画	<p>本授業は全てオンラインで実施します。</p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】宗教法人法 第1章</td> <td>【第8回】毎月の源泉徴収実務2</td> </tr> <tr> <td>【第2回】宗教法人法 第2・3章</td> <td>【第9回】年末調整実務1</td> </tr> <tr> <td>【第3回】宗教法人法 第4章・第5章・第6章</td> <td>【第10回】年末調整実務2</td> </tr> <tr> <td>【第4回】宗教法人法 第7章以下</td> <td>【第11回】年末調整実務3、 小テスト（方法については授業で事前に発表する）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】日本の税の仕組み</td> <td>【第12回】法人税法</td> </tr> <tr> <td>【第6回】所得税の概要・源泉徴収制度</td> <td>【第13回】消費税法・税務調査</td> </tr> <tr> <td>【第7回】毎月の源泉徴収実務1</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】宗教法人法 第1章	【第8回】毎月の源泉徴収実務2	【第2回】宗教法人法 第2・3章	【第9回】年末調整実務1	【第3回】宗教法人法 第4章・第5章・第6章	【第10回】年末調整実務2	【第4回】宗教法人法 第7章以下	【第11回】年末調整実務3、 小テスト（方法については授業で事前に発表する）	【第5回】日本の税の仕組み	【第12回】法人税法	【第6回】所得税の概要・源泉徴収制度	【第13回】消費税法・税務調査	【第7回】毎月の源泉徴収実務1	
【第1回】宗教法人法 第1章	【第8回】毎月の源泉徴収実務2																						
【第2回】宗教法人法 第2・3章	【第9回】年末調整実務1																						
【第3回】宗教法人法 第4章・第5章・第6章	【第10回】年末調整実務2																						
【第4回】宗教法人法 第7章以下	【第11回】年末調整実務3、 小テスト（方法については授業で事前に発表する）																						
【第5回】日本の税の仕組み	【第12回】法人税法																						
【第6回】所得税の概要・源泉徴収制度	【第13回】消費税法・税務調査																						
【第7回】毎月の源泉徴収実務1																							
成績評価の方法	授業への取組み50%、レポート&小テスト等50%で評価することを原則とします。到達目標に記載の内容について、宗教法人法では条文の理解が出来ているか、税法では実際に実務に応用できるか等、これらを総合的に評価します。																						
フィードバックの内容	小テストについての講評や誤りが特に多かったポイントの解説については、LMS等で行う予定です。																						
教科書	資料を授業内に配布。																						
指定図書	必要な都度指示。																						
参考書	毎年改正のため授業中に指示。																						
教員からのお知らせ	授業には主体的・積極的に参加されることを希望します。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、LMSで対応する予定です。																						
アクティブラーニングの内容																							
実践的な教育内容																							
その他	現役の税理士が宗教法人の各種事務の基本を講義します。																						

講義コード	11A0103800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	寺尾 英智	開講期	第1期														
科目名	宗史概論1							寺尾 英智	第1期														
履修前提条件					備考																		
授業の目的	日蓮聖人滅後の日蓮教団では、六老僧をはじめとして門流が形成され、東国はもとより畿内や九州などの各地へと展開していった。戦国時代に入ると、日蓮教団は戦国大名や強力な統一政権と対峙せざるを得なくなる。そして近世にいたり、現在へと続く教団の基礎が形成される。そこで、各時代の特徴に留意しつつ、日蓮教団の展開を明らかにする。																						
到達目標	日蓮教団の歴史的な展開について、基本的な説明ができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	それぞれのテーマに関連する事項について、辞典並びに指定図書・参考図書を用いて予習・復習を行う。予習・復習と課題作成を合わせて、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 六老僧の制定と久遠寺輪番</td> <td>【第8回】 門流の分立（その2）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 東国における門流の形成（その1）</td> <td>【第9回】 日蓮教団の造形と展開</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 東国における門流の形成（その2）</td> <td>【第11回】 京畿における諸門流の展開（その1）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 東国における門流の形成（その3）</td> <td>【第12回】 京畿における諸門流の展開（その2）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 東国における門流の形成（その4）</td> <td>【第13回】 京畿における諸門流の展開（その3）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 諸門流の京都進出</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【第7回】 門流の分立（その1）</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 六老僧の制定と久遠寺輪番	【第8回】 門流の分立（その2）	【第2回】 東国における門流の形成（その1）	【第9回】 日蓮教団の造形と展開	【第3回】 東国における門流の形成（その2）	【第11回】 京畿における諸門流の展開（その1）	【第4回】 東国における門流の形成（その3）	【第12回】 京畿における諸門流の展開（その2）	【第5回】 東国における門流の形成（その4）	【第13回】 京畿における諸門流の展開（その3）	【第6回】 諸門流の京都進出		【第7回】 門流の分立（その1）	
【第1回】 六老僧の制定と久遠寺輪番	【第8回】 門流の分立（その2）																						
【第2回】 東国における門流の形成（その1）	【第9回】 日蓮教団の造形と展開																						
【第3回】 東国における門流の形成（その2）	【第11回】 京畿における諸門流の展開（その1）																						
【第4回】 東国における門流の形成（その3）	【第12回】 京畿における諸門流の展開（その2）																						
【第5回】 東国における門流の形成（その4）	【第13回】 京畿における諸門流の展開（その3）																						
【第6回】 諸門流の京都進出																							
【第7回】 門流の分立（その1）																							
成績評価の方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み姿勢および小レポート（50%）を基準として総合的に評価する。																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内で行う。																						
教科書	なし																						
指定図書	『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所（平楽寺書店）1964年、『日蓮とその弟子』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年、『京都日蓮教団門流史の研究』糸久宝賢（平楽寺書店）1990年、『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『中世東国の地域社会史』湯浅治久（岩田書院）2005年、『反骨の導師 日親・日奥』寺尾英智・北村行遠（吉川弘文館）2004年、『戦国仏教』湯浅治久（中公新書）2009年、『日蓮教団史概説』影山堯雄（平楽寺書店）1959年、『京都町衆と法華信仰』冠賢一（山喜房佛書林）2010年																						
参考書	『法華文化の展開』藤井学（法蔵館）2002年、『法華衆と町衆』藤井学（法蔵館）2003年、『中世日蓮教団史攷』高木豊（山喜房佛書林）2008年、『中世京都の民衆と社会』河内将芳（思文閣出版）2000年、『中世京都の都市と宗教』河内将芳（思文閣出版）2006年、『不受不施派の源流と展開』宮崎英修（平楽寺書店）1969年、『中世東国日蓮宗寺院の研究』佐藤博信（東京大学出版会）2003年、『日蓮宗儀礼史の研究』松村寿巖（平楽寺書店）2001年、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』望月真澄（平楽寺書店）2002年、『日蓮宗と戦国京都』河内将芳（淡交社）2013年																						
教員からのお知らせ	第2期開講の「宗史概論2」と併せて履修することを希望します。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	小レポートや質問などに対する教員からのフィードバックと学生の振り返りを行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11A0103900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	寺尾 英智	開講期	第2期														
科目名	宗史概論2							寺尾 英智	第2期														
履修前提条件					備考																		
授業の目的	日蓮聖人滅後の日蓮教団では、六老僧をはじめとして門流が形成され、東国はもとより畿内や九州などの各地へと展開していった。戦国時代に入ると、日蓮教団は戦国大名や強力な統一政権と対峙せざるを得なくなる。そして近世にいたり、現在へと続く教団の基礎が形成される。そこで、各時代の特徴に留意しつつ、日蓮教団の展開を明らかにする。																						
到達目標	日蓮教団の歴史的な展開について、基本的な説明ができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	それぞれのテーマに関連する事項について、辞典並びに指定図書・参考図書を用いて予習・復習を行う。予習・復習と課題作成を合わせて、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 日蓮教団と年中行事</td> <td>【第8回】 地方における教団の活動</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 京畿における諸門流の展開（その1）</td> <td>【第9回】 統一政権と日蓮教団（その1）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 京畿における諸門流の展開（その2）</td> <td>【第10回】 統一政権と日蓮教団（その2）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 不受不施制の展開</td> <td>【第11回】 江戸時代の日蓮教団（その1）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 日蓮教団の諸制度</td> <td>【第12回】 江戸時代の日蓮教団（その2）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 門流和融運動の推進</td> <td>【第13回】 江戸時代の庶民信仰と日蓮教団</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 天文法難</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 日蓮教団と年中行事	【第8回】 地方における教団の活動	【第2回】 京畿における諸門流の展開（その1）	【第9回】 統一政権と日蓮教団（その1）	【第3回】 京畿における諸門流の展開（その2）	【第10回】 統一政権と日蓮教団（その2）	【第4回】 不受不施制の展開	【第11回】 江戸時代の日蓮教団（その1）	【第5回】 日蓮教団の諸制度	【第12回】 江戸時代の日蓮教団（その2）	【第6回】 門流和融運動の推進	【第13回】 江戸時代の庶民信仰と日蓮教団	【第7回】 天文法難	
【第1回】 日蓮教団と年中行事	【第8回】 地方における教団の活動																						
【第2回】 京畿における諸門流の展開（その1）	【第9回】 統一政権と日蓮教団（その1）																						
【第3回】 京畿における諸門流の展開（その2）	【第10回】 統一政権と日蓮教団（その2）																						
【第4回】 不受不施制の展開	【第11回】 江戸時代の日蓮教団（その1）																						
【第5回】 日蓮教団の諸制度	【第12回】 江戸時代の日蓮教団（その2）																						
【第6回】 門流和融運動の推進	【第13回】 江戸時代の庶民信仰と日蓮教団																						
【第7回】 天文法難																							
成績評価の方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み姿勢および小レポート（50%）を基準として総合的に評価する。																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内で行う。																						
教科書	なし																						
指定図書	『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所（平楽寺書店）1964年、『日蓮とその弟子』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年、『京都日蓮教団門流史の研究』糸久宝賢（平楽寺書店）1990年、『日蓮宗の成立と展開』中尾堯（吉川弘文館）1973年、『中世東国の地域社会史』湯浅治久（岩田書院）2005年、『日親・日奥』寺尾英智・北村行遠（吉川弘文館）2004年、『戦国仏教』湯浅治久（中公新書）2009年、『日蓮教団史概説』影山堯雄（平楽寺書店）1959年、『京都町衆と法華信仰』冠賢一（山喜房佛書林）2010年																						
参考書	『法華文化の展開』藤井学（法蔵館）2002年、『法華衆と町衆』藤井学（法蔵館）2003年、『中世日蓮教団史攷』高木豊（山喜房佛書林）2008年、『中世京都の民衆と社会』河内将芳（思文閣出版）2000年、『中世京都の都市と宗教』河内将芳（思文閣出版）2006年、『不受不施派の源流と展開』宮崎英修（平楽寺書店）1969年、『中世東国日蓮宗寺院の研究』佐藤博信（東京大学出版会）2003年、『日蓮宗儀礼史の研究』松村寿巖（平楽寺書店）2001年、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』望月真澄（平楽寺書店）2002年、『日蓮宗と戦国京都』河内将芳（淡交社）2013年																						
教員からのお知らせ	第1期開講の「宗史概論1」と合わせて履修することを希望します。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	レポートや質問などに対する教員からのフィードバックと学生の振り返りを行う。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11A0102400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期
科目名	宗学概論 1				田村 亘禰			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人教学の基本的概念を体系的に修得させる。宗学の専門用語をできるだけ平易に説明し、これを体得させる。私たちが生きている意義・価値を考え、未来の目標設定と実行への意志の涵養をはかる。								
到達目標	法華経の全般的な内容や、日蓮聖人の生涯と思想について、心を込めて他者に話して聞かせることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回の内容について、自宅および図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。ただし、インターネットに頼る学修は避けること。ネット上に氾濫する日蓮聖人に関する解説などは、確かな文献に基づいていない場合が数多くある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】「宗学」とはどのような学問であるか 【第2回】日蓮聖人教学の本質 【第3回】法華経の思想 【第4回】久遠実成本師釈迦牟尼仏 【第5回】本化地涌の菩薩 【第6回】日蓮聖人の生涯（1） 【第7回】日蓮聖人の生涯（2） 【第8回】日蓮聖人の生涯（3） 【第9回】日蓮聖人の主要著作（1） 【第10回】日蓮聖人の主要著作（2） 【第11回】三国四師の系譜と本化上行の自覚 【第12回】日蓮聖人の法華経受容（1） 【第13回】日蓮聖人の法華経受容（2） 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト（20%）、期末試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部 編（日蓮宗新聞社）1989年								
指定図書	『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会 編（平楽寺書店）1996年、『日蓮宗読本』立正大学日蓮教学研究所 編（平楽寺書店）1985年、『新装版日蓮辞典（電子版）』宮崎英修 編（紀伊國屋書店）2021年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所 編（身延山久遠寺）2003年、『日蓮辞典』宮崎英修 編（東京堂出版）1978年								
参考書	『日蓮-その行動と思想』高木 豊（太田出版）2002年、『日蓮宗小辞典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室を退出させる。 専門用語に慣れ親しむこと。 日蓮宗僧侶を志す受講者は、相応の自覚を持って授業に望むこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人教学の基本的概念を解説し理解させる。								
その他									

講義コード	11A0102500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	宗学概論 2				田村 亘禰			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人教学の基本的概念を体系的に修得させる。宗学の専門用語をできるだけ平易に説明し、これを体得させる。私たちが生きている意義・価値を考え、未来の目標設定と実行への意志の涵養をはかる。								
到達目標	法華経の全般的な内容や、日蓮聖人の生涯と思想について、心を込めて他者に話して聞かせることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で触れた点、次回の内容について、自宅および図書館等で予習・復習を行うこととし、レポート作成・宿題と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。ただし、インターネット上に氾濫する日蓮聖人の解説などは、あまり信頼しないこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】五義の体系（1） 【第2回】五義の体系（2） 【第3回】天台大師の説く一念三千 【第4回】日蓮聖人の受容する一念三千 【第5回】題目妙法五字の意義（1） 【第6回】題目妙法五字の意義（2） 【第7回】一大秘法と三大秘法 【第8回】本門の本尊（1） 【第9回】本門の本尊（2） 【第10回】本門の戒壇 【第11回】主師親三徳と三大誓願 【第12回】日蓮聖人の説き示す種々の成仏 【第13回】まとめ 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の小テスト毎回および宿題（20%）、期末試験1回（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部 編（日蓮宗新聞社）1989年								
指定図書	『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会 編（平楽寺書店）1996年、『日蓮宗読本』立正大学日蓮教学研究所 編（平楽寺書店）1985年、『日蓮辞典（電子版）』宮崎英修 編（紀伊國屋書店）2021年、『日蓮聖人遺文辞典 教学篇』立正大学日蓮教学研究所 編（身延山久遠寺）2003年、『日蓮辞典』宮崎英修 編（東京堂出版）1978年								
参考書	『日蓮-その行動と思想』高木 豊（太田出版）2002年、『日蓮宗小辞典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年								
教員からのお知らせ	私語は厳禁。これを破る者は教室を退出させる。 専門用語に慣れ親しむこと。 日蓮宗僧侶を志す受講者は、相応の自覚を持って授業に望むこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人教学の基本的概念を解説し理解させる。								
その他									

講義コード	11A0105600	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	工藤 量導	開講期	第1期
科目名	浄土学概論／浄土学概論1				工藤 量導			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	インドを起源とする浄土教は浄土三部経の成立にはじまり、曇鸞・道綽・善導等の中国浄土教の祖師、源信や永観、珍海、法然、親鸞、一遍などの日本浄土教の諸師たちへと次第してゆきます。本講義では、浄土教がどのように展開し、受容されていったのかをインド・中国の浄土教諸師の著した典籍を中心に学び、受講生が、その歴史と思想を理解することを目的とします。授業は講義形式で行います。								
到達目標	①インド・中国の浄土教の基礎的知識を身につけて、学んだ内容を表現することができる。 ②浄土三部経ならびに中国浄土教における概略および重要なキーワードを把握し、具体的に記述することができる。 ③インド・中国に至る浄土教の特色を多面的に捉えて、その要点を指摘することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業について、事前に配布するテキストの該当箇所を目を通して授業に臨むこと。授業後は、学んだ内容に対するリアクションペーパー（概要のまとめ、感想、質問など）を提出すること。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス、浄土三部経について 【第2回】 『無量寿経』の概要・諸本・分科について 【第3回】 『無量寿経』の序分から正宗分、四十八願についてについて 【第4回】 『無量寿経』の所行・所成・所撰、流通分について 【第5回】 『観無量寿経』の概要・分科・序分について 【第6回】 『観無量寿経』の正宗分（散善三観）、流通分について 【第7回】 『阿弥陀経』の概要・諸本・分科について 【第8回】 『阿弥陀経』の特色について 【第9回】 龍樹と世親の浄土教について 【第10回】 中間テスト（インドの浄土教）、廬山慧遠について 【第11回】 曇鸞の浄土教について 【第12回】 末法思想と浄土教について 【第13回】 道綽の浄土教について、まとめ（フィードバック）								
成績評価の方法	試験 中間テストの実施 40% レポート 期末レポートの実施 30% 平常点 毎回の講義内容のまとめ 30% (本講義では毎回のリアクションペーパーの提出を課していません)								
フィードバックの内容	中間テスト、期末レポートのフィードバックは授業内にて行う。								
教科書 指定図書									
参考書	『現代語訳 浄土三部経』浄土宗総合研究所（浄土宗）2011、『浄土教の世界』小澤憲珠監、勝崎裕彦・林田康順編（大正大学出版会）2011、『インド・中国・朝鮮・日本 浄土教思想史』梯信暁（法蔵館）2012、『新纂浄土宗大辞典』浄土宗大辞典編纂委員会（浄土宗）2016								
教員からのお知らせ	大正大学仏教学科専任教員の工藤量導と申します。浄土宗の僧籍も持っております。プロフィールおよび自己紹介は下記よりご覧ください。また動画コンテンツは「参考URL」に掲載しました。よかったらご覧ください。 https://www.tais.ac.jp/chinavi/result/%E5%B7%A5%E8%97%A4%E3%80%80%E9%87%8F%E5%B0%8E/ https://www.tais.ac.jp/faculty/department/buddhist_denominational_studies/blog/20240219/85707/								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0105700	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	工藤 量導	開講期	第2期
科目名	浄土学概論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	インドを起源とする浄土教は浄土三部経の成立にはじまり、曇鸞・道綽・善導等の中国浄土教の祖師、源信や永観、珍海、法然、親鸞、一遍などの日本浄土教の諸師たちへと次第してゆきます。本講義では、浄土教がどのように展開し、受容されていったのかを中国・日本の浄土教諸師の著した典籍を中心に学び、受講生が、その歴史と思想を理解することを目的とします。授業は講義形式で行います。								
到達目標	①中国・日本の浄土教の基礎的知識を身につけて、学んだ内容を表現することができる。 ②中国・日本浄土教における概略および重要なキーワードを把握し、具体的に記述することができる。 ③法然に至る浄土教の特色を多面的に捉えて、その要点を指摘することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業について、事前に配布するテキストの該当箇所に通して授業に臨むこと。授業後は、学んだ内容に対するリアクションペーパー（概要のまとめ、感想、質問など）を提出すること。								
授業計画	【第14回】 ガイダンス、善導の生涯と著作について 【第15回】 善導の浄土教思想について 【第16回】 善導以後の中国浄土教について 【第17回】 奈良時代・平安時代の浄土教について 【第18回】 叡山浄土教について 【第19回】 源信の浄土教について 【第20回】 院政期の浄土教について				【第21回】 中間テスト（中国・日本の浄土教）、法然の生涯と著作について 【第22回】 法然の浄土教思想について 【第23回】 聖光、良忠の浄土教について 【第24回】 証空、一遍の浄土教について 【第25回】 親鸞の浄土教について 【第26回】 まとめ（フィードバック）				
成績評価の方法	試験 中間テストの実施 40% レポート 期末レポートの実施 30% 平常点 毎回の講義内容のまとめ 30% (本講義では毎回のリアクションペーパーの提出を課しております)								
フィードバックの内容	中間テスト、期末レポートのフィードバックは授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『浄土教の世界』小澤憲珠監、勝崎裕彦・林田康順編（大正大学出版会）2011、『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎②中国・日本編 [改訂版]』大正大学仏教学科編（大正大学出版会）2016、『インド・中国・朝鮮・日本 浄土教思想史』梶信暁（法蔵館）2012、『新纂浄土宗大辞典』浄土宗大辞典編纂委員会（浄土宗）2016								
教員からのお知らせ	大正大学仏教学科専任教員の工藤量導と申します。浄土宗の僧籍も持っております。プロフィールおよび自己紹介は下記よりご覧ください。また動画コンテンツは「参考 URL」に掲載しました。よかったらご覧ください。 https://www.tais.ac.jp/chinavi/result/%E5%B7%A5%E8%97%A4%E3%80%80%E9%87%8F%E5%B0%8E/ https://www.tais.ac.jp/faculty/department/buddhist_denominational_studies/blog/20240219/85707/								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0150000	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	田邊 資章	開講期	第1期
科目名	情報基礎1					田邊 資章		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまで以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシ育成のための授業である。情報リテラシとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 インターネット検索演習 (1) 【第2回】 インターネット検索演習 (2) 【第3回】 日本語文書処理の基礎 (1) 【第4回】 日本語文書処理の基礎 (2) 【第5回】 日本語文書処理の基礎 (3) 【第6回】 日本語文書処理の基礎 (4) 【第7回】 日本語文書処理の基礎 (5) 【第8回】 プレゼンテーションソフトの基本 (1) 【第9回】 プレゼンテーションソフトの基本 (2) 【第10回】 プレゼンテーションソフトの基本 (3) 【第11回】 プレゼンテーションソフトの基本 (4) 【第12回】 プレゼンテーションソフトの基本 (5) 【第13回】 プレゼンテーションソフトの基本 (6) 								
成績評価の方法	毎週の課題 (100%) から到達目標への到達度を評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	適宜授業中に指示								
指定図書	適宜授業中に指示								
参考書									
教員からのお知らせ	パソコン (PC) を使った演習を行う。 基礎から実践的に学んでいくので、初心者も遠慮無く受講してほしい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0150100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	田邊 資章	開講期	第2期
科目名	情報基礎2					田邊 資章		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	現代のように高度に情報化されたネットワーク社会では、知的活動を遂行するためには、コンピュータやインターネットの活用能力がこれまで以上に要求されている。本授業は、コンピュータ初心者を対象とした情報リテラシ育成のための授業である。情報リテラシとは、コンピュータやインターネットを日常的に活用できる能力のことである。								
到達目標	コンピュータやネットワークの持つ多面的可能性と限界とを正しく理解できる。情報倫理に関する知識を身につけ、情報処理の技術を正しく使える。さらに、これからの高度情報時代に生ずる様々な問題点を発見する眼を養い、その問題を解決するための情報処理技術を習得するための基礎を作ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では60時間以上の授業外学修を行うこと。 各回の授業で扱う項目について、授業後に復習し再度演習をして理解を深めること。 e-Learning という PC を使った教材を課すこともある。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 プレゼンテーションソフトの応用 (1) 【第2回】 プレゼンテーションソフトの応用 (2) 【第3回】 プレゼンテーションソフトの応用 (3) 【第4回】 プレゼンテーションソフトの応用 (4) 【第5回】 プレゼンテーションソフトの応用 (5) 【第6回】 表計算ソフトの基礎 (1) 【第7回】 表計算ソフトの基礎 (2) 【第8回】 表計算ソフトの基礎 (3) 【第9回】 表計算ソフトの応用 (1) 【第10回】 表計算ソフトの応用 (2) 【第11回】 表計算ソフトの応用 (3) 【第12回】 表計算ソフトの応用 (4) 【第13回】 表計算ソフトの応用 (5) 								
成績評価の方法	毎週の課題 (100%) から到達目標への到達度を評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	適宜授業中に指示								
指定図書	適宜授業中に指示								
参考書									
教員からのお知らせ	パソコン (PC) を使った演習を行う。 情報基礎2からは応用的な使用が増えてくるので、情報基礎1で学んだことを活用して欲しい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0105950	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	松野 智章	開講期	第2期
科目名	神道学概論							第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	日本文化を理解するために「神道とは何か」を理解することを目的とする。神道が日本文化の全てではないが、仏教と共に、日本文化の主要な軸であることに間違いない。神道のもの見方、生活の中の神道、神道の歴史、天皇と神道、靖国神社問題、アニメと神道など、多岐にわたるトピックを横断しながら、神道の全体像を捉え、神道を理解できるようにする。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 お祭りとは何かを理解できるようになる。 2 天皇とは何かを理解できるようになる。 3 神道とナショナリズムについて理解出来るようになる。 4 靖国問題に対して自分なりの意見が持てるようになる。 5 神道と他宗教の違いを理解出来るようになる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習はしなくて良いので、復習を行うこと。 また、実際に、神社のお祭りに見学に行ってみるとより理解することが出来る。 授業外学習に60時間以上を使うこと。								
授業計画	【第1回】神道とは何か？ 【第2回】年中行事と人生儀礼 【第3回】神社とは何か？神職とは何か？祭とは何か？ 【第4回】日本とは何か？天皇とは何か？ 【第5回】日本神話を理解する。 【第6回】古代の神道・律令国家と神道 【第7回】中世の神道・神仏習合 【第8回】近世の神道・神儒習合・国学 【第9回】近代の神道・廃仏毀釈 【第10回】国家神道とは何か？ 【第11回】戦後の神道 【第12回】「神道学」学説史 【第13回】まとめ・試験								
成績評価の方法	授業参加度60% 試験40%								
フィードバックの内容	毎週リアクションペーパーにて質問を受け付ける。翌週に、その回答を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『教養としての神道－生きのびる神々』島蘭進（東洋経済新報社）2022/5/13、『プレステップ神道学』國學院大學神道文化学部（弘文堂）2023/2/22、『神道の逆襲』菅野 覚明（講談社現代新書）2001/6/20								
教員からのお知らせ	やる気があれば十分です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11J0111501	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	笠置 遊	開講期	第1期
科目名	心理学概論(臨・対)／心理学概論 I (臨)							第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	心理学は心の問題を扱うもっとも中心的な学問であるが、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。本授業は、心理学におけるさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心理についての理解を深めることを目指す。								
到達目標	心理学の各領域での基礎知識に基づいて、個人や集団へのアプローチ方法を理解できる。 心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みおよび働きについて説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。 授業外学修では、授業で扱う内容についての予習・復習を行うこと。								
授業計画	【第1回】心理学とは 【第2回】知覚心理学 【第3回】認知心理学① 【第4回】認知心理学② 【第5回】学習心理学 【第6回】感情心理学 【第7回】パーソナリティ心理学 【第8回】社会心理学① 【第9回】社会心理学② 【第10回】発達心理学 【第11回】臨床心理学① 【第12回】臨床心理学② 【第13回】神経・生理心理学								
成績評価の方法	授業への取り組み20%、定期試験80%								
フィードバックの内容	質問・コメントに対するフィードバックを翌週授業内にて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談の対応方法については、初回授業で説明します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11J1110901	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	武部 匡也	開講期	第2期
科目名	心理学研究法入門／心理学概論Ⅱ				武部 匡也			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本講義では、臨床心理学における科学・研究の位置づけや重要性、危険性を理解し、その科学的思考法や研究倫理等のアカデミックな知識と技能を身につけることを目的とする。臨床心理学は「法則」を探求する科学の一分野でありながら、「個」を重視する学問であることから、科学の有用性だけでなく、その限界についても理解を深める。また、科学におけるコミュニケーションの一つである学術論文の執筆ルール等の習得も目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な思考法の核となる「対照」と「反証」について説明できる。 ・心理学研究における研究倫理と測定（信頼性・妥当性）の重要性を説明できる。 ・心理学研究における研究手法（実験・調査・観察・面接）の概要を説明できる。 ・臨床心理学における研究の重要性と限界を説明できる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業外学修では、授業の予習・復習に加えて、授業内で紹介された概念や理論に関連する文献を調べ、さらなる理解を深めることを求める。このような授業外学修は、60時間以上行うこと。								
授業計画	【第1回】学習から学問へ：答えのない世界の歩き方 【第2回】科学の基本的な思考法：「対照」 【第3回】科学の基本的な思考法：「反証」 【第4回】「エビデンス」とは？：臨床心理学における科学のメリットと限界 【第5回】構成概念を扱う心理学：測定における信頼性と妥当性 【第6回】心理学研究の基本的な研究手法：実験・調査・観察・面接① 【第7回】心理学研究の基本的な研究手法：実験・調査・観察・面接② 【第8回】臨床心理学で良く用いられる研究手法：無作為化対照試験（RCT） 【第9回】臨床心理学で良く用いられる研究手法：一事例実験 【第10回】相関と因果 【第11回】心理学研究における倫理 【第12回】心理学論文の構成 【第13回】学術論文を書く技術：パラグラフ・ライティング								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（30%）、期末試験（70%）に基づいて評価する。出席が全体の2/3以上（9回分）を記録しないと、成績評価の対象とならない。								
フィードバックの内容	フィードバックは、主にリアクションペーパー（Microsoft Forms）およびSlido（アプリ）を使用して実施します。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、Teamsのチャット機能でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、意見共有、能動的な授業外学修								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0112000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	藤岡 麻理子	開講期	第2期
科目名	世界遺産研究Ⅰ				藤岡 麻理子			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	ユネスコ世界遺産条約は世界の文化遺産や自然環境の保護継承にかかる国際協力の仕組みである。しかしその保護継承は、武力紛争、自然災害、都市・地域開発といった社会事象の影響も受け、また、世界遺産がブランディングのツールとして期待される向きも多分にある。本科目では、世界遺産条約の制度・理念・価値観、保護に関する諸課題、世界の遺産の多様性等について解説し、地域・国際社会における世界遺産の意義や貢献を考える。								
到達目標	1) 世界遺産条約の理念と仕組み、今日的課題を理解する。 2) 世界の文化遺産や自然環境が多様であることを説明できる。 3) 世界遺産が地域社会や国際社会の抱える課題とどのようにつながっているか、例を挙げて説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。毎回の事前事後学修の主な内容は以下の通り。 ・授業前：各回で扱うテーマに関し、インターネット、書籍等で調べておく。 ・授業後：配布資料とノートの内容を確認し、内容の定着を図る。興味を持った内容や疑問点について、文献等にあたりさらに詳しく調べてみる。								
授業計画	【第1回】ガイダンス、世界遺産条約のなりたちとユネスコの遺産保護活動 【第2回】世界遺産条約の仕組み－登録プロセスと価値基準 【第3回】世界遺産条約の展開－文化遺産概念の拡充 【第4回】日本の文化財保護制度 【第5回】日本の世界遺産 【第6回】危機に瀕する世界遺産 【第7回】武力紛争と世界遺産 【第8回】災害と世界遺産 【第9回】出来事を記憶する世界遺産 【第10回】持続可能な発展と世界遺産 【第11回】都市・地域の発展と世界遺産 【第12回】文化多様性と無形文化遺産 【第13回】世界遺産の諸相								
成績評価の方法	毎回の授業後にコメントペーパーを提出。 コメントペーパー30%（提出状況と内容）、期末レポート70%。								
フィードバックの内容	コメントペーパーへのフィードバックは次回授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『世界文化遺産の思想』西村幸夫・本中真編（東京大学出版会）2017、『世界遺産を問い直す』吉田正人（山と溪谷社）2018、『世界遺産の日本史』佐藤信編（ちくま書店）2022、『文化遺産の保存と活用 仕組と実際』小松弥生（クバプロ）2021、『世界遺産の50年 文化の多様性と日本の役割』松浦晃一郎（ブックエンド）2022、『BIOCITY ビオシティ 96号 日本の世界自然遺産30年 自然保護と暮らしの両立モデルへ』（ブックエンド）2023								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	授業後に教室で対応するとともに、メールで質問を受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0113200	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	方 亞平	開講期	第1期
科目名	世界の言語と文化[中国語] / 世界の言語と文化[中国語Ⅰ]				方 亞平		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義は初めて中国語を学ぶ諸君ができるだけ正しく簡単に、より効果的に中国語をマスターすることを目的とする。本講義はピンイン（ローマ字による中国語表記）の学習を重視するとともに、繰返し練習を重んじる。最後に実際の応用ができるように工夫して日常会話も学習する。それは言語学習の基礎の基礎である。								
到達目標	中国語の入門として基本的な発音と日常用のフレーズをマスターして簡単な挨拶ができる。短文もスラスラ読めるようになる。葉書のような短い言葉も書ける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目については60時間以上の授業外学修を行う必要がある。毎回、予めテキストを読んで単語の意味を調べるなどの予習を行い、発音練習・文法事項の復習をしっかりと行う。また中国語での家族・自己紹介に関するレポートを課す予定なので、決められた期限までに提出する。								
授業計画	【第1回】 第一課 漢字と発音 発音（一）：単母音／子音（1） 【第2回】 第一課 発音（二） 特別母音／複合母音（1）子音（2） 【第3回】 第二課 発音（三） 複合母音（2）／子音（3） 【第4回】 第二課 発音（四） 前鼻母音 【第5回】 第三課 発音（五） 奥鼻母音 【第6回】 第三課 名詞述語文（1）年月日、日曜の言い方、疑問詞 “几” 【第7回】 第四課 名詞述語文（2）年齢の言い方、A “的” B 【第8回】 第四課 名詞述語文（3）時刻の言い方、文末の語気助詞 ～ “吧” 【第9回】 第五課 名詞述語文（4）値段の言い方、動詞述語文 【第10回】 第五課 指示代名詞（1）動詞 + “一下” A “是” B 、疑問詞 “什么” 【第11回】 第六課 復習 【第12回】 第七課 選択疑問詞 ～ “还是” ?、前置詞 “在”、連動文 【第13回】 第八課 “喜欢” ～ “这” / “那” / “哪” + 量詞 + （名詞）動詞の重ね型、文末の語気助詞～ “吧” ②軽い命令								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、授業内小テスト（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内冒頭にて行う。								
教科書	『演じる入門中国語』李林静／中桐典子／余瀾（朝日出版社）2020年1月31日								
指定図書	『中国語学習辞典』相原 茂（朝日出版社）2002年2月10日								
参考書	『中国に遊びましょう』榎本 英雄（朝日出版社）2003年4月1日								
教員からのお知らせ	大声朗読・ノート取り 受講に当たって、事前に単語のポイントと本文の朗読を予習しておくことが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0113300	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	方 亞平	開講期	第2期
科目名	世界の言語と文化[中国語Ⅱ]				方 亞平		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義は初めて中国語を学ぶ諸君ができるだけ正しく簡単に、より効果的に中国語をマスターすることを目的とする。本講義はピンイン（ローマ字による中国語表記）の学習を重視するとともに、繰返し練習を重んじる。最後に実際の応用ができるように工夫して日常会話も学習する。それは言語学習の基礎の基礎である。								
到達目標	中国語の入門として簡単な日常会話ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目については60時間以上の授業外学修を行う必要がある。毎回、予めテキストを読んで単語の意味を調べるなどの予習を行い、発音練習・文法事項の復習をしっかりと行う。また中国語での家族・自己紹介に関するレポートを課す予定なので、決められた期限までに提出する。								
授業計画	【第14回】 第九課 形容詞述語文 感嘆詞副詞 “好” + 形容詞 + “啊” 前置詞 “给” 【第15回】 第十課 主述述語文 副詞 “也” “一点儿” + “也” + 否定形 【第16回】 第十一課 比較文、省略疑問文～ “呢” 【第17回】 第十二課 復習 【第18回】 第十三課 助動詞 “想” 指示代名詞（2）「存在」を表す “有” 【第19回】 第十四課 「存在」を表す “在” 「存在」を表す “有” と “在” の違い 【第20回】 第十五課 「所有」を表す “有” 人の意向を聞く “怎么样” 完了を表す言い方 【第21回】 第十六課 疑問詞 “怎么” ①方法 前置詞 “离” 【第22回】 第十七課 結果補語 進行を表す言い方 禁止を表す言い方 “别” 【第23回】 第十八課 復習 【第24回】 第十九課 経験を表す言い方 名詞を修飾する言い方 【第25回】 第十九課 文末の語気助詞～ “吧” ③推量 【第26回】 第二十課 「少し～」（1）“一点儿” 「少し～」（2）“有点儿” 助動詞 “会”								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（40%）、試験（60%）で評価する。								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内冒頭にて行う。								
教科書	『演じる入門中国語』林静香／中桐典子・余瀾（朝日出版社）2020年1月31日								
指定図書	『中国語学習辞典』相原 茂（朝日出版社）2002年2月10日								
参考書	『中国に遊びましょう』榎本 英雄（朝日出版社）2003年4月1日								
教員からのお知らせ	大声朗読・ノート取り 受講に当たって、事前に単語のポイントと本文の朗読を予習しておくことが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0113600	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第2期
科目名	世界の言語と文化[フランス語] / 世界の言語と文化[フランス語 I]				久保 真紀子		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、フランス語の書籍や研究論文を読解することを目指し、教科書を使って基礎文法を学びながら、フランス語の世界に親しんでゆきます。								
到達目標	初級文法の知識を習得し、仏和辞典を用いながら語彙力を身につけるとともに、基本的な発音を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	語学を習得するためには予習と復習が不可欠です。毎回の授業前には、教科書を使って必ず予習してくるとともに、授業後にも復習して、授業で習った知識を定着させてください。時間にして、合計60時間以上の授業外学修が必要です。								
授業計画	<p>【第1回】文字と発音 アルファベ / 綴り字記号 / 発音記号と音 / 文字の読み方 / 語群の読み方 / 名詞の性と数 / 冠詞</p> <p>【第2回】主語になる代名詞 / 動詞 être と avoir の直説法現在形 / 提示の表現</p> <p>【第3回】否定形 / 形容詞</p> <p>【第4回】-er 動詞の直説法現在 / 疑問形 / 疑問文に対する答え</p> <p>【第5回】指示形容詞 / 疑問形容詞 / 所有形容詞</p> <p>【第6回】aller, venir の直説法現在 / 近い未来と近い過去 / 前置詞 (à, de) と定冠詞 (le, les) の縮約</p> <p>【第7回】finir, partir の直説法現在 / 疑問代名詞 / 疑問副詞</p> <p>【第8回】voir, dire, entendre の直説法現在 / 形容詞・副詞の比較級 / 形容詞・副詞の最上級 / 特殊な比較級・最上級</p> <p>【第9回】faire, prendre の直説法現在 / 命令形 / 非人称構文</p> <p>【第10回】目的語になる人称代名詞・強勢形</p> <p>【第11回】過去分詞 / 直説法複合過去</p> <p>【第12回】関係代名詞 / 強調構文 / 代名動詞</p> <p>【第13回】まとめ</p> <p>※1 教科書と音声データについて 教科書は必ず購入して、毎回持参してください。ただし、注文してから手元に届くまでの期間として、最初の数回は該当ページのコピーを配布します。教科書の音声データは出版社のホームページから聴くことができます。ホームページの URL は教科書に記載されています。</p> <p>※2 状況を見ながら、教科書以外のテキストを使って長文読解にも取り組みます。その場合のテキストは適宜コピーして配布します。</p> <p>※3 第10回授業までに期末課題を伝えます（第13回までに提出）。第13回授業では、期末課題の回答確認や音読テストを行います。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（70%）、期末課題（30%）								
フィードバックの内容	毎回の授業では受講生を指名して回答してもらいます。また、受講生の習熟状況を見ながら必要に応じて復習や補足説明をおこないます。								
教科書 指定図書 参考書	『Le français clair』 清岡智比古（白水社）2021								
教員からのお知らせ	仏和辞典を必ず購入し、毎回必ず予習をしてから受講してください。辞典はどの出版社のものでも構いませんが、オンライン辞書やアプリ、電子辞書の使用は認めません。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後のほかメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ロールプレイング								
実践的な教育内容 その他									

講義コード	11A1101001	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ				安中 尚史		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	日本仏教の歴史的展開を主体的に学ぶための力を養うことをねらいとします。						
到達目標	日本仏教の歴史的展開を研究するために必要な基礎力を身につけることを目標とします。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	学術論文や史料（資料）を各自で検索・収集し内容を把握して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 学術論文・史料（資料）の検索と収集（1） 【第3回】 学術論文・史料（資料）の検索と収集（2） 【第4回】 学術論文・史料（資料）の検索と収集（3）および課題の提出（1） 【第5回】 日本仏教史研究の方法論（1） 【第6回】 日本仏教史研究の方法論（2） 【第7回】 日本仏教史研究の方法論（3） 【第8回】 日本仏教史研究の方法論（4）および課題の提出（2） 【第9回】 日本仏教史研究の方法論（5） 【第10回】 日本仏教史研究の方法論（6） 【第11回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第12回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第13回】 まとめと課題の提出（3）						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で評価します。						
フィードバックの内容							
教科書	特にありません						
指定図書	授業中に紹介します						
参考書							
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101106	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ				久保 真紀子		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築等の造形表現やその成立背景を学ぶことに主眼を置き、画像や文献といった諸資料を丹念に読み解きながら研究を進める手法を身に付けることを目指す。						
到達目標	画像資料をよく観察してその特徴を描写したり、文献史料から読み取れたことを丁寧に伝える経験を積むことで、客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料を収集・整理する方法や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法を身につける。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集や精読、あるいは博物館や美術館の見学等、進んで授業外学修を行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。						
授業計画	【第1回】 参考文献リストの紹介・検索練習 【第2回】 作品鑑賞会と意見交換 （グループワーク＋全体発表会） 【第3回】 論文構想発表会（1） 【第4回】 論文構想発表会（2） 【第5回】 論文構想発表会（3） 【第6回】 論文構想発表会（4） 【第7回】 論文構想発表会（5） 【第8回】 論文講読会と意見交換 【第9回】 論文構想発表会（6） 【第10回】 論文構想発表会（7） 【第11回】 論文構想発表会（8） 【第12回】 論文構想発表会（9） 【第13回】 総括						
	※1「作品鑑賞と意見交換」（第2回）では、授業内で講師が指示した作品を各自が観察し、読み取れたことを全員で意見交換し、作品に対する理解を深めます。 ※2「論文講読会と意見交換」（第8回）では、あらかじめ講師が指定した文献を全員で講読し、意見交換を行います。 ※3「論文構想発表会」では、卒業論文の構想や進捗状況の報告をおこないます。受講生は担当回に向けて各自準備してください。WordやPowerPointで資料を作成し、口頭で発表していただきます。発表後に全員で意見交換します。						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢により総合的に評価します。						
フィードバックの内容	作品鑑賞や論文講読、ならびに論文構想発表会では、各受講生に所定の用紙やFormsに記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	この授業では、全員に少なくとも1回は口頭発表を担当してもらいます。事前にしっかり準備して臨みましょう。また、自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対して積極的に発言しているかどうかを評価の対象となります。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101003	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期														
科目名	ゼミナールⅠ							第1期															
履修前提条件					備考																		
授業の目的	<p>テーマ：人生の意味と目的を考える 諸富祥彦著『人生に意味はあるか』をテキストとして、心理カウンセラーの著者が大学の授業でも実践している方法論を学び、宗教・文学・哲学・スピリチュアリティ・心理学の答えを概観し、著者自身の答えにアプローチする。こうした思考方法をたどりながら、「宗学」することの本質に迫っていきたい。</p>																						
到達目標	<p>各自の人生観を振り返り、自己を相対化できるようになる。「宗学」とは、決して閉鎖的で独善的な学問ではない。自分の中で考え抜く力を養い、普遍的な価値観を身につけることによって、現代社会の人々に対する説得力をもちうる事が実感できるようになる。</p>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、自分自身の問題意識をもつことが求められる。また関連する情報や資料を収集し、レポートする能力の育成を図る。よって合計60時間以上の予習・復習が必要となる。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】オリエンテーション</td> <td>【第8回】「これが答えだ」(2) 哲学の答え</td> </tr> <tr> <td>【第2回】自分の中の歴史</td> <td>【第9回】「これが答えだ」(3) スピリチュアリティの答え1</td> </tr> <tr> <td>【第3回】各自の知的関心・研究テーマについて</td> <td>【第10回】「これが答えだ」(4) スピリチュアリティの答え2</td> </tr> <tr> <td>【第4回】テキスト：諸富祥彦著『人生に意味はあるか』について</td> <td>【第11回】「これが答えだ」(5) フランクルの答え</td> </tr> <tr> <td>【第5回】「人生の意味」を考える(1)</td> <td>【第12回】「これが答えだ」(6) 諸富祥彦の答え1</td> </tr> <tr> <td>【第6回】「人生の意味」を考える(2)</td> <td>【第13回】まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】「これが答えだ」(1) 宗教・文学の答え</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】オリエンテーション	【第8回】「これが答えだ」(2) 哲学の答え	【第2回】自分の中の歴史	【第9回】「これが答えだ」(3) スピリチュアリティの答え1	【第3回】各自の知的関心・研究テーマについて	【第10回】「これが答えだ」(4) スピリチュアリティの答え2	【第4回】テキスト：諸富祥彦著『人生に意味はあるか』について	【第11回】「これが答えだ」(5) フランクルの答え	【第5回】「人生の意味」を考える(1)	【第12回】「これが答えだ」(6) 諸富祥彦の答え1	【第6回】「人生の意味」を考える(2)	【第13回】まとめ	【第7回】「これが答えだ」(1) 宗教・文学の答え	
【第1回】オリエンテーション	【第8回】「これが答えだ」(2) 哲学の答え																						
【第2回】自分の中の歴史	【第9回】「これが答えだ」(3) スピリチュアリティの答え1																						
【第3回】各自の知的関心・研究テーマについて	【第10回】「これが答えだ」(4) スピリチュアリティの答え2																						
【第4回】テキスト：諸富祥彦著『人生に意味はあるか』について	【第11回】「これが答えだ」(5) フランクルの答え																						
【第5回】「人生の意味」を考える(1)	【第12回】「これが答えだ」(6) 諸富祥彦の答え1																						
【第6回】「人生の意味」を考える(2)	【第13回】まとめ																						
【第7回】「これが答えだ」(1) 宗教・文学の答え																							
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢(毎回の課題・感想など)60%、期末レポートの発表・提出(40%)を基準として総合的に評価します。</p>																						
フィードバックの内容	<p>使用するシステム(Teams)を通じて適宜対応し、必要に応じて次の授業でフィードバックを行います。</p>																						
教科書	<p>『人生に意味はあるか』 諸富祥彦(講談社現代新書)2005</p>																						
指定図書																							
参考書	<p>『自分のなかに歴史を読む』阿部謹也(ちくまプリマーブックス)1988、『[完全版]生きがいの創造 スピリチュアルな科学研究から読み解く人生のしくみ』飯田史彦(PHP文庫)2012、『NHK「100分de名著」ブックス フランクル 夜と霧』諸富祥彦(NHK出版)2013</p>																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム(Teams)の質問・連絡掲示板等を通じて対応します。</p>																						
アクティブラーニングの内容	<p>意見共有、ゼミナール</p>																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11A2101103	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期														
科目名	ゼミナールⅠ							第1期															
履修前提条件					備考																		
授業の目的	<p>仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は仏教と他宗教の諸文献における神話的記述を比較する。仏教経典等の聖典をはじめ叙事詩・説話・伝記・歴史書・論書等における神話・伝説・靈異譚を調査し、世界観・人間観・死生観等を比較し相互の影響関係等を考察する。</p>																						
到達目標	<p>仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法および注意点を知らずの研究に役立てることができる。自らの興味関心に即して研究課題を設定し他者に判りやすく調査・報告することができる。</p>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握し、各自の見解や疑問点を書きとめ、演習での発言や質問に備えること。また、各人が研究課題を設定して自主的に個人研究を推進し第2期での発表に備えること。個人研究の成果を報告書(小論文)の形でまとめておくこと。これらを各回平均4時間、計60時間行うのが望ましい。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】授業の進め方、自己紹介</td> <td>【第8回】受講生の個別研究計画の発表(1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】比較思想・比較文化の研究手法</td> <td>【第9回】受講生の個別研究計画の発表(2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】資料収集の技法、学術論文の作法</td> <td>【第10回】受講生の個別研究計画の発表(3)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】受講生の個別研究主題の発表</td> <td>【第11回】受講生の個別研究計画の発表(4)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】ヴェーダ聖典とその神話</td> <td>【第12回】初期仏教文献における神々(諸天)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】プラーフマナ文献における神話解釈</td> <td>【第13回】アビダルマ仏教における神話的世界観</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ウパニシャッド文献における神話解釈</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】授業の進め方、自己紹介	【第8回】受講生の個別研究計画の発表(1)	【第2回】比較思想・比較文化の研究手法	【第9回】受講生の個別研究計画の発表(2)	【第3回】資料収集の技法、学術論文の作法	【第10回】受講生の個別研究計画の発表(3)	【第4回】受講生の個別研究主題の発表	【第11回】受講生の個別研究計画の発表(4)	【第5回】ヴェーダ聖典とその神話	【第12回】初期仏教文献における神々(諸天)	【第6回】プラーフマナ文献における神話解釈	【第13回】アビダルマ仏教における神話的世界観	【第7回】ウパニシャッド文献における神話解釈	
【第1回】授業の進め方、自己紹介	【第8回】受講生の個別研究計画の発表(1)																						
【第2回】比較思想・比較文化の研究手法	【第9回】受講生の個別研究計画の発表(2)																						
【第3回】資料収集の技法、学術論文の作法	【第10回】受講生の個別研究計画の発表(3)																						
【第4回】受講生の個別研究主題の発表	【第11回】受講生の個別研究計画の発表(4)																						
【第5回】ヴェーダ聖典とその神話	【第12回】初期仏教文献における神々(諸天)																						
【第6回】プラーフマナ文献における神話解釈	【第13回】アビダルマ仏教における神話的世界観																						
【第7回】ウパニシャッド文献における神話解釈																							
成績評価の方法	<p>個人研究の口頭発表(20%)と発表資料(20%)、研究報告書(30%)、平常点(30%)。</p>																						
フィードバックの内容	<p>研究報告書(レポート)に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。</p>																						
教科書	<p>適宜、資料を配布します。</p>																						
指定図書																							
参考書	<p>『比較思想序論(増補版)』三枝充憲著(春秋社)1995年、『世界神話大事典』イヴ・ボンヌフォワ編、金光仁三郎主幹(大修館書店)2001年、『神話学入門』大林太良著(中央公論社)1966年、『世界神話学入門』後藤明著(講談社)2017年、『ヒンドゥー教と叙事詩』中村元著(春秋社)1996年、『インド宇宙論大全』定方歳著(春秋社)2011年</p>																						
教員からのお知らせ	<p>授業は教員主体の講義と受講生の個人研究発表を交互に行う形で展開されます。また、出席者は毎回、何らかの発言をする機会を与えられ、それが「授業への取り組み姿勢」として成績評価に反映されます。</p>																						
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受付けます。</p>																						
アクティブラーニングの内容	<p>ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション</p>																						
実践的な教育内容																							
その他	<p>各人が研究課題を設定し具体的計画を策定し自主的に個人研究を推進し、第2期の研究成果発表に備えておいてください。個人研究のテーマは本年度の授業の目的(神話)にとらわれず、各人が自由に設定して構いません。ご自分の興味関心が継続し得るテーマを選びましょう。</p>																						

講義コード	11A1101004	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ					三輪 是法		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールは日本仏教の思想的側面を研究対象とする。時代を限定せず、日本仏教関連の文献を講読していく。								
到達目標	日本仏教に関する文献を読解するための、補助的作業力（参考資料の調査や専門用語の理解習得など）を身につけ、文献内容を正しく理解説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	自分自身の課題について、事前学修を2時間以上おこない、発表準備に備える。授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上おこなう。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション～ゼミナールの進行について 【第2回】 研究テーマの設定1 【第3回】 研究テーマの設定2 【第4回】 研究テーマの設定3 【第5回】 研究テーマの設定4 【第6回】 研究テーマの設定5 【第7回】 文献講読1 【第8回】 文献講読2 【第9回】 文献講読3 【第10回】 文献講読4 【第11回】 安中・本間・三輪ゼミナール3合同発表会参加 【第12回】 文献講読6 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	中間発表・レポートが50%、最終課題レポート50%で評価する。								
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではなくありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。								
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習/ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101002	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナールⅠ					寺尾 英智		第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールは、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。								
到達目標	日本仏教史および日蓮教団史の研究に関する基本的な事項と研究法について、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書・歴史資料などを講読し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 「研究」と「論文」について 【第2回】 研究文献及び史料について 【第3回】 研究文献及び史料の収集と検討（1） 【第4回】 研究文献及び史料の収集と検討（2） 【第5回】 研究文献及び史料の収集と検討（3） 【第6回】 研究文献及び史料についての発表（1） 【第7回】 研究文献及び史料についての発表（2） 【第8回】 研究の方法と実践（1） 【第9回】 研究の方法と実践（2） 【第10回】 研究の方法と実践（3） 【第11回】 研究の方法と実践（4） 【第12回】 研究文献及び史料についての発表（3） 【第13回】 研究文献及び史料についての発表（4）								
成績評価の方法	発表・レポート・課題提出（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	レポート・課題に対する講評は授業内で行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）								
指定図書	『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年								
参考書	『日蓮信仰の歴史を探る』寺尾英智（山喜房佛書林）2016年								
教員からのお知らせ	卒業論文の指導を希望する諸君は、必ず受講すること。								
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101102	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期																												
科目名	ゼミナールⅠ				手島 一真			第1期																													
履修前提条件					備考																																
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。																																				
到達目標	卒業研究を念頭に置いて、各自の研究テーマを設定し、必要な文献や資料を吟味し収集できる。もって、第2期「ゼミナールⅡ」で課題としている小論文作成に向けた準備を進めることができる。																																				
授業外学修内容・授業外学修時間数	論文講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、原典資料からの引用文など、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表の際は、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>実証的研究のための方法論総説</td> <td>【第8回】</td> <td>宗教文化史に関する論文・原典資料講読(1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>研究の土台となる基本文献に関する論文講読(1)</td> <td>【第9回】</td> <td>同(2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>同(2)</td> <td>【第10回】</td> <td>ゼミ生による研究発表と意見交換(4)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>同(3)</td> <td>【第11回】</td> <td>同(5)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>ゼミ生による研究発表と意見交換(1)</td> <td>【第12回】</td> <td>同(6)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>同(2)</td> <td>【第13回】</td> <td>総括</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>同(3)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】	実証的研究のための方法論総説	【第8回】	宗教文化史に関する論文・原典資料講読(1)	【第2回】	研究の土台となる基本文献に関する論文講読(1)	【第9回】	同(2)	【第3回】	同(2)	【第10回】	ゼミ生による研究発表と意見交換(4)	【第4回】	同(3)	【第11回】	同(5)	【第5回】	ゼミ生による研究発表と意見交換(1)	【第12回】	同(6)	【第6回】	同(2)	【第13回】	総括	【第7回】	同(3)		
【第1回】	実証的研究のための方法論総説	【第8回】	宗教文化史に関する論文・原典資料講読(1)																																		
【第2回】	研究の土台となる基本文献に関する論文講読(1)	【第9回】	同(2)																																		
【第3回】	同(2)	【第10回】	ゼミ生による研究発表と意見交換(4)																																		
【第4回】	同(3)	【第11回】	同(5)																																		
【第5回】	ゼミ生による研究発表と意見交換(1)	【第12回】	同(6)																																		
【第6回】	同(2)	【第13回】	総括																																		
【第7回】	同(3)																																				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢(積極的な発言含む)30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。(研究発表は必須)																																				
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表、小論文に対する講評は、授業時に随時行います。																																				
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編(研文出版)2008年																																				
指定図書	『全訳 漢辞海』戸川芳郎(三省堂)2019年、『新字源』小川環樹(角川書店)2017年、『新漢語林』鎌田正(大修館書店)2011年																																				
参考書	授業内で指示します																																				
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。授業で指定した漢和辞典を持参のこと。講読用論文・資料はプリント配布します。OpenLMSでも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。																																				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール(アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと)、にて受け付けます。																																				
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、演習/ゼミナール																																				
実践的な教育内容																																					
その他	卒業に関わる指示事項や各種書類の提出等、重要な連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。																																				

講義コード	11A2101101	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期																										
科目名	ゼミナールⅠ				秋田 貴廣			第1期																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	現在に残された文化としての作品と、「造形」という視点をとおして対峙する。あるいは、「文化財」という観点で現象を捉えた上で、自らの感触と過去の事実を立体的に交差させながら、その必然性と意味を探る。																																		
到達目標	「制作」を行う場合には、4年次に取り組み「卒業制作」のための基礎造形力と技術、そして彫刻様式の把握力を身につける。「論文」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集を行いつつ、内容を検証する方法論を身につける。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	自分が興味をもった文化に関する資料について、事前に調査する(15時間以上)。 仏教寺院や博物館・美術館等へ行き、自分の目で作品を鑑賞し、その実感を得る(15時間以上)。 自分自身の制作活動あるいは論文資料の収集・確認作業(30時間以上)。																																		
授業計画	<p><卒業論文(制作)に向けての指導を行う></p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>美術とは何か?美術史とは何か?</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>論文とは何か?</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>仏教美術の基礎知識の習得1(制作の学生は、併せて実習を行う)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>仏教美術の基礎知識の習得2</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>仏教美術の基礎知識の習得3</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>仏教美術の基礎知識の習得4</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td> <td>仏教美術の基礎知識の習得5</td> </tr> <tr> <td>【第9回】</td> <td>仏教美術の基礎知識の習得6</td> </tr> <tr> <td>【第10回】</td> <td>仏教美術の基礎知識の習得7</td> </tr> <tr> <td>【第11回】</td> <td>研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査1</td> </tr> <tr> <td>【第12回】</td> <td>研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査2</td> </tr> <tr> <td>【第13回】</td> <td>研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査3</td> </tr> </table>									【第1回】	ガイダンス	【第2回】	美術とは何か?美術史とは何か?	【第3回】	論文とは何か?	【第4回】	仏教美術の基礎知識の習得1(制作の学生は、併せて実習を行う)	【第5回】	仏教美術の基礎知識の習得2	【第6回】	仏教美術の基礎知識の習得3	【第7回】	仏教美術の基礎知識の習得4	【第8回】	仏教美術の基礎知識の習得5	【第9回】	仏教美術の基礎知識の習得6	【第10回】	仏教美術の基礎知識の習得7	【第11回】	研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査1	【第12回】	研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査2	【第13回】	研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査3
【第1回】	ガイダンス																																		
【第2回】	美術とは何か?美術史とは何か?																																		
【第3回】	論文とは何か?																																		
【第4回】	仏教美術の基礎知識の習得1(制作の学生は、併せて実習を行う)																																		
【第5回】	仏教美術の基礎知識の習得2																																		
【第6回】	仏教美術の基礎知識の習得3																																		
【第7回】	仏教美術の基礎知識の習得4																																		
【第8回】	仏教美術の基礎知識の習得5																																		
【第9回】	仏教美術の基礎知識の習得6																																		
【第10回】	仏教美術の基礎知識の習得7																																		
【第11回】	研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査1																																		
【第12回】	研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査2																																		
【第13回】	研究対象とする時代・作品・技法等を絞り込むための調査3																																		
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%・授業内レポート50%																																		
フィードバックの内容	課題に対する講評を授業内の行うほか、学生各自の興味を確認した上で、次の段階に移行するための助言を行う。																																		
教科書																																			
指定図書																																			
参考書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修(丸善プラネット)2012																																		
教員からのお知らせ	このゼミは1限の時間帯に開講されているが、「論文組」と「制作組」を分けて授業を進める関係上、2限の時間帯を使用する可能性がある。そのため出来る限り2限の時間帯を空けておく(他の授業を入れない)ようにしてください。																																		
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談がある場合は、教員にメールを送って尋ねてください。																																		
アクティブラーニングの内容	仏像の立体資料等を適宜用いて、学生自身の目と手で触れて実感できる機会を設ける。演習/ゼミナール																																		
実践的な教育内容	文化財修復の実務経験を活かし、建築物・絵画・彫刻表現の前提となる技術や精神、当時の人々の想いを伝えて理解を深める。																																		
その他	卒業制作を希望する学生が多数いる場合は、ゼミ内セレクションによって選抜する。																																		

講義コード	11A2101105	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ				庄司 史生		第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、①論文執筆に必要となる資料の扱い方の習得、②各研究テーマの設定とプレゼン発表方法の習得を目的とする。 ①仏教学の論文執筆には欠かすことができない資料の扱い方に慣れるために、特定の一次資料、二次資料を取り上げ、その読解を行う。 ②研究テーマの設定から論文の書き方、論文の添削、ゼミ生による口頭発表を行い、その中で、論文執筆に関わる基礎的な知識の習得も目指す。						
到達目標	①学術論文を執筆するにあたっての基礎的なスキルを身につける。 ②学術情報に基づくプレゼン方法のスキルを身につける。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	本ゼミナールの受講にあたっては、予習と復習を重ね事前・事後に不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】論文作成の方法と資料の扱い方① 【第3回】〃 ② 【第4回】〃 ③ 【第5回】〃 ④ 【第6回】〃 ⑤ 【第7回】〃 ⑥ 【第8回】〃 ⑦ 【第9回】〃 ⑧ 【第10回】〃 ⑨ 【第11回】〃 ⑩ 【第12回】〃 ⑪ 【第13回】まとめ ※以上の中で研究発表を行います。						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋課題提出30%）と口頭発表40%により成績を評価する。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考図書などは、必要に応じて指示します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101107	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナールⅠ				中井 本勝		第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	卒業論文作成に向けて論文作成の基本的知識、研究倫理、先行研究の取り扱い等について習熟するとともに、収集した研究資料にもとづいて発表を行うことによって、より練度の高い論文の作成を目指す。						
到達目標	論文を作成する方法や意義を理解し、学術的な方法にもとづいた論文を作成することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス、卒業論文の作成方法の確認 【第2回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（1） 【第3回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（2） 【第4回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（3） 【第5回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（4） 【第6回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（5）、課題提出 【第7回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（6） 【第8回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（7） 【第9回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（8） 【第10回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（9） 【第11回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（10） 【第12回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（11） 【第13回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（12）、課題提出、まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60%）、課題および発表（40%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。						

講義コード	11A1101005	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ							田村 亘禰	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	卒業論文の準備作業。日蓮教学・教学史等の様々な学術論文を熟読し、卒業論文のテーマを見つける。								
到達目標	自分が読んだ学術論文の概要を、他者に話して聞かせることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、卒業論文の準備作業に充てること。授業外学修の時間は、最低でも60時間以上を充てること。								
授業計画	【第1回】自己紹介・卒論の展望を発表。質疑応答。 【第2回】自己紹介・卒論の展望を発表。質疑応答。 【第3回】ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第4回】ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第5回】資料の取り扱い方の説明。 【第6回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第7回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第8回】参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第9回】参考文献の講読。 【第10回】参考文献の講読。 【第11回】参考文献の講読。 【第12回】参考文献の講読。 【第13回】レポート提出。まとめ。								
成績評価の方法	期末レポート（60%）、発表（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）を基準として、総合的に評価します。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書	授業時に紹介します								
参考書	授業時に紹介します								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール／卒業論文								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101006	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	ゼミナールⅠ							本間 俊文	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。								
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する基本的事項と研究法について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】「仏教」を学ぶ意義について考える 【第2回】研究の基礎（1） 【第3回】研究の基礎（2） 【第4回】研究の基礎（3） 【第5回】研究の方法（1） 【第6回】研究の方法（2） 【第7回】研究の方法（3） 【第8回】研究の実践（1） 【第9回】研究の実践（2） 【第10回】研究の実践（3） 【第11回】研究の実践（4） 【第12回】研究の実践（5） 【第13回】研究の実践（6）								
成績評価の方法	発表（30%）、授業への取り組み姿勢（70%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A2101104	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール1				袁輪 顕量		第1期
履修前条件					備考		
授業の目的	仏教の伝えた修行について、その最初期の資料である入息出息念経を読み、基本的な修行について理解できるようにする。パリ文の経論の翻訳を用いて、輪読をしながら進め、仏教の瞑想の内実を理解する。						
到達目標	仏教の瞑想の具体的な方法とその目指すところを、自分の言葉で説明できるようにする。また、仏教の瞑想がほかの瞑想とどう異なるのかを理解できるようにする。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の時間等で参考書を示すので、それに目を通すこと。この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】概観 【第2回】入息出息念経の解説 【第3回】漢訳との関係 【第4回】輪読 第1段 【第5回】輪読 第1段 【第6回】輪読 第2段 【第7回】輪読 第2段 【第8回】輪読 第3段 【第9回】輪読 第3段 【第10回】輪読 第4段 【第11回】輪読 第4段 【第12回】輪読 第5段 【第13回】輪読 第5段 						
成績評価の方法	授業の中での発表、および授業への貢献で判断する。						
フィードバックの内容	購読した箇所を振り返り、その意味する内容を再度確認するようにすること。次の授業の初めに前回の振り返りを行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	パリ語で書かれた経典の現代語訳を用いますので、原典が読める必要はありません。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。						
アクティブラーニングの内容	意見共有を大事なものとします、また実際の体験を推奨しますので、リトリートなどがありましたら、参加してください。						
実践的な教育内容	教員は瞑想の指導の経験を有しています。						
その他	耳学問も大事ですので、欠席はなるべくしないように。また卒業論文に関わる指導も、授業の後半に30分を費やして行います。						

講義コード	11A1101201	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2				安中 尚史		第2期
履修前条件					備考		
授業の目的	日本仏教の歴史的展開を主体的に学ぶための力を養うことをねらいとします。						
到達目標	日本仏教の歴史的展開を研究するために必要な基礎力を身につけることを目標とします。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	学術論文や史料（資料）を各自で検索・収集し内容を把握して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】日本仏教史研究の実践（1） 【第2回】日本仏教史研究の実践（2） 【第3回】日本仏教史研究の実践（3） 【第4回】日本仏教史研究の実践（4）および課題の提出（1） 【第5回】日本仏教史研究の実践（5） 【第6回】日本仏教史研究の実践（6） 【第7回】日本仏教史研究の実践（7） 【第8回】日本仏教史研究の実践（8）および課題の提出（2） 【第9回】日本仏教史研究の実践（9） 【第10回】日本仏教史研究の実践（10） 【第11回】受講生による研究報告と検討（1） 【第12回】受講生による研究報告と検討（2） 【第13回】まとめと課題の提出（3） 						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で評価します。						
フィードバックの内容							
教科書	特にありません						
指定図書	授業中に紹介します						
参考書	授業中に紹介します						
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101303	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期														
科目名	ゼミナール2																						
履修前提条件					備考																		
授業の目的	仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は仏教と他宗教の諸文献における神話的記述を比較する。仏教経典等の聖典をはじめ叙事詩・説話・伝記・歴史書・論書等における神話・伝説・靈異譚を調査し、世界観・人間観・死生観等を比較し相互の影響関係等を考察する。																						
到達目標	仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法および注意点を知らずの研究に役立てることができる。自らの興味関心に即して研究課題を設定し他者に判りやすく調査・報告することができる。自らの興味関心に即して研究課題を設定し他者に判りやすく調査・報告することができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握し、各自の見解や疑問点を書き留め、演習での発言や質問に備えること。また、各人が研究課題を設定して自主的に個人研究を推進し、発表に備えること。個人研究の成果を報告書（小論文）の形でまとめておくこと。これらを各回平均4時間、計60時間行うのが望ましい。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 受講生の個別研究の中間発表（1）</td> <td>【第8回】 指導教員の研究発表（1）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 受講生の個別研究の中間発表（2）</td> <td>【第9回】 指導教員の研究発表（2）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 受講生の個別研究の中間発表（3）</td> <td>【第10回】 受講生の個別研究の成果発表（1）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 受講生の個別研究の中間発表（4）</td> <td>【第11回】 受講生の個別研究の成果発表（2）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 大乘仏教・密教における諸菩薩・尊格</td> <td>【第12回】 受講生の個別研究の成果発表（3）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 ヴィシュヌ教の神話</td> <td>【第13回】 受講生の個別研究の成果発表（4）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 シヴァ教の神話</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 受講生の個別研究の中間発表（1）	【第8回】 指導教員の研究発表（1）	【第2回】 受講生の個別研究の中間発表（2）	【第9回】 指導教員の研究発表（2）	【第3回】 受講生の個別研究の中間発表（3）	【第10回】 受講生の個別研究の成果発表（1）	【第4回】 受講生の個別研究の中間発表（4）	【第11回】 受講生の個別研究の成果発表（2）	【第5回】 大乘仏教・密教における諸菩薩・尊格	【第12回】 受講生の個別研究の成果発表（3）	【第6回】 ヴィシュヌ教の神話	【第13回】 受講生の個別研究の成果発表（4）	【第7回】 シヴァ教の神話	
【第1回】 受講生の個別研究の中間発表（1）	【第8回】 指導教員の研究発表（1）																						
【第2回】 受講生の個別研究の中間発表（2）	【第9回】 指導教員の研究発表（2）																						
【第3回】 受講生の個別研究の中間発表（3）	【第10回】 受講生の個別研究の成果発表（1）																						
【第4回】 受講生の個別研究の中間発表（4）	【第11回】 受講生の個別研究の成果発表（2）																						
【第5回】 大乘仏教・密教における諸菩薩・尊格	【第12回】 受講生の個別研究の成果発表（3）																						
【第6回】 ヴィシュヌ教の神話	【第13回】 受講生の個別研究の成果発表（4）																						
【第7回】 シヴァ教の神話																							
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20%）と発表資料（20%）、研究報告書（30%）、平常点（30%）。																						
フィードバックの内容	研究報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。																						
教科書	適宜、資料を配布します。																						
指定図書																							
参考書	『仏教・インド思想辞典』早島鏡正監修、高崎直道編集代表（春秋社）1987年、『仏典解題事典〈第三版〉』斎藤明他編集（春秋社）2020年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修（佼成出版社）1989年、『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎編（東京大学出版会）1973年、『ヒンドゥー神話の神々』立川武蔵著（せりか書房）2008年																						
教員からのお知らせ	第2期には個人研究の成果を発表する機会が与えられます。また、学友の発表に対する質問や助言等の積極的な発言が平常点として評価の対象となります。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション																						
実践的な教育内容																							
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。なお受講生各自の研究は学友と分担し共同研究にすると、より楽しくまたより成果が上がるものと期待されます。研究テーマは神話に限らず各自が自由に設定して構いません。																						

講義コード	11A1101204	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第2期													
科目名	ゼミナール2																					
履修前提条件					備考																	
授業の目的	このゼミナールは日本仏教の思想的側面を研究対象とする。時代を限定せず、日本仏教関連の文献を講読していく。																					
到達目標	日本仏教に関する文献を読解するための、補助的作業力（参考資料の調査や専門用語の理解習得など）を身につけ、内容を正しく理解説明できる。論文を執筆するための基本事項を理解し、卒業論文執筆の準備を完成する。																					
授業外学修内容・授業外学修時間数	自分自身の課題について、事前学修を2時間以上おこない、発表準備に備える。授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上おこなう。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。																					
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 オリエンテーション～講読文献の選定</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 文献講読の手引き</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 文献講読1</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 文献講読2</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 文献講読3</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 文献講読4</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 発表準備①-資料作成</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 発表準備②-資料作成</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 安中・本間・三輪ゼミ合同発表会①</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 安中・本間・三輪ゼミ合同発表会②</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 論理的文章表現1</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 論理的文章表現2</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 まとめレポート作成提出</td> </tr> </table>									【第1回】 オリエンテーション～講読文献の選定	【第2回】 文献講読の手引き	【第3回】 文献講読1	【第4回】 文献講読2	【第5回】 文献講読3	【第6回】 文献講読4	【第7回】 発表準備①-資料作成	【第8回】 発表準備②-資料作成	【第9回】 安中・本間・三輪ゼミ合同発表会①	【第10回】 安中・本間・三輪ゼミ合同発表会②	【第11回】 論理的文章表現1	【第12回】 論理的文章表現2	【第13回】 まとめレポート作成提出
【第1回】 オリエンテーション～講読文献の選定																						
【第2回】 文献講読の手引き																						
【第3回】 文献講読1																						
【第4回】 文献講読2																						
【第5回】 文献講読3																						
【第6回】 文献講読4																						
【第7回】 発表準備①-資料作成																						
【第8回】 発表準備②-資料作成																						
【第9回】 安中・本間・三輪ゼミ合同発表会①																						
【第10回】 安中・本間・三輪ゼミ合同発表会②																						
【第11回】 論理的文章表現1																						
【第12回】 論理的文章表現2																						
【第13回】 まとめレポート作成提出																						
成績評価の方法	途中経過報告50%と課題レポート50%で評価する。																					
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。																					
教科書																						
指定図書																						
参考書																						
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。																					
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。																					
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習/ゼミナール																					
実践的な教育内容																						
その他																						

講義コード	11A1101202	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	寺尾 英智	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールは、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。								
到達目標	日本仏教史および日蓮教団史の研究に関する基本的な事項と研究法について、説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書・歴史資料などを講読し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 研究の方法と実践（1） 【第2回】 研究の方法と実践（2） 【第3回】 研究の方法と実践（3） 【第4回】 卒業論文の研究テーマについて（1） 【第5回】 卒業論文の研究テーマについて（2） 【第6回】 卒業論文の研究テーマについての発表（1） 【第7回】 卒業論文の研究テーマについての発表（2） 【第8回】 研究の方法と実践（4） 【第9回】 研究の方法と実践（5） 【第10回】 研究の方法と実践（6） 【第11回】 研究の方法と実践（7） 【第12回】 研究文献及び史料についての発表（1） 【第13回】 研究文献及び史料についての発表（2）								
成績評価の方法	発表・レポート・課題提出（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	レポート・課題に対する講評は授業内で行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）								
指定図書	『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年								
参考書	『日蓮信仰の歴史を探究』寺尾英智（山喜房佛書林）2016年								
教員からのお知らせ	卒業論文の指導を希望する諸君は、必ず受講すること。								
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101302	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。								
到達目標	卒業研究を念頭に置いて、各自の研究テーマを設定し、必要な文献や資料を吟味し収集できる。講読を通じて修得した文献の読解能力や取扱いの方法を踏まえ、各自が収集した文献を適切に活用して発表に活かすことができる。教員との応答の中で設定したテーマ・内容のプレ卒業研究（小論文）を完遂できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	原典資料講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表に関しては、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 論文作成のポイント（1） 【第2回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（1） 【第3回】 同（2） 【第4回】 同（3） 【第5回】 同（4） 【第6回】 論文作成のポイント（2） 【第7回】 原典資料・論文講読（1） 【第8回】 同（2） 【第9回】 同（3） 【第10回】 ゼミ生による研究発表と意見交換（5） 【第11回】 同（6） 【第12回】 同（7） 【第13回】 総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（積極的な発言含む）30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。（研究発表は必須）								
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表といった課題に対する講評は、提出・発表時に随時行います。								
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編（研文出版）2008年								
指定図書	ゼミ1指定図書を参照								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。授業で指定した漢和辞典を持参のこと。講読用論文・資料はプリント配布します。OpenLMSでも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール（アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと）、にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学修、演習／ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他	卒業に関わる指示事項や各種書類の提出等、重要な連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。								

講義コード	11A2101301	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							秋田 貴廣	第2期
履修前条件					備考				
授業の目的	現在に残された文化としての作品と、「造形」という視点をとおして対峙する。あるいは、「文化財」という観点で文化現象を捉えて確認した上で、自らの感触と過去の事実を立体的に交差させながら、その必然性と意味を探る。								
到達目標	「制作」を行う場合には、4年次に取り組む「卒業制作」のための基礎造形力と技術、そして彫刻様式の把握力を身につける。「論文」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集を行いながら、日本の文化現象に対する知識を獲得し、それを説明できるようになること。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	自分が興味をもった文化について、事前に調査する（30時間以上）。 仏教寺院や博物館・美術館等に赴き、自分の目で作品を鑑賞し、その実感を得る（30時間以上）。								
授業計画	<卒業論文（制作）に向けての指導を行う> 【第1回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む1 【第2回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む2 【第3回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む3 【第4回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む4 【第5回】自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む5 【第6回】造形研究・技法研究・資料収集 【第7回】 【第8回】 【第9回】 【第10回】 【第11回】 【第12回】 【第13回】卒業制作（論文）のテーマを決定								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%・授業内レポート50%								
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内の冒頭で行う。								
教科書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修（丸善プラネット）2012								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	当該ゼミの学生は「論文組」と「制作組」に分かれて進める都合上、できる限り、ゼミのある日の午前中の予定を空けておくように。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談がある場合は、教員にメールを送って尋ねてください。								
アクティブラーニングの内容	仏像の立体資料等を適宜用いて、学生自身の目と手で触れて実感できる機会を設ける。演習／ゼミナール								
実践的な教育内容	文化財修復の実務経験を活かし、建築物・絵画・彫刻表現の前提となる技術や精神、当時の人々の想いなどを紹介して、受講者の理解を深める。								
その他	本講義ではテキストは使用しないが、各自の関心のある作品について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい。								

講義コード	11A2101305	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	庄司 史生	開講期	第2期
科目名	ゼミナール2							庄司 史生	第2期
履修前条件					備考				
授業の目的	このゼミナールでは、①論文執筆に必要となる資料の扱い方の習得、②各研究テーマの設定とプレゼン発表方法の習得を目的とする。 ①仏教学の論文執筆には欠かすことができない資料の扱い方に慣れるために、特定の一次資料、二次資料を取り上げ、その読解を行う。 ②研究テーマの設定から論文の書き方、論文の添削、ゼミ生による口頭発表を行い、その中で、論文執筆に関わる基礎的な知識の習得も目指す。								
到達目標	①学術論文を執筆するにあたっての基礎的なスキルを身につける。 ②学術情報に基づくプレゼン方法のスキルを身につける。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義の受講にあたっては、予習と復習を重ね事前・事後に不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】論文作成の方法と資料の扱い方① 【第3回】 【第4回】 【第5回】 【第6回】 【第7回】 【第8回】 【第9回】 【第10回】 【第11回】 【第12回】 【第13回】まとめ ※以上の中で研究発表を行います。								
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%+課題提出30%）と口頭発表40%により成績を評価する。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	参考文献は、必要に応じて授業内に紹介します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101307	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2				中井 本勝		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	卒業論文作成に向けて論文作成の基本的知識、研究倫理、先行研究の取り扱い等について習熟するとともに、収集した研究資料にもとづいて発表を行うことによって、より練度の高い論文の作成を目指す。								
到達目標	論文を作成する方法や意義を理解し、学術的な方法にもとづいた論文を作成することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス、論文作成作業の進捗状況の確認</p> <p>【第2回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (1)</p> <p>【第3回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (2)</p> <p>【第4回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (3)</p> <p>【第5回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (4)</p> <p>【第6回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (5)</p> <p>【第7回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (6)</p> <p>【第8回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (7)</p> <p>【第9回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (8)、課題提出</p> <p>【第10回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (9)、研究発表</p> <p>【第11回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (10)、研究発表</p> <p>【第12回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (11)</p> <p>【第13回】 研究資料の収集および内容理解、論文の作成 (12)、課題提出、まとめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢 (60%)、課題および発表 (40%) を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。								

講義コード	11A1101205	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール2				田村 亘禰		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	卒業論文の準備作業。論文のテーマに付随する諸問題の把握。								
到達目標	論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間以上、卒業論文の準備作業に充てること。								
授業計画	<p>【第1回】 卒業論文の進め方の確認。</p> <p>【第2回】 それぞれのテーマに相応する講義。</p> <p>【第3回】 それぞれのテーマに相応する講義。</p> <p>【第4回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。</p> <p>【第5回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。</p> <p>【第6回】 それぞれのテーマに相応する講義。</p> <p>【第7回】 それぞれのテーマに相応する講義。</p> <p>【第8回】 参考文献の購読。</p> <p>【第9回】 参考文献の購読。</p> <p>【第10回】 参考文献の購読。</p> <p>【第11回】 参考文献の購読。</p> <p>【第12回】 参考文献の購読。</p> <p>【第13回】 レポート提出。まとめ。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編 (立正大学仏教学部) 2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、その都度、指示します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール (アドレスは授業中に伝達)、またはLMSのメッセージ機能 (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照) で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習/ゼミナール/卒業論文								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101206	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2				本間 俊文		第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけることを目的とする。						
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する基本的事項と研究法について説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 研究の実践 (1) 【第2回】 研究の実践 (2) 【第3回】 研究の実践 (3) 【第4回】 研究の実践 (4) 【第5回】 研究の実践 (5) 【第6回】 研究の実践 (6) 【第7回】 研究の実践 (7) 【第8回】 研究の実践 (8) 【第9回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会① 【第10回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会② 【第11回】 研究の実践 (9) 【第12回】 研究の実践 (10) 【第13回】 研究の実践 (11)						
成績評価の方法	発表 (30%)、授業への取り組み姿勢 (70%) を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編 (立正大学仏教学部) 2021年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。						

講義コード	11A2101304	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール2				袁輪 顕量		第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	東アジア世界に伝わった仏教の瞑想を『坐禅三昧経』の記述をもとに考察することを目指す。仏教の瞑想は念処に始まり止観に分かれるが、その意味するところを理解できるようになることを目指す。また中国において瞑想がどのように伝播したのか、理解できるようにする。						
到達目標	仏教の瞑想が東アジア世界にどのように紹介され、受容されていったのか、自分の言葉で説明できるようになる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考書を授業中にも示すので、それに目を通してください。また漢文を読みますので、事前に担当を決めますので、予習をして発表に臨んでください。この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 坐禅三昧経の成立の背景 【第2回】 坐禅三昧経が東アジア世界に与えた影響 【第3回】 輪読 身念止 【第4回】 輪読 身念止 【第5回】 輪読 受念止 【第6回】 輪読 受念止 【第7回】 輪読 心念止 【第8回】 輪読 心念止 【第9回】 輪読 法念止 【第10回】 輪読 法念止 【第11回】 輪読 法念止 【第12回】 輪読 念止の展開 【第13回】 輪読 念止の展開						
成績評価の方法	授業の中で担当した時の発表、授業への貢献度で採点する。						
フィードバックの内容	毎回冒頭に前回の復習をすることでフィードバックとする。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	卒論の執筆に向けた支援もしますので、休まないように出席してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受付けます (利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照)。						
アクティブラーニングの内容	意見共有も大事なことなので、他人の発表をよく聞けるよう工夫をいたします。						
実践的な教育内容	本人は瞑想の指導経験を有するので、時折実践を交えて、勧めます。						
その他	卒論に対する注意点や連絡などをゼミを通じて行いますので、休まないようにすること。						

講義コード	11A1101401	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3				安中 尚史		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	日本仏教の展開について、深く理解することをねらいとします。						
到達目標	受講生各自が設定したテーマに基づいた研究を行い、中間報告書の完成を目標とします。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各自が収集した学術論文や史料（資料）をもとに考察し、その結果を踏まえて論究して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス</p> <p>【第2回】 日本仏教研究に関する考察と論究（1）</p> <p>【第3回】 日本仏教研究に関する考察と論究（2）</p> <p>【第4回】 日本仏教研究に関する考察と論究（3）</p> <p>【第5回】 日本仏教研究に関する考察と論究（4）</p> <p>【第6回】 日本仏教研究に関する考察と論究（5）および課題の提出（1）</p> <p>【第7回】 日本仏教研究に関する考察と論究（6）</p> <p>【第8回】 日本仏教研究に関する考察と論究（7）</p> <p>【第9回】 受講生による中間報告と検討（1）</p> <p>【第10回】 受講生による中間報告と検討（2）および課題の提出（2）</p> <p>【第11回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①</p> <p>【第12回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会①</p> <p>【第13回】 まとめと課題の提出（3）</p>						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（中間報告書等）50%で評価します。						
フィードバックの内容							
教科書	特にありません						
指定図書	授業中に紹介します						
参考書	授業中に紹介します						
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101506	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3				久保 真紀子		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	このゼミナールでは、アジアの仏教美術や寺院建築等の造形表現やその成立背景を学ぶことに主眼を置き、画像や文献といった諸資料を丹念に読み解きながら研究を進める手法を身に付けることを目指す。						
到達目標	画像資料をよく観察してその特徴を描写したり、文献史料から読み取れたことを丁寧に伝える経験を積むことで、客観的で説得力のある論文を作成するための基礎を習得する。また、資料を収集・整理する方法や、画像資料等を用いたプレゼンテーションの手法を身につける。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	口頭発表や課題の準備のみならず、関連文献の収集や精読、あるいは博物館や美術館の見学等、進んで授業外学修を行うこと。その時間として、合計60時間以上行ってほしい。						
授業計画	<p>【第1回】 参考文献リストの紹介・検索練習</p> <p>【第2回】 作品鑑賞会と意見交換 （グループワーク+全体発表会）</p> <p>【第3回】 論文構想発表会（1）</p> <p>【第4回】 論文構想発表会（2）</p> <p>【第5回】 論文構想発表会（3）</p> <p>【第6回】 論文構想発表会（4）</p> <p>【第7回】 論文構想発表会（5）</p> <p>【第8回】 論文講読会と意見交換</p> <p>【第9回】 論文構想発表会（6）</p> <p>【第10回】 論文構想発表会（7）</p> <p>【第11回】 論文構想発表会（8）</p> <p>【第12回】 論文構想発表会（9）</p> <p>【第13回】 総括</p> <p>※1 「作品鑑賞と意見交換」（第2回）では、授業内で講師が指示した作品を各自が観察し、読み取れたことを全員で意見交換し、作品に対する理解を深めます。</p> <p>※2 「論文講読会と意見交換」（第8回）では、あらかじめ講師が指定した文献を全員で講読し、意見交換を行います。</p> <p>※3 「論文構想発表会」では、卒業論文の構想や進捗状況の報告をおこないます。受講生は担当回に向けて各自準備してください。WordやPower Pointで資料を作成し、口頭で発表していただきます。発表後に全員で意見交換します。</p>						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢により総合的に評価します。						
フィードバックの内容	作品鑑賞や論文講読、ならびに論文構想発表会では、各受講生に所定の用紙やFormsに記入・提出していただきます。また、記入した内容をもとに授業時間内に意見交換した後、教員からコメントを述べます。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	この授業では、全員に少なくとも1回は口頭発表を担当してもらいます。事前にしっかり準備して臨みましょう。また、自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対して積極的に発言しているかどうかを評価の対象となります。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。						
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習、ゼミナール、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーション						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1101403	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期														
科目名	ゼミナール3							第1期															
履修前提条件					備考																		
授業の目的	<p>テーマ：人生の意味と目的を考える 諸富祥彦著『人生に意味はあるか』をテキストとして、心理カウンセラーの著者が大学の授業でも実践している方法論を学び、宗教・文学・哲学・スピリチュアリティ・心理学の答えを概観し、著者自身の答えにアプローチする。こうした思考方法をたどりながら、「宗学」することの本質に迫っていきたい。</p>																						
到達目標	<p>各自の人生観を振り返り、自己を相対化できるようになる。「宗学」とは、けっして閉鎖的で独善的な学問ではない。自分の中で考え抜く力を養い、普遍的な価値観を身につけることによって、現代社会の人々に対する説得力をもちうるのが実感できるようになる。</p>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>指定されたテキスト・資料類をあらかじめ読んで内容を把握した上で、自分自身の問題意識をもつことが求められる。また関連する情報や資料を収集し、レポートする能力の育成を図る。よって合計60時間以上の予習・復習が必要となる。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】オリエンテーション</td> <td>【第8回】「これが答えだ」(2) 哲学の答え</td> </tr> <tr> <td>【第2回】自分の中の歴史</td> <td>【第9回】「これが答えだ」(3) スピリチュアリティの答え1</td> </tr> <tr> <td>【第3回】各自の知的関心・研究テーマについて</td> <td>【第10回】「これが答えだ」(4) スピリチュアリティの答え2</td> </tr> <tr> <td>【第4回】テキスト：諸富祥彦著『人生に意味はあるか』について</td> <td>【第11回】「これが答えだ」(5) フランクルの答え</td> </tr> <tr> <td>【第5回】「人生の意味」を考える(1)</td> <td>【第12回】「これが答えだ」(6) 諸富祥彦の答え</td> </tr> <tr> <td>【第6回】「人生の意味」を考える(2)</td> <td>【第13回】まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】「これが答えだ」(1) 宗教・文学の答え</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】オリエンテーション	【第8回】「これが答えだ」(2) 哲学の答え	【第2回】自分の中の歴史	【第9回】「これが答えだ」(3) スピリチュアリティの答え1	【第3回】各自の知的関心・研究テーマについて	【第10回】「これが答えだ」(4) スピリチュアリティの答え2	【第4回】テキスト：諸富祥彦著『人生に意味はあるか』について	【第11回】「これが答えだ」(5) フランクルの答え	【第5回】「人生の意味」を考える(1)	【第12回】「これが答えだ」(6) 諸富祥彦の答え	【第6回】「人生の意味」を考える(2)	【第13回】まとめ	【第7回】「これが答えだ」(1) 宗教・文学の答え	
【第1回】オリエンテーション	【第8回】「これが答えだ」(2) 哲学の答え																						
【第2回】自分の中の歴史	【第9回】「これが答えだ」(3) スピリチュアリティの答え1																						
【第3回】各自の知的関心・研究テーマについて	【第10回】「これが答えだ」(4) スピリチュアリティの答え2																						
【第4回】テキスト：諸富祥彦著『人生に意味はあるか』について	【第11回】「これが答えだ」(5) フランクルの答え																						
【第5回】「人生の意味」を考える(1)	【第12回】「これが答えだ」(6) 諸富祥彦の答え																						
【第6回】「人生の意味」を考える(2)	【第13回】まとめ																						
【第7回】「これが答えだ」(1) 宗教・文学の答え																							
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢(毎回の課題・感想など)60%、期末レポートの発表・提出(40%)を基準として総合的に評価します。</p>																						
フィードバックの内容	<p>使用するシステム(Teams)を通じて適宜対応し、必要に応じて次の授業でフィードバックを行います。</p>																						
教科書	<p>『人生に意味はあるか』 諸富祥彦(講談社現代新書)2005</p>																						
指定図書																							
参考書	<p>『自分の中に歴史を読む』阿部謹也(ちくまプリマーブックス)1988、『[完全版]生きがいの創造 スピリチュアルな科学研究から読み解く人生のしくみ』飯田史彦(PHP文庫)2012、『NHK「100分de名著」ブックス フランクル 夜と霧』諸富祥彦(NHK出版)2013</p>																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステム(Teams)の質問・連絡掲示板等を通じて対応します。</p>																						
アクティブラーニングの内容	<p>意見共有、ゼミナール</p>																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11A2101503	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第1期														
科目名	ゼミナール3							第1期															
履修前提条件					備考																		
授業の目的	<p>仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は仏教と他宗教の諸文献における神話的記述を比較する。仏教経典等の聖典をはじめ叙事詩・説話・伝記・歴史書・論書等における神話・伝説・靈異譚を調査し、世界観・人間観・死生観等を比較し相互の影響関係等を考察する。</p>																						
到達目標	<p>仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法及び注意点を知らずのうちに研究に役立てることができる。各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文を作成することができる。</p>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握した上で、各自の見解や疑問点を書き留めておき、演習における発言や質問に備えること。また、各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文作成の準備を進めること。これらを各回平均4時間、計60時間行うのが望ましい。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】授業の進め方、自己紹介</td> <td>【第8回】受講生の個別研究計画の発表(1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】比較思想・比較文化の研究手法</td> <td>【第9回】受講生の個別研究計画の発表(2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】資料収集の技法、学術論文の作法</td> <td>【第10回】受講生の個別研究計画の発表(3)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】受講生の個別研究主題の発表</td> <td>【第11回】受講生の個別研究計画の発表(4)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】ヴェーダ聖典とその神話</td> <td>【第12回】初期仏教文献における神々(諸天)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】プラーフマナ文献における神話解釈</td> <td>【第13回】アビダルマ仏教における神話的世界観</td> </tr> <tr> <td>【第7回】ウパニシャッド文献における神話解釈</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】授業の進め方、自己紹介	【第8回】受講生の個別研究計画の発表(1)	【第2回】比較思想・比較文化の研究手法	【第9回】受講生の個別研究計画の発表(2)	【第3回】資料収集の技法、学術論文の作法	【第10回】受講生の個別研究計画の発表(3)	【第4回】受講生の個別研究主題の発表	【第11回】受講生の個別研究計画の発表(4)	【第5回】ヴェーダ聖典とその神話	【第12回】初期仏教文献における神々(諸天)	【第6回】プラーフマナ文献における神話解釈	【第13回】アビダルマ仏教における神話的世界観	【第7回】ウパニシャッド文献における神話解釈	
【第1回】授業の進め方、自己紹介	【第8回】受講生の個別研究計画の発表(1)																						
【第2回】比較思想・比較文化の研究手法	【第9回】受講生の個別研究計画の発表(2)																						
【第3回】資料収集の技法、学術論文の作法	【第10回】受講生の個別研究計画の発表(3)																						
【第4回】受講生の個別研究主題の発表	【第11回】受講生の個別研究計画の発表(4)																						
【第5回】ヴェーダ聖典とその神話	【第12回】初期仏教文献における神々(諸天)																						
【第6回】プラーフマナ文献における神話解釈	【第13回】アビダルマ仏教における神話的世界観																						
【第7回】ウパニシャッド文献における神話解釈																							
成績評価の方法	<p>個人研究の口頭発表(20%)と発表資料(20%)、研究報告書(30%)、平常点(30%)。</p>																						
フィードバックの内容	<p>研究報告書(レポート)に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。</p>																						
教科書	<p>適宜、資料を配布します。</p>																						
指定図書																							
参考書	<p>『比較思想序論(増補版)』三枝充憲著(春秋社)1995年、『世界神話大事典』イヴ・ボンヌフォワ編、金光仁三郎主幹(大修館書店)2001年、『神話学入門』大林太良著(中央公論社)1966年、『世界神話学入門』後藤明著(講談社)2017年、『ヒンドゥー教と叙事詩』中村元著(春秋社)1996年、『インド宇宙論大全』定方晟著(春秋社)2011年</p>																						
教員からのお知らせ	<p>各人が研究課題を設定し、具体的計画を策定し、卒業論文作成に向けて自主的に研究を推進してください。</p>																						
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受付けます。</p>																						
アクティブラーニングの内容	<p>ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション、卒業論文</p>																						
実践的な教育内容																							
その他	<p>必ず出席すること。遅刻しないこと。4年生は各自の卒業論文の完成に向けて研究に精励してください。卒業論文のテーマは各人が自由に設定して構いません。</p>																						

講義コード	11A1101404	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール3				三輪 是法		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	このゼミナールは日蓮仏教を含めた日本仏教を研究対象とする。自ら設定した研究テーマを、複眼的に研究考察する。								
到達目標	発表、レポート作成のための補助的作業力（資料の調査や読解、文章作成など）を身につけ、理解認識した内容を正確にプレゼンテーションできる。卒業論文を執筆する準備を整え、実際に研究論文を執筆することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	設定した研究テーマに関して事前学修を2時間以上、事後学修も2時間以上おこない、発表準備に備える。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション～研究テーマの検討・設定・論文の書き方1 【第2回】 研究テーマの検討・設定・論文の書き方2 【第3回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆1 【第4回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆2 【第5回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆3 【第6回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆4 【第7回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆5 【第8回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆6 【第9回】 合同発表会準備① 【第10回】 合同発表会準備② 【第11回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会 【第12回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆7 【第13回】 研究テーマに関する文献検索・講読・論考・執筆8								
成績評価の方法	合同発表が50%、課題レポート50%で評価する。								
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではなくありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。								
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習/ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101402	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール3				寺尾 英智		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールは、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけ、実践することを目的とする。								
到達目標	日本仏教史および日蓮教団史の研究に関する基本的な事項と研究法について、説明し、実践することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書・歴史資料などを講読し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 「研究」と「論文」について 【第2回】 研究文献及び史料について 【第3回】 研究文献及び史料の収集と検討（1） 【第4回】 研究文献及び史料の収集と検討（2） 【第5回】 研究文献及び史料の収集と検討（3） 【第6回】 研究内容についての発表（1） 【第7回】 研究内容についての発表（2） 【第8回】 研究の方法と実践（1） 【第9回】 研究の方法と実践（2） 【第10回】 研究の方法と実践（3） 【第11回】 研究の方法と実践（4） 【第12回】 研究内容についての発表（3） 【第13回】 研究内容についての発表（4）								
成績評価の方法	発表・レポート・課題提出（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	レポート・課題に対する講評は授業内で行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）								
指定図書	『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3（春秋社）2015年								
参考書	『日蓮信仰の歴史を探る』寺尾英智（山喜房佛書林）2016年								
教員からのお知らせ	卒業論文の指導を希望する諸君は、必ず受講すること。								
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101502	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期														
科目名	ゼミナール3				手島 一真			第1期															
履修前条件					備考																		
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならぬのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。																						
到達目標	各自が学的関心をもった分野・テーマにおける先行研究文献を収集できる。先行研究の参照閲読を通して適切な研究課題を抽出できる。その課題に関して客観的合理的論証に至るための筋道を構想できる。その要点を捉えて口頭発表（プレゼンテーション）としてまとめることができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	論文講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、原典資料からの引用文など、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表の際は、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的に取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 実証的研究のための方法論総説</td> <td>【第8回】 宗教文化史に関する論文・原典資料講読 (1)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 研究の土台となる基本文献に関する論文講読 (1)</td> <td>【第9回】 同 (2)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 同 (2)</td> <td>【第10回】 ゼミ生による研究発表と意見交換 (4)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 同 (3)</td> <td>【第11回】 同 (5)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 ゼミ生による研究発表と意見交換 (1)</td> <td>【第12回】 同 (6)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 同 (2)</td> <td>【第13回】 総括</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 同 (3)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 実証的研究のための方法論総説	【第8回】 宗教文化史に関する論文・原典資料講読 (1)	【第2回】 研究の土台となる基本文献に関する論文講読 (1)	【第9回】 同 (2)	【第3回】 同 (2)	【第10回】 ゼミ生による研究発表と意見交換 (4)	【第4回】 同 (3)	【第11回】 同 (5)	【第5回】 ゼミ生による研究発表と意見交換 (1)	【第12回】 同 (6)	【第6回】 同 (2)	【第13回】 総括	【第7回】 同 (3)	
【第1回】 実証的研究のための方法論総説	【第8回】 宗教文化史に関する論文・原典資料講読 (1)																						
【第2回】 研究の土台となる基本文献に関する論文講読 (1)	【第9回】 同 (2)																						
【第3回】 同 (2)	【第10回】 ゼミ生による研究発表と意見交換 (4)																						
【第4回】 同 (3)	【第11回】 同 (5)																						
【第5回】 ゼミ生による研究発表と意見交換 (1)	【第12回】 同 (6)																						
【第6回】 同 (2)	【第13回】 総括																						
【第7回】 同 (3)																							
成績評価の方法	授業への取組み姿勢（積極的な発言含む）30%、研究文献目録・研究計画書作成25%、研究発表20%、提出課題25%。（研究発表は必須）																						
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表、小論文に対する講評は、授業時に随時行います。																						
教科書	『漢籍はもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編（研文出版）2008年																						
指定図書	ゼミ1指定図書を参照																						
参考書	授業内で指示します																						
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。漢和辞典を必携（上記指定図書のうち）。講読用論文・資料はプリント配布します。OpenLMSでも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール（アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと）、にて受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、演習／ゼミナール																						
実践的な教育内容																							
その他	卒業に関わる指示事項や各種書類の提出等、重要な連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。																						

講義コード	11A2101501	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期													
科目名	ゼミナール3				秋田 貴廣			第1期														
履修前条件					備考																	
授業の目的	「制作」を希望する学生は、現在に残された作品と「造形」という視点をとおして対峙し、自分自身の感触と過去の事実を立体的に交差させる。「論文」の学生は、各作品の造形様式についてそこに至る展開と変遷を辿り、あるいは「文化財」という視点から日本の文化現象を確認し、その必然性と意味を探究。																					
到達目標	「制作」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集、テーマの決定、制作材料の決定、その後ようやく制作作業に入り、対象に近づくことができる。「論文」の場合には、過去の学術成果を確認する中で自分自身の問題意識を培い、それを自らの考察に反映させることができる。																					
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義ではテキストは使用しない。それぞれのテーマに関連する関心のある作品や文化現象について、事前に調査することが望ましい（15時間）。 自分が興味をもった文化や作品について実際に観ることを心がける。そして随時レポートとして提出する（15時間）。 自分の制作、あるいは資料の検証と執筆作業（30時間）。																					
授業計画	<p><年間を通して卒業論文（制作）に向けての制作指導を行う></p> <table border="0"> <tr> <td>【第1回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討1</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討2</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討3</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論文・制作テーマの検討と応用1</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論文・制作テーマの検討と応用2</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論文・制作テーマの検討と応用3</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論文・制作テーマの検討と応用4</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 論文・制作テーマの検討と応用5</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む1</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む2</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る1</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る2</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る3</td> </tr> </table>									【第1回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討1	【第2回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討2	【第3回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討3	【第4回】 論文・制作テーマの検討と応用1	【第5回】 論文・制作テーマの検討と応用2	【第6回】 論文・制作テーマの検討と応用3	【第7回】 論文・制作テーマの検討と応用4	【第8回】 論文・制作テーマの検討と応用5	【第9回】 自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む1	【第10回】 自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む2	【第11回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る1	【第12回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る2	【第13回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る3
【第1回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討1																						
【第2回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討2																						
【第3回】 自らのテーマにおける問題意識を明確にするための検討3																						
【第4回】 論文・制作テーマの検討と応用1																						
【第5回】 論文・制作テーマの検討と応用2																						
【第6回】 論文・制作テーマの検討と応用3																						
【第7回】 論文・制作テーマの検討と応用4																						
【第8回】 論文・制作テーマの検討と応用5																						
【第9回】 自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む1																						
【第10回】 自分なりの視点・考察の焦点を絞り込む2																						
【第11回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る1																						
【第12回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る2																						
【第13回】 自分の主張を明確に表現すべく全体の構成を練る3																						
成績評価の方法	論文ならびに制作に対する姿勢50%・授業内レポート50%																					
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内の冒頭で行う。																					
教科書																						
指定図書																						
参考書																						
教員からのお知らせ	4年時は就職活動等で時間をとられてしまうことが多いので、早めに進行させるためにも毎回出席すること。																					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談がある場合は、教員にメールを送って尋ねてください。																					
アクティブラーニングの内容	立体資料を適宜用いて、学生自身の目と手で文化を実感する機会を設ける。																					
実践的な教育内容	仏像制作および文化財修復の実務経験を活かし、建築物・絵画・彫刻表現の前提となる技術や精神、当時の人々の想いなどを伝えて、学生の理解を深める。																					
その他																						

講義コード	11A2101505	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3				庄司 史生		第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	このゼミナールでは、文献読解と研究発表を通して、自己表現のひとつとしての学術論文（卒業論文）作成のための方法論の修得を目指す。さらには各研究課題への取り組みを通して、私たちが生きていく上で接せざるを得ないさまざまな事象とその背後にある思想や文化にふれ、そこから受講者各自が、未知の世界に自らの足で一歩を踏み出す力を、多少なりとも養うことを目的とする。						
到達目標	自ら問いを立てそれに答える力、またそれを他者に伝える力をみにつけることができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	このゼミナールの受講にあたっては、予習と復習を重ね、事前・事後に不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】論文作成の方法と資料の扱い方① 【第3回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃② 【第4回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃③ 【第5回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃④ 【第6回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃⑤ 【第7回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃⑥ 【第8回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃⑦ 【第9回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃⑧ 【第10回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃⑨ 【第11回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃⑩ 【第12回】〃〃〃〃〃〃〃〃〃⑪ 【第13回】まとめ ※以上の中で研究発表を行います。						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋課題提出30%）と口頭発表40%により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	参考文献は、必要に応じて授業内に紹介します。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A2101507	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール3				中井 本勝		第1期
履修前提条件	備考						
授業の目的	卒業論文作成に向けて論文作成の基本的知識、研究倫理、先行研究の取り扱い等について習熟するとともに、収集した研究資料にもとづいて発表を行うことによって、より練度の高い論文の作成を目指す。						
到達目標	論文を作成する方法や意義を理解し、学術的な方法にもとづいた論文を作成することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】ガイダンス、卒業論文の作成方法の確認 【第2回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（1） 【第3回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（2） 【第4回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（3） 【第5回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（4） 【第6回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（5）、課題提出 【第7回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（6） 【第8回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（7） 【第9回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（8） 【第10回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（9） 【第11回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（10） 【第12回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（11） 【第13回】研究テーマの整理・検討、研究資料の収集および内容理解（12）、課題提出、まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60%）、課題および発表（40%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	演習						
実践的な教育内容							
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。						

講義コード	11A1101405	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	卒業論文の作成。卒業論文のテーマに付随する諸問題の把握。								
到達目標	卒業論文の前半を形にする。卒業論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間以上、卒業論文の準備作業・作成作業に充てること。								
授業計画	【第1回】 自己紹介・卒論テーマ発表・卒論の展望を発表。質疑応答。キーワードを伝達。 【第2回】 辞典等を用いてキーワードを発表・解説。質疑応答。 【第3回】 辞典等を用いてキーワードを発表・解説。質疑応答。 【第4回】 ガイドブックの具体的な使い方の説明。 【第5回】 資料の取り扱い方の説明。 【第6回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第7回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第8回】 参考文献の発表・解説。質疑応答。 【第9回】 目次の作成方法の説明。→目次作成・添削。 【第10回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第11回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第12回】 1章を作成・発表。質疑応答。 【第13回】 レポート提出（卒業論文の一部）。まとめ。								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、その都度、紹介します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール／卒業論文								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101406	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	ゼミナール3							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での研究法を身につけて実践することを目的とする。								
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する研究法を実践することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 研究の実践（1） 【第2回】 研究の実践（2） 【第3回】 研究の実践（3） 【第4回】 研究の実践（4） 【第5回】 研究の実践（5） 【第6回】 研究の実践（6） 【第7回】 研究の実践（7） 【第8回】 研究の実践（8） 【第9回】 研究の実践（9） 【第10回】 研究の実践（10） 【第11回】 安中・三輪・本間ゼミ合同研究発表会 【第12回】 研究の実践（11） 【第13回】 研究の実践（12）								
成績評価の方法	発表（30%）、授業への取り組み姿勢（70%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A2101504	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール3				袁 輪 顕 量		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	仏教の伝えた修行について、その最初期の資料である入息出息念経を読み、基本的な修行について理解できるようにする。パリー文の経論の翻訳を用いて、輪読をしながら進め、仏教の瞑想の内実を理解する。								
到達目標	仏教の瞑想の具体的な方法とその目指すところを、自分の言葉で説明できるようにする。また、仏教の瞑想がほかの瞑想とどう異なるのかを理解できるようにする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の時間等で参考書を示すので、それに目を通すこと。この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】概観 【第2回】入息出息念経の解説 【第3回】漢訳との関係 【第4回】輪読 第1段 【第5回】輪読 第1段 【第6回】輪読 第2段 【第7回】輪読 第2段 【第8回】輪読 第3段 【第9回】輪読 第3段 【第10回】輪読 第4段 【第11回】輪読 第4段 【第12回】輪読 第5段 【第13回】輪読 第5段 								
成績評価の方法	授業の中での発表、および授業への貢献で判断する。								
フィードバックの内容	購読した箇所を振り返り、その意味する内容を再度確認するようにすること。次の授業の初めに前回の振り返りを行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	パリー語で書かれた経典の現代語訳を用いますので、原典が読める必要はありません。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。								
アクティブラーニングの内容	意見共有を大事なものとします、また実際の体験を推奨しますので、リトリートなどがありましたら、参加してください。								
実践的な教育内容	教員は瞑想の指導の経験を有しています。								
その他	耳学問も大事ですので、欠席はなるべくないように。また卒業論文に関わる指導も、授業の後半に30分を費やして行います。								

講義コード	11A1101601	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ゼミナール4				安中 尚史		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	日本仏教の展開について、深く理解することをねらいとします。								
到達目標	受講生各自が設定したテーマに基づいた研究を行い、最終報告書の完成を目標とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各自が収集した学術論文や史料（資料）をもとに考察し、その結果を踏まえて論究して下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】日本仏教史研究に関する考察と論究（1） 【第2回】日本仏教史研究に関する考察と論究（2） 【第3回】日本仏教史研究に関する考察と論究（3） 【第4回】日本仏教史研究に関する考察と論究（4） 【第5回】日本仏教史研究に関する考察と論究（5） および課題提出 【第6回】日本仏教史研究に関する考察と論究（6） 【第7回】日本仏教史研究に関する考察と論究（7） 【第8回】日本仏教史研究に関する考察と論究（8） 【第9回】日本仏教史研究に関する考察と論究（9） および課題提出 【第10回】日本仏教史研究に関する考察と論究（10） 【第11回】日本仏教史研究に関する考察と論究（11） 【第12回】日本仏教史研究に関する考察と論究（12） 【第13回】まとめ 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（最終報告書等）50%で評価します。								
フィードバックの内容									
教科書	特にありません								
指定図書	授業中に紹介します								
参考書	授業中に紹介します								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組むことを望みます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101703	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 裕久	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4				戸田 裕久			第2期	
履修前提条件	備考								
授業の目的	仏教とヒンドゥー教系諸派とを思想的交渉を経て共に発展したものと捉え、それらの文献学的研究および世界の諸宗教との比較研究により、仏教の独自性を再認識することを目的とする。本年度は仏教と他宗教の諸文献における神話的記述を比較する。仏教経典等の聖典をはじめ叙事詩・説話・伝記・歴史書・論書等における神話・伝説・靈異譚を調査し、世界観・人間観・死生観等を比較し相互の影響関係等を考察する。								
到達目標	仏教とヒンドゥー教の思想的一致点・相違点を理解することができる。文献学的研究方法を知り自ら実践することができる。比較思想の研究方法および注意点を知らずの研究に役立てることができる。各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文を作成することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	演習用資料をあらかじめ読んで内容を把握した上で、各自の見解や疑問点を書き留めておき、演習における発言や質問に備えること。また、各人が研究題目を設定して自主的に個人研究を推進し、卒業論文作成の準備を進めること。これらを各回平均4時間、計60時間行うのが望ましい。								
授業計画	【第1回】 受講生の個別研究の中間発表（1） 【第2回】 受講生の個別研究の中間発表（2） 【第3回】 受講生の個別研究の中間発表（3） 【第4回】 受講生の個別研究の中間発表（4） 【第5回】 大乘仏教・密教における諸菩薩・尊格 【第6回】 ヴィシュヌ教の神話 【第7回】 シヴァ教の神話				【第8回】 指導教員の研究発表（1） 【第9回】 指導教員の研究発表（2） 【第10回】 受講生の個別研究の成果発表（1） 【第11回】 受講生の個別研究の成果発表（2） 【第12回】 受講生の個別研究の成果発表（3） 【第13回】 受講生の個別研究の成果発表（4）				
成績評価の方法	個人研究の口頭発表（20％）と発表資料（20％）、研究報告書（30％）、平常点（30％）。								
フィードバックの内容	研究報告書（レポート）に対する講評を授業内において行う。学期末に提出されたレポートについては必要に応じてEメールにて講評を行う。								
教科書	適宜、資料を配布します								
指定図書									
参考書	『仏教・インド思想辞典』早島鏡正監修、高崎直道編集代表（春秋社）1987年、『仏典解題事典〈第三版〉』斎藤明他編集（春秋社）2020年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修（佼成出版社）1989年、『宗教学辞典』小口偉一・堀一郎編（東京大学出版会）1973年、『ヒンドゥー神話の神々』立川武蔵著（せりか書房）2008年								
教員からのお知らせ	4年生は各自、卒業論文作成に向けて研究を推進してください。第2期からは本格的に論文執筆に取り組み、随時、個人指導を受けていただきます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科で定めているオフィスアワーのほか、随時、教員研究室にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、意見共有、ディスカッション、プレゼンテーション、卒業論文								
実践的な教育内容									
その他	必ず出席すること。遅刻しないこと。就職活動等でやむを得ず欠席する場合には事前または事後に報告すること。4年生は各自の卒業論文の完成に向けて研究に精励してください。								

講義コード	11A1101604	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第2期				
科目名	ゼミナール4				三輪 是法			第2期					
履修前提条件	備考												
授業の目的	このゼミナールは日蓮仏教を含めた日本仏教を研究対象とする。自ら設定した研究テーマを、復眼的に研究考察する。												
到達目標	発表、レポート作成のための補助的作業力（資料の調査や読解、文章作成など）を身につけ、理解認識した内容を正確にプレゼンテーションできる。日蓮教学を含めた仏教思想を現代社会に応用できる。論文を執筆するための論理的考察力を身につけ、2万字以上の論文を執筆できる。												
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	設定した研究テーマに関して事前学修を2時間以上、事後学修も2時間以上おこない、発表準備に備える。授業外学修時間は合計60時間以上を要する。												
授業計画	【第1回】 オリエンテーション～研究テーマの検討・設定 【第2回】 研究テーマに関する論文作成1 【第3回】 研究テーマに関する論文作成2 【第4回】 研究テーマに関する論文作成3 【第5回】 研究テーマに関する論文作成4 【第6回】 研究テーマに関する論文作成5 【第7回】 研究テーマに関する論文作成6 【第8回】 研究テーマに関する論文作成7 【第9回】 研究テーマに関する論文作成8 【第10回】 研究テーマに関する論文作成9 【第11回】 研究テーマに関する論文作成10 【第12回】 論文に関するレポート作成1 【第13回】 論文に関するレポート作成2												
成績評価の方法	中間発表レポートが50％、最終課題レポート50％で評価する。												
フィードバックの内容	各回の講読を踏まえて、難解な内容や重要な事項についての疑問点を解決する。												
教科書													
指定図書													
参考書													
教員からのお知らせ	仏教は知識だけではありません。実存的実践を伴います。仏教者の言葉を客観的に読解しつつ、現代社会の問題に関連づける試行錯誤をおこなってください。												
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。												
アクティブラーニングの内容	作成した資料に基づくプレゼンテーション、演習／ゼミナール												
実践的な教育内容													
その他													

講義コード	11A1101602	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	寺尾 英智	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本ゼミナールは、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、研究を進める上での基本的知識と研究法を身につけ実践することを目的とする。								
到達目標	日本仏教史および日蓮教団史の研究に関する基本的な事項と研究法について、説明し実践することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	研究論文・著書・歴史資料などを講読し、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 研究の方法と実践 (1) 【第2回】 研究の方法と実践 (2) 【第3回】 研究の方法と実践 (3) 【第4回】 研究実践についての発表 (1) 【第5回】 研究実践についての発表 (2) 【第6回】 研究の方法と実践 (4) 【第7回】 研究の方法と実践 (5) 【第8回】 研究の方法と実践 (6) 【第9回】 研究の方法と実践 (7) 【第10回】 研究の方法と実践 (8) 【第11回】 研究の方法と実践 (9) 【第12回】 研究実践についての発表 (3) 【第13回】 研究実践についての発表 (4)								
成績評価の方法	発表・レポート・課題提出 (50%)、授業への取り組み姿勢 (50%) を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	レポート・課題に対する講評は授業内で行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』立正大学仏教学部宗学科編 (立正大学仏教学部)								
指定図書	『日蓮教団の成立と展開』シリーズ日蓮3 (春秋社) 2015年								
参考書	『日蓮信仰の歴史を探る』寺尾英智 (山喜房佛書林) 2016年								
教員からのお知らせ	卒業論文の指導を希望する諸君は、必ず受講すること。								
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2101702	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	当ゼミは“漢字文化圏における宗教文化史研究”をテーマとして開講します。授業では、論文とはどういうものか、その作成のためには何をしなければならないのか、それを実践的に学んでいきます。すなわち実際に研究論文を講読することにより論文のあり方を理解し、また〈論ずるための根拠〉である原典資料を講読してその読解力を錬成し、さらに研究発表と意見交換を通じて各自の研究総合力・表現力を育成することを目的とします。								
到達目標	各自の研究課題に関し、先行研究の成果や原典資料を適切に用いて、客観的合理的論証を導き出せる。その要点を捉えて口頭発表 (プレゼンテーション) としてまとめることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	原典資料講読に関しては、授業の前後に各自で読みこみ、不明な部分は丁寧に調べてくること。研究発表に関しては、内容の熟慮・整理、聴講者用配付資料の用意等、準備を十分に行い、発表後には、指摘された問題点の解決に向け、具体的にに取り組むこと。この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 論文作成のポイント (1) 【第2回】 ゼミ生による研究発表と意見交換 (1) 【第3回】 同 (2) 【第4回】 同 (3) 【第5回】 同 (4) 【第6回】 論文作成のポイント (2) 【第7回】 原典資料・論文講読 (1) 【第8回】 同 (2) 【第9回】 同 (3) 【第10回】 ゼミ生による研究発表と意見交換 (5) 【第11回】 同 (6) 【第12回】 同 (7) 【第13回】 総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢45%、研究文献目録・研究計画書作成15%、研究発表40% (研究発表必須)								
フィードバックの内容	研究文献目録・研究計画書、研究発表といった課題に対する講評は、提出・発表時に随時行います。								
教科書	『漢籍はおもしろい』京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター 編 (研文出版) 2008年								
指定図書	ゼミ1指定図書を参照								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書を購入しておくこと。授業で指定した漢和辞典を持参すること。講読用論文・資料はプリント配布します。OpenLMSでも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール (アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと)、にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、演習/ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他	卒業に関わる指示事項や各種書類の提出等、重要な連絡をする場合があるので、授業には必ず出席のこと。								

講義コード	11A2101701	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第2期																												
科目名	ゼミナール4																																				
履修前条件					備考																																
授業の目的	「制作」を志す学生は、現在に残された作品と、造形行為をとおして対峙し、自分自身の感触と過去の事実を立体的に交差させる。「論文」の学生で美術を対象とする場合は、各作品の造形様式の展開と変遷を辿りながらその必然性と意味を探る。「文化財」という観点で研究する場合は、理念と実際の関係を理解しつつ適正な在り方を見極める。																																				
到達目標	「制作」の場合には、自分のテーマを決定するための基礎資料収集、テーマを煮詰め、制作材料の決定、その後に制作作業に入り、対象に近づける。「論文」の場合には、過去の学術成果を確認する中で自分自身の問題意識を培い、それを自らの考察に反映させる。																																				
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義ではテキストは使用しない。それぞれのテーマに関連する関心のある作品について、事前に調査することが望ましい(15時間)。 自分が興味をもった文化や作品について、実際に観る。そして随時レポートとして提出する(15時間)。 自分の制作活動あるいは論文資料の検証と執筆作業(30時間)。																																				
授業計画	<年間を通して卒業論文(制作)に向けての制作指導を行う> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center;">《制作組》</td> <td style="text-align:center;">《論文組》</td> </tr> <tr> <td>【第1回】 造形研究・技法研究・制作指導</td> <td>論文執筆指導</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第9回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第10回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 台座設計・制作</td> <td>論文執筆指導</td> </tr> <tr> <td>【第12回】</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>【第13回】</td> <td>〃</td> </tr> </table>									《制作組》	《論文組》	【第1回】 造形研究・技法研究・制作指導	論文執筆指導	【第2回】	〃	【第3回】	〃	【第4回】	〃	【第5回】	〃	【第6回】	〃	【第7回】	〃	【第8回】	〃	【第9回】	〃	【第10回】	〃	【第11回】 台座設計・制作	論文執筆指導	【第12回】	〃	【第13回】	〃
《制作組》	《論文組》																																				
【第1回】 造形研究・技法研究・制作指導	論文執筆指導																																				
【第2回】	〃																																				
【第3回】	〃																																				
【第4回】	〃																																				
【第5回】	〃																																				
【第6回】	〃																																				
【第7回】	〃																																				
【第8回】	〃																																				
【第9回】	〃																																				
【第10回】	〃																																				
【第11回】 台座設計・制作	論文執筆指導																																				
【第12回】	〃																																				
【第13回】	〃																																				
成績評価の方法	論文ならびに制作に対する姿勢50%・授業内レポート50%																																				
フィードバックの内容	課題に対する講評を次回授業内の冒頭で行う。																																				
教科書																																					
指定図書																																					
参考書																																					
教員からのお知らせ	4年時は就職活動等で時間をとられてしまうことが多いので、早めに行進させるためにも毎回出席すること。																																				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談がある場合は、教員にメールを送って尋ねてください。																																				
アクティブラーニングの内容	立体資料を適宜用いて、学生自身の目と手で文化を実感する機会を設ける。演習/ゼミナール																																				
実践的な教育内容	仏像制作および文化財修復の実務経験を活かし、建築物・絵画・彫刻表現の前提となる技術や精神、当時の人々の想いなどを伝えて、学生の理解を深める。																																				
その他																																					

講義コード	11A1101605	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	卒業論文の作成。卒業論文のテーマに付随する諸問題の把握。								
到達目標	卒業論文を完成させる。卒業論文の概要を、問題点ごとに他者に話して聞かせることができるようになる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	毎授業、予習・復習あわせて4時間以上を割り、計60時間、卒業論文の準備作業に充てること。								
授業計画	<p>【第1回】卒業論文の進め方の確認。ゼミナール（三）の伝達ポイントの再確認。</p> <p>【第2回】テーマに相応する講義。</p> <p>【第3回】テーマに相応する講義。</p> <p>【第4回】1章を作成・発表。質疑応答。</p> <p>【第5回】1章を作成・発表。質疑応答。</p> <p>【第6回】1章を作成・発表。質疑応答。</p> <p>【第7回】テーマに相応する講義。</p> <p>【第8回】テーマに相応する講義。</p> <p>【第9回】2章を作成・発表。質疑応答。</p> <p>【第10回】2章を作成・発表。質疑応答。</p> <p>【第11回】2章を作成・発表。質疑応答。</p> <p>【第12回】2章を作成・発表。質疑応答。</p> <p>【第13回】まとめ。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、レポート70%。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	指定図書・参考書は、適宜、授業中に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習／ゼミナール／卒業論文								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1101606	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	ゼミナール4								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、中世・近世における日本仏教および日蓮教団の歴史的展開に関する理解を深め、日本仏教史研究を進める上での研究法を身につけて実践することを目的とする。								
到達目標	日本仏教史研究および日蓮教団史研究に関する研究法を実践することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	研究論文・著書、歴史資料の講読など、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】研究の実践（1）</p> <p>【第2回】研究の実践（2）</p> <p>【第3回】研究の実践（3）</p> <p>【第4回】研究の実践（4）</p> <p>【第5回】研究の実践（5）</p> <p>【第6回】研究の実践（6）</p> <p>【第7回】研究の実践（7）</p> <p>【第8回】研究の実践（8）</p> <p>【第9回】研究の実践（9）</p> <p>【第10回】研究の実践（10）</p> <p>【第11回】受講生による最終報告</p> <p>【第12回】総合演習（1）</p> <p>【第13回】総合演習（2）</p>								
成績評価の方法	発表（30%）、授業への取り組み姿勢（70%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題・発表に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック 第12版』立正大学仏教学部宗学科編（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ゼミナール								
実践的な教育内容									
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A2101704	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール4				袁 輪 顕 量		第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	東アジア世界に伝わった仏教の瞑想を『坐禅三昧経』の記述をもとに考察することを目指す。仏教の瞑想は念処に始まり止観に分かれるが、その意味するところを理解できるようになることを目指す。また中国において瞑想がどのように伝播したのか、理解できるようにする。						
到達目標	仏教の瞑想が東アジア世界にどのように紹介され、受容されていったのか、自分の言葉で説明できるようになる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	参考書を授業中にも示すので、それに目を通してください。また漢文を読みますので、事前に担当を決めますので、予習をして発表に臨んでください。この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 坐禅三昧経の成立の背景 【第2回】 坐禅三昧経が東アジア世界に与えた影響 【第3回】 輪読 身念止 【第4回】 輪読 身念止 【第5回】 輪読 受念止 【第6回】 輪読 受念止 【第7回】 輪読 心念止 【第8回】 輪読 心念止 【第9回】 輪読 法念止 【第10回】 輪読 法念止 【第11回】 輪読 法念止 【第12回】 輪読 念止の展開 【第13回】 輪読 念止の展開						
成績評価の方法	授業の中で担当した時の発表、授業への貢献度で採点する。						
フィードバックの内容	毎回冒頭に前回の復習をすることでフィードバックとする。						
教科書							
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	卒論の執筆に向けた支援もしますので、休まないように出席してください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。						
アクティブラーニングの内容	意見共有も大事なことで、他人の発表をよく聞けるよう工夫をいたします。						
実践的な教育内容	本人は瞑想の指導経験を有するので、時折実践を交えて、勧めます。						
その他	卒論に対する注意点や連絡などをゼミを通じて行いますので、休まないようにすること。						

講義コード	11A1111011	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	ゼミナール基礎A				戸田 教 敏		第2期
履修前提条件	備考						
授業の目的	本授業は、主に宗学科（法華仏教コース、日本宗教・文化コース）に進むことを目指す学生を対象に、3年次必修科目「ゼミナール」および4年次必修科目「卒業論文」に向けて必要な力を身につけることを目的とする。演習やグループ発表等を通じて、研究の進め方や論文の書き方、研究テーマの絞り方などを学修する。						
到達目標	発表資料および研究論文を作成するための基礎的技能を習得し、自身の取り組むべき研究テーマを明確にする。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文章作成の基礎と実践（1） 【第3回】 文章作成の基礎と実践（2） 【第4回】 文章作成の基礎と実践（3） 【第5回】 文章作成の基礎と実践（4） 【第6回】 文章作成の基礎と実践（5） 【第7回】 文章作成の基礎と実践（6） 【第8回】 研究テーマの見つけ方（1） 【第9回】 研究テーマの見つけ方（2） 【第10回】 研究テーマの見つけ方（3） 【第11回】 研究テーマの見つけ方（4） 【第12回】 研究テーマの見つけ方（5） 【第13回】 まとめ						
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、中間・期末の提出課題（50%）を基準として総合的に評価する。						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。						
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』（立正大学仏教学部）2021年、『仏教学部生のための研究ガイドブック』（立正大学仏教学部）2022年						
指定図書							
参考書							
教員からのお知らせ	必要な資料等は授業時に配布します。ゼミナールと卒業論文につながる重要な授業となりますので、各自意欲的に課題に取り組んでください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。						
アクティブラーニングの内容	ゼミナール、プレゼンテーション、グループディスカッション、意見共有						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A1111012	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	中井 本勝	開講期	第2期
科目名	ゼミナール基礎B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	ゼミナール（卒業論文の執筆）に向けて、自主的に学修する力を身につけることを目的とする。そのために、研究資料の作成に必要な基礎的技能を習得するとともに、発表演習によって研究発表について学修する。また、興味のある研究テーマに関する先行研究を調査および検討し、問題意識を深めていくことで各々のテーマ・問いについての絞り込みを行う。								
到達目標	研究資料を作成するための基礎的技能を習得し、研究発表に習熟し、研究テーマを絞り込むことを目標とする。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス、卒論作成のための基礎的技能の説明および研究発表演習（1）</p> <p>【第2回】卒論作成のための基礎的技能の説明および研究発表演習（2）</p> <p>【第3回】卒論作成のための基礎的技能の説明および研究発表演習（3）</p> <p>【第4回】卒論作成のための基礎的技能の説明および研究発表演習（4）</p> <p>【第5回】卒論作成のための基礎的技能の説明および研究発表演習（5）</p> <p>【第6回】卒論作成のための基礎的技能の説明および研究発表演習（6）</p> <p>【第7回】卒論作成のための基礎的技能の説明および研究発表演習（7）</p> <p>【第8回】研究テーマに関する先行研究の調査および検討（1）</p> <p>【第9回】研究テーマに関する先行研究の調査および検討（2）</p> <p>【第10回】研究テーマに関する先行研究の調査および検討（3）</p> <p>【第11回】研究テーマに関する先行研究の調査および検討（4）</p> <p>【第12回】研究テーマに関する先行研究の調査および検討（5）</p> <p>【第13回】研究テーマに関する先行研究の調査および検討（6）、まとめ</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60%）、授業内発表および提出物（40%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	適宜、配布する。								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	本授業は、卒業論文を作成するための基礎を学ぶ重要な授業となりますので、各自意欲的に課題に取り組んでください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2117500	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	庄司 史生	開講期	第1期
科目名	チベット語入門								
履修前提条件					備考				
授業の目的	この授業では、チベット語訳仏典を読解するための文法について講義する。古典チベット語資料読解のための基礎力を養うことを目的とする。なお、この授業では現代チベット語会話はとりあげない。								
到達目標	辞書を引き、文法書をたよりとして、チベット語訳仏典を読解するための基礎力を身につけることができる。また仏典の読解を通して仏教の基本的な用語の意味を理解し、他者に説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本講義の受講にあたっては、不明な点については、辞書などであらかじめ調べておくこと。講義後は復習を重ね不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】チベット語の文字とその綴字法①：基字と母音の結合</p> <p>【第2回】チベット語の文字とその綴字法②：子音の結合（添足字）</p> <p>【第3回】チベット語の文字とその綴字法③：子音の結合（冠字）</p> <p>【第4回】チベット語の文字とその綴字法④：子音の結合（前接字）</p> <p>【第5回】チベット語の文字とその綴字法⑤：子音の結合（後接字）</p> <p>【第6回】チベット語の文字とその綴字法⑥：子音の結合（再後接字）とその他の記号</p> <p>【第7回】名詞の格</p> <p>【第8回】助詞</p> <p>【第9回】代名詞</p> <p>【第10回】数詞・名詞・形容詞</p> <p>【第11回】副詞・動詞①</p> <p>【第12回】動詞②</p> <p>【第13回】まとめ</p>								
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%+毎回の課題30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価する。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行う。								
教科書	『チベット語初等文法（新訂版）』高橋尚夫〔ほか〕（大正大学出版会）2021								
指定図書									
参考書	『チベット文法入門』池田澄達著、中村元補訂（山喜房佛書林）1960、『概説チベット語文法』山口瑞鳳（春秋社）2002、『古典チベット語文法：『王統明鏡史』（14世紀）に基づいて』星泉（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）2016								
教員からのお知らせ	事前にサンスクリット語初級の内容を理解しておくこと、また特殊な言語を習得するための授業のため、受講に際しては積極的な姿勢が望まれます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0106200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期
科目名	中国仏教史概論／中国仏教史 1				手島 一真			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	<p>仏教発祥地のインドとは異なる、漢字文化圏である中国において仏教が展開していく様子について講説し、とくに教学・思想のピークといわれる唐代までを重点的に扱います。内容としては、中国の政治や社会の歴史の変遷とともに展開した仏教の諸相を理解することを目的とします。</p>								
到達目標	<p>本科目を学ぶ上での主要項目は、各授業回のタイトルに示したとおりです。これらに関わる諸事項を適切に説明できること。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>教科書を事前に読んでおくことは勿論ですが、下記の指定図書の記載を参考に、何らかの中国史概説書、インド以来の仏教学・仏教史の入門書・概説書を授業の予習・復習として読み、奥行きのある理解を心がけてください。 この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。</p>								
授業計画	<p>【第1回】中国の地勢と歴史の概観 【第2回】仏教の中国初伝の事情：『後漢書』と『三国志』の記述と後漢期の仏教 【第3回】西晋時代：竺法護と訳経／五胡十六国・東晋時代（1）：仏図澄、道安～仏教勢力の拡大 【第4回】五胡十六国・東晋時代（2）：鳩摩羅什と中観系仏教～三論宗・天台宗へ 【第5回】五胡十六国・東晋時代（3）：廬山慧遠、仏駄跋陀羅、法顕 【第6回】南北朝時代（1）：南朝：梁の武帝と三大法師～成実宗・俱舍宗 【第7回】南北朝時代（2）：北朝：北魏太武帝による廃仏政策／付、道教 【第8回】南北朝時代（3）：北魏の菩提流支・勒那摩提と唯識系仏教～地論宗（華嚴宗）へ 【第9回】隋唐時代（1）：北朝末～隋：北周武帝の廃仏と隋文帝の仏教復興～末法思想 【第10回】隋唐時代（2）：唐：法相・華嚴 【第11回】隋唐時代（3）：唐：禅・浄土教・真言／付、最澄・空海 【第12回】仏教芸術の発達 【第13回】総括／漢訳仏典の梗概：大蔵経の構成について</p>								
成績評価の方法	<p>学期末試験60%、授業への取組み姿勢40%</p>								
フィードバックの内容	<p>授業時に随時口頭で行います。</p>								
教科書	<p>『仏教史概説 中国篇』野上俊成ほか（平楽寺書店）1968年</p>								
指定図書	<p>『新アジア仏教史（全15巻）』沖本克己ほか（佼成出版社）2010年～、『新中国仏教史』鎌田茂雄（大東出版社）2001年、『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年、『世界の歴史（全30巻。とくに第2巻、第6巻）』尾形勇・礪波護ほか（中央公論社）1996～99年、『中国の歴史（全12巻。とくに第6巻まで）』礪波護ほか（講談社）2004～05年、『古代中国』貝塚茂樹・伊藤道治（講談社学術文庫）2000年、『魏晋南北朝』川勝義雄（講談社学術文庫）2003年、『隋唐帝国』布目潮風、栗原益男（講談社学術文庫）1997年、『仏教入門』三枝充恵（岩波新書）1990年</p>								
参考書	<p>『仏教の思想（全12巻）』塚本善隆ほか（角川文庫ソフィア）1996～97年、『アジア仏教史 中国編（全5巻）』中村元ほか（佼成出版社）1974～76年、『中国仏教史（全6巻）』鎌田茂雄（東京大学出版会）1982～99年、『中国仏教要史』布施浩岳（山喜房佛書林）1970年、『中国通史』堀敏一（講談社学術文庫）2000年</p>								
教員からのお知らせ	<p>OpenLMSでも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。</p>								
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール（アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと）、にて受け付けます。</p>								
アクティブラーニングの内容	<p>意見共有、能動的な授業外学習など</p>								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0117800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	中井 本勝	開講期	第2期
科目名	中国仏教思想概論				中井 本勝		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	インド発祥の仏教は、中国に伝わったことで独自の展開を見せることになる。本講義では、仏教伝来以降、中国において生み出されたさまざまな教学について思想的特徴に着目しながら説明を行い、中国仏教諸思想の特徴を理解することを目的とする。								
到達目標	中国仏教諸思想の展開および特徴を理解し、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 授業の概要説明、中国仏教史概観（1） 【第2回】 中国仏教史概観（2） 【第3回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（1） 【第4回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（2） 【第5回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（3） 【第6回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（4） 【第7回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（5） 【第8回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（6） 【第9回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（7） 【第10回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（8） 【第11回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（9） 【第12回】 中国仏教各宗の成立と展開および思想的特徴（10） 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60%）、学期末試験あるいは学期末レポート（40%）により総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	適宜、配布する。								
指定図書	『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年、『新中国仏教史』鎌田茂雄（大東出版社）2001年								
参考書	『新アジア仏教史06 中国Ⅰ 南北朝』沖本克己編（佼成出版社）2010年、『新アジア仏教史07 中国Ⅱ 隋唐』沖本克己編（佼成出版社）2010年、『新アジア仏教史08 中国Ⅲ 宋元明清』沖本克己編（佼成出版社）2010年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0109000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期
科目名	中国文化概論／東洋文化史Ⅰ				手島 一真			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、東アジア漢字文化圏の歴史上の中心である中国において生成した宗教的思潮の展開を探ることを目的とします。内容としては、中国学（歴史、文化）に取り組むための方法を紹介することから始め、古代中国に成立した「儒教」について、「礼」を媒介とする古代の国家・社会との関係、精神文化的特徴と展開、貴族制時代における展開とその後、について講説します。								
到達目標	「礼」を媒介とした、儒教と古代の国家・社会との関係について説明できる。 儒教思想の構造的特徴について説明できる。 儒教発展の要因としての讖緯思想について説明できる。 魏晉・隋唐・宋の時代における儒教史の特徴について説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	手島担当科目「中国仏教史概論／中国仏教史Ⅰ」の指定図書の記事も参考に、中国史の概説書を、太古の時代から唐代あたりまで、事前に読んでおいてください。また授業後には、下記指定図書・参考書などを用いて、学的関心を広げてください。なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 導入－中国史と時代区分 【第2回】 中国学研究入門－地勢、歴史、歴史書 【第3回】 中国学研究入門－中国の神話（およびその歴史との関係） 【第4回】 中国学研究入門－書物の分類と「経書」 【第5回】 儒教の成立－礼と儒教 【第6回】 儒教の成立－儒教国家の成立 【第7回】 儒教の成立－礼の経書 【第8回】 特論：儒教思想の構造 【第9回】 特論：讖緯思想 【第10回】 儒教の拡がり－貴族制の時代 【第11回】 儒教の拡がり－周孔の教え 【第12回】 儒教の拡がり－東アジア世界の中で 【第13回】 総括								
成績評価の方法	学期末試験60%、授業への取り組み姿勢40%								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行います。								
教科書	『東アジアの儒教と礼』小島毅（山川出版社）2004年								
指定図書	『中国の宗教』アドラー（春秋社）2005年、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）1990年、『宗教から見る中国古代史』渡邊義浩（ナツメ社）2007年、『儒教と中国：「二千年の正統思想」の起源』渡邊義浩（講談社選書メチエ）2010年、『五経入門』野間文史（研文出版）2014年								
参考書	『中国思想史』武内義雄（岩波全書）1957年、『儒教史』戸川芳郎ほか（山川出版社／世界宗教史叢書）1987年、『講座道教（全6巻）』野口鐵郎ほか（雄山閣出版）1999～2001年、『シリーズ道教の世界（全5巻）』田中文雄ほか（春秋社）2002～03年、『中国の思想』村山吉廣（社会思想社／現代教養文庫）1972年、『アジア歴史事典（全10巻）』貝塚茂樹ほか（平凡社）1984年（再刊）、『道教事典』野口鐵郎ほか（平河出版社）1994年、『「道教」の大事典』坂出祥伸ほか（新人物往来社）1994年								
教員からのお知らせ	OpenLMSでも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール（アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと）、にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	14Z0100105	授業形態	講義	抽選の有無	なし	担当教員	高部 勲	開講期	第1期集中
科目名	データサイエンス入門(仏教・経済・経営・法)				高部 勲		第1期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	近年、めざましい成果を上げている数理・データサイエンス・AIの入門として、社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向、利活用の際の留意事項について学ぶ。また、様々なデータの種類とそれらを活用するための数理・データサイエンス・AIの方法について学ぶとともに、実際のデータを活用した分析方法についても演習を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で起きている様々な変化と数理・データサイエンス・AIの利活用の動向、利活用の際の留意事項を結び付けて理解し、説明することができる。 ・様々なデータの種類や利活用方法について理解する。 ・数理・データサイエンス・AIに用いられている分析手法の特徴・概要について理解し、説明することができる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義内容の復習を中心に、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】社会で起きている変化とデータ・AIの利活用の最新動向 (Society 5.0, データ駆動型社会, AIリテラシー等)</p> <p>【第2回】社会で活用されているデータ (データの種類、構造化・非構造化データ, ビッグデータ等)</p> <p>【第3回】データ・AIの活用領域と利活用の現場 (データ・AIの活用領域の広がり, 流通・製造・金融等の現場におけるデータ・AIの活用事例, 公的統計・企業データを用いた課題解決・データ分析等)</p> <p>【第4回】数学・統計の基礎 (ベクトル・行列・微分積分の基礎, 確率分布, 推測統計等)</p> <p>【第5回】データの読み方・説明の仕方・扱い方 (記述統計・データ解析, データの分布, 代表値, データ表現, データの比較, データの集計, データの可視化・加工等)</p> <p>【第6回】機械学習の基礎 (教師あり学習・教師なし学習・強化学習, モデルの評価等)</p> <p>【第7回】教師あり学習: 分類 (判別分析, ロジスティック回帰, 決定木, 集団学習, 線形回帰モデル, 変数選択, 高次元回帰等)</p> <p>【第8回】教師なし学習 (クラスタリング, 高次元データの次元削減等)</p> <p>【第9回】ニューラルネットワークと深層学習</p> <p>【第10回】画像データの解析 (画像認識と深層学習, 畳み込みニューラルネットワーク等)</p> <p>【第11回】時系列データの解析 (移動平均, 自己相関, 状態空間モデル, 音声データ等)</p> <p>【第12回】テキストデータの解析 (テキスト情報の可視化, 自然言語処理等)</p> <p>【第13回】データ・AI利活用における留意事項 (ELSI, GDPR, AI倫理, 情報セキュリティとプライバシー, 個人情報の保護)</p>								
成績評価の方法	授業中の小テスト (60%) 及び授業への取組姿勢 (40%) により成績を評価する。								
フィードバックの内容	課題等の採点結果は各回の授業時にフィードバックするので、必ず確認し成績評価の参考にすること。								
教科書	授業時に資料を配布する。								
指定図書	各回の授業時に紹介する。								
参考書	『ディープラーニング G (ジェネラリスト) 検定公式テキスト』 浅川伸一ほか (翔泳社) 2018, 『ディープラーニング活用の教科書』 日経クロストrend編 (日経 BP 社) 2018, 『人工知能は人間を超えるのか』 松尾豊 (KADOKAWA) 2015, 『AI白書2023』 独立行政法人情報処理推進機構 AI白書編集委員会 (KADOKAWA) 2023								
教員からのお知らせ	授業には積極的に参加すること。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は学部学科に定めるオフィスアワーにて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有								
実践的な教育内容	・総務省統計局統計データ利活用センターのセンター長などを歴任した教員が、その経験を活かしてデータサイエンスにかかわる講義を行う。								
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関・企業等との協定に基づき提供された実際のデータを活用した当該組織の課題解決に資するデータ分析についても学ぶ。 ・独立行政法人統計センターが提供する「SSDSE (教育用標準データセット)」, 数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムが提供する e-ラーニング教材などのオープンな教材を一部活用して講義動画を作成している。 								

講義コード	11B5120401	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	飯盛 元章	開講期	第1期
科目名	哲学とは何かA				飯盛 元章			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	この授業では、カンタン・メイヤスの「偶然性」概念を元に講師が構想中である「破壊の形而上学」について講義をおこなう。あらゆるものは、たまたま現にあるあり様で存在しているのであり、とつじょ破壊的に変容してしまうかもしれない。この可能性を率直に捉えて「破壊」についての思弁を展開する試みが、破壊の形而上学である。関連する哲学理論についても紹介しつつ、生成変化、劇的な新しさをめぐって哲学的に考えていく。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱われた哲学理論について、自分の言葉で整理して理解できるようになること。 ・授業で扱われた哲学理論に対して、自分の主張を説得的に展開できるようになること。 								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業内で紹介する資料を読み込み、自分の言葉で整理し、理解を深める（計60時間）								
授業計画	<p>【第1回】 導入——破壊の形而上学・プロローグ</p> <p>【第2回】 破壊とはなにか 1——常態性、破壊性、破壊</p> <p>【第3回】 破壊とはなにか 2——ブラック・スワンとしての破壊、〈後〉をめぐる学としての破壊の形而上学</p> <p>【第4回】 破壊とはなにか 3——破壊の四象限</p> <p>【第5回】 破壊と実存 1——國分功一郎による退屈論</p> <p>【第6回】 破壊と実存 2——トリスタン・ガルシアによる退屈論、破壊は退屈を引き裂く</p> <p>【第7回】 地の破壊（理由的・現象的破壊） 1 ——生に新鮮さをもたらすものとしての〈地の破壊〉、L・A・ポールの「変容的な決断」</p> <p>【第8回】 地の破壊（理由的・現象的破壊） 2 ——トーマス・クーンの「パラダイム・シフト」、〈地の破壊〉とは一般化されたパラダイム・シフトである</p> <p>【第9回】 火の破壊（理由的・実在的破壊）——災害系〈火の破壊〉と変革系〈火の破壊〉</p> <p>【第10回】 非理由的破壊・再考——デイヴィッド・ヒュームの因果性批判、カンタン・メイヤスの「絶対的偶然性」</p> <p>【第11回】 水の破壊（非理由的・現象的破壊）——内面的な理由なきホラーとしての〈水の破壊〉</p> <p>【第12回】 風の破壊（非理由的・実在的破壊）——神なき奇跡、怪異なき怪奇現象としての〈風の破壊〉</p> <p>【第13回】 総括</p>								
成績評価の方法	レポート 100% レポートでは、「到達目標」で掲げた2点について到達度を確認する。								
フィードバックの内容	毎回、授業内でコメント投稿システム（Google フォーム、Twitch）をもちいて、コメントや質問を投稿してもらおう。つぎの回の冒頭に、それらに対して講師が応答する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『暗黒の形而上学——触れられない世界の哲学』飯盛元章（青土社）2024、『リアリティの哲学』寺本剛 編著（中央大学出版部）2023								
教員からのお知らせ	授業内容に関心があり、積極的に参加する意思のある学生の履修を歓迎します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11B5120402	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	長倉 誠一	開講期	第1期
科目名	哲学とは何かB				長倉 誠一		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	古代ギリシアに誕生した「哲学」とはどのようなものか、その本質をヨーロッパの哲学をもとにして示すこと。これが授業の目的。ヨーロッパにおいて「哲学」は、個々の学問ならびに文化と一体のものであったし、それらを統合するものであった。こうした本来の「哲学」を紹介するのが授業の目的である。								
到達目標	古代ギリシアに誕生し、ヨーロッパ文化の土台であり続けている「哲学」について、その本当の内容を知ること。とくに個々の「学問」との関係を理解すること。これが目標である。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定図書に挙げた『反哲学史』などを自分で読んでみることに45時間。授業の要約（1200字程度）を、何回か宿題としますが、これは15時間以上必要です。合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 哲学の出発点哲学者と知識人の違い（ソクラテスの問いの意味） 【第2回】 ギリシアの数学と哲学（タレスやプラトン）の関係 【第3回】 アリストテレスによる哲学と学問分類 【第4回】 近代自然科学の物質概念と近代哲学 【第5回】 アダム・スミスなどの近代社会科学と哲学 【第6回】 19世紀ドイツの歴史哲学 【第7回】 実証主義と学問論争（ヴンデルバントなど） 【第8回】 ニヒリズムとの対決（ニーチェなど） 【第9回】 道具的理性批判（ホルクハイマーなどフランクフルト学派） 【第10回】 ウィトゲンシュタインの知覚論とハンソンの観察の理論的負荷性 【第11回】 クーンやダントその他反進歩史観 【第12回】 生物学と哲学（スペンサーやマックスやシュレーラー） 1 【第13回】 生物学と哲学（ロータッカーやニコライ・ハルトマン） 2 								
成績評価の方法	課題の「レポート」提出（Open LMS 利用）など平常点で50点、まとめの学期末テストで50点の総合評価								
フィードバックの内容	課題のレポートを確認し、必要な場合は、それについて応答する。								
教科書	プリント配布								
指定図書	『反哲学史』 木田元（講談社学術文庫）2000 2、『子どものためのカント』長倉誠一訳（未知谷）2008 3、『哲学の原点－ドイツからの提言』長倉誠一訳（未知谷）1999 7、『現代の古典カント』長倉誠一訳（未知谷）2023.11.								
参考書									
教員からのお知らせ	講義中教室内への勝手な出入りは厳禁とする。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	授業内容を文章としてまとめ、レポートとして提出することを数回求める。								
実践的な教育内容									
その他	平常点の割合が高いので、レポート未提出の場合にはかなりマイナスになります。								

講義コード	11A0104200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第1期
科目名	天台学概論 1				田村 亘禰		第1期		
履修前条件					備考				
授業の目的	天台大師智顛（てんだいだいしちぎ）は、仏教思想史の中で、『法華経』を中心に一切経（すべての経典）をまとめた最初の師と言える。この天台大師の説いた仏教総論とも言うべき五時八教判を中心に学んでいきたい。本講義では、むずかしい用語をなるべくやさしく解説し、ともどもに仏教哲理の世界へ歩を進めて行きたい。								
到達目標	天台教学の概略を説明できる。五時八教判の概略を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習・復習あわせて60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 天台大師の生涯と思想 1 【第2回】 天台大師の生涯と思想 2 【第3回】 五時判 1 【第4回】 五時判 2 【第5回】 化儀の四教 1 【第6回】 化儀の四教 2 【第7回】 化法の四教 1 【第8回】 化法の四教 2 【第9回】 三種教相 1 【第10回】 三種教相 2 【第11回】 十境十乘観法 1 【第12回】 十境十乘観法 2 【第13回】 一念三千 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40%、課題（レポート等）60%で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心に毎回フィードバックを行う。								
教科書									
指定図書	『天台四教儀新釈』稲葉田成（法蔵館）1953年、『現代語訳 天台四教儀』池田魯参（山喜房佛書林）2011年、『天台四教儀談義』三友健容（大法輪閣）2016年、『天台学概論』福田堯穎（中山書房佛書林）1954年、『天台仏教の教え』多田孝文監修（大正大学出版会）2012年								
参考書	『天台学』安藤俊雄（平楽寺書店）1968年、『天台学論集』安藤俊雄（平楽寺書店）1975年								
教員からのお知らせ	テキストは特に定めない。適宜教場で指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスはポータルサイトのキャビネット内にあり）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0104300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	天台学概論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	天台大師智顛（てんだいだいしちぎ）は、仏教思想史の中で、『法華経』を中心にして一切経（すべての経典）をまとめた最初の師と言える。この天台大師の説いた仏教総論の書、『法華玄義』を中心に学んでいきたい。本講義では、むずかしい用語をなるべくやさしく解説し、ともに仏教哲理の世界へ歩を進めて行きたい。								
到達目標	『法華玄義』の内容を概略説明できる。三種教相、三法妙、待絶二妙、迹門十妙、本門十妙、本因本果、諸法実相、蓮華因果、十重顕本等の専門用語の説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	予習・復習あわせて60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】法華玄義の思想1 【第3回】法華玄義の思想2 【第4回】法華玄義の思想3 【第5回】法華玄義の思想4 【第6回】法華玄義の思想5 【第7回】法華玄義の思想6 【第8回】法華玄義の思想7 【第9回】法華文句の思想1 【第10回】法華文句の思想2 【第11回】摩訶止観の思想1 【第12回】摩訶止観の思想2 【第13回】おわりに								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40%、課題（レポート等）60%で評価する。								
フィードバックの内容	小テストを中心にフィードバックをおこなう。								
教科書									
指定図書	『現代語訳法華玄義（上）』菅野博史（公益財団法人東洋哲学研究所）2018年、『現代語訳法華玄義（下）』菅野博史（公益財団法人東洋哲学研究所）2019年								
参考書	『天台学』安藤俊雄（平楽寺書店）1968年、『天台学論集』安藤俊雄（平楽寺書店）1975年								
教員からのお知らせ	テキストは特に定めない。適宜教場で指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスはポータルサイトのキャビネット内にあり）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									
講義コード	11A0111500	授業形態	講義・実習	抽選の有無	-	担当教員	高島 一郎	開講期	第1期
科目名	伝統文化研究1／芸術研究5								
履修前条件					備考				
授業の目的	日本の伝統音楽である「邦楽」は、変化していく歴史と共にその時々時代と密接に関わりながら現代まで脈々と歩み続けてきている。この授業では、私達日本人の心と体に深く刻みこまれてきた「邦楽」全般に対し、箏（琴・こと）を主軸としてアプローチすることで、日本の伝統音楽や伝統文化に関する基礎知識の付与を目的とする。								
到達目標	日本の音楽や芸能の変遷を、歴史と関連づけて理解することが出来る。 日本の様々な伝統楽器について理解することが出来る。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で扱う項目について、インターネット等で予習・復習を行うこととし、単元ごとに課すレポート作成と合わせ、授業外に計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】邦楽の基礎 箏（こと）とは 【第2回】雅楽と邦楽 【第3回】三味線音楽その1 【第4回】三味線音楽その2 【第5回】生田流と山田流 【第6回】明治期の邦楽界 【第7回】宮城道雄の功績その1 【第8回】宮城道雄の功績その2 【第9回】十七絃箏誕生からその後へ 【第10回】尺八音楽の世界 【第11回】沖縄（うちなー）音楽 【第12回】箏を弾こう！（さくらさくらを題材として） 【第13回】邦楽コンサート鑑賞（DVD）								
成績評価の方法	レポート15回（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）等による総合評価。								
フィードバックの内容	ポータルサイト内にて対応する。								
教科書	毎授業時に資料を配布								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	分かりやすい説明と動画で日本の歴史と音楽との深い繋がりに興味を持ってもらえる授業を目指します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲でポータルサイト内にて対応します								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0109500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	久保 真紀子	開講期	第2期
科目名	東南アジア文化概論／アジア文化史2				久保 真紀子			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	文化的、宗教的に多様な東南アジア世界について、古代王朝の展開や周辺諸地域との関係を軸に学ぶ。								
到達目標	東南アジア諸地域に成立した諸王朝の歴史を捉え、各地の文化や宗教思想における固有性を理解する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書および指定図書に基づき講義を行うので、それらの書籍を使って各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 東南アジア史の曙 【第2回】 インド文明の伝来と国家の形成 【第3回】 古代「海のシルクロード」 【第4回】 東南アジア群島部における国家の発展 【第5回】 東南アジア古典世界の栄華に向けて－13世紀までのインドシナ半島 【第6回】 中国船の来航と東南アジア群島部 【第7回】 歴史の大転換－13世紀以降のインドシナ半島世界 【第8回】 イスラーム国家の形成 【第9回】 東南アジア群島部の「商業の時代」 【第10回】 東南アジア群島部における「商業の時代」から「開発の時代」へ 【第11回】 インドシナ伝統社会の変貌－近代への胎動 【第12回】 東南アジアの経済発展と政治 【第13回】 総括								
成績評価の方法	期末試験（40%）、および授業への取り組み姿勢（60%）により評価する。								
フィードバックの内容	毎回の授業の最後に、その回の内容を振り返る課題に取り組んでもらい、次回授業冒頭でフィードバックを行う。								
教科書	『世界の歴史13 東南アジアの伝統と発展』石澤良昭・生田滋（中央公論社（中公文庫））2009								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	講義は教科書の内容をまとめたパワーポイントのスライドを中心に進め、毎回の授業時に教室で資料を配布する。教科書は各自で必ず購入すること。毎回の授業時には、事前に教科書の該当箇所を熟読した上で受講してほしい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはシラバスに記載されたオフィスアワーに受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
その他									

講義コード	11A0102800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	日蓮聖人伝1				本間 俊文			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	鎌倉時代中期に活躍した日蓮聖人（1222-1282）は、釈尊が説かれた仏教経典の中でも『法華経』の教えを根本に据え、法華経信仰によって世の人々を救う道を開いた。本授業では、法華経弘通に邁進した日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から究明することを目的とし、最新の研究成果を踏まえつつその生涯を概観する。								
到達目標	史実と伝承の違いを踏まえて、日蓮聖人の生涯に関する基本的事項が体系的に説明できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 日蓮聖人が生きた時代 【第2回】 誕生と出自 【第3回】 清澄登山・出家 【第4回】 鎌倉・京畿遊学 【第5回】 立教開宗 【第6回】 鎌倉布教 【第7回】 災害の続出と上奏の準備 【第8回】 『立正安国論』の上奏 【第9回】 松葉谷法難 【第10回】 伊豆法難 【第11回】 安房帰省 【第12回】 小松原法難 【第13回】 蒙古国書到来と『立正安国論』の再検証								
成績評価の方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『増補改訂 日蓮－その行動と思想』高木豊（太田出版）2002年								
指定図書	『日蓮 その生涯と思想』久保田正文（講談社）1967年、『講座日蓮2 日蓮の生涯と思想』田村芳朗・宮崎英修編（春秋社）1972年、『法華経の行者日蓮』姉崎正治（講談社）1983年、『日蓮聖人－その生涯と教え－』日蓮宗新聞社編（日蓮宗新聞社）1991年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮』中尾堯（吉川弘文館）2001年、『シリーズ日蓮2 日蓮の思想とその展開』小松邦彰・花野充道編（春秋社）2014年、『日蓮聖人の歩みと教え（鎌倉期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2016年、『日蓮聖人の歩みと教え（佐渡期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2016年、『日蓮聖人の歩みと教え（身延期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2018年								
参考書	『日蓮聖人伝十講』山川智広（新潮社）1921年、『日蓮聖人正伝』鈴木一成編（平楽寺書店）1977年、『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2000年改訂増補第三刷、『目からウロコの 日蓮と日蓮宗』小松邦彰監修（学習研究社）2006年、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編（東京堂出版）2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	教員からのフィードバックによる振り返り 現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から解説し理解させる。								
その他	第2期開講の「日蓮聖人伝2」と合わせて受講することを希望します。								

講義コード	11A0102900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期														
科目名	日蓮聖人伝2					本間 俊文		第2期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	鎌倉時代中期に活躍した日蓮聖人（1222-1282）は、釈尊が説かれた仏教経典の中でも『法華経』の教えを根本に据え、法華経信仰によって世の人々を救う道を開いた。本授業では、法華経弘通に邁進した日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から究明することを目的とし、最新の研究成果を踏まえつつその生涯を概観する																						
到達目標	史実と伝承の違いを踏まえて、日蓮聖人の生涯に関する基本的事項が体系的に説明できる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 良観房忍性との対決</td> <td>【第8回】 蒙古襲来（元寇）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 龍口法難</td> <td>【第9回】 身延での生活（1）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 依智から寺泊へ</td> <td>【第10回】 身延での生活（2）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 佐渡流罪（1）</td> <td>【第11回】 身延での生活（3）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 佐渡流罪（2）</td> <td>【第12回】 熱原法難</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 佐渡流罪（3）</td> <td>【第13回】 身延下山と入滅</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 身延入山</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 良観房忍性との対決	【第8回】 蒙古襲来（元寇）	【第2回】 龍口法難	【第9回】 身延での生活（1）	【第3回】 依智から寺泊へ	【第10回】 身延での生活（2）	【第4回】 佐渡流罪（1）	【第11回】 身延での生活（3）	【第5回】 佐渡流罪（2）	【第12回】 熱原法難	【第6回】 佐渡流罪（3）	【第13回】 身延下山と入滅	【第7回】 身延入山	
【第1回】 良観房忍性との対決	【第8回】 蒙古襲来（元寇）																						
【第2回】 龍口法難	【第9回】 身延での生活（1）																						
【第3回】 依智から寺泊へ	【第10回】 身延での生活（2）																						
【第4回】 佐渡流罪（1）	【第11回】 身延での生活（3）																						
【第5回】 佐渡流罪（2）	【第12回】 熱原法難																						
【第6回】 佐渡流罪（3）	【第13回】 身延下山と入滅																						
【第7回】 身延入山																							
成績評価の方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。																						
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。																						
教科書	『増補改訂 日蓮－その行動と思想』高木豊（太田出版）2002年																						
指定図書	『日蓮 その生涯と思想』久保田正文（講談社）1967年、『講座日蓮2 日蓮の生涯と思想』田村芳朗・宮崎英修編（春秋社）1972年、『法華経の行者日蓮』姉崎正治（講談社）1983年、『日蓮聖人－その生涯と教え－』日蓮宗新聞社編（日蓮宗新聞社）1991年、『日蓮とその弟子 増補版』宮崎英修（平楽寺書店）1997年、『日蓮』中尾堯（吉川弘文館）2001年、『シリーズ日蓮2 日蓮の思想とその展開』小松邦彰・花野充道編（春秋社）2014年、『日蓮聖人の歩みと教え（鎌倉期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2016年、『日蓮聖人の歩みと教え（佐渡期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2016年、『日蓮聖人の歩みと教え（身延期）』高橋俊隆（山喜房佛書林）2018年																						
参考書	『日蓮聖人伝十講』山川智広（新潮社）1921年、『日蓮聖人正伝』鈴木一成編著（平楽寺書店）1977年、『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2000年改訂増補第三刷、『目からウロコの 日蓮と日蓮宗』小松邦彰監修（学習研究社）2006年、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編（東京堂出版）2013年																						
教員からのお知らせ																							
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。																						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り																						
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の生涯を思想と行動の両面から解説し理解させる。																						
その他	第1期開講の「日蓮聖人伝1」と合わせて受講することを希望します。																						

講義コード	11A0100251	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	石井 公一	開講期	第1期													
科目名	日本語表現基礎A					石井 公一		第1期														
履修前提条件						備考																
授業の目的	この授業の目的は、論理的な文章をわかりやすく表現できるようにすることです。自分の意見を筋道を立てて組み立て、相手に適切にわかりやすく伝えられるようにすることです。そのために表現・文体・構成などに注意しながら文章表現ができること、また口頭で適切な発表ができることが目的です。																					
到達目標	多くの論理的な文章に触れることにより、論理的な文章の組み立て方や構成を自ら学ぶことが重要です。そのためには文章を何回も書くことを重ねながら推敲を行い、適切な文章表現にしていくことが目標です。また資料やデータを読み解き、相手に正確に伝わる文章表現に仕上げられるようにすることがもう一つの目標です。																					
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で扱った文章に対する感想や意見を次の授業までにまとめて発表できるようにしておくこと。授業で発表した仲間の意見に対しての感想や意見を次の授業に発表できるように準備・用意をしておくこと。これは毎時間の授業後に求められます。13時間の講座数ですので12回必要となります。この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。																					
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 授業の目的・概要</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 文章表現上のルール・原則</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 わかりやすい文章とは・論理的な文章の構成について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 論理的な文章を読んで、意見発表を行う。また仲間の意見に対しての感想を述べる。①</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 論理的な文章を読んで、意見発表を行う。また仲間の意見に対しての感想を述べる。②</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 論理的な文章構成に仕上げるための研究①</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 論理的な文章構成に仕上げるための研究②</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 資料やデータを読み解く方法を学ぶ。①</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 資料やデータを読み解く方法を学ぶ。②</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 文章要約の方法を学ぶ。①</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 文章要約の方法を学ぶ。②</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 わかりやすくて的確な文章表現を書くための方法を学ぶ。①</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 わかりやすくて的確な文章表現を書くための方法を学ぶ。②</td> </tr> </table>									【第1回】 授業の目的・概要	【第2回】 文章表現上のルール・原則	【第3回】 わかりやすい文章とは・論理的な文章の構成について学ぶ	【第4回】 論理的な文章を読んで、意見発表を行う。また仲間の意見に対しての感想を述べる。①	【第5回】 論理的な文章を読んで、意見発表を行う。また仲間の意見に対しての感想を述べる。②	【第6回】 論理的な文章構成に仕上げるための研究①	【第7回】 論理的な文章構成に仕上げるための研究②	【第8回】 資料やデータを読み解く方法を学ぶ。①	【第9回】 資料やデータを読み解く方法を学ぶ。②	【第10回】 文章要約の方法を学ぶ。①	【第11回】 文章要約の方法を学ぶ。②	【第12回】 わかりやすくて的確な文章表現を書くための方法を学ぶ。①	【第13回】 わかりやすくて的確な文章表現を書くための方法を学ぶ。②
【第1回】 授業の目的・概要																						
【第2回】 文章表現上のルール・原則																						
【第3回】 わかりやすい文章とは・論理的な文章の構成について学ぶ																						
【第4回】 論理的な文章を読んで、意見発表を行う。また仲間の意見に対しての感想を述べる。①																						
【第5回】 論理的な文章を読んで、意見発表を行う。また仲間の意見に対しての感想を述べる。②																						
【第6回】 論理的な文章構成に仕上げるための研究①																						
【第7回】 論理的な文章構成に仕上げるための研究②																						
【第8回】 資料やデータを読み解く方法を学ぶ。①																						
【第9回】 資料やデータを読み解く方法を学ぶ。②																						
【第10回】 文章要約の方法を学ぶ。①																						
【第11回】 文章要約の方法を学ぶ。②																						
【第12回】 わかりやすくて的確な文章表現を書くための方法を学ぶ。①																						
【第13回】 わかりやすくて的確な文章表現を書くための方法を学ぶ。②																						
成績評価の方法	①授業への取り組み姿勢（40%） ②毎回の課題提出を行うこと（40%） ③授業への積極的な取り組みと活発な意見交換ができること（20%）																					
フィードバックの内容	毎回提出された課題を添削し、返却する。																					
教科書																						
指定図書																						
参考書																						
教員からのお知らせ																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																					
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など																					
実践的な教育内容																						
その他																						

講義コード	11A0100253	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	小此木 敏明	開講期	第1期
科目名	日本語表現基礎C							小此木 敏明	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来、卒業論文を書く際に困らないよう、論理的な文章を書けるようにする。論文などを書く上での約束ごとや、適切な表現などについて解説する。								
到達目標	表現・文体・構成などに注意しつつ、論理的な文章を組み立てることができる。論文にふさわしくない表現をさけつつ、分かりやすい文章を書くことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業時間内に終わらなかった課題に取り組む。また、自分で書いた文章を見直し、どうしたらより分かりやすくなるかを考えること。								
授業計画	【第1回】 授業の概要、原稿用紙のルール、各種記号の使い方 【第2回】 文体について、校正記号について 【第3回】 一文を分かりやすく書く① 【第4回】 一文を分かりやすく書く② 【第5回】 接続関係に注意する① 【第6回】 接続表現に注意する② 【第7回】 段落と構成① 【第8回】 段落と構成② 【第9回】 引用のルールと表現① 【第10回】 引用のルールと表現②、出典の示し方 【第11回】 要約文を書く際の注意点① 【第12回】 要約文を書く際の注意点② 【第13回】 全体のまとめ								
成績評価の方法	レポート（40％）、授業への取り組み姿勢と提出課題（60％）								
フィードバックの内容	提出課題に対する講評・解説を授業の初めに行う。								
教科書	プリントを配布する								
指定図書	授業中に指示する								
参考書	授業中に指示する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0100252	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	小此木 敏明	開講期	第1期
科目名	日本語表現基礎B							小此木 敏明	第1期
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来、卒業論文を書く際に困らないよう、論理的な文章を書けるようにする。論文などを書く上での約束ごとや、適切な表現などについて解説する。								
到達目標	表現・文体・構成などに注意しつつ、論理的な文章を組み立てることができる。論文にふさわしくない表現をさけつつ、分かりやすい文章を書くことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。授業時間内に終わらなかった課題に取り組む。また、自分で書いた文章を見直し、どうしたらより分かりやすくなるかを考えること。								
授業計画	【第1回】 授業の概要、原稿用紙のルール、各種記号の使い方 【第2回】 文体について、校正記号について 【第3回】 一文を分かりやすく書く① 【第4回】 一文を分かりやすく書く② 【第5回】 接続関係に注意する① 【第6回】 接続表現に注意する② 【第7回】 段落と構成① 【第8回】 段落と構成② 【第9回】 引用のルールと表現① 【第10回】 引用のルールと表現②、出典の示し方 【第11回】 要約文を書く際の注意点① 【第12回】 要約文を書く際の注意点② 【第13回】 全体のまとめ								
成績評価の方法	レポート（40％）、授業への取り組み姿勢と提出課題（60％）								
フィードバックの内容	提出課題に対する講評・解説を授業の初めに行う。								
教科書	プリントを配布する								
指定図書	授業中に指示する								
参考書	授業中に指示する								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1114600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	日本社会と宗教／社会と宗教1				小高 絢子		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	宗教がどのような形でわれわれの生活に関わってくるかは、その時々時代・社会状況によって大きく異なっている。本講義では、現代社会において宗教がどのような場面でわれわれの日常に関わっているかについて、諸宗教の動向と注目すべき宗教現象から学ぶことで、グローバル化・多様化する日本において多くの人々の価値観を理解し、共生していくための手立てとしての宗教学の基本的知識や主体的な思考力の獲得を目指す。								
到達目標	1. 現代の諸宗教に関する基礎知識（歴史・特徴・宗教状況）を得る。 2. 現代の日本社会において宗教と関わる領域で注目されるテーマや宗教現象について、その概要を説明できる。 3. その背景にある社会状況や、多様な価値観を理解したうえで、自身の考えを述べることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、1週あたり計4時間（全体として計60時間）以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、1. 毎授業内容の予習と復習、2. 授業内で指示する課題の提出を行うこと。適宜、シラバスや授業内で紹介する参考書等を参照しつつ学修を進めることが望ましい。								
授業計画	<p>本講義では、第2回目～第5回目にかけて諸宗教の基本的知識（歴史・特徴・宗教状況）を確認する。さらに第7回目～第12回目ではそれらの宗教と社会との関わりにおいて注目すべきテーマや宗教現象について取り上げる。第6回目・第13回目に確認テストを実施する。</p> <p>【第1回】ガイダンスとイントロダクション：授業の目的・内容・成績評価についての説明、イントロダクション（現代日本の宗教状況・現代日本人の宗教意識）</p> <p>【第2回】日本と世界の諸宗教：仏教・神道・儒教・道教</p> <p>【第3回】日本と世界の諸宗教：キリスト教・ユダヤ教</p> <p>【第4回】日本と世界の諸宗教：イスラーム・ヒンドゥー教</p> <p>【第5回】日本と世界の諸宗教：新宗教</p> <p>【第6回】確認テスト</p> <p>【第7回】宗教とスピリチュアリティ：スピリチュアルブーム・パワースポット</p> <p>【第8回】宗教とジェンダー：女性観・女人禁制</p> <p>【第9回】宗教と移民：オールドカマーとニューカマー・国外布教</p> <p>【第10回】宗教と社会貢献：震災復興・ケア</p> <p>【第11回】宗教と政治：政教分離・ファンダメンタリズム</p> <p>【第12回】宗教とカルト問題：宗教的コミュニケーション・マインドコントロール</p> <p>【第13回】確認テスト</p> <p>なお、以上に示した講義内容は、受講生の人数や関心、理解度に合わせて変更を行う場合がある。</p>								
成績評価の方法	評価方法：確認テスト（25%×2回=50%）、授業への取り組み姿勢（50%）。 評価基準：確認テストでは諸宗教の基本的知識や重要テーマへの理解度で評価する（到達目標1.2に対応）。また、授業への取り組み姿勢については、授業外学修で示す課題の提出状況と理解度、授業内でのディスカッションやアンケートへの参加、授業内容へのコメントなどを通して総合的に評価する（到達目標3.に対応）。								
フィードバックの内容	アンケートやコメントへのフィードバックは必要に応じて授業内で行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『宗教社会学を学ぶ人のために』井上順孝編（世界思想社）2016年、『よくわかる宗教学』櫻井義秀・平藤喜久子編（ミネルヴァ書房）2015年、『よくわかる宗教社会学』櫻井義秀・三木英編（ミネルヴァ書房）2007年、『宗教学入門』棚次正和・山中弘編（ミネルヴァ書房）2005年、『世界は宗教とこうしてつきあっている』山中弘・藤原聖子編（弘文堂）2013年								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は講義終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応する。また、メールでも受け付ける（アドレスは授業内で指示）。								
アクティブラーニングの内容	本講義は、以下のアクティブ・ラーニングを含む。 意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、調査学習、ロールプレイング／シミュレーション								
実践的な教育内容									
その他									

な

講義コード	11A0100600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	安中尚史・本間俊文・三輪是法	開講期	第2期
科目名	日本宗教・文化研究入門／日本仏教研究入門								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、3年次進級時の所属コース決定に向けて、日本宗教・文化コース（日本仏教コース）の学びの柱となる「日本宗教と文化」・「日本宗教の歴史」・「日本宗教の思想」の3つの研究領域の内容とその研究法について学修することを目的とする。								
到達目標	日本の宗教と文化を研究するための基礎知識を身につけ、その研究法について説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業計画と参考図書等を参照し、日本宗教の歴史・思想、それに基づく日本文化について事前に調べた上で授業に臨むこと。なお、授業外学修は60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】「日本宗教・文化」研究の概要 【第2回】日本文化史研究入門（1） 【第3回】日本文化史研究入門（2） 【第4回】日本文化史研究入門（3） 【第5回】日本文化史研究入門（4） 【第6回】日本宗教史研究入門（1） 【第7回】日本宗教史研究入門（2） 【第8回】日本宗教史研究入門（3） 【第9回】日本宗教史研究入門（4） 【第10回】日本宗教思想研究入門（1） 【第11回】日本宗教思想研究入門（2） 【第12回】日本宗教思想研究入門（3） 【第13回】日本宗教思想研究入門（4） 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、課題（レポート等）50%で総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	(なし)								
指定図書	『仏教史研究ハンドブック』 佛教史学会編（法蔵館）2017年、『日本宗教史』 末木文美士（岩波書店）2006年								
参考書	『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』 末木文美士（新潮社）1992年、『日本文化史ハンドブック』 阿部猛・西垣晴次編（東京堂出版）2002年、『読みなおす日本史 日本の宗教』 村上重良（吉川弘文館）2020年								
教員からのお知らせ	配布資料に基づいて授業を行います。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0104900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三輪 是法	開講期	第1期
科目名	日本宗教概論／日本仏教思想概論								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本には神道や儒教、仏教やキリスト教など、複数の宗教思想が混在している。そうした日本宗教のさまざまな様相を時代ごとに押さえ、神道と仏教との関係の変遷や、仏教とキリスト教、仏教と儒教との対立などについて、思想的視点に基づいて概説していく。								
到達目標	日本仏教思想を中心に、神道・儒教・キリスト教などとの比較を通して、日本の宗教思想について理解する。延いては、日本人の宗教観について認識を深める。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 イントロダクション～日本の宗教とは？ 【第2回】 南都六宗の思想 【第3回】 平安仏教の思想①天台宗 【第4回】 平安仏教の思想②真言宗 【第5回】 鎌倉仏教の思想①浄土宗と臨済宗 【第6回】 鎌倉仏教の思想②浄土真宗と曹洞宗 【第7回】 鎌倉仏教の思想③時宗と法華宗 【第8回】 中世から近世へー 仏教と神道 【第9回】 近世における日本宗教の諸相①仏教・儒教・神道・キリスト教 【第10回】 近世における日本宗教の諸相②仏教・儒教・神道・キリスト教 【第11回】 近世における日本宗教の諸相③仏教・儒教・神道・キリスト教 【第12回】 近代における日本宗教の諸相①近代仏教 【第13回】 近代における日本宗教の諸相②新興宗教～総括 								
成績評価の方法	事前学修に基づく授業態度30パーセント、期末試験70パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『日本宗教史』 末木文美士（岩波書店）2006年								
教員からのお知らせ	テキストはありません。資料と皆さんが作成するノートを自分のテキストにしてください。								
オフィスアワー	メールとオンラインで可能な限り対応します。アドレスはポータルサイトの掲示板を確認してください。								
アクティブラーニングの内容	適宜質問を行い、講義を進めていく。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0116400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	日本宗教史								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本には仏教・神道・キリスト教・新宗教など、様々な系統の宗教が数多く存在しており、その活動は社会全体に大きな影響をおよぼしている。本授業では、日本宗教の歩みを、歴史の展開の中で詳しく辿るとともに、日本に広まった主な宗教の成立とその教えについて学んでいく。								
到達目標	日本宗教の歴史的展開や、各時代における日本宗教の特徴について説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】「宗教」「日本宗教」とは 【第2回】日本の原始宗教 【第3回】日本古代の宗教（1） 【第4回】日本古代の宗教（2） 【第5回】日本古代の宗教（3） 【第6回】日本中世の宗教（1） 【第7回】日本中世の宗教（2） 【第8回】日本中世の宗教（3） 【第9回】日本近世の宗教（1） 【第10回】日本近世の宗教（2） 【第11回】日本近世の宗教（3） 【第12回】日本近現代の宗教（1） 【第13回】日本近現代の宗教（2）								
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『読みなおす日本史 日本宗教』村上重良（吉川弘文館）2020年								
指定図書	『日本宗教史』末木文美士（岩波書店）2006年								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書を講読しながら授業を進めますので、教科書を必ず用意してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0105000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	神田 大輝	開講期	第1期
科目名	日本宗教思想特講1 / 日本仏教思想特講1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、法華教学を基盤としつつ、日本で独自に育まれ、高揚された天台本覚思想に注目し、源流的要素と体系的な組織づけがなされるまでの推移を概観する。現実の絶対肯定に特徴づけられる本覚思想は、日本の仏教界のみならず、神道や文芸等、各方面の発展史を考える上で欠かせない思潮である。そして、本覚思想に風靡される時代を背景に、法華教学の真価を発揮し、特有の教義体系を確立されたのが日蓮聖人である。天台本覚思想の特色を捉えることは、日蓮教学、及び門下の継承を学ぶ上で重要であり、そうした比較思想の視点を養うことが本授業の目的である。								
到達目標	日本仏教思想史上における天台本覚思想の特色を説明し、また諸典籍において、本覚思想の立場から特に重視された術語・標語を捉え、指摘できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、予習を行い、調べておくこと。								
授業計画	【第1回】日本天台の時代区分 【第2回】伝教大師最澄の生涯と思想 【第3回】慈覚大師円仁の生涯と思想 【第4回】智証大師円珍の生涯と思想 【第5回】五大院安然の生涯と思想 【第6回】慈恵大師良源とその門下 【第7回】恵心流・檀那流の系譜と口伝法門 【第8回】天台本覚思想の文献と時代区分 【第9回】天台本覚思想の特色（1） 【第10回】天台本覚思想の特色（2） 【第11回】日蓮聖人の思想と天台本覚思想の同異 【第12回】室町期日蓮教団の展開と天台本覚思想（1） 【第13回】室町期日蓮教団の展開と天台本覚思想（2）								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	本授業の課題に対するフィードバックを授業内、またはオンラインにて行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『天台教学と本覚思想』大久保良峻（法蔵館）2022年増訂、『天台教学史』島地大等（隆文館）1986年、『鎌倉新仏教思想の研究』田村芳朗（岩波書店）1965年、『上古日本天台本門思想史』浅井円道（平楽寺書店）1973年、『日本仏教の開展とその基調』裕 慈弘（三省堂出版）1948年、『法華思想史上の日蓮上人』山川智応（新潮社）1933年、『台密教学の研究』大久保良峻（法蔵館）2004年、『天台本覚論』多田厚隆・大久保良順・田村芳朗・浅井円道（岩波書店）1973年、『本覚思想論』田村芳朗（春秋社）1990年								
教員からのお知らせ	各回授業で配付資料を用意するので、教科書等を購入する必要はありません。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後の教室内、もしくは講師宛のメールにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他	本授業に関する質問・相談は、授業前後の教室内、もしくは講師宛のメールにて受付けます。								

講義コード	11A0105100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	日本宗教思想特講2 / 日本仏教思想特講2				久保田 正宏		第2期		
履修前条件					備考				
授業の目的	最澄に始まる日本天台は、中国天台から継承した法華円教の教学に、独自の彩色を施した。日本天台教学の最大の特色は、法華円教と真言密教との一致（融合）、すなわち「円密一致」の思想にある。本講義では、日蓮思想の源流を探るという観点から、主に中国・日本両天台諸師の教学と思想を概観する。そして、諸師と日蓮との思想的な関連性の有無にも触れ、日蓮教学を理解する上での一助とした。								
到達目標	主として中国・日本両天台の教学史の概要を説明し、日蓮思想との関連についても概説することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の内容について、予習と復習を行い、授業外に合計60時間以上の学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 総説－仏教教学史における日蓮思想の源流－ 【第2回】 中国天台の教学（一） 【第3回】 中国天台の教学（二） 【第4回】 伝教大師最澄（一） 【第5回】 伝教大師最澄（二） 【第6回】 空海の密教（東密）と天台密教（台密） 【第7回】 慈覚大師円仁（一）				【第8回】 慈覚大師円仁（二） 【第9回】 智証大師円珍 【第10回】 五大院安然（一） 【第11回】 五大院安然（二） 【第12回】 中古天台本覚思想と鎌倉時代の仏教 【第13回】 総括（授業内評価、期末試験）				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験（50%）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを、翌週の授業内にて行う場合がある。								
教科書									
指定図書	『法華思想史上の日蓮聖人』 山川智広（新潮社。浄妙全集刊行会より再刊）1933年、『法華教学史の研究』 塩田義遜（塩田教授古稀記念出版会。日本図書センターより再刊）1960年、『上古日本天台本門思想史』 浅井円道（平楽寺書店）1973年、『天台本覚論』 多田厚隆・大久保良順・田村芳朗・浅井円道校注（岩波書店）1973年、『台密教学の研究』 大久保良峻（法藏館）2004年								
参考書	『天台教学史』 島地大等（明治書院。中山書房および隆文館より再刊）1929年、『日本仏教の開展とその基調 上・下』 裕慈弘（三省堂。名著普及会より再刊）1948・1953年、『天台学概論』 福田堯顕（文一出版。中山書房より再刊）1954年、『天台大師の研究——智顛の著作に関する基礎的研究——』 佐藤哲英（百華苑）1961年、『台密の研究』 三崎良周（創文社）1988年、『本覚思想論』 田村芳朗（春秋社）1990年、『日本仏教論』 田村芳朗（春秋社）1991年、『天台教学と本覚思想』 大久保良峻（法藏館）1998年、『天台学探尋——日本の文化・思想の核心を探る——』 大久保良峻編著（法藏館）2014年、『日本仏教の展開——文献より読む史実と思想——』 大久保良峻編著（春秋社）2018年								
教員からのお知らせ	教科書（テキスト）はない。各回の授業でプリント・資料等を配布する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0110800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	日本美術史 1				三戸 信恵		第1期
履修前提条件					備考		
授業の目的	日本の美術は、海外からの影響を繰り返し受けながら、消化と洗練の過程を経て、個性豊かな造形世界を創り出してきました。この授業では、縄文時代から平安時代までを対象に、各時代の特色と代表的な作品を紹介していきます。宗教や政治、文学との関わりにも目を配りながら、作品の成り立ちから受容のあり方、視覚的な造形としての特質まで、日本美術の歴史を多角的に学ぶことができるよう促していきます。						
到達目標	日本美術の歴史の流れを説明できる。各時代の造形の特徴と社会的背景を理解できる。美術作品を鑑賞し、分析する力を養うことができる。						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修として、参考図書や授業で紹介した資料（書籍、Webサイト等）の閲覧、および展覧会の見学を行うこととし、宿題、レポート作成とあわせ、合計60時間以上を目安に行ってください。						
授業計画	【第1回】日本美術の特質 【第2回】縄文時代：造形に込めた願いと祈り 【第3回】弥生時代：文物が語る海外との交流 【第4回】古墳時代（1）：埴輪と副葬品 【第5回】古墳時代（2）：装飾古墳の世界 【第6回】飛鳥時代：仏教美術の開花 【第7回】奈良時代（1）：仏教の発展と造形			【第8回】奈良時代（2）：正倉院宝物 【第9回】平安時代（1）：密教美術を中心に 【第10回】平安時代（2）：和様化の諸相 【第11回】平安時代（3）：院政期の美術 【第12回】平安時代（4）：平安四大絵巻 【第13回】確認			
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢および宿題（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（60%）により総合評価します。レポートでは、自分なりの問題意識と結びつけ、自分で考えた自分の意見を記述できているかをみます。期末試験では、到達目標に記載した事項について、講義内容をもとに、自分の言葉で説明し、筋道をたてて文章化できているかをみて評価します。						
フィードバックの内容	リアクションペーパーや宿題に対するフィードバックを翌週以降の授業内で実施し、問題点や課題が見つかった場合は、都度補足説明を行います。						
教科書 指定図書							
参考書	『日本美術全集』前川誠郎他編（講談社）1990-1993、『日本美術全集』辻惟雄・泉武夫・山下裕二・板倉聖哲編（小学館）2012-16、『日本美術館』（講談社）1997、『美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史』（美術出版社）2014、『日本美術の歴史 補訂版』辻惟雄（東京大学出版会）2021						
教員からのお知らせ	普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に関心を持ち、会場に足を運んで、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で、教室内にて受け付けます。						
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習						
その他	レポートの作成、期末試験の準備に生成 AI を使用しないこと。以下の条件に当てはまる場合、生成 AI を使用した不正行為と判断される可能性がありますのでご注意ください。 ・説明の筋立てが生成 AI で作成した文章の構成と近似する。 ・存在しない展覧会や作品、歴史事象についての記述が含まれる。 ・試験解答の大部分が授業の内容と関係がない。						

講義コード	11A0110900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	三戸 信恵	開講期	第2期
科目名	日本美術史2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日本の美術は、海外からの影響を繰り返し受けながら、消化と洗練の過程を経て、個性豊かな造形世界を創り出してきました。この授業では、鎌倉時代から近代までを対象に、各時代の特色と代表的な作品を紹介していきます。宗教や政治、文学との関わりにも目を配りながら、作品の成り立ちから受容のあり方、視覚的な造形としての特質まで、日本美術の歴史を多角的に学ぶことができるよう促していきます。								
到達目標	日本美術の歴史の流れを説明できる。各時代の造形の特徴と社会的背景を理解できる。美術作品を鑑賞し、分析する力を養うことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修として、参考図書や授業で紹介した資料（書籍、Webサイト等）の閲覧、および展覧会の見学を行うこととし、宿題、レポート作成とあわせ、合計60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	【第1回】鎌倉時代：人を象る、神仏を表す 【第2回】南北朝・室町時代：禅宗文化と造形 【第3回】室町時代（1）：東山御物と座敷飾り 【第4回】室町時代（2）：屏風と絵巻 【第5回】桃山時代（1）：天下人の造形 【第6回】桃山時代（2）：南蛮美術と茶の湯の美 【第7回】江戸時代（1）：江戸前期の美術				【第8回】江戸時代（2）：江戸後期の美術 【第9回】江戸時代（3）：近世美術と信仰 【第10回】江戸時代（4）：陶磁器と染織－近世のデザインと技巧 【第11回】明治時代：洋画と日本画の誕生 【第12回】大正～昭和時代：デカダンスとモダニズム 【第13回】まとめ				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢および宿題（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（60%）により総合評価します。レポートでは、自分なりの問題意識と結びつけ、自分で考えた自分の意見を記述できているかをみます。期末試験では、到達目標に記載した事項について、講義内容をもとに、自分の言葉で説明し、筋道をたてて文章化できているかをみて評価します。								
フィードバックの内容	リアクションペーパーや宿題に対するフィードバックを翌週以降の授業内で実施し、問題点や課題が見つかった場合は、都度補足説明を行います。								
教科書 指定図書									
参考書	『日本美術全集』前川誠郎他編（講談社）1990-1993、『日本美術全集』辻惟雄・泉武夫・山下裕二・板倉聖哲編（小学館）2012-16、『日本美術館』（講談社）1997、『美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史』（美術出版社）2014、『日本美術の歴史 補訂版』辻惟雄（東京大学出版会）2021								
教員からのお知らせ	普段から美術館、博物館などで開催される展覧会に関心を持ち、会場に足を運んで、実際の作品世界に触れる機会をできるだけ多く作るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で、教室内にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容 実践的な教育内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
その他	レポートの作成、期末試験の準備に生成 AI を使用しないこと。以下の条件に当てはまる場合、生成 AI を使用した不正行為と判断される可能性がありますのでご注意ください。 ・説明の筋立てが生成 AI で作成した文章の構成と近似する。 ・存在しない展覧会や作品、歴史事象についての記述が含まれる。 ・試験解答の大部分が授業の内容と関係がない。								

講義コード	11A0104400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	安中 尚史	開講期	第1期														
科目名	日本仏教史概論／日本仏教史 1					安中 尚史		第1期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	紀元前6世紀頃にインドで興った仏教は、西域をへて中国に拡大し、その後、朝鮮半島から日本海を渡って日本に到来したのは6世紀のことです。以来、仏教は日本人の思想や行動、文化に多大な影響を及ぼすこととなりました。この授業は、日本に仏教が伝来し、その後、国家的に受け入れられ、定着を果たしてきた過程についての考察を目的とします。																						
到達目標	日本仏教の歴史的な展開について、その基本知識と正しい理解の修得を目標とします。																						
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、各時代の日本仏教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 仏教の日本伝来</td> <td>【第8回】 中世における仏教の展開3</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 古代における仏教の展開1</td> <td>【第9回】 近世における仏教の展開1</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 古代における仏教の展開2</td> <td>【第10回】 近世における仏教の展開2</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 古代における仏教の展開3</td> <td>【第11回】 近世における仏教の展開3</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 古代における仏教の展開4</td> <td>【第12回】 近代・現代における仏教の展開1</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 中世における仏教の展開1</td> <td>【第13回】 近代・現代における仏教の展開2</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 中世における仏教の展開2</td> <td></td> </tr> </table> <p>※対面式で期末試験を実施します。本授業は時間割りの上では、金曜日・5時限に設定していますので、基本的には第1期期末試験期間中の金曜日・5時限に実施します。詳細について授業やポータルサイト等で連絡します。また、受講生の所属する学部・学科によっては、本授業の単位を取得しても卒業に必要な単位とならない場合があるので、履修の際に留意してください。</p>									【第1回】 仏教の日本伝来	【第8回】 中世における仏教の展開3	【第2回】 古代における仏教の展開1	【第9回】 近世における仏教の展開1	【第3回】 古代における仏教の展開2	【第10回】 近世における仏教の展開2	【第4回】 古代における仏教の展開3	【第11回】 近世における仏教の展開3	【第5回】 古代における仏教の展開4	【第12回】 近代・現代における仏教の展開1	【第6回】 中世における仏教の展開1	【第13回】 近代・現代における仏教の展開2	【第7回】 中世における仏教の展開2	
【第1回】 仏教の日本伝来	【第8回】 中世における仏教の展開3																						
【第2回】 古代における仏教の展開1	【第9回】 近世における仏教の展開1																						
【第3回】 古代における仏教の展開2	【第10回】 近世における仏教の展開2																						
【第4回】 古代における仏教の展開3	【第11回】 近世における仏教の展開3																						
【第5回】 古代における仏教の展開4	【第12回】 近代・現代における仏教の展開1																						
【第6回】 中世における仏教の展開1	【第13回】 近代・現代における仏教の展開2																						
【第7回】 中世における仏教の展開2																							
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%（毎回の講義課題<不正に対しては厳正に対応します>）、対面式の期末試験で70%評価します。※対面式で期末試験を実施します。本授業は時間割りの上では、金曜日・5時限に設定していますので、基本的には第1期期末試験期間中の金曜日・5時限に実施します。詳細について授業やポータルサイト等で連絡します。また、受講生の所属する学部・学科によっては、本授業の単位を取得しても卒業に必要な単位とならない場合があるので、履修の際に留意してください。																						
フィードバックの内容	「Open LMS」を通して対応します。																						
教科書	プリントを配布します																						
指定図書																							
参考書	『日本仏教史』 辻善之助（岩波書店）1944～1953、『論集日本仏教史』（雄山閣）1986～1999、『日本仏教史』（吉川弘文館）1986～1998、『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』 末木文美士（新潮社）1992																						
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組んで下さい。 ※受講生の所属する学部・学科によっては、本授業の単位を取得しても卒業に必要な単位とならない場合があるので、履修の際に留意してください。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容																							
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11A1105110	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教思想特講3				三輪 是法		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教思想の中で、日本仏教は独自の教義を形成してきた。それは中国仏教を基底に、日本古来の宗教や思想などと融合し、時代の要請などによって宗派化・専修化・宗教化したものであった。この特講では、近現代の新興宗教発生の契機を理解するために、同時代の日本仏教に関する資料を講読する。								
到達目標	近現代に展開する日本仏教の思想と動向、およびその時代背景を学修し、日本人の宗教信仰の特質について理解する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション～日本仏教の特徴 【第2回】近現代における日本仏教① 【第3回】近現代における日本仏教② 【第4回】日蓮主義概説 【第5回】日蓮主義を読む1 【第6回】日蓮主義を読む2 【第7回】日蓮主義を読む3 【第8回】日蓮主義を読む4 【第9回】日蓮主義を読む5 【第10回】日蓮主義を読む6 【第11回】日蓮主義を読む7 【第12回】日蓮主義を読む8 【第13回】総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容50パーセント、最終課題レポート50パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『近代日本の日蓮主義運動』大谷栄一（法蔵館）2001年、『近代仏教という視座』大谷栄一（ベリかん社）2012年、『日蓮主義とはなんだったのか』大谷栄一（講談社）2019年、『近現代日本の法華運動』西山茂（春秋社）2016年、『近現代日本における日蓮信仰』三輪是法（法蔵館）2024年								
教員からのお知らせ	テキストは随時配布します。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1105120	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教思想特講4				三輪 是法		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教思想の中で、日本仏教は独自の教義を形成してきた。それは中国仏教を基底に、日本古来の宗教や思想などと融合し、時代の要請などによって宗派化・専修化・宗教化したものであった。この授業では、近現代における日本仏教の思想的特徴について理解する。								
到達目標	近現代に展開する日本仏教の思想と動向、およびその時代背景を学修し、日本人の宗教信仰の特質について理解する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料や参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション～近世・近代仏教について－総論 【第2回】近現代仏教に関する文献を読む1 【第3回】近現代仏教に関する文献を読む2 【第4回】近現代仏教に関する文献を読む3 【第5回】近現代仏教に関する文献を読む4 【第6回】近現代仏教に関する文献を読む5 【第7回】近現代仏教に関する文献を読む6 【第8回】近現代仏教に関する文献を読む7 【第9回】近現代仏教に関する文献を読む8 【第10回】近現代仏教に関する文献を読む9 【第11回】近現代仏教に関する文献を読む10 【第12回】近現代仏教に関する文献を読む11 【第13回】総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント、期末課題レポート70パーセントで評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な語句について、対話によって理解を確認する。								
教科書									
指定図書	『近代日本思想体系 全23巻』（岩波書店）1991年								
参考書	『近代仏教という視座』大谷栄一（ベリかん社）2012年、『近代日本と仏教』末木文美士（トランスビュー）2004年、『日本の近代社会と仏教』吉田久一（評論社）1970年、『近現代日本における日蓮信仰』三輪是法（法蔵館）2024年、『大正生命主義と現代』鈴木貞美 編（河出書房新社）1995年								
教員からのお知らせ	テキストは随時配布します。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他はメールで対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0105160	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	日本仏教史特講1 / 日本仏教史特論1				本間 俊文			第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、「日本古代・中世仏教史」研究をテーマに、古代・中世における日本仏教がいかに社会と関わり合いながら展開したのかを概観するとともに、その過程において生じた様々な宗教的・社会的・文化的諸問題や歴史資料を取り上げ、その内容について考察する。								
到達目標	日本古代・中世仏教史に関する基本的な事項について説明ができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について指定図書・参考書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 仏教の伝来と受容 【第2回】 奈良仏教の展開 【第3回】 日本仏教の歴史資料①② ※オンライン授業で実施 【第4回】 平安仏教の展開（1） 【第5回】 平安仏教の展開（2）、日本古代史と仏教史料 【第6回】 日本仏教の歴史資料③④ ※オンライン授業で実施 【第7回】 古代仏教とその周辺 【第8回】 中世国家と仏教 【第9回】 中世の仏教思想、中世の信仰世界（1） 【第10回】 中世の信仰世界（2） 【第11回】 曼荼羅本尊 【第12回】 日本仏教の歴史資料⑤⑥ ※オンライン授業で実施 【第13回】 中世の仏教文化 								
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『仏教史研究ハンドブック』 佛教史学会編（法蔵館）2017年								
指定図書	『日本仏教史 古代』 速水 侑（吉川弘文館）1986年、『事典 日本の仏教』 養輪顕量編（吉川弘文館）2014年、『日本仏教史』 養輪顕量（春秋社）2015年、『仏教事典』 日本佛教学会編（丸善出版）2021年、『日本仏教史 中世』 大隅和雄・中尾堯編（吉川弘文館）1998年								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書を講読しながら授業を進めますので、教科書を必ず用意してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0105170	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	安中 尚史	開講期	第2期
科目名	日本仏教史特講2 / 日本仏教史特論2 / 日本仏教史特講1				安中 尚史			第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	紀元前6世紀頃にインドで興った仏教は、西域をへて中国に拡大し、その後、朝鮮半島から日本海を渡って日本に到来したのは6世紀のことです。以来、仏教は日本人の思想や行動、文化に多大な影響を及ぼすこととなりました。								
到達目標	この授業は、日本に仏教が伝来し、その後、国家的に受け入れられ、定着を果たし、さらに新たな展開がみられた近世・近代における仏教の諸相についての考察を目的とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	近世・近代における日本仏教の歴史的な展開について、その基本知識と正しい理解の修得を目標とします。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書を使用せず、プリントを配布して進めます。授業計画とプリントを参照し、各時代の日本仏教の展開について事前に調べたうえで、講義に臨んで下さい。なお、授業外の学修は60時間以上を目安に行ってください。								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 前近世における仏教の展開1 【第2回】 前近世における仏教の展開2 【第3回】 江戸幕府の宗教政策と仏教1 【第4回】 江戸幕府の宗教政策と仏教2 【第5回】 檀林の成立と展開 【第6回】 庶民信仰と仏教 【第7回】 廃仏毀釈の様相1 【第8回】 廃仏毀釈の様相2 【第9回】 仏教の近代化1 【第10回】 仏教の近代化2 【第11回】 仏教と戦争 【第12回】 仏教の海外進出 【第13回】 まとめ 								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、期末試験70%で評価します。								
フィードバックの内容									
教科書	プリントを配布します								
指定図書									
参考書	『日本仏教史』 辻善之助（岩波書店）1944～1953、『論集日本仏教史』（雄山閣）1986～1999、『日本仏教史』（吉川弘文館）1986～1998、『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』 末木文美士（新潮社）1992								
教員からのお知らせ	講義に対して主体的に取り組んで下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1116700	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教文献演習1／史料演習3					三輪 是法		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	日蓮聖人五大部の一書、『報恩抄』を講読する。本書は、日蓮聖人身延入山後、55歳の時に執筆された。その契機は師・道善房の死の知らせであった。大著である『報恩抄』を拝読し、日蓮聖人晩年の思想について、三大部の内容と照らし合わせながら理解していく。								
到達目標	『報恩抄』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】オリエンテーション～『報恩抄』 解題1 【第2回】『報恩抄』 解題2 【第3回】『報恩抄』 講読1 【第4回】『報恩抄』 講読2 【第5回】『報恩抄』 講読3 【第6回】『報恩抄』 講読4 【第7回】『報恩抄』 講読5 【第8回】『報恩抄』 講読6 【第9回】『報恩抄』 講読7 【第10回】『報恩抄』 講読8 【第11回】『報恩抄』 講読9 【第12回】『報恩抄』 講読10 【第13回】『報恩抄』 講読11－第1期まとめ								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント（事前学習の有無を判断）、最終試験70パーセント（事後学修の有無を判断）で評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行う。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年								
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第三巻』庵谷行亨（春秋社）1994年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年								
参考書	『日蓮聖人御遺文講義 第五巻』石川海典（日本仏書刊行会）1957年、『日蓮聖人遺文大講座 第四巻』小林一郎（日新出版）1969年								
教員からのお知らせ	参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』（日蓮宗寺院にはあると思います）は、授業に必ず持参するようにしてください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他、メールで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の重要な書である「報恩抄」を解説し理解させることができる。								
その他									

講義コード	11A1116800	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	日本仏教文献演習2／史料演習4					三輪 是法		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	日蓮聖人五大部の一書、『報恩抄』を講読する。本書は、日蓮聖人身延入山後、55歳の時に執筆された。その契機は師・道善房の死の知らせであった。大著である『報恩抄』を拝読し、日蓮聖人晩年の思想について、三大部の内容と照らし合わせながら理解していく。								
到達目標	『報恩抄』を講読していくことで、日蓮聖人の仏教がもつ特質を理解認識し、説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	指定された参考書をもとに、事前学修を2時間以上、授業受講の後にノートの確認などの事後学修を2時間以上、通期で60時間以上おこない、理解を深める。								
授業計画	【第1回】第1期内容確認～『報恩抄』 講読1 【第2回】『報恩抄』 講読2 【第3回】『報恩抄』 講読3 【第4回】『報恩抄』 講読4 【第5回】『報恩抄』 講読5 【第6回】『報恩抄』 講読6 【第7回】『報恩抄』 講読7 【第8回】『報恩抄』 講読8 【第9回】『報恩抄』 講読9 【第10回】『報恩抄』 講読10 【第11回】『報恩抄』 講読11 【第12回】『報恩抄』 講読12 【第13回】『報恩抄』 講読13－総括								
成績評価の方法	テキスト講読などの授業内における学修内容30パーセント（事前学習の有無を判断）、最終試験70パーセント（事後学修の有無を判断）で評価する。								
フィードバックの内容	授業を進める中で、重要な内容、難解な内容について行う。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年								
指定図書	『日蓮聖人遺文全集 第三巻』庵谷行亨（春秋社）1994年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年								
参考書	『日蓮聖人御遺文講義 第五巻』石川海典（日本仏書刊行会）1957年、『日蓮聖人遺文大講座 第四巻』小林一郎（日新出版）1969年								
教員からのお知らせ	参考文献については適宜紹介していきます。指定図書の『日蓮辞典』と『法華経開結』（日蓮宗寺院にはあると思います）は、授業に必ず持参するようにしてください。								
オフィスアワー	学部で公示されるオフィスアワーに従ってください。その他、メールで可能な限り対応します。								
アクティブラーニングの内容	声を出してテキストを講読し、重要事項に関して質疑応答を行う。								
実践的な教育内容	現役僧侶が実務経験を活かし、日蓮聖人の重要な書である「報恩抄」を解説し理解させることができる。								
その他									

講義コード	11A0109300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	日本文化概論／日本文化史概論／日本文化史2						本間 俊文	第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、日本における文化の歴史的展開について概観する。日本の文化は、独特の自然環境によって築かれた基層文化の上に、中国の長い時代にわたる様々な文化と、インドで生まれた仏教とを受容していく中で形成されてきた。重層的な構造を持つ日本文化の展開を、思想・宗教・文学・芸能などの視点から概観し、日本文化の複雑な性格と豊かな内容について学んでいく。								
到達目標	日本文化の歴史的展開や、日本の各時代における文化の特徴について説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 日本文化の見方 【第2回】 神々の祭りとは日本神話 【第3回】 仏教の伝来と受容 【第4回】 律令制度と官人の学問 【第5回】 かな文字の成立と国文学 【第6回】 仏教の日本化と庶民への浸透 【第7回】 芸能の成熟 【第8回】 儒教とその日本化 【第9回】 町人文化とその思想（1） 【第10回】 町人文化とその思想（2） 【第11回】 日本中心の思想 【第12回】 近代日本の諸宗教 【第13回】 日本文化と仏教の関係性について								
成績評価の方法	授業内で行う毎回の小レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『日本文化史講義』大隅和雄（吉川弘文館）2017年								
指定図書	『日本文化の歴史』尾藤正英（岩波新書）2000年、『日本文化史ハンドブック』阿部猛、西垣晴次編（東京堂出版）2002年、『日本文化入門』板垣俊一（武蔵野書院）2016年、『これだけは知っておきたい日本仏教文化事典』佐々木宏幹・山折哲雄監修（仏教出版）2015年								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書を講読しながら授業を進めますので、教科書を必ず用意してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0115350	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田村 亘禰	開講期	第2期
科目名	日本文化史特講 1						田村 亘禰	第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業は、ただ単に、伝統的な文化の価値を説くことに限定するものではない。過去の伝統的な文化であっても、それらはすべて歴史上のある時期に生み出されたものであり、常に変化しながら現代に受け継がれてきたものであることを、それが創り出された初めに立ち返って把握することを目的とする。								
到達目標	日本文化の概略を他者に話して聞かせることができる。特に仏教と日本文化の融合について説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。読み方や意味の分からない用語について、あらかじめ調べておくこと。各回の授業後に復習を行い、内容を深く理解すること。								
授業計画	【第1回】 はじめに 【第2回】 「日本」とは 【第3回】 「文化」と「文明」 【第4回】 日本文化の基層 【第5回】 日本の心情 【第6回】 伝統芸能 【第7回】 茶の湯 【第8回】 音楽文化 【第9回】 信仰と宗教 【第10回】 日本の仏教 【第11回】 寺院と寺社 【第12回】 神道 【第13回】 自然観、まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（小テスト等）40%、課題（期末レポート等）60%で評価します。								
フィードバックの内容	小テストを中心に毎回フィードバックを行います。								
教科書	『日本文化入門』板垣俊一（武蔵野書院）2016年								
指定図書	『日本文化史研究（上）』内藤湖南（講談社）1976年、『日本文化史研究（下）』内藤湖南（講談社）1976年、『日本文化の形成』宮本常一（そしえて）1981年								
参考書	『日本文化の核心』松岡正剛（講談社）2020年、『菊と刀』ルース・ベネディクト著／長谷川松治訳（講談社）2005年								
教員からのお知らせ	テキストについては、教場で指示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスは授業中に伝達）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0115050	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第1期
科目名	日本文化特講1							第1期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、日本文化の事例の中から特に日本の伝統文化・精神文化をとりあげて、日本文化の多彩な姿と特徴を学ぶとともに、「日本人」と「宗教」と「文化」の関係性について考えていく。								
到達目標	日本の伝統文化・精神文化の内容と特徴について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】「日本」とは 【第2回】「文化」と「文明」 【第3回】日本文化の基層 【第4回】日本の心情 【第5回】伝統芸能（1） 【第6回】伝統芸能（2） 【第7回】茶の湯 【第8回】音楽文化 【第9回】信仰と宗教（1） 【第10回】信仰と宗教（2） 【第11回】自然観 【第12回】美意識 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『日本文化入門』板垣俊一（武蔵野書院）2016年								
指定図書	『日本文化の歴史』尾藤正英（岩波新書）2000年、『日本文化史ハンドブック』阿部猛、西垣晴次編（東京堂出版）2002年、『日本文化史講義』大隅和雄（吉川弘文館）2017年、『これだけは知っておきたい日本仏教文化事典』佐々木宏幹・山折哲雄監修（仏教出版）2015年								
参考書									
教員からのお知らせ	教科書を講読しながら授業を進めますので、教科書を必ず用意してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	『日本文化概論』を受講済であることが望ましい。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A0115100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	本間 俊文	開講期	第2期
科目名	日本文化特講2／宗教の文化							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、日本文化の事例の中から特に仏教と関係のある文化をとりあげて、日本文化の多彩な姿と特徴を学ぶとともに、「日本人」と「仏教」と「文化」の関係性について考えていく。								
到達目標	仏教と関係のある日本文化の内容と特徴について説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書を熟読して予習・復習を行い、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】華道 【第2回】茶道 【第3回】建築 【第4回】日本庭園 【第5回】日本語 【第6回】衣服 【第7回】食事 【第8回】美術 【第9回】文学 【第10回】武士道 【第11回】音楽 【第12回】印刷・出版 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	『これだけは知っておきたい日本仏教文化事典』佐々木宏幹・山折哲雄監修（仏教出版）2015年								
指定図書	『日本文化の歴史』尾藤正英（岩波新書）2000年、『日本文化史ハンドブック』阿部猛、西垣晴次編（東京堂出版）2002年、『日本文化入門』板垣俊一（武蔵野書院）2016年、『日本文化史講義』大隅和雄（吉川弘文館）2017年								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科で定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他	『日本文化概論』を受講済であることが望ましい。授業授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								

講義コード	11A2118000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	内藤 善之	開講期	第2期																												
科目名	比較宗教文化論／比較宗教文化論1				内藤 善之			第2期																													
履修前提条件					備考																																
授業の目的	<p>宗教は人類の歴史とともにあり、現代に至るまで人間社会の様々な営為に大きな影響を及ぼしている。また、世界の政治・経済動向の背景には、言うまでもなく宗教的な事情があり、いわゆるグローバルな舞台での活躍が期待される現代においては、宗教的な要因による文化的差異への視点を欠くことはできない。さらには、様々な宗教的な伝統に基づく多面的な文化を理解することができる教養も必須であろう。</p> <p>本講義では、現代の日本の文化に深く影響を与えている仏教を中心として、世界における様々な宗教について基本的なものを学び、「心豊かな産業人」となるために必要な教養のひとつとして、宗教とそれにもとづく文化について理解する力を養う。また今期はとくに、現代の世界情勢において大きな問題となっている中東問題とその根底にある宗教的な事情についても考察したい。</p>																																				
到達目標	様々な宗教のありかたを学びそれらを比較することによって、宗教とは何か、ということについての自分なりの見解をもち、宗教や文化について重層的な視点で観察することのできる教養を身につけることを目標とする。																																				
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義中に指示した事項について、予習・復習をすることとし、60時間以上の授業外学修を行うこと。講義の振り返り資料を配布するので、それを用いて復習を行うこと。予習については講義中次回の用いる資料や論文の紹介を行う適宜参照すること。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>オリエンテーション宗教とはなにか</td> <td>【第8回】</td> <td>古代インド宗教</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>現代の宗教情勢</td> <td>【第9回】</td> <td>仏教</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>古代の宗教</td> <td>【第10回】</td> <td>仏教と西方文化</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>ユダヤ教とキリスト教（1）</td> <td>【第11回】</td> <td>中央アジアの宗教</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>ユダヤ教とキリスト教（2）</td> <td>【第12回】</td> <td>イスラーム</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>古代ギリシャ世界</td> <td>【第13回】</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>ヘレニズムとアレキサンダー大王の東征</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】	オリエンテーション宗教とはなにか	【第8回】	古代インド宗教	【第2回】	現代の宗教情勢	【第9回】	仏教	【第3回】	古代の宗教	【第10回】	仏教と西方文化	【第4回】	ユダヤ教とキリスト教（1）	【第11回】	中央アジアの宗教	【第5回】	ユダヤ教とキリスト教（2）	【第12回】	イスラーム	【第6回】	古代ギリシャ世界	【第13回】	まとめ	【第7回】	ヘレニズムとアレキサンダー大王の東征		
【第1回】	オリエンテーション宗教とはなにか	【第8回】	古代インド宗教																																		
【第2回】	現代の宗教情勢	【第9回】	仏教																																		
【第3回】	古代の宗教	【第10回】	仏教と西方文化																																		
【第4回】	ユダヤ教とキリスト教（1）	【第11回】	中央アジアの宗教																																		
【第5回】	ユダヤ教とキリスト教（2）	【第12回】	イスラーム																																		
【第6回】	古代ギリシャ世界	【第13回】	まとめ																																		
【第7回】	ヘレニズムとアレキサンダー大王の東征																																				
成績評価の方法	学期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）とします。																																				
フィードバックの内容	講義後回収する質問用紙に対するフィードバックを翌週講義内にておこなう。																																				
教科書																																					
指定図書																																					
参考書	『教養としての宗教入門』中村 圭志（中央公論新社）2014、『文明の十字路＝中央アジアの歴史』岩村忍（講談社）2007、『仏教の来た道』鎌田 茂雄（講談社）2003																																				
教員からのお知らせ																																					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。																																				
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習。																																				
実践的な教育内容																																					
その他																																					

講義コード	11A0114200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	横畑 泰希	開講期	第1期																										
科目名	仏教カウンセリング				横畑 泰希			第1期																											
履修前提条件					備考																														
授業の目的	<p>カウンセリングとは、カウンセラーとクライアントとの心理的相互作用によって、クライアントの抱える問題の解決を目指す人間関係の過程である。その意味では、仏教が人々の心の救済を目指すことと多くの共通点を見出すことができる。また、カウンセリングの基礎となる臨床心理学は、仏教の考えが背後にあるとも言われている。この講義では、一般的なカウンセリングを学ぶとともに、仏教的立場からの支援のあり方について考察する。</p>																																		
到達目標	心とは何か、カウンセリングとは何か等について理論、知識を習得し、仏教者として仏教カウンセリングとは何かについて論じることができる。																																		
授業外学修内容・授業外学修時間数	本科目では、60時間以上の授業外学修を行うこととする。毎授業終了時に次回の予告を行うので、教科書の該当箇所を読んだり、キーワードについて調べたりするなどして、ポイントをノートにまとめておくこと。授業後はレポートに向けて、ポイントを復習し整理しておくこと。																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】</td> <td>仏教カウンセリングとは何か（問題提起）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】</td> <td>心とは何か</td> </tr> <tr> <td>【第3回】</td> <td>心の発達</td> </tr> <tr> <td>【第4回】</td> <td>心の相談と仏教との繋がり①－意識心理学的視点－</td> </tr> <tr> <td>【第5回】</td> <td>心の相談と仏教との繋がり②－了解－</td> </tr> <tr> <td>【第6回】</td> <td>相談活動の基礎</td> </tr> <tr> <td>【第7回】</td> <td>カウンセリング理論</td> </tr> <tr> <td>【第8回】</td> <td>心の臨床－聴く・尋ねる－</td> </tr> <tr> <td>【第9回】</td> <td>心の臨床－気づく・指示する・守る－</td> </tr> <tr> <td>【第10回】</td> <td>熏習</td> </tr> <tr> <td>【第11回】</td> <td>鬼子母コンプレックス</td> </tr> <tr> <td>【第12回】</td> <td>キサー・ゴータミー尼の物語</td> </tr> <tr> <td>【第13回】</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>※授業の進度により変更することがあります。</p>									【第1回】	仏教カウンセリングとは何か（問題提起）	【第2回】	心とは何か	【第3回】	心の発達	【第4回】	心の相談と仏教との繋がり①－意識心理学的視点－	【第5回】	心の相談と仏教との繋がり②－了解－	【第6回】	相談活動の基礎	【第7回】	カウンセリング理論	【第8回】	心の臨床－聴く・尋ねる－	【第9回】	心の臨床－気づく・指示する・守る－	【第10回】	熏習	【第11回】	鬼子母コンプレックス	【第12回】	キサー・ゴータミー尼の物語	【第13回】	まとめ
【第1回】	仏教カウンセリングとは何か（問題提起）																																		
【第2回】	心とは何か																																		
【第3回】	心の発達																																		
【第4回】	心の相談と仏教との繋がり①－意識心理学的視点－																																		
【第5回】	心の相談と仏教との繋がり②－了解－																																		
【第6回】	相談活動の基礎																																		
【第7回】	カウンセリング理論																																		
【第8回】	心の臨床－聴く・尋ねる－																																		
【第9回】	心の臨床－気づく・指示する・守る－																																		
【第10回】	熏習																																		
【第11回】	鬼子母コンプレックス																																		
【第12回】	キサー・ゴータミー尼の物語																																		
【第13回】	まとめ																																		
成績評価の方法	小レポート（3回）50% 期末レポート50%																																		
フィードバックの内容																																			
教科書	『仏教心理学への道』金子保（クオリティケア）2012																																		
指定図書	『仏教とこころの深層－物語の心理臨床的意味』金子保（クオリティケア）2013、『心の臨床入門』川井尚（論創社）2009																																		
参考書																																			
教員からのお知らせ																																			
オフィスアワー	初回授業時に説明する。																																		
アクティブラーニングの内容																																			
実践的な教育内容																																			
その他																																			

講義コード	11A0100100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	仏教学演習基礎 1				庄司 史生		第 1 期
履修前提条件					備考		
授業の目的	仏教学部における学びの多様性について講義するとともに、受講者が自らが関心を抱いた事柄について意見を交換することで、各自の研究テーマを見つけ出すことを目的とする。						
到達目標	「仏教学」や「宗学」という仏教学部における学びの特色を理解し、その時点での自らの研究テーマを決定し、その意義を他者に対して説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】「仏教学」とは何か（仏教学概説） 【第2回】仏教ではどのような言語が用いられているのか（仏教聖典語概説） 【第3回】仏教聖典とはどのようなものか（仏教聖典概説） 【第4回】仏教はインド・スリランカ・東南アジアでどのように展開したのか（南アジア・東南アジア仏教史概説） 【第5回】仏教はどのようにして中国に伝えられ、展開したのか（東アジア仏教史概説①） 【第6回】仏教はどのようにして日本に伝えられ展開したのか（②） 【第7回】仏教はチベットでどのように展開したのか（内陸アジア仏教史概説） 【第8回】仏教芸術・仏像はどのように展開したのか（仏教芸術・仏像史概説） 【第9回】何のために「比較」するのか（比較文化（学）概説） 【第10回】『法華経』とはどのようなものか（法華経概説） 【第11回】日蓮聖人の思想と行動とは（日蓮聖人伝） 【第12回】日蓮宗はどのように展開したのか（日蓮宗教団史） 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価する。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行う。						
教科書							
指定図書							
参考書	『仏教史研究ハンドブック』（法藏館）佛教史学会〔編〕						
教員からのお知らせ	使用する「教科書」をはじめ、必要な資料は授業内で配布します。購入する必要はありません。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習／ゼミナール						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0100200	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	開講期
科目名	仏教学演習基礎 2				庄司 史生		第 2 期
履修前提条件					備考		
授業の目的	仏教の人間社会における存在意義と可能性について、身近な、もしくは現代的な題材を用い、教室内での議論を通じて気づかせることを目的とする。						
到達目標	1) 宗教（仏教）に対する自らの考え方をまとめ、説明することができる。 2) 宗教（仏教）に対する他者の考え方を受けとめ、自らの考え方との同異を比較し、論理的に分析・説明することができる。						
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。						
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】「宗教」「仏教」とは何か 【第3回】「仏教学」「宗学」とは何か 【第4回】仏教的なものを見方を理解する①：私たちは何故ここにいるのか（業・輪廻・解脱） 【第5回】〃 ②：私たちはどのようにして成り立っているのか（五蘊・十二処・十八界） 【第6回】〃 ③：世界はどのようにして生じたのか（十二縁起） 【第7回】〃 ④：偏見や差別をなくすための方法にはどのようなものがあるか（中道） 【第8回】〃 ⑤：現状を変えることは可能か（四諦八正道） 【第9回】〃 ⑥：仏教は死をどのようにとらえているのか（キサーゴタミーの逸話） 【第10回】〃 ⑦：仏教は自死をどのようにとらえているのか（チャンナ等仏弟子らの逸話） 【第11回】〃 ⑧：仏教は世界をどのようにとらえているのか（ブッダの生涯と瞑想） 【第12回】〃 ⑨：何がないのか（空） 【第13回】まとめ						
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%＋毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価します。						
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。						
教科書							
指定図書							
参考書	『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会〔編〕（法藏館）2017						
教員からのお知らせ	使用する資料等は毎回授業内で配布します。 この授業は、仏教学部の学びへの入り口となるものです。みなさんとともに、いろいろと考えていきたいと思っています。						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。						
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習 演習						
実践的な教育内容							
その他							

講義コード	11A0103600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	庄司 史生	開講期	第1期
科目名	仏教学概論1					庄司 史生	第1期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	この講義は、教科書を使用し、仏教学を学修するための基本的事項について、理解することを目指します。								
到達目標	仏教学を学修するための基礎的知識を習得することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】仏教とは何か 【第3回】ブッダの生涯 【第4回】ブッダの生涯 【第5回】仏の本質 【第6回】仏の本質 【第7回】法-仏教の真理観 【第8回】法-仏教の真理観 【第9回】一切法-法の分類 【第10回】一切法-法の分類 【第11回】輪廻と業・煩惱 【第12回】輪廻と業・煩惱 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%+毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価する。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行う。								
教科書	『仏教入門』高崎直道（東京大学出版会）1983								
指定図書									
参考書	『仏教要語の基礎知識（新版）』水野弘元（春秋社）2006								
教員からのお知らせ	毎回教科書を使用します。購入の上、講義時には持参して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0103700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	庄司 史生	開講期	第2期
科目名	仏教学概論2					庄司 史生	第2期		
履修前提条件						備考			
授業の目的	この講義は、教科書を使用し、仏教学を学修するための基本的事項について、理解することを目指します。								
到達目標	仏教学を学修するための基礎的知識を習得することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】はじめに 【第2回】悟りへの道 【第3回】悟りへの道 【第4回】心-実践の主体 【第5回】心-実践の主体 【第6回】修行者の理想像 【第7回】修行者の理想像 【第8回】戒律と教団の組織 【第9回】戒律と教団の組織 【第10回】仏教の歴史 【第11回】仏教の歴史 【第12回】仏教の歴史 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	平常点60%（授業への取り組み姿勢30%+毎回の課題提出30%）と学期末の課題提出40%により成績を評価する。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行う。								
教科書	『仏教入門』高崎直道（東京大学出版会）1983								
指定図書									
参考書	『仏教要語の基礎知識（新版）』水野弘元（春秋社）2006								
教員からのお知らせ	毎回教科書を使用します。購入の上、講義時には持参して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0100905	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第1期
科目名	仏教研究基礎 1 A							戸田 教敏	第1期
履修前条件					備考				
授業の目的	「仏教研究基礎」は、3年次以降に専門性の高い学修に取り組むことを見据えて、仏教研究に関する文献を読み解くための基礎を身に付けることを目的としている。各コースの専門分野に関わる研究論文の講読を通して、受講生自身が自らの研究テーマに基づき文献を検索し、読解していくためのスキルを習得することを目指す。								
到達目標	「仏教研究基礎 1 A」では、3年次から宗学科に進むことを希望する2年生を対象に、「法華仏教」「日本宗教・文化」の専門性に関わる研究論文を演習形式で講読する。論文の内容理解を深めると同時に、資料の扱い方や先行研究の整理方法を実践的に学ぶことで、研究に必要な基礎力を養う。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この授業は、教員が指定する文献を用いて授業を進めていく。授業内での指示に従い、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文献講読 【第3回】 文献講読 【第4回】 文献講読 【第5回】 文献講読 【第6回】 文献講読 【第7回】 文献講読 【第8回】 文献講読 【第9回】 文献講読 【第10回】 文献講読 【第11回】 文献講読 【第12回】 文献講読 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、期末試験50%を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業で講読する文献は事前に配布するので、必ず熟読した上で受講すること。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメール等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習、意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0100906	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第1期
科目名	仏教研究基礎 1 B							戸田 教敏	第1期
履修前条件					備考				
授業の目的	「仏教研究基礎」は、3年次以降に専門性の高い学修に取り組むことを見据えて、仏教研究に関する文献を読み解くための基礎を身に付けることを目的としている。各コースの専門分野に関わる研究論文の講読を通して、受講生自身が自らの研究テーマに基づき文献を検索し、読解していくためのスキルを習得することを目指す。								
到達目標	「仏教研究基礎 1 B」では、3年次から宗学科に進むことを希望する2年生を対象に、「法華仏教」「日本宗教・文化」の専門性に関わる研究論文を演習形式で講読する。論文の内容理解を深めると同時に、資料の扱い方や先行研究の整理方法を実践的に学ぶことで、研究に必要な基礎力を養う。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この授業は、教員が指定する文献を用いて授業を進めていく。授業内での指示に従い、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文献講読 【第3回】 文献講読 【第4回】 文献講読 【第5回】 文献講読 【第6回】 文献講読 【第7回】 文献講読 【第8回】 文献講読 【第9回】 文献講読 【第10回】 文献講読 【第11回】 文献講読 【第12回】 文献講読 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢50%、期末試験50%を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『宗学科生のための研究ガイドブック』（立正大学仏教学部）2021年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業で講読する文献は事前に配布するので、必ず熟読した上で受講すること。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメール等でも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習、意見共有								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2118400	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	下田 麻里子	開講期	第2期
科目名	仏教考古学研究 1								
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講義では、寺院・遺跡・遺物などの〈資料〉に基づいて仏教を理解することを目的とし、仏教の地域的広がりや時代ごとの変化、社会との関わりを考古学的視点から読み解く。授業では、スリランカおよび大陸部東南アジアの寺院を主な対象とし、その構造や配置、関連遺物の観察を通じて、仏教が各地域においてどのように受容され、定着していったのかを学ぶ。								
到達目標	本授業を通じて、仏教遺跡や建築、造形資料を基礎資料として読み解き、それらが示す宗教実践や社会的背景について説明できるようになることを目指す。また、地域や時代による仏教の多様性を理解し、考古学的資料を通じて仏教史を多角的に考察する視点を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考図書に挙げた書籍等を閲覧・精読するなど、授業で学んだ知識の定着を図るため、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	以下の13回の講義を予定しているが、講義の進展や受講生の関心に基づき、授業計画を適宜変更する。 【第1回】 仏教の拡散と考古学 【第8回】 さまざまな信仰の形①仏塔 【第2回】 東南アジアという仏教世界 【第9回】 さまざまな信仰の形②シーマール石 【第3回】 東南アジアの仏教遺跡①初期の仏教世界 【第10回】 仏教と都市空間 【第4回】 東南アジアの仏教遺跡②中世・前近代 【第11回】 過去と現在をつなぐ仏教実践と遺跡 【第5回】 仏教寺院の多様な構成要素と機能① 【第12回】 生きた文化遺産としての仏教遺跡 【第6回】 仏教寺院の多様な構成要素と機能② 【第13回】 まとめ・評価（テスト／発表） 【第7回】 発表・演習								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（30%）、小レポートまたはコメント課題（30%）、期末試験もしくは期末レポート（40%）								
フィードバックの内容	各回の授業後に提出されるコメントをもとに、内容理解や考察の視点についてフィードバックを行い、授業内で補足説明を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『東南アジア史〈1〉大陸部（新版 世界各国史）』石井米雄、桜井由躬雄編（山川出版社）1999、『東南アジア史〈2〉島嶼部（新版 世界各国史）』石井米雄、桜井由躬雄編（山川出版社）1999、『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』千原大五郎（鹿島出版会）1982、『仏教の受容と変容 2 東南アジア編』石井米雄編（佼成出版社）1991								
教員からのお知らせ	本授業は、東南アジアを中心とする仏教遺跡や寺院、考古資料について、基礎から学ぶ入門的な内容であり、これまで考古学を学んだ経験がない受講生も歓迎する。授業期間中、数回にわたり仏教遺跡や関連資料を対象とした観察・考察コメントの課題を課し、それらを授業中で紹介・共有する機会を設ける。講義はパワーポイントのスライドを中心に進め、指定テキストは使用しない。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付ける。メールアドレスは第1回授業時に伝える。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、プレゼンテーション								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A1116400	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	寺尾 英智	開講期	第2期
科目名	仏教古文書演習／日蓮遺文研究2								
履修前提条件						備考			
授業の目的	日蓮教団史を研究するためには、古文書をはじめとする史料を解読することが必要である。古文書の中には活字本として刊行されていないものもあり、「くずし字」で書かれた古文書の原本を判読することが必要になる場合も多い。そこで、仏教古文書解読のための入門として、日蓮聖人真蹟書状を写真版（コピー）によって講読する。漢字仮名交じり文の書状を取り上げ、二紙程度の書状から長文の書状へと順次講読する。								
到達目標	仏教古文書の一つとして、日蓮聖人真蹟の書状（漢字仮名混じり文）が判読できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、60時間以上の授業外学修をおこなうこと。テキストで使用する用語の意味を調べ、理解できるようにすること。テキストごとに指示した課題を作成し、翌週の授業にて提出すること。								
授業計画	【第1回】 料紙の使用法と書状の特徴 【第8回】 同上（その2） 【第2回】 真蹟書状『富木殿御書』（2紙、『昭定本日蓮聖人遺文』809頁）の講読 【第9回】 『中務左衛門尉殿御返事』（6紙、同1523頁）の講読（その1） 【第3回】 『芋一駄御書』（2紙、同1550頁）の講読（その1） 【第10回】 同上（その2） 【第4回】 同上（その2） 【第11回】 同上（その3） 【第5回】 『五人土籠御書』（2紙、同506頁）の講読（その1） 【第12回】 同上（その4） 【第6回】 同上（その2） 【第13回】 まとめ 【第7回】 『春之祝御書』（3紙、同859頁）の講読（その1）								
成績評価の方法	学期末レポート50%、提出課題30%、授業への取り組み姿勢20%								
フィードバックの内容	提出課題に対する講評を翌週授業内にて行う。								
教科書	プリント配布								
指定図書	『日蓮聖人真蹟集成』（法蔵館）、『日蓮大聖人御真蹟対照録』立正安国会編（立正安国会）、『昭定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）、『仏教古文書字典』川澄 勲編（山喜房佛書林）、『日蓮聖人書体字典』松本 慈恵編（国書刊行会）、『日蓮聖人全集』渡邊寶陽他編（春秋社）1992～								
参考書	『日蓮聖人真蹟の世界』山中 喜八（雄山閣）、『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』寺尾 英智（雄山閣）、『ご真蹟にふれる』中尾堯（日蓮宗新聞社）、『日蓮聖人遺文辞典（歴史篇）』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）、『日蓮聖人遺文辞典（教学篇）』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）、『日蓮聖人御真蹟選集 1～5』（日蓮宗東京西部教化センター）2008～								
教員からのお知らせ	講読にあたっては受講生を順次指名するので、積極的な予習が望まれる。講読のテキスト、並びに順序は変更する場合もある。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
その他	仏教書誌学研究／日蓮遺文研究1を共に受講することが望ましい。								

講義コード	11A0107640	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	友成 有紀	開講期	第1期
科目名	仏教思想特講1 / インド思想史1					友成 有紀		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	多面多臂の神々が街に溢れ、スパイスの香りが鼻をくすぐる殊更にエスニックなイメージをインドに抱く人も多いでしょう。他方で、我々にとって馴染みの深い仏教が生まれたのも同じインドです。ヴェーダという聖典に始まるインド思想の歴史は、この聖典を認める人々と、認めない人々が、何を寄る辺に人は生きるべきかを真剣に議論し続けてきた歴史でもあります。本授業ではヒンドゥー教経典が整備される頃までのインド思想の展開を原典テキスト（翻訳）を紹介しながら考察し、明らかにすることを目的とします。								
到達目標	(1) インド思想史上に登場する様々なグループの根本的な思想とその対立軸・影響関係を理解し、特にヒンドゥー教典が整備される頃までの諸学派の思想の特徴を歴史的な枠組みの中で捉えることができる。(2) 原典資料テキストの内容に親しみ、理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所を予習し、授業後には毎回復習に努めること。予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。特に復習には多く時間を費やすこと。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 ヴェーダ以前・ヴェーダ時代 【第3回】 プラーフマナ時代 【第4回】 ウパニシャッド時代 【第5回】 沙門の出現と六師外道 【第6回】 原始仏教・初期仏教、ジャイナ教 【第7回】 スムリテイ聖典の成立 【第8回】 叙事詩とプラーナ文献・「ヒンドゥー教」の形成 【第9回】 『バガヴァッド・ギーター』 【第10回】 「六派哲学」の形成（1）：サーンキヤとヨーガ 【第11回】 「六派哲学」の形成（2）：ニヤーヤとヴァイシェシカ 【第12回】 「六派哲学」の形成（3）：ミーマンサーとヴェーダーンタ 【第13回】 総括								
成績評価の方法	前期末テスト（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）								
フィードバックの内容	授業中で回収するコメントペーパー、OpenLMSを利用して適宜フィードバックを図る。								
教科書									
指定図書									
参考書	『インド思想史』早鳥鏡正 [ほか] (東京大学出版会) 1982、『インド思想史』中村元 (岩波書店) 1968、『インド思想史』J. ゴンダ著；鏡淳訳 (岩波書店) 2002、『インド哲学10講』赤松明彦 (岩波書店) 2018、『インド哲学入門』ロイ・W・ベレット (著)、加藤隆宏 (訳) (ミネルヴァ書房) 2023								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0107650	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	友成 有紀	開講期	第2期
科目名	仏教思想特講2 / インド思想史2					友成 有紀		第2期	
履修前条件						備考			
授業の目的	多面多臂の神々が街に溢れ、スパイスの香りが鼻をくすぐる殊更にエスニックなイメージをインドに抱く人も多いでしょう。他方で、我々にとって馴染みの深い仏教が生まれたのも同じインドです。ヴェーダという聖典に始まるインド思想の歴史は、この聖典を認める人々と、認めない人々が、何を寄る辺に人は生きるべきかを真剣に議論し続けてきた歴史でもあります。本授業では仏教の新展開と中世に大変質を遂げ現代に至るインド思想の展開を原典テキスト（翻訳）を紹介しながら考察し、明らかにすることを目的とします。								
到達目標	(1) インド思想史上に登場する様々なグループの根本的な思想とその対立軸・影響関係を理解し、特に中世以降の諸学派思想の変遷を歴史的な枠組みの中で捉えることができる。(2) 原典資料テキストの内容に親しみ、理解することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	配布資料および参考図書の該当箇所を予習し、授業後には毎回復習に努めること。予習・復習を合わせて毎回4時間、計60時間以上行うのが望ましい。特に復習には多く時間を費やすこと。								
授業計画	【第1回】 イントロダクション 【第2回】 部派仏教の展開と大乘仏教の出現 【第3回】 大乘仏教の二大学派（1）：中観派 【第4回】 大乘仏教の二大学派（2）：瑜伽行派 【第5回】 中世インド哲学の展開（1）：諸派の動向 【第6回】 中世インド哲学の展開（2）：存在論 【第7回】 中世インド哲学の展開（3）：論理学の発展 【第8回】 中世インド哲学の展開（4）：言語哲学の発展 【第9回】 タントリズム・密教・バクティ 【第10回】 シヴァ派・ヴィシュヌ派の展開 【第11回】 ヴィシュヌ派とヴェーダーンタ学派 【第12回】 ヒンドゥー教とイスラーム、諸教の融合とシク教 【第13回】 現代インド								
成績評価の方法	前期末テスト（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）								
フィードバックの内容	授業中で回収するコメントペーパー、OpenLMSを利用して適宜フィードバックを図る。								
教科書									
指定図書									
参考書	『インド思想史』早鳥鏡正 [ほか] (東京大学出版会) 1982、『インド思想史』中村元 (岩波書店) 1968、『インド思想史』J. ゴンダ著；鏡淳訳 (岩波書店) 2002、『インド哲学10講』赤松明彦 (岩波書店) 2018、『インド哲学入門』ロイ・W・ベレット (著)、加藤隆宏 (訳) (ミネルヴァ書房) 2023								
教員からのお知らせ	原典については担当教員が説明しますので、サンスクリット等の古典語については全くの初心者でも受講可能です。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容									
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0106100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	仏教史特講1 / インド仏教史2					袁輪 顕量		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	インド仏教における思想的な展開を理解できるようにする。仏教の思想も固定化したものではなく、時代によって変化がみられる。どのような変化があったのか、理解できるようにする。								
到達目標	インド仏教における思想の特徴を自らの言葉で説明できるようになることを目指す。また、仏教思想と西洋の思想との差異などが自分の言葉で説明できるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	参考図書を示すので、それに目を通すこと。また授業の中でも参考文献などを示すので、目を通すこと。時間数としては毎回1時間程度を使ったほしい。この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】全体のガイダンス 【第2回】初期仏教の思想 【第3回】五蘊の教説とその背景 【第4回】初期の縁起 【第5回】般若経の目指したもの 【第6回】般若経の目指した実践 【第7回】中観派のものの見方 【第8回】中観派のものの見方 【第9回】瑜伽行派のものの見方 【第10回】瑜伽行派のものの見方 【第11回】瑜伽行派のものの見方 【第12回】密教の特報 【第13回】密教思想の展開								
成績評価の方法	レポート試験								
フィードバックの内容	授業の始まりで前回の授業の振り返りを行うことでフィードバックとする。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業は録画を取っておくのでオンデマンドとして視聴しても良い。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、LMSのメッセージ機能でも受け付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習を促すために、関心を持ったことを自主的に調べてレポートを提出した場合に加点の対象とする。								
実践的な教育内容	それぞれの時代の思想が仮に現代にあったとしたらどのような利点があるかを考え、現代に引き寄せて考察するよう促す。								
その他	参考書は授業の中でその都度、指示する。								

講義コード	11A0106300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	仏教史特講2 / 中国仏教史2					手島 一真		第2期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	「中国仏教」なるものの特徴の一つに（教判論（教相判釈、判教））があります。インドとは異なる事情のもとで生成した経典観から、この概念の構築へと展開した歴史を見ていきます。								
到達目標	「中国仏教」の意味するもの、および教判論の展開に関して、重要な諸事項および特質を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書（配付資料）を事前・事後に熟読するとともに、専門的な概念・術語などについて、下記の指定図書・参考書を用いて自主的に調査し、奥行きのある理解を心がけてください。 なおこの科目では、60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】「中国仏教」なるものの成立事情と特質 【第2回】同上 【第3回】中国仏教史の時代区分 【第4回】中国人と仏教経典との出会い 【第5回】経典をめぐる諸活動 【第6回】同上 【第7回】同上 【第8回】教判の発達 【第9回】同上 【第10回】同上 【第11回】天台教学；五時八教判 【第12回】天台教学；一念三千論 【第13回】総括								
成績評価の方法	学期末試験60%、授業への取り組み姿勢40%								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行います。								
教科書	『仏教史概説 中国篇』野上俊成ほか（平楽寺書店）1968年								
指定図書	『新アジア仏教史（全15巻）』沖本克己ほか（佼成出版社）2010年～、『新中国仏教史』鎌田茂雄（大東出版社）2001年、『中国仏教思想史』木村清孝（世界聖典刊行協会）1979年、『世界の歴史（全30巻。とくに第2巻、第6巻）』尾形勇・礪波護ほか（中央公論社）1996～99年、『中国の歴史（全12巻。とくに第6巻まで）』礪波護ほか（講談社）2004～05年、『古代中国』貝塚茂樹・伊藤道治（講談社学術文庫）2000年、『魏晉南北朝』川勝義雄（講談社学術文庫）2003年、『隋唐帝国』布目潮風、栗原益男（講談社学術文庫）1997年								
参考書	『仏教の思想（全12巻）』塚本善隆ほか（角川文庫ソフィア）1996～97年、『アジア仏教史 中国編（全5巻）』中村元ほか（佼成出版社）1974～76年、『中国仏教史（全6巻）』鎌田茂雄（東京大学出版会）1982～99年、『中国仏教要史』布施浩岳（山喜房佛書林）1970年、『中国通史』堀敏一（講談社学術文庫）2000年								
教員からのお知らせ	本講義は「中国仏教史概論／中国仏教史1」を学んでから履修することが望ましい。 OpenLMSでも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール（アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと）、にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2106600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	中井 本勝	開講期	第1期
科目名	仏教史特講3								
履修前条件					備考				
授業の目的	本講義では、梁の僧祐（445-518）によって編纂された『弘明集』所収の資料の読解を通じて、中国における仏教の受容・理解や、他宗教からの批判などについて説明する。								
到達目標	中国における当時の人々の仏教の理解および他宗教から仏教がどのように批判されていたかについて、説明することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本講義では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ調べておくことが望ましい。								
授業計画	【第1回】 授業の概要説明、中国仏教史概観 【第2回】 『弘明集』を読む（1） 【第3回】 『弘明集』を読む（2） 【第4回】 『弘明集』を読む（3） 【第5回】 『弘明集』を読む（4） 【第6回】 『弘明集』を読む（5） 【第7回】 『弘明集』を読む（6） 【第8回】 『弘明集』を読む（7） 【第9回】 『弘明集』を読む（8） 【第10回】 『弘明集』を読む（9） 【第11回】 『弘明集』を読む（10） 【第12回】 『弘明集』を読む（11） 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（受講態度、課題提出）（60%）、学期末試験もしくは学期末レポート（40%）により総合評価する。								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックは授業内に行う。								
教科書	適宜、配布する。								
指定図書	『新アジア仏教史06 中国Ⅰ 南北朝』沖本克己編（佼成出版社）2010年、『新アジア仏教史07 中国Ⅱ 隋唐』沖本克己編（佼成出版社）2010年								
参考書	『大乘仏典〈中国・日本篇〉4 弘明集・広弘明集』吉川忠夫（中央公論社）1988年、『出三蔵記集序巻訳注』中嶋隆藏（平楽寺書店）1997年、『六朝期における仏教受容の研究』遠藤祐介（白帝社）2014年、『唐・南山道宣著作序文訳註』大内文雄（法蔵館）2019年、『六朝隋唐仏教展開史』船山徹（法蔵館）2019年								
教員からのお知らせ	①本講義は、学問的に専門的なことを扱うため、ある程度の仏教知識が必要とされます。よって、基礎的な仏教知識を得たうえ、思想的な問題意識をもって受講してください。 ②4回以上、欠席あるいは課題が未提出であった場合、単位は修得できません。なので、公的な理由により欠席する場合は、後日、必ず証明書を提出すること。 ③15分以上遅刻の場合は、出席にはなりません。公共交通機関の遅延等の場合は、証明書を提出すること。 ④特別な理由なく教室を途中退出することは不可とします。退室後、不当に長時間戻ってこなかった場合、出席にはなりません。 ⑤受講意欲が明らかに見られない態度を取っている場合、出席にはなりません。 ⑥よくわからないことがある場合は、必ず自主的に質問をしてください。可能な範囲内でお答えします。 ⑦課題や学期末試験もしくは学期末レポート等は自分で考えた意見を書いてもらいます。ネット記事や論文から一部分でも「貼り付け」（コピー＆ペースト）をした場合や、ChatGPT等のAIを使った場合、評価は0点となります。また、明らかに本人が書いたものと思われない場合は、確認をします。 ⑧課題や学期末試験もしくは学期末レポートの記述内容に関して、真摯な姿勢で取り組んでいないと教員が判断した場合、評価は0点となります。 ⑨上記の内容について、「シラバスを読んでいなかった」・「知らなかった」という主張は通じませんので、必ず通読し、理解しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	毎回授業後にコメント（課題）を提出。								
実践的な教育内容									
その他	【注意】本講義は、考えることを要求される。自分の頭脳を使って考え、自分の言葉で語れるようになってください。								

講義コード	11A1116300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	寺尾 英智	開講期	第1期
科目名	仏教書誌学研究／日蓮遺文研究1				寺尾 英智			第1期	
履修前条件					備考				
授業の目的	書誌学とは、書籍・典籍を対象として、その成立や形態、また伝来などを研究する学問分野です。本講義は日本中世・鎌倉時代の代表的な僧侶の一人である日蓮の記した、いわゆる「日蓮遺文」を研究対象として、その形態（種類）や書跡、また日蓮滅後の継承と伝来について考察し「仏教書誌学とはなにか」「日蓮遺文とはなにか」に関する基本的知識の付与を目的とします。								
到達目標	最新の研究成果を根拠として、各時代の歴史資料に関する研究方法を分析することができる。また仏教書籍・典籍（特に日蓮遺文）に関する知識を他者へ分かりやすく説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	次講義の項目や資料（遺文）などを参考書などにて予習することに30時間以上、また出題する課題や振り返りノート作成に30時間以上、合計60時間以上の講義外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】 書誌学とはなにか 【第2回】 日蓮遺文とはなにか－日蓮遺文に関する基本知識 【第3回】 日蓮遺文の大別（1） 【第4回】 日蓮遺文の大別（2） 【第5回】 日蓮の書跡－筆・墨・紙・装丁など 【第6回】 日蓮遺文を研究すること－「祖書研究」とは何か（外的研究） 【第7回】 日蓮遺文を研究すること－「祖書研究」とは何か（内的研究） 【第8回】 日蓮遺文の継承と伝来（1）－蒐集 【第9回】 日蓮遺文の継承と伝来（2）－護持 【第10回】 日蓮遺文の継承と伝来（3）－写本 【第11回】 日蓮遺文の継承と伝来（4）－刊本 【第12回】 日蓮遺文の継承と伝来（5）－編年本 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、授業への取り組み姿勢（20%）を基準として、総合的に評価する。								
フィードバックの内容	リアクションペーパー及び課題に対するフィードバックを講義中に行う。								
教科書									
指定図書	『日蓮聖人教学の研究』浅井要麟（平楽寺書店）1958、『日蓮聖人遺文の文献学的研究』鈴木一成（山喜房佛書林）1965、『日蓮真蹟遺文と寺院文書』中尾堯（吉川弘文館）2002、『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』寺尾英智（雄山閣出版）1997								
参考書	『ご真蹟にふれる』中尾堯（日蓮宗新聞社）1994、『刊本録内御書の書誌学的研究』堀部正円（山喜房佛書林）2020、『日蓮の思想とその展開（シリーズ日蓮2）』小松邦彰・花野充道（春秋社）2014、『全篇解説 日蓮聖人遺文』邊寶陽・関戸堯海・高森大乗（佼成出版社）2017、『日蓮遺文解題集成』山上弘道（興風出版）2023								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する、質問・相談は授業終了後、次の授業に支障のない範囲で教室内にて対応します。また、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	リアル教材								
実践的な教育内容									
その他	仏教古文書演習／日蓮遺文研究2を共に履修することを薦めます。								

講義コード	11A0114300	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	武田 悟一	開講期	第2期
科目名	仏教デス・エデュケーション				武田 悟一			第2期	
履修前条件					備考				
授業の目的	「デス・エデュケーション」とは、死の教育、あるいは死への準備教育を意味します。私たちは、かならず「死」を迎える存在でありますから、その死をいかに受けとめ、自己の人生の問題として考える必要があります。仏教では「死」を迎える私たちが、いかにこの課題と向かうべきかを教えています。そこで、この授業においては、釈尊の生き方、あるいは日蓮聖人（1222-82）の教えにその問題をたずね、現代社会における「死」についても考えます。								
到達目標	生命をうけている私たちは、必ず死を迎えるが、具体的な事例をとおして、自己の問題として受けとめ、説明することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	教科書（プリント配布）・指定・参考図書を30時間以上、毎回出題する課題と予習・復習に30時間以上、合計60時間以上の学修を行って下さい。								
授業計画	【第1回】 デス・エデュケーションとは何か 【第2回】 アルフォンス・デーケン氏の提唱 【第3回】 悲嘆のプロセスについて 【第4回】 日本の文化からみる死生観① 【第5回】 日本の文化からみる死生観② 【第6回】 日本の文化からみる死生観③ 【第7回】 ゴータマ・ブッダの臨終をめぐる 【第8回】 仏教における「死」の問題 【第9回】 日蓮聖人にとっての「臨終」の問題 【第10回】 日蓮聖人と檀越 【第11回】 日蓮聖人にみる「臨終」について 【第12回】 現代日本人の死生観① 【第13回】 現代日本人の死生観②・まとめ								
成績評価の方法	定期試験（50%）、毎授業の課題・授業への取り組み姿勢（50%）を基準として、総合的に評価します。								
フィードバックの内容	提出された課題を添削し、授業期間内に返却する。								
教科書	プリントを配布します								
指定図書	『ブッダ最後の旅』中村元訳（岩波文庫）1980年、『死とは何か』大法輪編集部（大法輪閣）1984年、『書簡にみる日蓮 ころの交流』北川前肇（NHK ライブラリー）2006年、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン（NHK ライブラリー）1996年、『死への準備教育第1巻・第2巻・第3巻』アルフォンス・デーケン編（メヂカルフレンド社）1986年、『死を看とる医学』柏木哲夫（NHK ライブラリー）1996年								
参考書	『愛、見つけた 小さな命の置きみやげ』小林完吾（二見書房）1983年、『新しい生命倫理を求めて』田村芳朗他著（北樹出版）1989年								
教員からのお知らせ	学部生は対面授業に出席し受講してください。科目等履修生も原則対面授業の受講を願っていますが、遠方の方はオンラインにて受講いただいても構いません。								
オフィスアワー	授業終了後およびMicrosoft Teams のチャット機能にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、リアル教材								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A2110200	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	内藤 善之	開講期	第1期
科目名	仏教文化史特講3								
履修前提条件					備考				
授業の目的	インドに端を発した仏教は、中国大陸に浸透する過程で、在地の文化や国家権力と交渉をもちながら様々な様相を顕わしました。本授業は仏教東漸の観点から西域を含むシルクロード及び中原における仏教造像の史的展開を主題とし、とくに仏像の造形様式の変遷と美術的特徴について理解することを目的とします。講義の進行に伴い、適宜作品紹介、理解のためにパワーポイントによる映像資料紹介を交えて進めます。								
到達目標	(1) 仏教の東方伝播について、いわゆる北伝ルートの地理上、歴史上の基盤的知識を得ること。 (2) 西域を含む中国大陸における仏教美術の変遷について、理解し説明できること。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	講義中に指示した事項について、予習・復習をすることとし、60時間以上の授業外学修を行うこと。講義の振り返り資料を配布するので、それを用いて復習を行うこと。予習については講義中次回の用いる資料や論文の紹介を行う適宜参照すること。								
授業計画	【第1回】 オリエンテーション シルクロードとは 【第2回】 仏教美術の東漸 【第3回】 仏像の成立と発展 【第4回】 ヒンドゥックシュ山脈を越えて 【第5回】 西域探検史 【第6回】 石窟寺院の系譜 【第7回】 西域の仏教遺跡①クチャ周辺遺址の美術 【第8回】 西域の仏教遺跡②トルファン周辺遺址の美術 【第9回】 河西の石窟寺院 【第10回】 敦煌莫高窟の造営と周辺遺址の美術 【第11回】 中国初期の金銅仏①五胡十六国時代、北魏 【第12回】 雲崗石窟の造営と周辺遺址の美術 涼州様式から雲崗様式へ 【第13回】 龍門石窟の造営とその歴史								
成績評価の方法	学期末レポート(50%)、授業への取り組み姿勢(50%)とします。								
フィードバックの内容	講義後回収する質問用紙に対するフィードバックを翌週講義内にておこなう。								
教科書									
指定図書									
参考書	『アジア仏教美術論集・東アジアⅠ』濱田瑞美(中央公論美術出版)2017、『敦煌三大石窟-莫高窟・西千仏洞・榆林窟』東山健吾(講談社)1996、『北魏仏教造像史の研究』石松日奈子(ブリュッケ)2005、『文明の十字路=中央アジアの歴史』岩村忍(講談社)2007								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習。								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0109100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第2期
科目名	仏教文化特講1／東洋文化史2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	仏教の中国的変容に大きな影響を与えた皇帝権に焦点を当て、その関係性を端的に示す史的取組を取り上げて講説します。内容としては、中国南北朝時代における仏教の発展と廢仏政策、隋代の仏教復興策、唐代における仏教・道教の角逐とその行方、を辿ります。皇帝権と仏教教団とが互恵をめざした関係の内実についての理解を得、もって東アジア仏教に通底する、国家と教団との関係様態という政教史の文化を探ることを目的とします。								
到達目標	中国王朝(南北朝・隋朝・唐朝)と仏教教団との関係について、その展開と特徴を説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	当科目のほか、手島担当「中国仏教史概論／中国仏教史1」「中国文化概論／東洋文化史1」の指定図書・参考書の記載を参考に、中国史の概説書(太古の時代から唐代あたりまで)を事前に読み、また儒教史、道教史の読書も並行して学的関心を広げてください。ここに示した授業以外の学修は60時間以上を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】 中国の南北朝時代 【第2回】 王法と仏法 【第3回】 北周の廢仏(1) 【第4回】 北周の廢仏(2) 【第5回】 北周の廢仏(3)、海西の菩薩天子(1) 【第6回】 海西の菩薩天子(2) 【第7回】 海西の菩薩天子(3) 【第8回】 隋より唐へ-革命期の仏教-(1) 【第9回】 隋より唐へ-革命期の仏教-(2) 【第10回】 隋より唐へ-革命期の仏教-(3)、盛唐仏教の光と影(1) 【第11回】 盛唐仏教の光と影(2) 【第12回】 盛唐仏教の光と影(3) 【第13回】 総括								
成績評価の方法	学期末試験60%、授業への取り組み姿勢40%								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行います。								
教科書	プリントを配布								
指定図書	『隋唐時代の仏教と社会』藤善眞澄(白帝社)2004年、『アジア仏教史 中国編Ⅰ～Ⅴ』中村元、笠原一男、金岡秀友監修・編(佼成出版社)1974～1976年、『唐代政治社会史研究』礪波護(同朋舎)1986年								
参考書	『中国歴史研究入門』礪波護、岸本美緒、杉山正明編(名古屋大学出版会)2006年、『塚本善隆著作集1～7』塚本善隆(大東出版社)1974～1976年、『支那中世仏教の展開』山崎宏(清水書店(のち法蔵館より復刊))1942年(1971年)、『隋唐仏教史の研究』山崎宏(法蔵館)1967年、『北魏仏教の研究』横超慧日編(平楽寺書店)1970年、『疑經研究』牧田諦亮(京都大学人文科学研究所)1976年、『三階教之研究』矢吹慶輝(岩波書店)1927、『中國佛教石經の研究』氣賀澤保規編(京都大学学術出版会)1996年、『唐代仏教史論』滋野井恬(平楽寺書店)1973、『中国仏教制度史の研究』諸戸立雄(平河出版社)1990								
教員からのお知らせ	中国の歴史、仏教の歴史、儒教・道教の歴史、それらへの観察の視点をもって臨んでください。OpenLMSでも情報発信を行うので、常に見るように心がけてください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワー、もしくは個別に設けた相談時間にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	能動的な授業外学習など								
実践的な教育内容									
その他	中国における、仏教社会史、社会文化史に関心がある学生の受講を歓迎します。								

講義コード	11A0100800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	秋田貴廣・久保真紀子・蓑輪顕量	開講期	第2期
科目名	文化遺産・芸術研究入門／文化・芸術研究入門								
履修前条件						備考			
授業の目的	アジア各地にみられる仏教に関わる文化は、寺院の造営、彫刻や絵画の制作、あるいは儀礼や祭祀の催行等、多くの人々の絶え間ない営みによって築き上げられてきた。この講義は、文化や芸術の観点から仏教を理解し研究する意義と方法について、担当教員3名がそれぞれの専門分野における具体的事例を示しながら解説する。								
到達目標	仏教文化および仏教芸術に関する具体的な研究方法や体験談に触れることで、自分自身の興味関心や問題意識を醸成する。そしてこのようなアプローチから見出し得る知見について確認し、3年次に向けてのコース選択、および卒業論文のテーマ設定のための土台を築く。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で学んだ知識を身につけることを目指して、各自60時間以上の授業外学修を行うこと。また、博物館や美術館等にも足を運び、仏教に関する文化遺産・芸術に関する見識を深めるよう努めてほしい。それが難しい場合は、展覧会図録や関連文献を入手して目を通すなど、自らの感触を持てる機会をつくってほしい。								
授業計画	<p>【第1回】文化とは（秋田）</p> <p>【第2回】芸術とは（秋田）</p> <p>【第3回】文化としての仏像（秋田）</p> <p>【第4回】文化の継承性（秋田）</p> <p>【第5回】美術史研究の方法と実践（1）（久保）</p> <p>【第6回】美術史研究の方法と実践（2）（久保）</p> <p>【第7回】美術史研究の方法と実践（3）（久保）</p> <p>【第8回】美術史研究の方法と実践（4）（久保）</p> <p>【第9回】お茶の源流を探る－南・東アジアを中心に（蓑輪）</p> <p>【第10回】日本におけるお茶の受容の変遷－中世まで（蓑輪）</p> <p>【第11回】侘茶の発生と仏教との接点－村田珠光から千宗旦まで（蓑輪）</p> <p>【第12回】増上寺の三大蔵－仏教の世界記憶遺産－（蓑輪）</p> <p>【第13回】まとめ</p> <p>※教員1名につき4回の講義を担当し、輪講形式で進めて行く。最終回の第13回授業は教員3人で担当し、受講生から寄せられた質問への回答や鼎談形式の座談会を行う。</p>								
成績評価の方法	提出物（授業の感想等）50%、授業への取り組み姿勢50%で総合的に評価。								
フィードバックの内容	受講生から提出された感想に基づき、担当教員が必要に応じて補足説明を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	この科目は仏教学部1年次の必修科目である。2年次に行うコース選択を意識しつつ、積極的な姿勢で受講してほしい。また、各回の参考文献は授業資料に提示する。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は授業前後に受け付けるほか、メールでの問い合わせも受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0111800	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第1期
科目名	文化遺産概論／文化財論1								
履修前条件						備考			
授業の目的	多様かつ新たな課題に直面している現代は、文明の根本的な転換が必要とされている時代である。転換期に生きる私たちはどこを目指すべきなのか。この根本的な問いについて考察する視座を得るため、当授業では、人類が産み出した有形無形の文化現象を対象に、ときには人類学的見地も取り入れながら掘り下げ、「文化」を捉えなおすことを試みる。								
到達目標	文化現象について「形成」の観点からあらためて考察することで、「文化」を理解する際の宿命とも言える「自明の盲目」の壁を打ち破ることができる。「文化」に内蔵されている「意味」に自ら接することで、私たちホモサピエンスが有する可能性と課題について、適正に考察する視座を得ることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各授業日のテーマに関連して各自の関心のある文化について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい（30時間以上）。身近な文化的事象について、その在り方の必然性について考える（30時間以上）。								
授業計画	<p>【第1回】授業全体に関するガイダンス／文化とはなにか</p> <p>【第2回】「文化財」の歴史・現代における可能性</p> <p>【第3回】造形と認識（意味）・美術と宗教</p> <p>【第4回】文化財修復という観点の可能性</p> <p>【第5回】文化を継承する意義Ⅰ</p> <p>【第6回】世界遺産の取組み</p> <p>【第7回】原始時代の文化</p> <p>【第8回】人間の誕生と意味の発生1</p> <p>【第9回】原始時代の観念技術1</p> <p>【第10回】原始時代の観念技術2</p> <p>【第11回】神話と科学</p> <p>【第12回】古代文明における宗教と文化</p> <p>【第13回】宗教と国家の起源－古代メソポタミア</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢30%、リアクションペーパー総合点30%。期末レポート40%。各レポートの課題に対して、自身の感触に基づいた言葉で説明できることを評価基準とする。								
フィードバックの内容	一つのテーマで数回の授業を行うことにしており、そのテーマ終了時点で各学生の感想や理解の内容を聴取し、翌週の授業において講評を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修（丸善プラネット）2012								
教員からのお知らせ	当授業は関連授業「文化遺産特講」の前提となる内容です。したがって「文化遺産特講」受講の前に当授業を受講することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談がある場合は、教員にメールを送って尋ねてください。								
アクティブラーニングの内容	随時、受講者の意見を確認する機会を設けて、それを起点として検討を加える。また、リアル教材を適宜使用し、学生が自ら目と手で触れて文化を実感する機会を設ける。								
実践的な教育内容	文化財修復の実務経験を活かし、有形歴史文化財としての建築物・絵画・彫刻表現の前提となる技術や精神、当時の人々の想いなどを紹介して、受講者が文化の実態について理解を深める機会とする。								
その他									

講義コード	11A0111900	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	秋田 貴廣	開講期	第2期
科目名	文化遺産特講1／文化財論2								
履修前条件					備考				
授業の目的	文化・文化史理解のための新たな方法として「文化財」という視点を設定する。その基本概念と、歴史的背景の理解とあわせて文化財の存在意義を確認する。この授業では主に日本の文化を対象として、理解を深めるために技術・技法ならびに様式について、形成の観点から掘り下げることを目的とする。								
到達目標	主に日本の各時代の著名な有形歴史文化財としての建築物、仏像・仏画、神像類を題材に、歴史・民俗・信仰・芸術等、各方面の研究に展開していくための視点と考え方を習得することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各授業日のテーマに関連して各自の関心のある文化について、事前に調査して授業に臨むのが望ましい（30時間以上）。 身近な文化的事象について、その在り方の必然性について考える（30時間以上）。								
授業計画	【第1回】文化財の表現と技術 【第2回】飛鳥時代の歴史と文化財 【第3回】白鳳時代の歴史と文化財 【第4回】天平時代の歴史と文化財Ⅰ 【第5回】天平時代の歴史と文化財Ⅱ 【第6回】平安前期の歴史と文化財 【第7回】平安後期の歴史と文化財 【第8回】鎌倉時代の歴史と文化財Ⅰ 【第9回】鎌倉時代の歴史と文化財Ⅱ 【第10回】鎌倉時代以降の歴史と文化財 【第11回】近代日本文化の課題と可能性Ⅰ 【第12回】近代日本文化の課題と可能性Ⅱ 【第13回】文化財の修復								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢40%、前期レポート30%。後期レポート30%。 各レポート課題について、自身の感触に基づいた言葉で説明できることを評価基準とする。								
フィードバックの内容	一つのテーマで数回の授業を行うことにしており、そのテーマ終了時点で各学生の感想や理解の内容を聴取し、次回の授業において検討・展開する。								
教科書									
指定図書									
参考書	『文化財保存学入門』秋田貴廣編 立正大学仏教学部監修（丸善プラネット）2012								
教員からのお知らせ	当授業は関連授業の「文化遺産特講2」の前提となる内容である。したがって「文化遺産特講2」の前に当授業を受講することが望ましい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談がある場合は、教員にメールを送って尋ねてください。								
アクティブラーニングの内容	適宜、立体資料を使用して、学生が自らの目と手で触れて実感を持てるような機会を設ける。								
実践的な教育内容	教員の文化財修復に関する実務経験を活かして具体的に紹介することによって、受講者が文化財の存在意義を理解する機会とする。								
その他									

講義コード	11A0100900	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第1期
科目名	文献学演習1								
履修前条件					備考				
授業の目的	本学部での学びに際し、漢文仏典や漢文原典資料に関わる機会は少なくないでしょう。この授業では、仏教史に係る漢語文献の特性や留意すべき事項を理解するとともに、漢文資料を演習形式で講読して調査・読解力の向上を果たし、もって漢語文献を用いた基礎的研究能力の修得を目的とします。 なお授業では、4～5世紀に中国からインドへの求法旅行を志した僧法顕の旅行記『仏国記／法顕伝』を主に用いて、演習を行います。								
到達目標	漢字に親しみ、漢和辞典や仏教語辞典を適切に用いて、文字や語の本義を調査追求することができる。 平易な漢文を、辞書を用いずに読解することができる。 漢語仏教文献を自ら搜索し、調査すべき対象の箇所を抽出することができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この授業は、学生諸君が漢文資料に実際に接する演習形式で行います。よって事前の予備調査や、爾後の追加調査が必要です。これらのために、合計60時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	【第1回】漢字・漢文・漢和辞典 【第2回】漢文読解の基礎～総ざらい 【第3回】同上 【第4回】同上 【第5回】『仏国記／法顕伝』解題 【第6回】『仏国記／法顕伝』講読 【第7回】同上 【第8回】同上 【第9回】同上 【第10回】同上 【第11回】同上 【第12回】同上 【第13回】同上								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（指名・自発による解答発表含む）100%								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行います。								
教科書	プリントを配布								
指定図書	『私の漢文講義』原田種成（大修館書店）1995、『漢文入門』魚返善雄（社会思想社／現代教養文庫）1966、『法顕伝訳注 解説』長澤和俊（雄山閣出版）1996、『全訳 漢辞海（第5版）』戸川芳郎（三省堂）2026、『新字源（改訂新版）』小川環樹（角川書店）2017、『新漢語林（第2版）』鎌田正（大修館書店）2011								
参考書	『アジア歴史事典』貝塚茂樹（平凡社）1984（再刊）、『広説佛敎語大辞典』中村元（東京書籍）2010								
教員からのお知らせ	上記の指定図書に示した漢和辞典のいずれかを、授業時に必ず持参すること。持参しない場合、「授業への取り組み姿勢」は最低評価となります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール（アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと）、にて受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、演習								
実践的な教育内容									
その他	漢文は「習うより慣れよ」です。少し読めるようになると楽しくなり、ますます読めるようになります。まずは、自分の意志で一歩ずつ、歩を進めてください。								

講義コード	11A0101000	授業形態	演習	抽選の有無	-	担当教員	手島 一真	開講期	第2期														
科目名	文献学演習2					手島 一真		第2期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	本学部での学びに際し、漢文仏典や漢文原典資料に関わる機会は少なくないでしょう。この授業では、仏教史に関係する漢語文献の特性や留意すべき事項を理解するとともに、漢文資料を演習形式で講読して調査・読解力の向上を果たし、もって漢語文献を用いた基礎的研究能力の修得を目的とします。 授業では、法隆寺釈迦三尊像の〈北魏様式〉で知られる、中国〈北魏〉時代の仏教史料『魏書』『魏書』を主に用いて、演習を行います。																						
到達目標	漢字に親しみ、漢和辞典や仏教語辞典を適切に用いて、文字や語の本義を調査追求することができる。 平易な漢文を、辞書を用いずに読解することができる。 漢語仏教文献を自ら搜索し、調査すべき対象の箇所を抽出することができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この授業は、学生諸君が漢文資料に実際に接する演習形式で行います。よって事前の予備調査や、爾後の追加調査が必要です。これらのために、合計60時間以上の授業外学修を行うこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】漢字・漢文・漢和辞典</td> <td>【第8回】同上</td> </tr> <tr> <td>【第2回】漢文読解の基礎～総ざらい</td> <td>【第9回】同上</td> </tr> <tr> <td>【第3回】同上</td> <td>【第10回】同上</td> </tr> <tr> <td>【第4回】同上</td> <td>【第11回】同上</td> </tr> <tr> <td>【第5回】『魏書』『魏書』「魏書」解題</td> <td>【第12回】同上</td> </tr> <tr> <td>【第6回】『魏書』『魏書』「魏書」講読</td> <td>【第13回】同上</td> </tr> <tr> <td>【第7回】同上</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】漢字・漢文・漢和辞典	【第8回】同上	【第2回】漢文読解の基礎～総ざらい	【第9回】同上	【第3回】同上	【第10回】同上	【第4回】同上	【第11回】同上	【第5回】『魏書』『魏書』「魏書」解題	【第12回】同上	【第6回】『魏書』『魏書』「魏書」講読	【第13回】同上	【第7回】同上	
【第1回】漢字・漢文・漢和辞典	【第8回】同上																						
【第2回】漢文読解の基礎～総ざらい	【第9回】同上																						
【第3回】同上	【第10回】同上																						
【第4回】同上	【第11回】同上																						
【第5回】『魏書』『魏書』「魏書」解題	【第12回】同上																						
【第6回】『魏書』『魏書』「魏書」講読	【第13回】同上																						
【第7回】同上																							
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（指名・自発による解答発表含む）100%																						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行います。																						
教科書	プリントを配布																						
指定図書	『私の漢文講義』原田種成（大修館書店）1995、『漢文入門』魚返善雄（社会思想社／現代教養文庫）1966、『魏書魏書』塚本善隆（平凡社／ワイド版東洋文庫）1990、『全訳漢辞海（第5版）』戸川芳郎（三省堂）2026、『新字源（改訂新版）』小川環樹（角川書店）2017、『新漢語林（第2版）』鎌田正（大修館書店）2011																						
参考書	『アジア歴史事典』貝塚茂樹（平凡社）1984（再刊）、『広説佛教語大辞典』中村元（東京書籍）2010																						
教員からのお知らせ	上記の指定図書に示した漢和辞典のいずれかを、授業時に必ず持参すること。持参しない場合、「授業への取り組み姿勢」は最低評価となります。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時の教室、学部学科にて定めるオフィスアワーと個別に設けた相談時間、Eメール（アドレスは授業で告知。メールのマナー順守のこと）、にて受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習、演習																						
実践的な教育内容																							
その他	漢文は「習うより慣れよ」です。少し読めるようになると楽しくなり、ますます読めるようになります。まずは、自分の意志で一歩ずつ、歩を進めてください。																						

講義コード	11A0101100	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第1期														
科目名	文献学演習3／史料演習1					戸田 教敏		第1期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	仏教寺院は、日本の歴史を知るために必要な「文献史料」の宝庫である。日本仏教の長い歴史において、各寺院では、僧侶・檀越の宗教活動、公武権力との接触を契機として、様々な文献史料が生み出された。それらの多くは、各寺院に「宝物」として厳重に保管され、今日に伝来する。本授業では、中近世に成立した文献史料、特に日蓮宗の寺院に伝来する文書・記録等の文献史料および関係論文を講読し、各史料が持つ意義と特色を学びながら、日本仏教史・日蓮教団史の一端を紐解いていく。																						
到達目標	日本の仏教寺院に所蔵される文献史料を講読・考察することによって、日本仏教史・日蓮教団史の一端を理解するとともに、文献史料にそなわる多様な機能と性質を理解し、説明することができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス</td> <td>【第8回】史料講読（5）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】寺院史料について（1）</td> <td>【第9回】史料講読（6）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】寺院史料について（2）</td> <td>【第10回】史料講読（7）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】史料講読（1）</td> <td>【第11回】史料講読（8）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】史料講読（2）</td> <td>【第12回】史料講読（9）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】史料講読（3）</td> <td>【第13回】史料講読（10）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】史料講読（4）</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス	【第8回】史料講読（5）	【第2回】寺院史料について（1）	【第9回】史料講読（6）	【第3回】寺院史料について（2）	【第10回】史料講読（7）	【第4回】史料講読（1）	【第11回】史料講読（8）	【第5回】史料講読（2）	【第12回】史料講読（9）	【第6回】史料講読（3）	【第13回】史料講読（10）	【第7回】史料講読（4）	
【第1回】ガイダンス	【第8回】史料講読（5）																						
【第2回】寺院史料について（1）	【第9回】史料講読（6）																						
【第3回】寺院史料について（2）	【第10回】史料講読（7）																						
【第4回】史料講読（1）	【第11回】史料講読（8）																						
【第5回】史料講読（2）	【第12回】史料講読（9）																						
【第6回】史料講読（3）	【第13回】史料講読（10）																						
【第7回】史料講読（4）																							
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末試験（50%）を基準として総合的に評価する。																						
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）1960年～、『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編（平楽寺書店）1964年、『概説古文書学 古代・中世編』日本歴史学会編（吉川弘文館）1983年、『概説古文書学 近世編』日本歴史学会編（吉川弘文館）1989年、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修（日蓮宗新聞社）1996年、『新版古文書学入門』佐藤進一（法政大学出版局）2003年、『図説 日蓮聖人と法華の至宝 全7巻』中尾堯・他編（同朋舎メディアプラン・同朋舎新社）2012年～																						
教員からのお知らせ	使用する史料等は授業時に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。																						
アクティブラーニングの内容	演習																						
実践的な教育内容																							
その他																							

は

講義コード	11A0101200	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	戸田 教敏	開講期	第2期														
科目名	文献学演習4／史料演習2					戸田 教敏		第2期															
履修前提条件						備考																	
授業の目的	<p>仏教寺院は、日本の歴史を知るために必要な「文献史料」の宝庫である。日本仏教の長い歴史において、各寺院では、僧侶・檀越の宗教活動、公武権力との接触を契機として、様々な文献史料が生み出された。それらの多くは、各寺院に「宝物」として厳重に保管され、今日に伝来する。本授業では、寺院文書と関係論文を講読し、各史料が持つ意義と特色を学びながら、日蓮教団史の一端を紐解いていく。また、第55代首相を務めた本学第16代学長・石橋湛山が学生・教職員に向けて発した言説に触れ、教育や社会に活かされる日蓮思想の在り方を学ぶ。</p>																						
到達目標	<p>日本の仏教寺院に所蔵される文献史料を講読・考察することによって、日本仏教史・日蓮教団史の一端を理解するとともに、文献史料にそなわる多様な機能と性質を理解し、説明することができる。本学の建学の精神を自身の視点で捉えることができる。</p>																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。</p>																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第8回】 史料講読 (7)</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 史料講読 (1)</td> <td>【第9回】 史料講読 (8)</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 史料講読 (2)</td> <td>【第10回】 史料講読 (9)</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 史料講読 (3)</td> <td>【第11回】 史料講読 (10)</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 史料講読 (4)</td> <td>【第12回】 史料講読 (11)</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 史料講読 (5)</td> <td>【第13回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 史料講読 (6)</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第8回】 史料講読 (7)	【第2回】 史料講読 (1)	【第9回】 史料講読 (8)	【第3回】 史料講読 (2)	【第10回】 史料講読 (9)	【第4回】 史料講読 (3)	【第11回】 史料講読 (10)	【第5回】 史料講読 (4)	【第12回】 史料講読 (11)	【第6回】 史料講読 (5)	【第13回】 まとめ	【第7回】 史料講読 (6)	
【第1回】 ガイダンス	【第8回】 史料講読 (7)																						
【第2回】 史料講読 (1)	【第9回】 史料講読 (8)																						
【第3回】 史料講読 (2)	【第10回】 史料講読 (9)																						
【第4回】 史料講読 (3)	【第11回】 史料講読 (10)																						
【第5回】 史料講読 (4)	【第12回】 史料講読 (11)																						
【第6回】 史料講読 (5)	【第13回】 まとめ																						
【第7回】 史料講読 (6)																							
成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢 (50%)、期末試験 (50%) を基準として総合的に評価する。</p>																						
フィードバックの内容	<p>授業時に随時口頭で行う。</p>																						
教科書																							
指定図書																							
参考書	<p>『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編 (山喜房佛書林) 1960年～、『日蓮教団全史 上』立正大学日蓮教学研究所編 (平楽寺書店) 1964年、『概説古文書学 古代・中世編』日本歴史学会編 (吉川弘文館) 1983年、『概説古文書学 近世編』日本歴史学会編 (吉川弘文館) 1989年、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修 (日蓮宗新聞社) 1996年、『新版古文書学入門』佐藤進一 (法政大学出版局) 2003年、『図説 日蓮聖人と法華の至宝 全7巻』中尾堯・他編 (同朋舎メディアプラン・同朋舎新社) 2012年～、『石橋湛山全集 全16巻』石橋湛山 (東洋経済新報社) 2010年～2011年</p>																						
教員からのお知らせ	<p>使用する史料等は授業時に配布します。授業に対して主体的に取り組むことを望みます。</p>																						
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。またEメールでも受け付けます。</p>																						
アクティブラーニングの内容	<p>演習</p>																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11A0100303	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員	下田 麻里子	開講期	第1期													
科目名	文献読解基礎演習【英語1】／世界の言語と文化【英語I】					下田 麻里子		第1期														
履修前提条件						備考																
授業の目的	<p>本授業は、英語で書かれた学術的・文化的文献を読み解くことを通じて、英語の読解力を養うとともに、世界の言語と文化に関する基礎的理解を深めることを目的とする。授業では一つないし複数の英語文献を取り上げ、毎回、担当者が該当箇所を事前に読み、内容を紹介する。英語文章の構造を把握し、内容を理解したうえで、自分の言葉で説明する力を身につけることを重視する。</p>																					
到達目標	<p>本授業を通じて、英語文献を文単位で正確に読み取り、文章の構造や意味を把握する基礎的な読解力を身につけることを目指す。さらに、読解した内容を要約し、その要点を他者に分かりやすく説明できる能力を養う。</p>																					
授業外学修内容・授業外学修時間数	<p>本授業では、予習および復習のために、合計60時間以上の授業外学修を行うこと。講読文献 (コピー配布) については、あらかじめ読み進め、読み方や意味の分からない語句・用語について調べるなど、予習を行うこと。また、各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を十分に理解したうえで、次の授業に臨むこと。</p>																					
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第9回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第10回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第11回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第12回】 文献講読</td> </tr> <tr> <td>【第13回】 まとめ</td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第2回】 文献講読	【第3回】 文献講読	【第4回】 文献講読	【第5回】 文献講読	【第6回】 文献講読	【第7回】 文献講読	【第8回】 文献講読	【第9回】 文献講読	【第10回】 文献講読	【第11回】 文献講読	【第12回】 文献講読	【第13回】 まとめ
【第1回】 ガイダンス																						
【第2回】 文献講読																						
【第3回】 文献講読																						
【第4回】 文献講読																						
【第5回】 文献講読																						
【第6回】 文献講読																						
【第7回】 文献講読																						
【第8回】 文献講読																						
【第9回】 文献講読																						
【第10回】 文献講読																						
【第11回】 文献講読																						
【第12回】 文献講読																						
【第13回】 まとめ																						
成績評価の方法	<p>授業への参加度・発言 (30%)、担当発表 (40%)、期末試験もしくは期末レポート (30%)</p>																					
フィードバックの内容	<p>授業内での担当発表や発言に対し、英語文章の構造理解や内容把握の観点から口頭によるフィードバックを行う。特に、読解のポイントや要点整理の方法について具体的に示し、次回以降の文献読解や発表に活かせるよう助言を行う。</p>																					
教科書																						
指定図書																						
参考書																						
教員からのお知らせ	<p>使用する文献については、授業時にプリントを配布し、講読箇所を指示する。また、文献講読には英和辞典が不可欠であるため、各自準備すること (紙・電子いずれでも可)。</p>																					
オフィスアワー	<p>本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。</p>																					
アクティブラーニングの内容	<p>意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ロールプレイング</p>																					
実践的な教育内容																						
その他	<p>本授業では、英語の正確な翻訳能力よりも、内容理解と積極的な参加を重視する。</p>																					

講義コード	11A0100403	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	文献読解基礎演習【英語2】／世界の言語と文化【英語Ⅱ】				下田 麻里子		第2期		
履修前提条件	備考								
授業の目的	本授業（第2期）では、第1期で身につけた英語文献読解の基礎的能力を踏まえ、よりまとまりのある英文や議論を含む文献を読み進めることを通じて、英語文献の内容を理解し、自分の言葉で説明・整理する力をさらに高めることを目的とする。								
到達目標	英語文献を段落単位で読み、文章全体の構成や論旨を把握できるようになるとともに、読解した内容を要約し、その要点や論点を他者に分かりやすく説明できる力を養う。また、英語で書かれた学術的・文化的文章に対して主体的に向き合い、自らの問いを立てながら読解を進める姿勢を身につける。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本授業では、予習および復習のために、合計60時間以上の授業外学修を行うこと。講読文献（コピー配布）については、あらかじめ読み進め、読み方や意味の分からない語句・用語について調べるなど、予習を行うこと。また、各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を十分に理解したうえで、次回の授業に臨むこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】文献講読 【第3回】文献講読 【第4回】文献講読 【第5回】文献講読 【第6回】文献講読 【第7回】文献講読				【第8回】文献講読 【第9回】文献講読 【第10回】文献講読 【第11回】文献講読 【第12回】文献講読 【第13回】まとめ				
成績評価の方法	授業への参加度・発言（30%）、担当発表（40%）、期末試験もしくは期末レポート（30%）								
フィードバックの内容	授業内での担当発表や発言に対し、英語文章の構造理解や内容把握の観点から口頭によるフィードバックを行う。特に、読解のポイントや要点整理の方法について具体的に示し、次回以降の文献読解や発表に活かせるよう助言を行う。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	使用する文献については、授業時にプリントを配布し、講読箇所を指示する。 また、文献講読には英和辞典が不可欠であるため、各自準備すること（紙・電子いずれでも可）。 第1期に習得した、読解能力をもとに購読を進めていくため、第1期と第2期を連続して履修することが望ましいが、第2期のみの履修も可能。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業前後もしくはメールでも受け付けます。メールアドレスは第1回授業時に伝えます。								
アクティブラーニングの内容	意見共有、教員からのフィードバックによる振り返り、ロールプレイング								
実践的な教育内容									
その他	本授業では、英語の正確な翻訳能力よりも、内容理解と積極的な参加を重視する。								

講義コード	11A0100301	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	文献読解基礎演習【古文漢文1】A／文献読解基礎演習1A／仏教学基礎演習3A				中井 本勝		第1期		
履修前提条件	備考								
授業の目的	古典資料を読解するにあたって、最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要な、古文の文法（古文読解の基礎的知識）および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次回の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】文法と講読 【第3回】文法と講読 【第4回】文法と講読 【第5回】文法と講読 【第6回】文法と講読 【第7回】文法と講読 【第8回】文法と講読 【第9回】文法と講読 【第10回】文法と講読 【第11回】文法と講読 【第12回】文法と講読 【第13回】まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60%）、期末試験もしくは期末レポート（40%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂ニューエイジ古典達成2+』第一学習社編集部（第一学習社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。								

講義コード	11A0100302	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	文献読解基礎演習[古文漢文1]B／文献読解基礎演習1B				戸田 教敏		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの古文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要となる古文の文法（古文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（古文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。								

講義コード	11A0100401	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	文献読解基礎演習[古文漢文2]A／文献読解基礎演習2A／仏教学基礎演習4A				中井 本勝		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	古典資料を読解するにあたって、最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要な、漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、読み方や意味のわからない用語についてはあらかじめ予習を行い調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（60%）、期末試験もしくは期末レポート（40%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂ニューエイジ古典達成2+』第一学習社編集部（第一学習社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業時間帯を除いて仏教学部懇談室、Eメールにて受け付ける。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介する。								

講義コード	11A0100402	授業形態	講義・演習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	文献読解基礎演習[古文漢文2]B／文献読解基礎演習2B				戸田 教敏		第2期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では、古典資料を読解するにあたって最低限必要なレベルの漢文の基礎読解力を身につけることを目的とする。								
到達目標	古典資料の読解のために必要となる漢文の文法（漢文読解の基礎的知識）、および辞書・参考書の取扱方法（漢文読解の基礎的手法）を習得する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	本授業では、60時間以上の授業外学修を行うこと。各回の授業で扱った内容については復習を行い、内容を理解した上で次の授業に臨み、また、読み方や意味のわからない用語については、あらかじめ予習を行い、調べておくこと。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 文法と講読 【第3回】 文法と講読 【第4回】 文法と講読 【第5回】 文法と講読 【第6回】 文法と講読 【第7回】 文法と講読 【第8回】 文法と講読 【第9回】 文法と講読 【第10回】 文法と講読 【第11回】 文法と講読 【第12回】 文法と講読 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）、期末レポート（50%）を基準として総合的に評価する。								
フィードバックの内容	授業時に随時口頭で行う。								
教科書	『新版二訂 ニューエイジ 古典達成2+』第一学習社編集部編（第一学習社）2022年								
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	本授業では、教科書として挙げた教材を使用して進めていくので、必ず授業開始前までに購入しておくこと。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、教員の授業時間帯を除いて仏教学部懇談室にて受け付けます。また、Eメールでも受け付けます。								
アクティブラーニングの内容	演習								
実践的な教育内容									
その他	参考書等は、授業時に適宜紹介します。								

講義コード	16A0170001	授業形態	実習	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	法要実習1				伊東 泰樹		第1期		
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では主に「宗定日蓮宗法要式 平成版」の内容に沿って僧道林・信行道場入場を視野に入れた基礎的な法儀の学習と実践的な演習を講義します。また、僧侶を志す者への道念を涵養する場としても配慮します。								
到達目標	基本所作や丁寧な仏具の扱い等、法要儀式に関する実践ができる。 学習と演習に励むことで自ら今後の課題を見出すことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	受講内容の反復練習をはじめとして、大学での聖日法要・師匠寺院・縁故寺院等での勤行・法要の出仕、そして仏教全般の知識・情報収集などの研鑽を積むことに年間30時間以上を授業外学習に充てるものとします。								
授業計画	【第1回】 第1期授業ガイダンス 【第2回】 妙法蓮華経要品・宗定日蓮宗法要式概説 【第3回】 基本所作① 【第4回】 〃 ② 【第5回】 〃 ③ 【第6回】 仏具の扱い① 【第7回】 〃 ② 【第8回】 〃 ③ 【第9回】 声明誦唱① 【第10回】 〃 ② 【第11回】 〃 ③ 【第12回】 法華経読誦と法衣について 【第13回】 第1期総括								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢・期末試験を総合して評価します。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書	『宗定日蓮宗法要式 平成版』宗定法要式平成版編集委員会（日蓮宗新聞社）2002.12、妙法蓮華経 要品、『日蓮宗声明』（日蓮宗声明師会連合会）								
指定図書									
参考書	『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会（日蓮宗宗務院）								
教員からのお知らせ	実習主体の授業になりますが、仏具の扱いなど実技経験の有無は問いません。取り組み姿勢を重視して評価します。補助教材は必要時に授業内で配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	実習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	16A0170101	授業形態	実習	抽選の有無	-	担当教員	伊東 泰樹	開講期	第2期
科目名	法要実習2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	本授業では主に「宗定日蓮宗法要式 平成版」の内容に沿って僧道林・信行道場入場を視野に入れた基礎的な法儀の学習と実践的な演習を講義します。また、僧侶を志す者への道念を涵養する場としても配慮します。								
到達目標	基本所作や丁寧な仏具の扱い等、法要儀式に関する実践ができる。 学習と演習に励むことで自ら今後の課題を見出すことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	受講内容の反復練習をはじめとして、大学での聖日法要・師匠寺院・縁故寺院等での勤行・法要の出仕、そして仏教全般の知識・情報収集などの研鑽を積むことに年間30時間以上を授業外学習に充てるものとします。								
授業計画	【第1回】 第1期授業内容の復習 【第2回】 行軌作法① 【第3回】 〃 ② 【第4回】 〃 ③ 【第5回】 法要儀式の実習① 【第6回】 〃 ② 【第7回】 〃 ③ 【第8回】 〃 ④ 【第9回】 法要導師の解説と実習① 【第10回】 〃 ② 【第11回】 葬儀式について 【第12回】 措拾補遺 【第13回】 期末試験								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢・期末試験を総合して評価します。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書	『宗定日蓮宗法要式 平成版』宗定法要式平成版編集委員会（日蓮宗新聞社）2002.12、妙法蓮華経 要品、『日蓮宗声明』（日蓮宗声明師会連合会）								
指定図書									
参考書	『日蓮宗事典』日蓮宗事典刊行委員会（日蓮宗宗務院）								
教員からのお知らせ	実習主体の授業になりますが、仏具の扱いなど実技経験の有無は問いません。取り組み姿勢を重視して評価します。補助教材は必要時に授業内で配布します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	実習								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0102600	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期
科目名	法華経概論1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	日蓮聖人は法華経を釈尊の実語として受容し、その教えに随順することを末代凡夫の信行の中心課題とされた。法華経には教主釈尊による衆生教化の一大目的が明らかにされ、教えを信受し継承することによって永遠のいのちを生きるというテーマが暗示されている。本講義では主として宗学的（信仰的）アプローチにより、法華経の内容を味わい、その特質に迫ることを目的としたい。								
到達目標	法華経の概要を理解するとともに、人間の生き方にかかわる本質的なテーマについて考える視座をもつことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。予習としては毎回テキストの該当箇所を読み、専門用語等についてあらかじめ調べておくこと。また毎回の復習として、使用するシステム（Teams）を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授業計画	【第1回】 法華経研究の方法論、テキスト・参考書の紹介 【第2回】 法華経の経題釈 【第3回】 法華経の成立と漢訳、鳩摩羅什の生涯 【第4回】 法華経の構成と思想的特色 【第5回】 天台大師の法華経受容 【第6回】 伝教大師の法華経受容（1） 【第7回】 伝教大師の法華経受容（2）				【第8回】 日蓮聖人の法華経受容（1） 【第9回】 日蓮聖人の法華経受容（2） 【第10回】 開経『無量義経』について 【第11回】 以下、法華経各品の概要、序品 【第12回】 方便品 【第13回】 譬喩品				
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（リアクションペーパーの提出など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業内で行います。								
教科書	『ものがたり法華経』勝呂信静（山喜房佛書林）1996年、『真詞阿読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1923年								
指定図書	『仏典講座7 法華経 上』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1988年、『仏典講座7 法華経 下』藤井教公（大蔵出版）1992年								
参考書	『法華経 - 真理・生命・実践 -』田村芳朗（中央公論社（中公新書））1969年、『法華経入門』茂田井教亨（大蔵出版）1976年、『法華経に学ぶ 上』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経に学ぶ 下』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経の信心～久遠釈尊からの要請に生きる～』原慎定（福岡県布教師会）2020年								
教員からのお知らせ	「法華経概論2」とあわせて履修して下さい。自己の真実を照らす鏡を求めて、主体的に学ぶことを期待します。授業では法華経の深層に迫るためのヒントや課題を与えるので、積極的な学修が要請されます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステムの質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。								
実践的な教育内容									
その他									

は

講義コード	11A0102700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第2期														
科目名	法華経概論2					原 慎定	第2期																
履修前条件						備考																	
授業の目的	日蓮聖人は法華経を釈尊の実語として受容し、その教えに随順することを末代凡夫の信行の中心課題とされた。法華経には教主釈尊による衆生教化の一大目的が明らかにされ、教えを信受し継承することによって永遠のいのちを生きるというテーマが暗示されている。本講義では主として宗学的（信仰的）アプローチにより、法華経の内容を味わい、その特質に迫ることを目的としたい。																						
到達目標	法華経の概要を理解するとともに、人間の生き方にかかわる本質的なテーマについて考える視座をもつことができる。																						
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。予習としては毎回テキストの該当箇所を読み、専門用語等についてあらかじめ調べておくこと。また毎回の復習として、使用するシステム（Teams）を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】法華経各品の概要：信解品</td> <td>【第8回】從地涌出品・如来寿量品</td> </tr> <tr> <td>【第2回】葉草喩品・授記品</td> <td>【第9回】分別功德品・隨喜功德品・法師功德品</td> </tr> <tr> <td>【第3回】化城喩品</td> <td>【第10回】常不輕菩薩品</td> </tr> <tr> <td>【第4回】五百弟子受記品・授学無学人記品</td> <td>【第11回】如来神力品・囑累品</td> </tr> <tr> <td>【第5回】法師品・見宝塔品</td> <td>【第12回】葉王菩薩本事品・妙音菩薩品・觀世音菩薩普門品・陀羅尼品・妙莊嚴王本事品・普賢菩薩勸發品</td> </tr> <tr> <td>【第6回】提婆達多品</td> <td>【第13回】結経『觀普賢菩薩行法経』について</td> </tr> <tr> <td>【第7回】勸持品・安樂行品</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】法華経各品の概要：信解品	【第8回】從地涌出品・如来寿量品	【第2回】葉草喩品・授記品	【第9回】分別功德品・隨喜功德品・法師功德品	【第3回】化城喩品	【第10回】常不輕菩薩品	【第4回】五百弟子受記品・授学無学人記品	【第11回】如来神力品・囑累品	【第5回】法師品・見宝塔品	【第12回】葉王菩薩本事品・妙音菩薩品・觀世音菩薩普門品・陀羅尼品・妙莊嚴王本事品・普賢菩薩勸發品	【第6回】提婆達多品	【第13回】結経『觀普賢菩薩行法経』について	【第7回】勸持品・安樂行品	
【第1回】法華経各品の概要：信解品	【第8回】從地涌出品・如来寿量品																						
【第2回】葉草喩品・授記品	【第9回】分別功德品・隨喜功德品・法師功德品																						
【第3回】化城喩品	【第10回】常不輕菩薩品																						
【第4回】五百弟子受記品・授学無学人記品	【第11回】如来神力品・囑累品																						
【第5回】法師品・見宝塔品	【第12回】葉王菩薩本事品・妙音菩薩品・觀世音菩薩普門品・陀羅尼品・妙莊嚴王本事品・普賢菩薩勸發品																						
【第6回】提婆達多品	【第13回】結経『觀普賢菩薩行法経』について																						
【第7回】勸持品・安樂行品																							
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（リアクションペーパーの提出など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価します。																						
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業内で行います。																						
教科書	『ものがたり法華経』勝呂信静（山喜房佛書林）1996年、『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1923年																						
指定図書	『仏典講座7 法華経 上』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1988年、『仏典講座7 法華経 下』藤井教公（大蔵出版）1992年																						
参考書	『法華経－真理・生命・実践－』田村芳朗（中央公論社（中公新書））1969年、『法華経入門』茂田井教亨（大蔵出版）1976年、『法華経に学ぶ 上』北川前肇（大東出版社）1996年、『法華経に学ぶ 下』北川前肇（大東出版社）1996年																						
教員からのお知らせ	「法華経概論1」の履修を前提として授業を進めます。自己の真実を照らす鏡を求めて、主体的に学ぶことを期待します。授業では法華経の深層に迫るためのヒントや課題を与えるので、積極的な学修が要請されます。																						
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。また、使用するシステムの質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。																						
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り。能動的な授業外学修。																						
実践的な教育内容																							
その他																							

講義コード	11A0100500	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	寺尾英智・田村巨禰・原 慎定	開講期	第2期													
科目名	法華仏教研究入門					寺尾英智・田村巨禰・原 慎定	第2期															
履修前条件						備考																
授業の目的	本授業は、3年次進級の際の所属コース決定に向けて、法華仏教コースの学びの柱となる「法華教学史（法華経の思想史および天台学）」・「日蓮教学（日蓮聖人の教え）」・「日蓮教団史（日蓮聖人の生涯および日蓮教団の歴史的展開）」・「日蓮宗教学史（日蓮教学の継承の歴史）」の4つの研究領域の内容とその研究法について学修し、日蓮聖人の思想・生涯に基づく法華仏教研究の奥深さとその意義を見出すことを目的とする。																					
到達目標	法華仏教研究の内容とその研究法について説明することができる。																					
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業で取り扱う内容について教科書・指定図書・参考書を熟読し、予習に30時間、復習に30時間、計60時間以上の授業外学修を行うこと。																					
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】ガイダンス、法華教学史研究入門（1）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】法華教学史研究入門（2）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】日蓮教学研究入門（1）</td> </tr> <tr> <td>【第4回】日蓮教学研究入門（2）</td> </tr> <tr> <td>【第5回】日蓮教学研究入門（3）</td> </tr> <tr> <td>【第6回】日蓮教学研究入門（4）</td> </tr> <tr> <td>【第7回】日蓮教団史研究入門（1）</td> </tr> <tr> <td>【第8回】日蓮教団史研究入門（2）</td> </tr> <tr> <td>【第9回】日蓮教団史研究入門（3）</td> </tr> <tr> <td>【第10回】日蓮教団史研究入門（4）</td> </tr> <tr> <td>【第11回】日蓮宗教学史研究入門（1）</td> </tr> <tr> <td>【第12回】日蓮宗教学史研究入門（2）</td> </tr> <tr> <td>【第13回】日蓮宗教学史研究入門（3）、まとめ</td> </tr> </table>									【第1回】ガイダンス、法華教学史研究入門（1）	【第2回】法華教学史研究入門（2）	【第3回】日蓮教学研究入門（1）	【第4回】日蓮教学研究入門（2）	【第5回】日蓮教学研究入門（3）	【第6回】日蓮教学研究入門（4）	【第7回】日蓮教団史研究入門（1）	【第8回】日蓮教団史研究入門（2）	【第9回】日蓮教団史研究入門（3）	【第10回】日蓮教団史研究入門（4）	【第11回】日蓮宗教学史研究入門（1）	【第12回】日蓮宗教学史研究入門（2）	【第13回】日蓮宗教学史研究入門（3）、まとめ
【第1回】ガイダンス、法華教学史研究入門（1）																						
【第2回】法華教学史研究入門（2）																						
【第3回】日蓮教学研究入門（1）																						
【第4回】日蓮教学研究入門（2）																						
【第5回】日蓮教学研究入門（3）																						
【第6回】日蓮教学研究入門（4）																						
【第7回】日蓮教団史研究入門（1）																						
【第8回】日蓮教団史研究入門（2）																						
【第9回】日蓮教団史研究入門（3）																						
【第10回】日蓮教団史研究入門（4）																						
【第11回】日蓮宗教学史研究入門（1）																						
【第12回】日蓮宗教学史研究入門（2）																						
【第13回】日蓮宗教学史研究入門（3）、まとめ																						
成績評価の方法	毎回の授業における学修内容・感想等の記入（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）を基準として総合的に評価する。																					
フィードバックの内容	毎回の授業で学修した内容・感想等について、担当教員の指定する方法による記入・提出を求め、そのフィードバックを必要に応じて行う。																					
教科書	（なし）																					
指定図書	『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）2008年第30版、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2000年改訂増補第3刷、『日蓮宗宗学全書 全23巻』立正大学日蓮教学研究所編（山喜房佛書林）、『日蓮辞典 新装版』宮崎英修編（東京堂出版）2013年、『日蓮宗教学史』執行海秀（平楽寺書店）2016年第15刷																					
参考書	『日蓮宗小事典』小松邦彰・冠賢一編（法蔵館）1987年																					
教員からのお知らせ	本授業は対面授業ですが、OpenLMS等のシステムを活用して授業を行います。詳しくは第1回授業で説明します。																					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、メール（アドレスはポータルサイトのキャビネット内にあり）、またはLMSのメッセージ機能（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）で受け付けます。																					
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り																					
実践的な教育内容																						
その他	授業に主体的に取り組むことを望みます。																					

講義コード	14Z0101100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ライフ・キャリア概論(品川)				教育開発センター		第1期集中		
履修前提条件	備考								
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方(日常と長期休暇)についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか? : 変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか? : 技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか? : 関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか? : 変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか? : お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか? : セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか? : 未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか? : 多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか? : 働く上での権利と義務(ワークルール) 【第11回】どのような職業生活を送りたいか? : 組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか? : 大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点: 65% (授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出) ・期末レポート: 35% (「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする)								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌々週の授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー									
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。								

講義コード	14Z0101107	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	野条 美貴	開講期	第1期集中
科目名	ライフ・キャリア概論G								
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌々週の授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業は第1回から13回まで毎回動画を視聴し、理解度確認テスト及び課題に対する問いがありますので、積極的に取り組んでください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、指定のLMSのメッセージ機能で受け付けます。（利用方法は初回授業で説明します。）								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。								

講義コード	14Z0101108	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ライフ・キャリア概論H				勝又 あずさ		第1期集中		
履修前条件	備考								
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）								
フィードバックの内容	授業レポートには授業での学びや解釈について記述を求めるが、翌回以降の授業時間内にその授業レポート全体に対するフィードバックを行う。 フィードバックにはラーニング・マネジメント・システム（OpenLMS）を活用する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	1. 授業では理論や情報をインプットするだけでなく、みなさんが「自分と他者の生き方を尊重し多様性を受容する」、その気持ちをもってライフ・キャリアを考える機会にしてください。 2. 毎回の授業終了後には、「理解度確認テスト」と「記述式」をオンライン上で提出していただきます。所定のとおり、OpenLMS上で提出期限までに提出したもののみを受理します。期日を過ぎた場合は受理をしません。提出したレポートはご自身でOpenLMSで確認ができます。確認方法が解らない場合には学内のOpenLMS担当職員さんへお問合せください。 その他に、所定の形式で提出がなされていない場合には減点対象となるため注意をしてください。 上記2点を認識の上で、履修を検討してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、OpenLMSのメッセージ機能、または、メールでの問い合わせにも対応します。 メールアドレス：katsumata@seijo.ac.jp								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。 科目担当教員はソニー株式会社（現：ソニーグループ）にて24年間、主に広報・PRとキャリア支援・人材育成を担当し、独立後には株式会社（教育事業）を設立した。 これまでの実務経験と、現在の本務校でのライフ・キャリア教育を活かし、「個人が他者や社会と関わりながら自律的にキャリアを構築していく」、その重要性について事例を紹介しながら授業を展開する。								

講義コード	14Z0101109	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ライフ・キャリア概論Ⅰ				木村 了子		第1期集中		
履修前提条件	備考								
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌々週の授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業は第1回から13回まで毎回動画を視聴し、理解度確認テスト及び課題に対する問いがありますので、積極的に取り組んでください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、OpenLMSのメッセージ機能で受け付けます。（利用方法は初回授業で説明します。）								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。								

講義コード	14Z0101105	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ライフ・キャリア概論E				勝又 あずさ		第1期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌々週の授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	互いに顔が見えない授業形態であるため、毎週、的確にやるべきことを実施していきましょう。リアクションペーパーや課題の提出など、提出期限を厳守していただくなど、多々、ご協力をお願いします。すべてがオンライン授業であるため、教員への連絡事項は、メールやOpenLmsを通してください。								
オフィスアワー	坪田まり子のメールアドレス：uf05559ma@rissho-univ.jp								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容	就職活動全般（自己分析から書類作成・面接対策まで）とキャリア・デザインに関する実務経験のある教員が経験を活かし講義します。								
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。								

講義コード	14Z0101101	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	田中 聖華	開講期	第1期集中	
科目名	ライフ・キャリア概論A									
履修前条件					備考					
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。									
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。									
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。									
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ									
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートへの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）									
フィードバックの内容	リアクションペーパーの内容から、共有する必要があるもの、継続議論が必要な視点のもの、および参考情報や資料を取り上げ、翌週以降にフィードバック資料をLMSに掲載する。フィードバック資料にも課題がある場合があるので必ず確認すること。									
教科書										
指定図書										
参考書										
教員からのお知らせ	課題はすべて提出期限厳守で提出すること。通信事故なども考慮の対象にしないので、期限ぎりぎりではなく、余裕をもって提出することをお勧めする。 田中へのメール連絡は必ず次の指定メールアドレスに送信すること。件名に学籍番号、氏名を記載すること。 setanakaris@gmail.com									
オフィスアワー	質問は、指定メールアドレスへのメッセージで受け付ける。 指定メールアドレスはOpenLMSに掲載するので、必ず指定されたメールアドレスに連絡すること。指定メールアドレス以外のメールには回答できないことがあるので注意すること。									
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習									
実践的な教育内容										
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。									

講義コード	14Z0101106	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ライフ・キャリア概論F				勝又 あずさ		第1期集中		
履修前条件	備考								
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）								
フィードバックの内容	授業レポートには授業での学びや解釈について記述を求めるが、翌回以降の授業時間内にその授業レポート全体に対するフィードバックを行う。 フィードバックにはラーニング・マネジメント・システム（OpenLMS）を活用する。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	1. 授業では理論や情報をインプットするだけでなく、みなさんが「自分と他者の生き方を尊重し多様性を受容する」、その気持ちをもってライフ・キャリアを考える機会にしてください。 2. 毎回の授業終了後には、「理解度確認テスト」と「記述式」をオンライン上で提出していただきます。所定のとおり、OpenLMS上で提出期限までに提出したもののみを受理します。期日を過ぎた場合は受理をしません。提出したレポートはご自身でOpenLMSで確認ができます。確認方法が解らない場合には学内のOpenLMS担当職員さんへお問合せください。 その他に、所定の形式で提出がなされていない場合には減点対象となるため注意をしてください。 上記2点を認識の上で、履修を検討してください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、OpenLMSのメッセージ機能、または、メールでの問い合わせにも対応します。 メールアドレス：katsumata@seijo.ac.jp								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。 科目担当教員はソニー株式会社（現：ソニーグループ）にて24年間、主に広報・PRとキャリア支援・人材育成を担当し、独立後には株式会社（教育事業）を設立した。 これまでの実務経験と、現在の本務校でのライフ・キャリア教育を活かし、「個人が他者や社会と関わりながら自律的にキャリアを構築していく」、その重要性について事例を紹介しながら授業を展開する。								

講義コード	14Z0101103	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ライフ・キャリア概論C				木村 了子		第1期集中		
履修前提条件	備考								
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌々週の授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業は第1回から13回まで毎回動画を視聴し、理解度確認テスト及び課題に対する問いがありますので、積極的に取り組んでください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、OpenLMSのメッセージ機能で受け付けます。（利用方法は初回授業で説明します。）								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。								

講義コード	14Z0101104	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員		開講期	
科目名	ライフ・キャリア概論D				佐藤 一義		第1期集中		
履修前条件					備考				
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちでできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌々週の授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	テスト								
オフィスアワー	テスト								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。								

講義コード	14Z0101102	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	野条 美貴	開講期	第1期集中
科目名	ライフ・キャリア概論B								
履修前提条件					備考				
授業の目的	将来、社会人になった際に、学生が生きていく未来の変動的な社会環境と、そこで遭遇しうる様々な出来事と各種の役割を理解し、同時にその未来社会において成長し続ける自身の在り方を展望することを目的とする。未来社会に向けた準備として、学生時代の過ごし方（日常と長期休暇）についての計画を立てる。各自が、学内外の多様な活動を通じて、自己の可能性を探索し、自己成長を遂げることを期待する。								
到達目標	社会はどのように変化しつつあるのか、そこで遭遇しうる出来事や課題、担う役割や責任を理解し、同時に自分らしい生き方・働き方について表現できるようになる。未来社会での職業生活に向けて、自分の課題を見つけて、大学生活で取り組むべき行動計画を立てることができる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	授業で指示された課題に取り組む為に、授業外に60時間以上の学修を行う必要がある。								
授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】どのような未来社会で生きていくのか？：変動し続ける世界と社会 【第3回】どのような未来社会で生きていくのか？：技術革新と社会変化 【第4回】どのような未来社会で生きていくのか？：関係性が重視される社会 【第5回】どのような出来事が待っているか？：変化する社会における学びと可能性 【第6回】どのような出来事が待っているか？：お金の稼ぎ方・使い方 【第7回】どのような出来事が待っているか？：セーフティネットとしての社会保障 【第8回】どのような職業生活を送りたいか？：未来社会に必要とされる専門性と学生のうちにできること 【第9回】どのような職業生活を送りたいか？：多様な働き方 【第10回】どのような職業生活を送りたいか？：働く上での権利と義務（ワークルール） 【第11回】どのような職業生活を送りたいか？：組織の中での働き方 【第12回】どのように大学生活を送るか？：大学生活で活用可能な資源と過ごし方 【第13回】復習とまとめ								
成績評価の方法	・平常点：65%（授業で扱うすべての教材・資料の内容確認および課題の提出状況で評価する。具体的には、各回の動画教材の視聴、理解度テスト、「問い」およびリアクションペーパーへの回答、教員からのフィードバックコメントの確認、自己成長チェックシートの提出、その他、教員が指示した課題やアンケートの提出） ・期末レポート：35%（「学生時代の過ごし方」について。一般論ではなく自分事として現実的・具体的かつ論理的に表現できていることを評価基準とする）								
フィードバックの内容	課題に対するフィードバックを翌々週の授業内にて行います。								
教科書									
指定図書									
参考書									
教員からのお知らせ	授業は第1回から13回まで毎回動画を視聴し、理解度確認テスト及び課題に対する問いがありますので、積極的に取り組んでください。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、指定のLMSのメッセージ機能で受け付けます。（利用方法は初回授業で説明します。）								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り、能動的な授業外学習								
実践的な教育内容									
その他	初回の授業案内は、OpenLMSで行います。ポータルサイトからOpenLMSにアクセスして、当該コースを確認してください。授業は、第1期授業期間中に、原則として毎週実施します。								

講義コード	11A0103000	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第1期
科目名	立正安国論講義 1								
履修前提条件					備考				
授業の目的	鎌倉時代に続発した天災地変に対して強い危機意識を懐いた日蓮聖人が、さらなる国難を未然に防ぐために幕府へ建白した『立正安国論』を講読し、「法華経の行者」としての行動理念と価値観を探究する。								
到達目標	『立正安国論』の内容と目的を理解し、真の仏教者として生きるための責任と使命感を学び、自らの生きる指針を見いだすことができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。予習としては毎回テキストの該当箇所を読み、専門用語等についてあらかじめ調べておくこと。また毎回の復習として、使用するシステム（Teams）を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授業計画	【第1回】 テキスト・参考書の紹介・日蓮聖人の五大部について 【第2回】 『立正安国論』のこのころを探る（1）～批判精神の源泉・立願と発心の契機 【第3回】 『立正安国論』のこのころを探る（2）～念仏信仰に対する懐疑・承久の乱の結末に対する懐疑 【第4回】 『立正安国論』のこのころを探る（3）～虚空蔵菩薩への立願とその背景・仏道実践の落とし穴 【第5回】 『立正安国論』のこのころを探る（4）～「謗法」という罪の実態・罪の発見と心の葛藤 【第6回】 『立正安国論』のこのころを探る（5）～不退転の誓願と立教開宗・求法から弘教へ 【第7回】 『立正安国論』のこのころを探る（6）～浄土教批判の根拠・禅宗批判の視点 【第8回】 『立正安国論』のこのころを探る（7）～「法華経の信心」とは・日蓮聖人の批判精神の意義 【第9回】 『立正安国論』のこのころを探る（8）～「実乗の一善」とは 【第10回】 『立正安国論』の解題と書誌 【第11回】 『立正安国論』の構成と概要（1） 【第12回】 『立正安国論』の構成と概要（2） 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回のリアクションペーパー提出など）50%、期末試験50%を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業内で行います。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2008								
指定図書	『日蓮聖人全集 第1巻』小松邦彰（春秋社）1999、『日蓮（日本の仏典9）』渡邊寶陽他（筑摩書房）1988、『傍証日蓮聖人御遺文 立正安国論』北川前肇・原 慎定（四季社）2004								
参考書	『原文対訳 立正安国論』北川前肇（大東出版社）1999								
教員からのお知らせ	『立正安国論講義2』と併せて履修して下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内で対応します。また、使用するシステム（Teams）の質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0103100	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	原 慎定	開講期	第2期
科目名	立正安国論講義 2								
履修前提条件					備考				
授業の目的	鎌倉時代に続発した天災地変に対して強い危機意識を懐いた日蓮聖人が、さらなる国難を未然に防ぐために幕府へ建白した『立正安国論』を講読し、「法華経の行者」としての行動理念と価値観を探究する。								
到達目標	『立正安国論』の内容と目的を理解し、真の仏教者として生きるための責任と使命感を学び、自らの生きる指針を見いだすことができるようになる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	この科目では、計60時間以上の授業外学修を行うこと。予習としてはテキスト・配付資料の該当箇所を読み、専門用語等についてあらかじめ調べておくこと。また毎回の復習として、使用するシステム（Teams）を通じてリアクションペーパーの記入・提出を求める。								
授業計画	【第1回】 『立正安国論』「第一段」講読 【第2回】 『立正安国論』「第二段」講読（1） 【第3回】 『立正安国論』「第二段」講読（2） 【第4回】 『立正安国論』「第三段」講読 【第5回】 『立正安国論』「第四段」講読 【第6回】 『立正安国論』「第五段」講読 【第7回】 『立正安国論』「第六段」講読 【第8回】 『立正安国論』「第七段」講読（1） 【第9回】 『立正安国論』「第七段」講読（2） 【第10回】 『立正安国論』「第八段」講読 【第11回】 『立正安国論』「第九段」講読 【第12回】 『立正安国論』「第十段」・『安国論奥書』講読 【第13回】 まとめ								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（毎回のリアクションペーパー提出など）50%、期末試験（50%）を基準として総合的に評価します。								
フィードバックの内容	受講生から提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業内で行います。								
教科書	『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）2008								
指定図書	『日蓮聖人全集 第1巻』小松邦彰（春秋社）1994、『日蓮（日本の仏典9）』渡邊寶陽他（筑摩書房）1988、『傍証日蓮聖人御遺文 立正安国論』北川前肇・原 慎定（四季社）2004								
参考書	『日蓮聖人御遺文講義 第1巻』鈴木一成（日本仏書刊行会）1957、『原文対訳 立正安国論』北川前肇（大東出版社）1999								
教員からのお知らせ	『立正安国論講義1』の履修を前提として講義を進めます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内で対応します。また、使用するシステム（Teams）の質問・連絡掲示板、チャット、およびメール等でも対応します。								
アクティブラーニングの内容	教員からのフィードバックによる振り返り								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11B5121401	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	小館 貴幸	開講期	第1期
科目名	倫理学とは何かA					小館 貴幸		第1期	
履修前提条件						備考			
授業の目的	私達が社会生活を営むうえで倫理は必須である。なぜなら、誰もが自分と異なった他者と共に暮らしていかななくてはならないからである。「あの人は倫理的である／ない」、「その行動は倫理に反する／反しない」など、日常でも倫理という言葉が登場するが、私達はどれほど倫理について知っているだろうか。この講義では、倫理そのものを明らかにし、諸学説を学びながら倫理の奥深さに触れ、自らの倫理観を養うことを目的とする。								
到達目標	①倫理とは何かを説明できる。 ②倫理学の様々な学説を整理し、それぞれの特徴や本質を述べることができる。 ③倫理的思考を用いて、自分の考えを言語化することができる。 ④自らの倫理観を養うことができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	指定図書や参考図書などを利用して、授業で取り上げる内容について予め把握しておくこと。授業後は、プリントを見直しながらもう一度考えて学びを深め、さらに自分で調べて知識を広めること。課題を提出すること。以上、本科目では60時間の授業外学習を行うこと。								
授業計画	【第1回】イントロダクション（講義の概要や進め方など） 【第2回】倫理とは何か 【第3回】義務論Ⅰ（基本的諸事項と概略） 【第4回】義務論Ⅱ（カントの義務論） 【第5回】功利主義Ⅰ（基本的諸事項と概略） 【第6回】功利主義Ⅱ（功利主義の展開） 【第7回】プラグマティズム（基本的諸事項と概略） 【第8回】徳倫理学Ⅰ（ソクラテスにおける徳） 【第9回】徳倫理学Ⅱ（アリストテレスにおける徳） 【第10回】ケアの倫理学Ⅰ（ケアする人におけるケア論） 【第11回】ケアの倫理学Ⅱ（ケアされる人におけるケア論） 【第12回】経営倫理学Ⅰ（基本的諸事項と概略） 【第13回】経営倫理学Ⅱ（事例検討と新しい動向）								
成績評価の方法	学期末試験（60%）、課題提出（15%）、授業への取り組み姿勢（10%）、小テスト（15%）								
フィードバックの内容	小テストについては終了後に解説を行い、課題やリアクションペーパーについては後の講義で教員がまとめてコメントします。								
教科書									
指定図書	『倫理学案内－理論と実践』小松光彦、樽井正義、谷寿美編（慶應義塾大学出版会）2008年、『道徳形而上学原論』イマヌエル・カント（岩波書店）2011年、『実践理性批判』イマヌエル・カント（岩波書店）1996年、『功利主義』ジョン・スチュアート・ミル（岩波書店）2021年、『ソクラテスの弁明・クリトン』プラトン（岩波書店）1995年、『ニコマコス倫理学（上）』アリストテレス（岩波書店）1993年、『ニコマコス倫理学（下）』アリストテレス（岩波書店）1992年、『ケアの本質－生きることの意味』ミルトン・メイヤロフ（ゆみる出版）1987年								
参考書	『プラグマティズム古典集成』パース、ジェームス、デューイ（作品社）2014年、『ケアリング－倫理と道徳の教育 女性の観点から』ネル・ノディングス（見洋書房）1997年、『ビジネス・エシックス』リチャード・T・ティジョージ（明石書店）1995年、『つなわりの倫理学』村松聡（株式会社KADOKAWA）2024年、『経営倫理学のすすめ』水谷雅一（丸善株式会社）1998年								
教員からのお知らせ	教科書は使用しません。毎講義でプリントを配布して講義を行います。人数や状況に応じて、皆さんが直接参加する機会を設けていきます。また、受講者の関心に講じて、臨機応変に講義内容を変更することもあります。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
アクティブラーニングの内容	講義内で適宜意見表明の機会を設けて、皆で共有します。小テスト終了後に教員からのフィードバックによる振り返りを行います。グループ・ワークの機会も設ける予定です。								
実践的な教育内容									
その他	社会生活を営む上で倫理は必須の事柄です。倫理を学問的に学ぶことはもちろんですが、それに留まらずに自らの倫理観を高めることができるように、常に自分のこととして主体的に講義に参加して下さい。								

講義コード	11B5121402	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	木村 史人	開講期	第1期
科目名	倫理学とは何かB					木村 史人		第1期	
履修前条件						備考			
授業の目的	<p>私たちは様々な場面で、「正しい／正しくない」と判断している。それでは、「正しさ」とは何であろうか？ あなたがある行為（たとえば、席を譲る、暴力をふるう）を見て、「正しい／間違っている」と判断できているならば、あなたは「正しさとは何か」知っているはずである。</p> <p>本講義では、具体的な問題について、これまでの倫理学思想、特に功利主義と共同体主義、義務論などを手がかりに考察する。</p>								
到達目標	<p>① これまでの倫理学思想を理解する。 ② ①で学んだことを実際の問題に応用することができる。 ③ 自分の考えを言語化することができる。</p>								
授業外学修内容・授業外学修時間数	各回の授業内容の予習、復習など、授業外に計60時間の学修を行うこと。								
授業計画	<p>この授業では対話・議論を行いますので、対話・議論が好きな方向けです。</p> <p>【第1回】 授業の予定、進め方。良い、悪いとは何か？ 【第2回】 功利主義① 利益とは何で、どのように計算すればいいのか？ 【第3回】 功利主義② 快楽と苦痛 【第4回】 功利主義③ 最大多数の最大幸福 【第5回】 功利主義④ 快楽の質 【第6回】 共同体主義① 徳としての倫理 【第7回】 共同体主義② 物語の役割「誰」と倫理 【第8回】 共同体主義③ 世間の規範 【第9回】 義務論① カントとは誰か？ 【第10回】 義務論② 自由とは何か？ 【第11回】 義務論③ 理性的・普遍的な格率 【第12回】 義務論④ 自他の人格を尊重する 【第13回】 授業の振り返り。倫理・道徳は進歩しているのか？</p> <p>授業の予定は、学生の理解度によって、適宜変更される場合がある。</p>								
成績評価の方法	小テスト（3回を予定、60%）、授業内の活動への参加姿勢（40%）から、授業内容の理解度およびそれを応用する思考力を評価する。								
フィードバックの内容	受講者は授業内で議論した内容をOpenLMSなどで発表し、その内容について、教員がコメントする。								
教科書									
指定図書	『倫理学案内：理論と課題』小松光彦、樽井正義、谷寿美編（慶應義塾大学出版会）2006、『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』マイケル・サンデル著；鬼澤忍訳（早川書房）2011、『モラル・トライブス』ジュシユア・グリーン（岩波書店）2015、『実践理性批判』カント（岩波文庫）1979、『功利主義論集』J・S・ミル（京都大学学術出版会）2010、『美德なき時代』マッキンタイア（みすず書房）1993、『物語としての歴史』アーサー・C・ダント（国文社）1989								
参考書									
教員からのお知らせ	グループで対話・議論を行いますので、そうした活動が苦手でないことが望ましいです。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。また、OpenLMS等でも受付けます（利用方法はポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。								
アクティブラーニングの内容	①授業内容を言語化する ②①をグループで共有し、学びを深める教員および他の受講者に発表し、フィードバックを得る								
実践的な教育内容									
その他									

講義コード	11A0100700	授業形態	講義	抽選の有無	-	担当教員	手島一真・庄司史生・戸田裕久	開講期	第2期
科目名	歴史・思想研究入門／思想・歴史研究入門							第2期	
履修前提条件					備考				
授業の目的	この講義では、①宗教学、②仏教思想史（南アジア中心）、③歴史学・仏教史（東アジア中心）という学問分野の概要と研究方法を紹介いたします。								
到達目標	①宗教学、②仏教思想史（南アジア中心）、③歴史学・仏教史（東アジア中心）という視点から学修・研究するための基礎的な方法を実践することができる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業の中で読み方や意味の分からない用語があれば、辞書などで調べる。講義前後は予習復習を行い、不明な点を明らかにしておくこと。また計60時間以上の授業外学修を行うこと。 特に配布資料や参考図書の該当箇所を授業後に再読して理解に努めること。								
授業計画	<p>[導入]</p> <p>【第1回】講義概要（庄司） [仏教思想史]</p> <p>【第2回】文献資料をどのように扱うか（庄司） 【第3回】様々な言語で記された文献をどのように読むのか（庄司） 【第4回】言語と思想（庄司） [宗教学]</p> <p>【第5回】宗教の世界（戸田） 【第6回】世界の宗教（戸田） 【第7回】神話の世界、世界の神話（戸田） 【第8回】世界の神秘主義（戸田） [歴史学・仏教史]</p> <p>【第9回】歴史の探究（1）「ひと」＝人物を対象として（手島） 【第10回】歴史の探究（2）「もの」＝遺物・遺跡などを対象として（手島） 【第11回】歴史の探究（3）「こと」＝事件・制度・政策などを対象として（手島） 【第12回】歴史の探究（4）総合的に（手島） [鼎談]</p> <p>【第13回】何を知りたいか～たとえば卒論のこと～ ※（カッコ内）は当該授業の担当者。</p>								
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢（50%）と学期中に数回提示されるレポート課題（50%）提出により成績を評価します（計100%）。 この授業は3人の担当者がそれぞれ行います。成績評価の具体的な方法は授業内に担当者よりアナウンスします。								
フィードバックの内容	フィードバックは授業内にて行います。								
教科書	各教員より資料配付。								
指定図書	『世界の歴史（全30冊）』（中央公論新社（中公文庫）2008年～2010年、『日本の歴史（全26冊）』（講談社（講談社学術文庫）2008年～2010年、『アジア仏教史（インド編全6巻、中国編全5巻、日本編全9巻）』中村元、笠原一男、金岡秀友監修・編（佼成出版社）1972年～1976年、『新アジア仏教史（全15冊）』（佼成出版社）2010年～2011年、『インド哲学仏教学への誘い』菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会編（大東出版社）2005年、『講座・大乘仏教』平川彰〔ほか〕編（春秋社）1981～1985年、『シリーズ大乘仏教』桂紹隆〔ほか〕編（春秋社）2011～2014年、『アジア歴史事典（全10冊）』平凡社編（貝塚茂樹ほか）（平凡社）1984年（新装復刊版）、『国史大辞典（全17冊）』国史大辞典編集委員会編（大久保利謙ほか）（吉川弘文館）1979年～1997年、『世界歴史大事典（全22冊）』芳賀登〔ほか〕編集（教育出版センター）1992年（新装版）								
参考書	『宗教学辞典』小口偉一、堀一郎監修（東京大学出版会）1973年、『比較思想事典』峰島旭雄編（東京書籍）2000年、『宗教的経験の諸相』W. ジェイムズ著；榊田啓三郎訳（岩波書店（岩波文庫））1970年、『比較思想論』中村元著（岩波書店）1969年、『比較思想序論』三枝充憲著（春秋社）1995年（増補版）、『インド思想史』早島鏡正著（東京大学出版会）1982年、『古代インドの文明と社会』山崎元一著（中央公論社）1997年、『世界歴史大系 南アジア-先史・古代-』山崎元一・小西正捷編（山川出版社）2007年、『古代インドの歴史』R.S. シャルマ著（山崎利男・山崎元一訳）（山川出版社）1985年、『仏教考古学事典』坂詰秀一編（雄山閣）2003年								
教員からのお知らせ	授業時に資料を配付します。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
アクティブラーニングの内容	課題解決型学習								
実践的な教育内容									
その他									

個人情報の取扱い

立正大学では、入学手続時その他大学所定の手続において収集した住所・氏名・電話番号等の個人情報は、法令等に定める一定の場合を除き、利用目的以外には利用しません。なお、利用目的の詳細につきましては本学ホームページ内の「個人情報保護の取り組み」をご覧ください。

https://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/compliance/index.html





仏教学部事務室 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 TEL(03)3492-8528